

提出第 8 号

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等を報告する書類の提出について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定により、令和元年度教育委員会活動の点検及び評価報告書を別紙のとおり提出する。

令和 2 年 11 月 26 日提出

京丹後市教育委員会

令和元年度

教育委員会活動の点検及び評価報告書

令和2年11月

京丹後市教育委員会

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会においては、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第二十六条の規定に基づき、令和元年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

京丹後市教育委員会委員名簿（令和元年度末現在）

職 名	氏 名
教育長	吉 岡 喜代和
教育長職務代理者	野 木 三 司
委員	久 下 多賀子
委員	田 村 浩 章
委員	安 達 京 子

目 次

○自己点検・評価について

○教育に関する学識経験者の意見

I 教育委員会の活動状況

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 教育委員会の開催状況 | 1 |
| 2. 教育委員会委員の主な活動 | 6 |

II 施策評価・進捗管理調書

【重点目標1】就学前の子どもの教育・保育環境を充実します 10

- ① 就学前教育の環境の整備
- ② 保幼小の連携強化

【重点目標2】確かな学力・生き抜く力を育みます 19

- ① 小中一貫教育の推進
- ② 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上
- ③ 確かな学力の育成
- ④ 社会を生き抜く力の育成

【重点目標3】子どもを健やかに育む教育環境を充実します 32

- ① 子どもの安全・安心の確保
- ② 学校施設環境等の整備充実
- ③ 個に応じた支援体制の充実
- ④ ボランティアによる学習支援の推進

【重点目標4】豊かな人間性・社会性を育みます 52

- ① 人を思いやり、尊重する社会性の育成
- ② 生徒指導体制、教育相談体制の充実
- ③ 家庭・地域の教育力の向上
- ④ 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成

【重点目標5】生涯にわたる豊かな学びを支援します 64

- ① 生涯学習体制づくり
- ② 人権教育の推進
- ③ 文化芸術活動の推進
- ④ 社会教育施設の整備充実

【重点目標6】歴史文化を活用し、郷土への愛着と誇りを育みます 80

- ① 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実
- ② 文化財の保護と活用
- ③ 資料館施設の整備充実

【重点目標7】たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツを推進します 88

- ① 健康な体づくり
- ② 地域スポーツ活動の推進
- ③ 競技力の向上
- ④ 社会体育施設の整備充実

III 学校評価自己評価

学園毎評価・学校評価自己評価

- | | |
|-----------------------------|-----|
| 1. 学園小中一貫、こども園、学校評価自己評価報告一覧 | 101 |
| 2. 学園小中一貫教育報告書 | 104 |
| 3. 学校評価自己評価報告（こども園、小・中学校） | 128 |

令和元年度の教育活動を振り返って

令和元年度の教育行政は、京丹後市教育振興計画の基本理念に基づき、京丹後市が目指す教育「心豊かにたくましく 幸福な未来を切り拓く力を育む教育」「ふるさとへの愛着と誇りを持ち 新しい価値を創りだす力を育む教育」の実現に向け、さまざまな教育施策を推進してきました。

令和2年3月には新型コロナウイルス感染症対策のため、学校の一斉臨時休業や行事などの延期や中止を余儀なくされましたが、行事の規模縮小など感染対策に努めながら教育活動を進めました。

平成28年度より全市展開となりました京丹後市の最も大きな教育振興策である「小中一貫教育」では、「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、6つの学園が共有し、特色を生かしながら小中連携、小小連携、保幼小連携の取組みを実践し、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指す教育活動に取り組みました。今年度は、子ども園、保育所と小学校のスムーズな接続に向けて、保幼小接続カリキュラムに基づく合同保育・授業の研究の一端を公開し、京丹後市内外へ紹介することにより、本市小中一貫教育の一層の取組み強化の機運醸成へと繋げることができました。令和2年度からは、「保幼小中一貫教育」と名称を変更し、より明確に10年間を意識した取組みにするとともに、新学習指導要領の実施に向けた「保幼小中一貫教育モデルカリキュラム(第3版)」を発行し、保幼小中の一貫した指導の推進を目指します。

子育て支援関係では、第2次京丹後市保育所再編等推進計画に基づき、保育所等の再編を実施し、幼保連携型認定こども園の運営を行っています。また、放課後児童クラブは継続して10か所開設し、子どもたちの安全・安心な放課後の健全な育成に取り組むとともに、市内8か所に設置している子育て支援センターでは、子育て相談・交流・ふれあいの場として、身近な地域で子育て支援を実施している一方、網野地域子育て支援センターでは、旧保育所を活用し、登録者のクラス分けをすることなく自由に利用できる環境整備を推進しています。

学校教育関係では、学校再配置の取組みとして、平成31年4月に「丹後小学校」の開校により小・中学校の再配置がすべて完了しました。また、語学力の向上及び国際的視野を持った人材の育成を目的に、平成28年度から取り組んでいる「中学生海外派遣事業」は、前年度に引き続き、派遣生徒15人を選出して現地研修に向けて事

前研修に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、直前に事業中止となりました。学習環境の整備では、生活・衛生・環境面の向上を図るためトイレの洋式化工事設計業務に着手し、計画的に改修を実施するとともに、小学3年生から中学3年生教室へ順次導入してきた電子黒板・指導用タブレット型パソコンの運用を開始しました。今後も文部科学省が進めるGIGAスクール構想の実現に向けたICT環境の整備を着実に実施することとしています。

社会教育関係では、3か年事業の2年目として「京都府アーティスト・イン・レジデンス事業」に取り組み、市内の自然・歴史・文化の資源を活用して制作した現代アートの作品展を開催し、文化芸術を活かしたまちづくりにつながっていくことを期待します。また、丹後地域公民館施設の耐震工事に向けた設計業務に着手し、改修に向け事業実施しました。社会体育関係では、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年東京オリンピック・パラリンピックが延期になりましたが、ホストタウン事業や「ワールドマスタースゲームズ2021関西」の関連事業を推進したほか、スポーツ競技力の向上や大規模なスポーツ大会誘致によるさまざまな効果を目指すため、峰山途中ヶ丘公園陸上競技場の日本陸連第3種公認に向けたリニューアル事業に着手しました。今後も引き続き「第2次京丹後市スポーツ推進計画」の基本理念である「市民が楽しみとつくる スポーツのまち」の実現に向け多面的なスポーツ施策の展開を図ることとしています。

文化財保護関係では、網野銚子山古墳の整備に向け、市史跡整備検討委員会及び文化庁等の指導を受け、実施設計及び工事を実施しました。また普及啓発関係では、資料館での企画展示の開催のほか、市ケーブルテレビの活用など多彩な方法で事業を展開し、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める取組みを積極的に行うことができました。

このように、令和元年度は、保幼小中一貫教育の推進、子どもの放課後対策や子育て支援、学校再配置の取組み、国際交流事業の推進、学習環境の整備、スポーツ振興の推進、網野銚子山古墳の整備など本市の懸案となっている課題の解消に向けてさらなる取組みを進めてきました。「平成」から新元号「令和」の時代となり、今年度中間見直しをしました本市教育振興計画の「京丹後市が目指す教育」の達成に向け、さまざまな教育活動を市民との協働の中で推進していきます。

令和2年11月

京丹後市教育委員会

教育に関する学識経験者の意見

1 外部評価者 職名 玉川大学教育学部 教授

氏名 寺本 潔

令和2年10月19日（評価を行った日）

2 序論

京丹後市『令和元年度 教育委員会活動の点検及び評価報告書』（183頁）を拝読し、委員会の開催状況や7つの重点目標、学校評価自己評価などに関して点検した。教育委員会会議は毎月1回の定例会のほか臨時会を併せて合計21回開催され、丁寧な審議が行われている。施策の進捗状況の評価では「○」評価が多いが、重点目標5の生涯学習に関する施策の中で、高齢者大学参加者数の横ばいや図書館利用者の伸びの鈍化も見られ、「▲」の評価が付いている。また、重点目標6の歴史文化や文化財保護と活用等の関しては、文化財事業への参加者数と資料館・文化館入館者数がH25年度と比較していずれも減少しており、一般には高齢者増に比例してそれらの数は増加しがちなのに反し減少している点が危惧される。高齢者も時代とともにニーズが変化しており、企画等に工夫が一層求められると共に若年層の利用者も増やす努力が欠かせない。保育所の再編や認定こども園の運営、保幼小の一貫したカリキュラム策定なども進められており、子育て環境の一層の整備が期待される。自立・協働・創造の理念に立った本市の教育振興計画は、文科省の新学習指導要領にも素早く対応した内容であり、教育環境の整備や実際の授業づくりに一層期待が持てると感じた。

重点目標6にも関わるが、キャリア教育としての「丹後学」の積極的展開や社会科地域学習並びにジオパーク学習は今後の観光振興と持続可能な社会の担い手づくりにも寄与するため、注目できる。地方創生の時代にあって、着地型観光を地元で起こしていく上で、市民自身の歴史文化への関心が高まることは極めて重要だからである。『京丹後市の教育』p13に記されている教育費予算（令和元年度）は、30年度に比べ若干減少しており、ICT機器の整備を進める上ではむしろ増額が必要ではないか。保育環境の充実や保幼小連携、「丹後小学校の開校」、豊かな人間性・社会性の育み、文化・芸術活動、丹後学を介したふるさと意識の醸成、スポーツを軸にした健やかな体づくり等は日本海に面した自治体としてよく取り組んでいる。今後とも、多様なニーズを汲み取ったテーマを課題とし、目標値を定めて取り組まれることを期待したい。

3 本論

① 教育委員会会議の開催状況等

前述したように毎月1～2回程度開催され、臨時会も合わせ合計21回の開催に至っている。11月や2月、3月がどうしても開催数が多いため、より審議の効率化を進めることが大事である。各種イベントの後援の承認案件や規則・要綱の一部改正や委員・人事の委嘱、などが案件が目立つが、今後とも報告事項の精選と共に、子育て支援施策や体力・学力向上、文化振興など、より本質的な課題に審議の時間を割くよう努力されることを望みたい。

② 事務事業評価

序論で触れたように、概ね進捗状況は良好である。施策評価・進捗管理調書と附属資料を点検したが、心配される点は見出せなかった。ただ、神奈川県川崎市登戸でのカリタス小学校通学バス停で起きた殺傷事件も起きるなど、「安全な通学支援」はより重要視される必要があろう。

事務事業に関しては、よく整理されており特に問題は見出せない。施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）に関しても、PLAN, DO, CHECK, ACT方式による書式が統一され、判別しやすい。進捗状況の評価や、各事業ごとの評価・課題欄の記載も○評定が多く、文章による記述も明確で、

把握しやすい。予算の執行率も峰山途中ヶ丘陸上競技場リニューアル事業の執行率がやや低いものの、ほとんどが90%台後半を確保され着実に施策が進められている。なお、オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業は執行率が極端に少ない値であるが、ほとんどが次年度への繰越によるものである。各重点目標に関わる事業の決算額と最終予算額、不用額、執行率が整理され客観的に事業の進捗を把握しようと努力する姿勢が感じられ高く評価できる。また、熊本県では球磨川氾濫による人吉市の甚大な被害もあったことから、京丹後市においても自然災害の防止の取組は重要度を増している。令和2年度から使用の検定教科書では防災内容が充実しているため、合同の避難訓練に加え、地域と連携し主体的・対話的で深い学びにつながる学校防災教育のさらなる充実を求めたい。

③ 学校評価

「学校評価自己評価」を点検した。「小中一貫教育の具体的な内容と評価」と「今年度の成果と課題 改善方策」が文章により明確に整理されている点は評価できる。小学校の合同授業や教職員への授業づくりアンケートなど各校で改善に向けて努力されている様子が読み取れる。単に、印象的記述に留まらず、課題や方針が明確に分かるように書かれている。少ない予算を切り詰めながらも教育の向上に向けて京丹後市の教職員全員で努力されている様子が伝わってくる。

④ その他教育活動

「第2次京丹後市スポーツ推進計画」（平成30年度から令和9年度）が策定され、「市民が楽しみ、ともにつくるスポーツのまち」づくりが推進されている。ライフステージに応じたスポーツ施策は重要であり、高齢者のいきがい創出にもつながる。東京2020オリンピックが次年度に延期されたが、「スポーツ振興によるまち起こし」は有望である。また、オンライン授業対応などが急務とされ、デジタル教材や電子黒板、タブレットの導入は、児童の学ぶ意欲を高める整備として必要であり、小学校だけでなく中学にもさらなるICT環境の整備を進めてほしい。

「京丹後市中学生海外派遣事業」が注目される。昨年度は、派遣生徒が15人に上り、グローバル社会に対応できる人材育成として力を入れているのが伝わってきた。派遣された生徒たちが、その体験知を経験知に昇華させ、帰国後Zoomなどのオンライン活用で現地校やホストファミリーとつながり続けることが大事である。

4 総括

報告書類の書式が統一され、今年度も各種資料は見やすく整理されている。資料「平成31年度学校教育指導の重点 推進上の留意点」には、平成24年に策定された学校教育改革構想が、10年間を見通した小中一貫教育の推進」として着実に実行されつつあることが分かり、心強い。国レベルでも新学習指導要領がコンピテンシー・ベースの能力育成に加え、「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメントを重要視しており、教職員の力量向上と一層の「開かれた学校づくり」に邁進してほしい。

5 総合評価（意見等）

総合評価として、教育委員会活動として適切な事業運営に努めていると高く評価できる。ただ、子育て支援事業計画に関して子育てに不安を感じる親が2割弱と高く、近隣の人とのつきあいも意外に低い回答率である点は気になった。京丹後市は、「海の京都」の一角を占める自治体であり、インバウンドや他県からの来訪が期待される。隣の宮津市には国際的に有名なホテルやグランピング施設も建設されつつあることから、今後地域社会が変貌する可能性がある。教育施策はそうした社会の変化にも敏感になることが大切であろう。

教育に関する学識経験者の意見

- 1 外部評価者 職名 京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授
氏名 竺沙 知章
令和2年10月21日（評価を行った日）

2 序論

令和元年度では、京丹後市教育振興計画の基本理念に基づき、京丹後市が目指す教育「心豊かにたくましく 幸福な未来を切り拓く力を育む教育」「ふるさとへの愛着と誇りを持ち新しい価値を創りだす力を育む教育」の実現に向け、さまざまな教育施策が推進されてきた。京丹後市の将来を見据えた施策が展開されている。

本意見書では、「教育委員会活動の点検及び評価報告書」（以下、「報告書」）を主として分析し、教育委員会会議や総合教育会議の議事録も参照しながら、中長期的な視点から策定されている京丹後市の教育振興計画の基本理念がどのように実現されようとしているか、その視点を中心にして意見を述べていきたい。

3 主な施策等の成果と課題

（1）教育委員の活動について

教育委員会会議、管内視察、管外視察、研修会など教育委員として必要な活動が活発に適切に展開されていると評価することができる。

教育委員会会議では、重要な議題に関して、活発な意見交換がなされていた。学校評議員や学校運営協議会など地域や家庭と学校運営との関係に関すること、教職員の勤務時間の上限に関する方針や時間外の電話の対応、長期休業中の学校業務の中止など教職員の働き方改革に関わること、教科書採択、教育委員会関係予算など、重要な議題について、多くの委員から質問、意見が出されていて、充実した協議がなされていたと推察できる。

また11月に開催された総合教育会議では、教育振興計画の見直し、いじめの問題が議題となっており、令和元年度において重要な課題について、市長も交えた活発な協議がなされていた。また市長から、新学習指導要領に関する質問もなされ、令和2年度以降の学校教育の課題、展望が議論されていたように思う。総合教育会議での議論の意義が感じられる内容であったと思う。

令和元年度の卒業式は、規模縮小で実施されたことが記録から理解できた。令和2年度も、入学式、卒業式の儀式や様々な行事について、その進め方などが検討されることと思う。教育委員のそうした行事等へのかかわりのあり方について、あらためて考える機会になると思う。

（2）重点目標に関する活動について

1）小中一貫教育の推進について

平成28年度より、小中一貫教育が全市展開されることになり、しっかりと定着してきたと評価することができる。子ども未来課が、児童福祉関係の事業を担当しており、保幼小の連携が進めやすく、また小学校、中学校においても、家庭とのかかわりの中で、福祉関係の事業も進める必要性が高まっていることを考えると、教育委員会事務局が児童福祉の一部を所管することは意義が高いと言える。保幼小中一貫教育が一層進んでいくことが期待される。

「報告書」の巻末の各学園・学校園の自己評価書を見ると、小中一貫教育が学園としてしっかりと取り組まれていることがよくわかる。各学園の小中一貫教育の報告書は、いずれも詳細で、具体的であり、成果と課題が明確になっている。また各学校園の自己評価においても、学園の小中一貫教育としての取り組みやその成果と課題が明確に示されており、しっかりと定着していることが伝わってくる。そしてその中の各学校園の特色も表れており、施設分離型の良さが表れているように思う。学園の体制の中で、新学習指導要領の実施に着実に取り組んでいただきたい。

2) 国際交流事業について

児童生徒国際交流事業の中学生の海外派遣が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、中止となったことが残念であった。準備をしていた生徒に対してどのようなフォローをしていくか、また令和2年度も新型コロナウイルス感染症の終息が難しいことを考えると、これまで取り組んできたつながりを活かしながら、どのような交流事業を行うことができるか、よく検討していただきたいと思う。

3) 教育環境の整備について

令和元年度は、適切に取り組まれたと思うが、新型コロナウイルス感染症への対応を考えると、令和2年度では、学校安全対策事業や児童教職員健康管理事業、生徒教職員健康管理事業の重要性が増すのではないだろうか。年度末に、さまざまな影響が出たことをしっかりと総括し、それを活かしていただきたい。

4) 生徒指導体制、教育相談体制の充実について

令和元年度末の新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための一斉休校が、令和2年度も継続しており、それが、いじめや不登校など生徒指導に関わる事象にどのように影響しているのか、じっくりと観察し、分析することが必要である。児童生徒への精神的な影響は、なかなか表に出てこないことであり、時間をかけて分析していくことが必要であろうと思う。

特に不登校に関しては、増加傾向に歯止めがかかっていない。小学校も中学校も平成30年度よりも出現率が増加しており、計画作成時から減少させるという目標の実現から遠ざかっている。不登校は現象であり、そのことが問題の本質ではない。不登校の要因は、児童生徒により多様であり、一律に捉えられないことから、児童生徒の実態をしっかりと分析し、何が問題なのかを検討することが必要であろう。

昨年度も指摘したことであるが、不登校に関わる記述が、各学園、各学校園の学校自己評価の報告には、あまりなされていないことが気にかかる。軽視されているとは思わないが、学園、学校園全体でしっかりと取り組み、評価書に示していくことが対応策になるように思う。

(3) 今後の課題について

新型コロナウイルス感染症は、社会のあり方、学校教育のあり方を大きく変えるものと言える。新学習指導要領の実施、そして教職員の働き方改革も、これまでの取り組みも継続させながら、新たな課題として取り組むことも必要であると思う。コミュニティスクールの仕組みも活かしながら、各学園で小中一貫教育として新たな課題に取り組んでいっていただきたい。

4 総括

教育振興計画に基づき、課題も散見されるが、それらについても的確に捉え、その改善に向けた取り組みがなされている。教育委員会のリーダーシップの下で、各学校の取り組みが確実に推進され、成果が現れていると言える。点検及び評価が適切になされ、京丹後市全体の活動の状況がきちんと整理されている。各学園、各学校園の自己評価も丁寧にできている。

5 総合評価

全体としては、適切な取り組み、そして点検評価がなされていると言えるが、不登校の問題に対して、それをどのような問題として捉え、どのように取り組んでいくのか、点検評価の中で、じっくりと検討していくべき課題であると思う。出現率でその実態は捉えられているが、それはあくまで顕在化した現象である。どこに課題があるか、おそらく複雑な要因が考えられることから、単純に原因を探索するのではなく、複眼的に、時間をかけて考えていくべき課題であるように思う。出現率の増加に歯止めがかからないことを重く受け止め、取り組んでいただきたい。そしてそのことを点検評価において分析し、報告書に示していただきたい。そのことを課題として指摘しておきたい。

I 教育委員会の活動状況

I 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会の開催状況（平成31年4月～令和2年3月）

教育委員会議は、毎月1回「定例会」を、また必要に応じて「臨時会」を開催し、令和元年度は合計21回開催しました。

(1) 教育委員会定例会・・・ 12回

(2) 教育委員会臨時会・・・ 9回

○令和元年度 教育委員会審議案件等一覧

年月日	会議名	議案番号	議 案 件 名
H31. 4. 5	4月定例会	27	京丹後市社会教育指導員の解嘱について
		28	京丹後市スポーツ推進審議会委員の解嘱及び委嘱について
		29	京丹後市図書館協議会委員の解任について
		30	京丹後市文化財保護審議会委員の解嘱及び委嘱について
		31	3 on 3 バスケットボール交流体験会の開催に係る後援について
		32	丹後から能楽師プロジェクト～イチから教わる仕舞・謡入門（初級編）～の開催に係る後援について
		33	「海をわたったコウノトリの大冒険 げんきくん物語」読書感想文コンクールの開催に係る後援について
		報告1号	京丹後市スクールガード・リーダーの委嘱について
		報告2号	京丹後市立学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について
		報告3号	京丹後市立こども園・保育所内科医、歯科医及び薬剤師の委嘱について
		34	京丹後市図書館協議会委員の任命について
		35	一般社団法人京丹後青年会議所2019年度5月事業（アートIN京丹後）の開催に係る後援について
R1. 5. 7	5月定例会	36	行政財産の用途廃止について
		37	京丹後市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
		38	子育てサロン講演会（5月）の開催に係る後援について
		39	子育てサロン講演会（7月）の開催に係る後援について
		報告4号	京丹後市立学校評議員の委嘱について
		報告5号	京丹後市社会教育委員の委嘱について
R1. 5. 28	5月臨時会	40	京丹後市図書館協議会委員の解任及び任命について
		41	京丹後市立学校体育施設等の利用等に関する条例の一部改正について
		42	京丹後市公民館条例の一部改正について
		43	京丹後市いさなご工房条例の一部改正について

年月日	会議名	議案番号	議 案 件 名
R1. 5. 28	5月臨時会	44	京丹後市マスターズビレッジ条例の一部改正について
		45	京丹後市社会体育施設条例の一部改正について
		46	京丹後市アグリセンター大宮条例の一部改正について
		47	京丹後市峰山林業総合センター条例の一部改正について
		48	京丹後市琴引浜鳴き砂文化館条例の一部改正について
		49	京丹後市立資料館条例の一部改正について
		50	京丹後市スポーツのまちづくり推進本部設置規程の一部改正について
		報告6号	京丹後市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
R1. 6. 5	6月定例会	51	京丹後市史跡整備検討委員会委員の委嘱について
		52	2019ワールドマスターズゲームズ2021関西プレ大会兼2019 JCFスタンドアップパドルボード海外派遣選手選考会の開催に係る共催について
		53	令和元年度京丹後市文化協会各地域文化祭の開催に係る共催について
		54	地震火山こどもサマースクールの開催に係る共催について
		報告7号	京丹後市教育支援委員会委員の委嘱について
		報告8号	京丹後市学校給食献立作成委員会委員の委嘱について
		55	京丹後市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
R1. 7. 2	7月定例会		教育長職務代理者の指名について
		56	京丹後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業保育料徴収条例施行規則の一部改正について
		57	京丹後市立図書館条例施行規則の一部改正について
		58	「事故のない・安全で楽しい登山をめざして」講演会の開催に係る後援について
		59	第62回京都府公民館大会の開催に係る後援について
		報告9号	京丹後市小中一貫教育研究推進協議会委員の委嘱について
		報告10号	京丹後市教育振興計画進捗管理について
R1. 7. 24	7月臨時会	60	京丹後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例等の一部改正について
		61	京丹後市公民館条例の一部改正について
		報告11号	令和元年度峰山途中ヶ丘公園陸上競技場改修工事請負契約の締結について
R1. 8. 2	8月定例会	62	音楽会「ありがとう♡つながりコンサート」の開催に係る後援について
		報告12号	公益財団法人京都府丹後文化事業団の経営状況について
R1. 8. 20	8月臨時会	63	専決処分の承認について(令和元年度子育て講演会・人形劇おやこ劇場の開催に係る後援について)
		64	京丹後市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

年月日	会議名	議案番号	議 案 件 名
R1. 8. 20	8月臨時会	65	京丹後市子どものための保育給付を受ける資格等の基準を定める条例の一部改正について
		66	欠番
		67	欠番
		68	京丹後市子どものための保育給付を受ける資格等の基準を定める条例施行規則の一部改正について
		69	京丹後市私立保育所保育料徴収規則の一部改正について
		70	京丹後市立幼保連携型認定こども園条例施行規則の一部改正について
		71	欠番
		72	京丹後市立保育所及び認定こども園延長保育事業実施要綱の一部改正について
		73	京丹後市特定教育・保育における実費徴収に係る補足給付費支給要綱の一部改正について
		74	京丹後市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の廃止について
		75	令和元年度京都府小学校教育研究会外国語教育研究大会の開催に係る後援について
R1. 8. 27	8月臨時会	76	令和2年度使用京丹後市立小学校教科用図書の採択について
		77	令和2年度使用京丹後市立中学校教科用図書の採択について
		78	京丹後市公民館条例及び京丹後市立資料館条例の一部改正について
R1. 9. 3	9月定例会	79	京丹後市子育てのための施設等利用給付の認定等及び施設等利用費の支給に関する規則の制定について
		80	京丹後市特定教育・保育施設、特定地域型保育事業者及び特定子ども・子育て支援施設等の確認等に関する規則の制定について
		81	京丹後市商工会青年部次世代育成事業「自然体験”竹で遊ぼう”～竹でごはんをたけ（竹？）～」の開催に係る後援について
		報告13号	市立学校の教育職員の勤務時間の上限に関する方針について
R1. 10. 2	10月定例会	82	京丹後市子ども教室活動補助金交付要綱の一部改正について
		83	京丹後市子育て支援センター事業実施要綱の一部改正について
		84	京丹後市放課後子ども教室推進事業実施要綱の一部改正について
		85	京丹後市立学校勤務府費負担教職員等ストレスチェック実施規程の一部改正について
		86	京丹後市特定教育・保育における実費徴収に係る補足給付費支給要綱の全部改正について
		87	第54回全国学童保育研究集会in京都の開催に係る後援について
		報告14号	京丹後市教育振興計画策定委員会委員の委嘱について
R1. 11. 6	11月定例会	88	京丹後市教育振興計画の見直しについて
		89	平成30年度教育委員会活動の点検及び評価報告書について
		90	手と手でつながる・広がる笑顔「みんなでつくる夢のステージ」の開催に係る後援について
R1. 11. 14	11月臨時会	91	第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画の策定について

年月日	会議名	議案番号	議 案 件 名
R1. 11. 14	11月臨時会	92	京丹後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業保育料徴収条例の一部改正について
R1. 12. 2	12月定例会	93	京丹後市中中学生海外派遣事業参加費補助金交付要綱の制定について
R2. 1. 6	1月定例会	1	令和２年度全国学力・学習状況調査の実施について
		報告1号	陳情に関わる事情説明の許可申請書
R2. 2. 4	2月定例会	2	令和２年度「指導の重点」について
		3	令和元年度京都府文化を未来に伝える次世代育み事業 和太鼓エンターテイメント『Tango"TAIKO Kids"』の開催に係る後援について
		4	小林久美子&松本晃コンサートの開催に係る後援について
R2. 2. 13	2月臨時会	5	教育委員会事務局職員の処分について
		報告2号	教育委員会事務局職員の処分について
R2. 2. 18	2月臨時会	6	令和２年度教育委員会関係予算について
		7	京丹後市放課後児童健全育成事業実施条例の一部改正について
R2. 3. 2	3月定例会	8	令和２年度京丹後市立学校教職員の管理職人事異動内申について
		9	京丹後市総合型地域スポーツクラブ活動補助金交付要綱の一部を改正する告示の一部改正について
		10	京丹後市社会教育関係団体補助金交付要綱の一部改正について
		11	京丹後市児童合唱団補助金交付要綱の一部改正について
		12	京丹後市小町ろまん短歌大会開催事業補助金交付要綱の一部改正について
		13	京丹後市体育協会運営補助金交付要綱の一部改正について
		14	京丹後市スポーツ少年団補助金交付要綱の一部改正について
		15	京丹後市指定文化財の指定に係る諮問について
		報告3号	財産の取得について《峰山途中ヶ丘公園陸上競技場競技備品購入（陸上競技用機器・器具）》
R2. 3. 11	3月臨時会	16	令和２年度京丹後市立学校教職員の一般職人事異動内申について
		17	京丹後市教育委員会事務委任規則の一部改正について
		18	京丹後市社会教育指導員規則の一部改正について
		19	京丹後市指導主事の任命等に関する規則の一部改正について
		20	京丹後市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
R2. 3. 23	3月臨時会	21	令和２年度京丹後市教育委員会事務局職員の人事異動について
		22	京丹後市スポーツ推進委員の委嘱について
		23	京丹後市社会教育委員の委嘱について
		24	京丹後市子どもの読書活動推進計画第三次推進計画の策定について

年月日	会議名	議案番号	議 案 件 名
R2. 3. 23	3月臨時会	25	京丹後市学校運営協議会規則の制定について
		26	京丹後市一時預かり事業実施要綱の一部改正について
		27	京丹後市臨時休園等に伴う保育料等の特例に関する規則の制定について

2. 教育委員会委員の主な活動

- (1)管内視察実施状況 5回(しんざん小学校、網野南小学校、旧三津・旧溝谷小学校、教育支援センター「麦わら」、大宮第一小学校)
- 所管施設を訪問し、各施設の参観や職員と懇談の中で、教育委員会の施策が十分反映されているか、今課題となっている事項等状況把握に努めました。
- (2)管外視察実施状況 1回
- ・茨木市教育委員会(学力向上の取組みと現状について)
 - ・社会見学(京都国立博物館文化財保存修理所 (株)光影堂の修理所)
- (3)教育委員協議会開催状況 5回
- 京丹後市文化芸術振興条例の制定の経過について・公民館と地域コミュニティのあり方について
- 学校給食施設整備調査業務報告について
- 丹後地域公民館、丹後図書室の改修計画について
- 京丹後市教育振興計画の見直しについて
- 令和元年度全国学力・学習状況調査結果について
- (4)総合教育会議 1回
- 京丹後市教育振興計画の見直し及び京丹後市のいじめの現状について市長と協議・意見交換を行いました。
- (5)各種研修会・視察の参加 6回
- 京都府教育委員会連合会等が主催する研修会等にも積極的に参加し、教育行政の諸課題について情報提供を受けました。

月	月 日	件 名	場 所
4月	31. 4. 5	市内保育所入所・進級式	市内各保育所
	31. 4. 5	教育委員会 4 月定例会	大宮庁舎
	31. 4. 5	第 1 回教育委員協議会	大宮庁舎
	31. 4. 8	市内こども園入園・進級式	市内各認定こども園
	31. 4. 8	丹後小学校開校式	京丹後市立丹後小学校
	31. 4. 9	市内小学校入学式	市内各小学校
	31. 4. 9	市内中学校入学式	市内各中学校
	31. 4. 16	平成 3 0 年度中学生海外派遣事業報告会	アグリセンター大宮
	31. 4. 17	平成 3 1 年度第 1 回丹後教科用図書採択地区協議会	京都府宮津総合庁舎
	31. 4. 17	第 1 回京丹後市立校（園）長・保育所長会議（紹介・あいさつ）	大宮庁舎
5月	1. 5. 7	教育委員会 5 月定例会	大宮庁舎
	1. 5. 7	第 2 回教育委員協議会	大宮庁舎
	1. 5. 25ほか	市内小学校運動会	市内各小学校
	1. 5. 20	丹後地方教育委員会連合会定期総会	宮津市福祉・教育総合プラザ
	1. 5. 28	教育委員会 5 月臨時会	大宮庁舎
	1. 5. 28	第 3 回教育委員協議会	大宮庁舎
	1. 5. 29	京丹後市チャレンジデー2019	市内全域
	1. 5. 31	京都府市町村教育委員会連合会定期総会・研修会 演題『新学習指導要領について』 講師 京都府教育庁 指導部長 山口隆範氏	京都府総合教育センター
6月	1. 6. 5	教育委員会 6 月定例会	大宮庁舎
	1. 6. 5	第 1 回管内視察研修	しんざん小学校
	1. 6. 8	市内中学校合唱祭	市内各中学校
	1. 6. 12	京丹後市小学校陸上運動記録会	峰山途中ヶ丘公園陸上競技場

月	月 日	件 名	場 所
6月	1. 6. 20	令和元年度京丹後市小中一貫教育授業研究会	大宮南小学校
	1. 6. 28	丹後地方教育委員会連合会教育委員等研修会 演題『コミュニケーション能力の素地を養う英語活動の工夫』 ～英語教育改革を見据えた教員の英語力・指導力の向上～ 講師 京田辺市立田辺小学校 教諭 尾崎 周平	京都府宮津総合庁舎
7月	1. 7. 2	教育委員会 7 月定例会	大宮庁舎
	1. 7. 2	第 2 回管内視察研修	網野南小学校
	1. 7. 8	教育委員任命通知書交付式（野木 三司委員）	京丹後市役所
	1. 7. 24	教育委員会 7 月臨時会	大宮庁舎
	1. 7. 24	令和元年度第 2 回丹後教科用図書採択地区協議会	京都府宮津総合庁舎
	1. 7. 26	令和元年度第 3 回丹後教科用図書採択地区協議会	京都府宮津総合庁舎
8月	1. 8. 2	教育委員会 8 月定例会	大宮庁舎
	1. 8. 2	第 3 回管内視察研修	旧三津・旧溝谷小学校
	1. 8. 2	第 4 回教育委員協議会	大宮庁舎
	1. 8. 6	令和元年度第 4 回丹後教科用図書採択地区協議会	京都府宮津総合庁舎
	1. 8. 20	教育委員会 8 月臨時会	大宮庁舎
	1. 8. 21	第 5 4 回人権教育研究京丹後市大会 演題『つながることで 見えてきたもの』 講師 三重県松阪市立第二小学校 教諭 世古口 静香氏	京都府丹後文化会館
	1. 8. 27	教育委員会 8 月臨時会	大宮庁舎
9月	1. 9. 1	第 1 5 回京丹後市総合体育大会	大宮中学校グラウンドほか
	1. 9. 3	教育委員会 9 月定例会	大宮庁舎
	1. 9. 6	京丹後文化のまちづくり実行委員会 演題 感動すること・育つこと 講師 永野むつみさん	アグリセンター大宮
	1. 9. 7	市内中学校体育祭	市内各中学校
	1. 9. 28ほか	運動会（各保育所・こども園）	市立保育所・こども園
10月	1. 10. 2	教育委員会 1 0 月定例会	大宮庁舎
	1. 10. 2	第 4 回管内視察研修	教育支援センター「麦わら」
	1. 10. 2	第 5 回教育委員協議会	大宮庁舎
	1. 10. 10	第 1 回管外視察研修	大阪府茨木市ほか
	1. 10. 11	近畿市町村教育委員会研修会 講演『新学習指導要領のめざすもの「資質・能力の育成」とは』 講師 教授 藤井 千春（早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部）	滋賀県野洲市 野洲文化ホール
	1. 10. 19	京丹後市小学校駅伝競走大会	丹後王国「食のみやこ」
	1. 10. 19	京丹後市青少年健全育成講演会 演題『本から伝える子どもたちの未来』 講師 小説家 瀬尾まいこ氏	アグリセンター大宮
11月	1. 11. 1	京都府内市町（組合）教育委員会研修会 『これからの京都府の義務教育の在り方について』意見交換会	ホテルルビノ京都堀川
	1. 11. 3	京丹後市市制 1 5 周年記念式典	京都府丹後文化会館
	1. 11. 3ほか	市内小学校学習発表会	市内各小学校
	1. 11. 6	教育委員会 1 1 月定例会	大宮庁舎
	1. 11. 6	第 1 回総合教育会議	大宮庁舎
	1. 11. 14	教育委員会 1 1 月臨時会	大宮庁舎

月	月 日	件 名	場 所
11月	1. 11. 20	令和元年度京丹後市教育フォーラム テーマ『こども園・保育所・小中学校の連携による 小中一貫教育』	京丹後市立丹後小学校
	1. 11. 26	丹後地方教育委員会連合会視察研修 研修テーマ『コミュニケーション能力の素地を養う 英語活動の工夫』ほか	京田辺市立田辺小学校ほか
12月	1. 12. 2	教育委員会 1 2 月定例会	大宮庁舎
	1. 12. 2	第 5 回管内視察研修	大宮第一小学校
1月	2. 1. 4	新年賀詞交換会	峰山総合福祉センター
	2. 1. 6	教育委員会 1 月定例会	大宮庁舎
	2. 1. 15	第 3 0 回丹後町少年少女意見発表会	京丹後市立丹後小学校
2月	2. 2. 4	教育委員会 2 月定例会	大宮庁舎
	2. 2. 13	教育委員会 2 月臨時会	大宮庁舎
	2. 2. 18	教育委員会 2 月臨時会	大宮庁舎
3月	2. 3. 2	教育委員会 3 月定例会	大宮庁舎
	2. 3. 3	新型コロナウイルス感染症対策に係る臨時休業（3/24まで）	各小中学校
	2. 3. 11	教育委員会 3 月臨時会	大宮庁舎
	2. 3. 13	京丹後市立中学校卒業式（規模縮小）	市内各中学校
	2. 3. 15	京丹後市成人式（延期）	京都府丹後文化会館
	2. 3. 23	京丹後市立小学校卒業式（規模縮小）	市内各小学校
	2. 3. 23	教育委員会 3 月臨時会	大宮庁舎
	2. 3. 24	京丹後市立認定こども園卒園式（規模縮小）	市立各認定こども園
	2. 3. 28	京丹後市立保育所修了式（規模縮小）	市立各保育所

Ⅱ 施策評価・進捗管理調書

京丹後市教育振興計画
施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
子ども未来課	服部 智昭

重点目標	1 就学前の子どもの教育・保育環境を充実します
基本的方針	就学前の子どもの健やかな育ちを確保するため、保育ニーズに応じた保育環境の整備はもとより、保育士や教員の資質向上及び専門性を高めるために研修機会を設けるとともに、幼稚園と保育所の連携を深め、教育・保育を総合的に提供できる環境づくりに取り組みます。また、小学校への円滑な接続を目指し、保幼小の連携を強化します。 地域や家庭で安心して子育てができるよう、地域の実情や保護者のニーズを的確に把握しサービス情報の周知徹底を図るとともに、子育てや就学前教育についての情報交換や気軽に相談する場の確保に努めます。

1. 施策の方向性

PLAN

1. 就学前教育の環境整備	①「京丹後市保育所再編等推進計画」に基づき、旧6町域すべてにおいて、保護者の就労状況等の家庭環境に関わらず、就学前の教育・保育を総合的に提供できる環境整備を進めます。 ②子育て家庭の子育ての不安に寄り添いサポートする体制の強化を図ります。 ③職員自身の自主的な資質向上を促すため、保育所・幼稚園の全職員を対象とした研修の充実を図るとともに、公開保育や職員の交流機会の充実を図ります。
2. 保幼小の連携強化	①保幼小の円滑な接続のためのカリキュラムを開発し、すべての保育所、幼稚園及び小学校で実施します。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～平成36年度	
京丹後市保育所再編等推進計画	将来にわたり子どもたちにとってより良い保育を保障するため、地域の特性に配慮しながら、小規模保育所等の統廃合及び社会福祉法人への運営委託等を具体的に進めるために策定	平成23年3月	平成23年度～平成27年度	第2次京丹後市保育所再編等推進計画を策定(平成29年度～平成33年度)
京丹後市子ども・子育て支援事業計画	市における子どもの健やかな育ちと保護者の子育てを社会全体で支援する環境づくりを一層進めるため策定	平成27年3月	平成27年度～平成31年度	第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画を策定(令和2年度～令和6年度)

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 就学前教育の環境整備		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
①「京丹後市保育所再編等推進計画」に基づき、旧6町域すべてにおいて、保護者の就労状況等の家庭環境に関わらず、就学前の教育・保育を総合的に提供できる環境整備を進めます。					
② 子育て家庭の子育ての不安に寄り添いサポートする体制の強化を図ります。					
③ 職員自身の自主的な資質向上を促すため、保育所・幼稚園の全職員を対象とした研修の充実を図るとともに、公開保育や職員の交流機会の充実を図ります。					
1	保育所管理運営事業	子ども未来課			
	児童の健康管理や臨時職員の雇用を行うほか、給食調理業務、幼児送迎業務等を実施し、円滑な保育所運営を行う。	211,907	139,778	162,573	縮小
2	保育業務委託事業	子ども未来課			
	保育ニーズに対応するため、民間保育所等に保育業務を委託することで、効率的に子育て支援を推進する。	528,526	522,635	533,438	現状維持
3	保育所保育事業等補助金	子ども未来課			
	民間保育所が行う事業に対して補助金を交付し、円滑な運営実施のための体制づくり等を推進するとともに、保育所における新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図る。	32,805	21,861	29,042	現状維持
4	子育て支援センター事業	子ども未来課			
	保育所入所前の子育て家庭のため、子育て相談や遊びの場の提供等の育児支援活動を通して、地域に密着した子育ての環境を整える。	13,967	15,100	20,449	現状維持
5	保育支援事業	子ども未来課			
	保護者の疾病等の理由により家庭での養育が一時的に困難となった児童や、病気の回復期にある児童を一時的に保育し、保護者の子育てと就労を支援する。	3,123	2,812	9,669	拡大
	子育て短期支援事業	子ども未来課			
	地域の子育て支援の拠点として市内8か所に子育て支援センターを設置し、育児相談や子育て情報の提供等、在宅で子育てをしている保護者とその子どもたちを支援する。				統合(整理)

1. 就学前教育の環境整備			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
	病後児保育事業	子ども未来課				統合(整理)
	病気の回復期にあり、集団保育が困難な児童を一時的に保育することにより、保護者の子育てと就労の両立等を支援するとともに、児童の福祉の向上を図る。					
	保育所一般経費	子ども未来課				統合(整理)
	保育所入所児童の健康管理、臨時職員の雇用、職員等の研修、児童の送迎バス運行、給食調理業務等により保育所の円滑な運営を図る。					
	6 園児等健康管理事業	子ども未来課	53			終了・廃止
	幼稚園における円滑な教育活動を実施するため、専門医による検診や保健衛生管理を行い、園児の健康保持と増進を図る。					
	7 幼稚園スクールサポーター等設置事業	子ども未来課	5,574			終了・廃止
	幼稚園に介護職員及び預かり保育職員を配置することで、適正かつ円滑な幼稚園運営を行う。					
	8 幼稚園管理運営事業	子ども未来課	2,623			終了・廃止
	適正な幼稚園運営や教育環境の充実に取り組み、就学時前教育の充実を図る。					
	9 幼稚園施設管理事業	子ども未来課	1,061			終了・廃止
幼稚園施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。						
10 教育利用管理運営事業	子ども未来課	43,745	59,281	79,446	現状維持	
児童の健康管理や臨時職員の雇用により、円滑な認定こども園(1号認定児)運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。						
11 保育利用管理運営事業	子ども未来課	484,751	587,361	724,566	拡大	
児童の健康管理や臨時職員の雇用により、円滑な認定こども園(2号・3号認定児)運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。						
2. 保幼小の連携強化			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 保幼小の円滑な接続のためのカリキュラムを開発し、すべての保育所、幼稚園及び小学校で実施します。						
	12 小中一貫教育推進事業《再掲》	学校教育課	-	-	-	現状維持
	「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の実現に向けて協議会及び専門部会で調査研究を行い、小中一貫教育を推進する。					
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業			決算額(単位:千円)			事務の改善
事務事業名称・事業内容(実績)			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
	13 保育所整備事業	子ども未来課	87,163	-		休止
	平成31年度開設予定の網野こども園への移行をスムーズに行うため、網野みなみ保育所の環境整備工事を実施する。また、統廃合により空き施設となっている老朽化した旧保育所施設について2施設を解体する。					
	14 保育所整備事業【繰越】	子ども未来課	-	32,832	-	
建物に基礎杭があることが判明し、杭の撤去に時間を要することから、平成30年度からの繰越事業としていた旧田村保育所除却事業を実施する。						
	15 保育所施設管理事業	子ども未来課	8,951	6,492	17,899	拡大
適切な維持管理のもと、必要な点検・整備を実施し、施設を利用する児童、職員が安全かつ快適に過ごすことができる環境を整える。						
	16 認定こども園施設管理事業	子ども未来課	7,877	41,864	7,435	現状維持
適切な維持管理のもと、必要な点検・整備を実施し、施設を利用する児童、職員が安全かつ快適に過ごすことができる環境を整える。						
	17 ファミリーサポートセンター事業	子ども未来課	67	56	64	現状維持
子どもの預かり等の援助を受ける方、援助を行う方からなる会員同士の援助活動を調整し、概ね生後2か月～小学校3年生までの子どもを持つ家庭の子育て支援を図る。						
	18 子ども未来まちづくり審議会事業	子ども未来課	38	147	143	現状維持
すべての子どもが健康で幸せに暮らせるまちづくりの推進及び子ども・子育て支援事業計画、保育所再編等推進計画、特定教育・保育施設の利用定員の設定等について審議する。						
計			1,432,231	1,430,219	1,584,724	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本の方針	就学前の子どもの健やかな育ちを確保するため、保育ニーズに応じた保育環境の整備はもとより、保育士や教員の資質向上及び専門性を高めるために研修機会を設けるとともに、幼稚園と保育所の連携を深め、教育・保育を総合的に提供できる環境づくりに取り組みます。また、小学校への円滑な接続を目指し、保幼小の連携を強化します。 地域や家庭で安心して子育てができるよう、地域の実情や保護者のニーズを的確に把握しサービス情報の周知徹底を図るとともに、子育てや就学前教育についての情報交換や気軽に相談する場の確保に努めます。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度		年度		年度	
	幼稚園の数	園	4	H25	0	R1	0	R6
	病後児保育の実施事業所数	事業所	0	H25	1	R1	1	R6
	子育て支援センター数	か所	7	H25	8	R1	8	R6
	一時預かり実施事業所数	事業所	6	H25	10	R1	9	R6
	保育所・幼稚園職員の全体研修数	回	3	H25	3	R1	5	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本の方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	《幼稚園の数》 第2次京丹後市保育所再編等推進計画を策定し、令和3年度(平成33年度)までの5か年を期間として、①保育所の再編、②民営化の検討、③認定こども園への移行などを定めている。6町すべての町域において認定こども園に移行することができた。 《病後児保育の実施事業所数》 保護者の就労支援のため、子どもが病気の後であっても安心して預けられる環境が整えられている。課題としては、特に子育て世代に、この制度の存在を伝える広報活動の推進がある。 《子育て支援センター数》 市内8か所で開設しており、保健師、助産師など専門職が子育て相談に対応するとともに、子育て世代間の友達づくり、情報共有など居場所を提供することができた。スペースの関係で児童の年齢に応じたクラス編成により、利用の曜日を定めるという調整をせざるを得ない点が課題となっていることから、網野地域子育て支援センターを旧保育所へ移転し、市内他地域からの受け入れも行っている。 《一時預かり実施事業所数》 平成28年度から、大宮北保育所とこうりゅう保育所を公設民営に移行させたことに伴い、両施設とも一時預かりを開始して、サービスの向上を図ることができている。 《保育所・幼稚園職員の全体研修数》 計画どおり全体研修を実施することができた。職員の資質向上は、教育・保育を提供する上で課題でもあり、担任会や園長・所長研修、園内研修など身近なところで研修の機会を設けて研鑽している状況である。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	保育所の利用において、0～2歳の低年齢児の利用が増える傾向にあり、このニーズに応える保育所の運営を続けるとともに、令和2年3月に策定した第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画と整合性を図りつつ、今後も子育て支援の施策の充実を図る。
	2	「京丹後市小中一貫教育保幼小接続モデルプラン」を参考に、各学園で保幼小の情報共有や教職員の交流と相互理解を深めるなど、小学校教育への円滑な接続を図るための取組みの充実を図る。

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	02 児童福祉費											
	目	03 保育事業費											
	事	05 保育所事業											
	細事	01 保育所管理運営事業											
基本計画		25 子育て支援の総合的な推進	主な財源	負担金 国補 府補 府補 諸収入 諸収入	保育認定児保育料、日本赤十字振興センター保護者負担金 22,064千円								
目的	児童の健康管理や臨時職員の雇用を行うほか、給食調理業務、幼児送迎業務等を実施し、円滑な保育所運営を行う。				子ども・子育て支援体制整備総合推進事業費補助金（1/2） 59千円								
					第3子以降保育料無償化事業費補助金、子ども・子育て支援事業費府補助金 4,682千円								
					園児等交通安全緊急対策事業費補助金、きょうと地域連携交付金（完全給食準備事業） 433千円								
					広域入所児童受託保育料、職員給食費、保育施設給食調理機器類賃付料 7,700千円								
			延長保育料、保育所等職員研修事業補助金、市有自動車損害共済金 417千円										
主要な事務・事業の概要	○健康管理実施経費 2,497千円 医師報酬・費用弁償、児童検診委託料、大腸菌等検査手数料等		○幼児教育・保育無償化対応経費 1,745千円 京都府自治体情報化推進協議会システム改修負担金										
	○臨時職員の任用関連経費 80,388千円 共済費（社会保険料等）、賃金、傷害保険料		○その他必要経費（共通物品、保育協会負担金等） 1,488千円										
	○職員研修実施経費 440千円 報償費（研修講師謝金）、職員旅費、研修参加負担金		（参考）京丹後市内の保育所（R2.3.31現在） ・公立（公設公営）：島津、たちばな、宇川、久美浜保育所 ・公立（公設民営）：大宮北保育所 ・私立：あみの夢保育園、こうりゅう虹保育園、ゆうかり乳児保育所										
	○給食調理業務経費 15,213千円 調理業務委託料（島津、たちばな、宇川）		<table><tr><td rowspan="2">参考</td><td>繰越明許費を除いた最終予算額</td><td>143,529千円</td></tr><tr><td>実質的な予算執行率</td><td>97.4 %</td></tr></table>						参考	繰越明許費を除いた最終予算額	143,529千円	実質的な予算執行率	97.4 %
	参考	繰越明許費を除いた最終予算額	143,529千円										
		実質的な予算執行率	97.4 %										
	○保育所送迎車両関連経費 8,833千円 業務委託経費、修理費、重量税等		■令和2年度への繰越事業 205千円 ・保育所等新型コロナウイルス感染症対策用品購入事業 令和2年9月完了予定										
	○広域入所関連経費（業務委託経費） 336千円		成果・課題 ○職員確保、児童・職員の健康管理、給食提供、送迎バスの運行管理などの業務を適切に行うことにより円滑な保育所運営を行うことができた。 ○完全給食実施に向けた準備を行い、令和2年4月からの完全給食をスムーズに開始することができた。 ○お散歩車等を購入し、園外活動における児童の安全を確保した。 ○京都府自治体情報化推進協議会のシステム改修により、10月1日からの幼児教育・保育無償化に対応した。 ○乳児利用の増加に対応するため、職員体制の確保が必要である。										
	○入所児童の保育に要する経費 16,079千円 保育材料費、膳材料費、医薬材料費												
	○保育所運営に要する経費 11,789千円 光熱水費、通信運搬費、備品購入費、ピアノ調律等												
○完全給食実施準備経費 318千円 消耗品費（幼児用、保温食缶等）、備品購入費（ガス炊飯器1台）													
○園児等交通安全緊急対策経費 652千円 消耗品費（誘導リング2個）、備品購入費（お散歩車4台）													

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費						
	目	03 保育事業費						
	事	05 保育所事業						
	細事	02 保育業務委託事業	主な財源					
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進	負担金		保育認定児保育料	59,433千円			
目的	保育ニーズに対応するため、民間保育所等に保育業務を委託することで、効率的に子育て支援を推進する。	国員・国補		子ども・子育て支援交付金、子どものための教育・保育給付交付金	117,192千円			
		府員・府補		子ども・子育て支援交付金、子どものための教育・保育給付交付金	50,606千円			
		諸収入	延長保育料	152千円				
		繰入金	ふるさと応援基金繰入金	20,000千円				
主要な事務・事業の概要	民間認可保育所の「ゆうかり乳児保育所」に2か月児から2歳児まで、「ゆうかり子ども園」「あみの夢保育園」「こうりゅう虹保育園」に6か月児から5歳児までの保育を委託し、また、市立保育所のうち「大宮北保育所」の運営を社会福祉法人に委託することにより、産休明け・育休明けの保育所利用、保育時間の延長や休日保育等、保護者の保育ニーズに対応した。							
	○乳児保育委託料 70,046千円							
	・ゆうかり乳児保育所 定員30人 令和2年3月末入所児童数：35人							
	○公立保育所運営委託料 223,519千円							
	・大宮北保育所 定員230人 令和2年3月末入所児童数：233人							
○保育所運営委託料 229,070千円			成果・課題	保育を委託することで、保育時間の延長や休日保育など保護者の保育ニーズに対応した保育を実施し、保護者の子育てと仕事の両立支援につなげることができた。				
・あみの夢保育園 定員90人 令和2年3月末入園児童数：102人								
・こうりゅう虹保育園 定員120人 令和2年3月末入園児童数：142人								

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	21,861千円		23,890千円	2,029千円	91.5 %		
	目	03 保育事業費					(参考)当初予算額		
	事	05 保育所事業					49,774千円		
	細事	03 保育所保育事業等補助金							
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進		主な財源	国補	子ども・子育て支援交付金（1/3）		2,821千円		
		国補		子育てのための施設等利用給付交付金		573千円			
目的	民間保育所が行う事業に対して補助金を交付し、円滑な運営実施のための体制づくり等を推進するとともに、保育所における新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図る。		府補	子ども・子育て支援交付金（1/3）		2,821千円			
			府補	子育てのための施設等利用給付交付金		286千円			
			府補	保育対策総合支援事業費補助金（10/10）		641千円			
主要な事務・事業の概要	○私立保育所保育事業補助金		20,288千円		○新型コロナウイルス感染症対策事業補助金		641千円		
	・ ゆうかり乳児保育所		1,200千円		・ ゆうかり乳児保育所（消毒液）		16千円		
	・ 障害児保育事業（加配職員の人件費）				・ 大宮北保育所（電子体温計）		15千円		
	・ あみの夢保育園		1,776千円		・ こうりゅう虹保育園（空気清浄機、手指消毒液、A'-B'-カール）		433千円		
	延長保育事業（人件費、光熱水費、おやつ代 等）		300千円		・ あみの夢保育園（ペーパータオル、ハンドソープ）		72千円		
	一時預かり事業（配置保育士の人件費）		276千円		・ 市立弥栄病院 院内保育所（マスク、加湿空気清浄機）		105千円		
	障害児保育事業（加配職員の人件費）		1,200千円						
	・ こうりゅう虹保育園		8,997千円						
	延長保育事業（人件費、光熱水費、おやつ代 等）		300千円						
	一時預かり事業（配置保育士の人件費）		465千円						
	障害児保育事業（加配職員の人件費）		5,964千円						
	通所バス運行費補助金（189千円×12月）		2,268千円						
	・ ゆうかり子ども園		8,315千円						
	延長保育事業（人件費、光熱水費、おやつ代 等）		3,298千円						
	一時預かり事業（配置保育士の人件費）		457千円						
障害児保育事業（加配職員の人件費）		4,560千円							
○認可外保育施設等給付費		932千円							
認可外保育施設：3人（10月～3月）、未移行幼稚園：2人（11月～3月）									
				成果・課題	○延長保育や障害児保育、一時預かりなどを推進し、子育て支援と仕事の両立支援を図った。				
					○新型コロナウイルス感染症拡大防止のための支援を行った。				
				○認可外保育施設等の施設等利用費を対象者に給付し、10月1日からの幼児教育・保育無償化に対応した。					

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	15,100千円	15,483千円	383千円	97.5 %	課	子ども未来課
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額		
	事	03 子育て支援センター事業				17,980千円		
	細事	01 子育て支援センター事業						
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進		主な財源	子ども・子育て支援交付金（1/3）		6,266千円		
目	地域の子育て支援の拠点として市内8か所に子育て支援センターを設置し、育児相談や子育て情報の提供等、在宅で子育てをしている保護者とその子どもたちを支援する。			子ども・子育て支援交付金（1/3）		6,266千円		
			諸収入	網野地域子育て支援センター光熱水費等負担金		25千円		
主要な事務・事業の概要	保育所及び子ども園の入所、入園前の子どもを持つ家庭のため、保護者の育児相談・交流の場及び子ども同士のふれあいの場として、8か所の支援センターを設置し、地域に密着した子育て支援を推進した。 11月6日に開催した子育て講演会は、保護者60人、子ども74人、計134人の参加があった。 また、新型コロナウイルス感染症対策として、3月3日から3月24日まで閉鎖した。			○臨時職員賃金及び共済費 10,571千円				
	○支援センター利用人数			○通信運搬費（電話代） 238千円				
	○なかよし広場			○光熱水費 769千円				
	支援センター			○網野地域子育て支援センター浄化槽維持管理業務委託 233千円				
	児童			○支援センター運営委託料（こうりゅう虹保育園） 2,352千円				
	保護者			○その他経費（消耗品費等） 937千円				
	峰山			毎月1回				
	大宮北			延べ利用人数				
	大宮南			児童				
	網野			保護者				
丹後			合計					
弥栄			338人					
かぶと山			304人					
こうりゅう			会場：峰山総合福祉センター（健康館2階ちびっこルーム）					
合計								
11,038人			成果・課題					
9,983人			○保育所及び子ども園の入所、入園前の子育て家庭のため、子育て相談や遊びの場を提供することにより、子育てに対する不安の解消や保護者同士のコミュニケーションの促進を図ることができた。 ○平成31年4月1日から、旧浅茂川保育所施設を活用して網野地域子育て支援センターを開設し、年齢に関わらずいつでも利用できる運営を取り入れるなど、利便性の向上を図った。					

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	2,812千円	2,950千円	138千円	95.3 %	課	子ども未来課
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額		
	事	04 保育支援事業				3,370千円		
	細事	01 保育支援事業	主な財源	国補	子ども・子育て支援交付金（1/3）	936千円		
	府補	子ども・子育て支援交付金（1/3）		936千円				
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進							
目的	保護者の疾病等の理由により家庭での養育が一時的に困難となった児童や、病気の回復期にある児童を一時的に保育し、保護者の子育てと就労を支援する。							
主要な事務・事業の概要	保護者の疾病や就労などの理由により、養育することが一時的に困難となった家庭の児童（小学4年生まで）及び、病気やけがの回復期にあり、集団保育や登校が困難な児童（小学6年生まで）を一時的に保育・看護し、保護者の子育てと就労を支援する事業を社会福祉法人みねやま福祉会に委託した。			・病後児保育事業委託料 2,360千円				
	○委託料 2,812千円			申請件数 9件（利用予定日 10日）				
	・子育て短期支援事業委託料 452千円			利用実績 9件（利用日数 10日）				
	(延べ利用児童数等)			(延べ利用児童数) 10人				
	・0、1歳児 生活保護・ひとり親非課税世帯 10人 非課税・ひとり親課税世帯 2人 その他の世帯 16人							
・2歳児以上 生活保護・ひとり親非課税世帯 15人 非課税・ひとり親課税世帯 7人 その他の世帯 46人			成果・課題 ○保護者の冠婚葬祭・就労・就学・傷病・学校等行事への参加による一時的な利用があり、養育を必要とする児童及びその家庭の福利向上につなげることができた。 ○病気の回復期にある児童の子育てと保護者の就労の両立を支援することができた。 ○事業の円滑な利用のため、家庭こども相談室との連携が必要なほか、委託先であるみねやま福祉会との連絡・調整が必要である。					

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	59,281千円	60,120千円	839千円	98.6 %	課	子ども未来課
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額		
	事	06 認定こども園事業				75,680千円		
	細事	01 教育利用管理運営事業	主な財源	負担金	教育認定児保育料	6,710千円		
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進	目的	児童の健康管理や臨時職員の雇用により、円滑な認定こども園（1号認定児）運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。	国員	子どものための教育・保育給付交付金（1/2）	7,416千円		
				府員	子どものための教育・保育給付交付金（1/4）	6,508千円		
				府補	第3子以降保育料無償化事業費補助金	1,412千円		
				諸収入	教育認定児預かり保育料	3,436千円		
主要な事務・事業の概要	○健康管理実施経費 1,122千円 医師・薬剤師報酬、児童検診委託料、幼児健康診断票印刷代			(参考) 京丹後市内の幼保連携型認定こども園（R2.3.31現在） ・公立：峰山、大宮、網野、丹後、弥栄、かぶと山こども園 ・私立：ゆうかりこども園				
	○臨時職員の任用関連経費 37,141千円 共済費（社会保険料等）、賃金							
	○こども園運営に要する経費 118千円 備品購入費（絵本）							
	○日本スポーツ振興センター負担金 46千円							
	○認定こども園施設給付費 20,854千円 ゆうかりこども園：3歳以上児の幼児教育業務（1号認定児） 定員12人 令和2年3月末入園児童数：13人			成果・課題	職員確保、児童・職員の健康管理などの業務を適切に行うことにより、円滑なこども園運営を行うことができた。			

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	587,361千円	592,526千円	5,165千円	99.1 %		
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課
	事	06 認定こども園事業				578,047千円		
	細事	02 保育利用管理運営事業	負担金	保育認定児保育料	88,950千円			
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進	主な財源	国費・国補	子ども・子育て支援交付金、子どものための教育・保育給付交付金	46,346千円			
	府費・府補		子ども・子育て支援交付金、子どものための教育・保育給付交付金	22,442千円				
	府補		第3子以降保育料無償化事業費補助金、園児等交通安全緊急対策事業費補助金	11,314千円				
	府補		きょうと地域連携交付金（完全給食準備事業）	540千円				
目的	児童の健康管理や臨時職員の雇用により、円滑な認定こども園（2号・3号認定児）運営を行う。また、私立認定こども園に対し施設給付を行う。	諸収入	職員給食費、教育認定児給食費、保育施設給食調理機器類賃付料ほか	16,675千円				
主要な事務・事業の概要	○健康管理実施経費 4,455千円 医師報酬・費用弁償、児童検診委託料、大腸菌等検査手数料等		○認定こども園施設給付費 109,555千円 ゆうかり子ども園：6か月児～5歳児の保育業務（2号及び3号認定児） 定員138人 令和2年3月末入園児童数：156人					
	○臨時職員の任用関連経費 308,549千円 共済費（社会保険料等）、賃金		○その他必要経費 2,122千円 共通物品（コピー用紙等の事務消耗品）、日本スポーツ振興センター負担金、全国公立幼稚園・こども園長会負担金					
	○職員研修実施経費 984千円 職員旅費、有料道路通行料等		参考					
	○給食調理業務経費 23,498千円 調理業務委託料（大宮、かぶと山）		繰越明許費を除いた最終予算額 591,825千円					
	○こども園送迎車両関連経費 29,501千円 業務委託経費、修理費、重量税等		実質的な予算執行率 99.2 %					
	○入園児童の保育に要する経費 72,737千円 保育材料費、膳料料費		■令和2年度への繰越事業 701千円 ・保育所等新型コロナウイルス感染症対策用品購入事業 令和2年9月完了予定					
	○こども園運営に要する経費 33,719千円 光熱水費、通信運搬費、備品購入費、廃家電処理等		成果・課題					
	○完全給食実施準備経費 1,252千円 消耗品費（幼児用、しゃもじ、保温食缶等）		○職員確保、児童・職員の健康管理、給食提供、送迎バスの運行管理などの業務を適切に行うことにより、円滑なこども園運営を行うことができた。					
	○園児等交通安全緊急対策経費 989千円 消耗品費（誘導リング8個）、備品購入費（お散歩車6台、交通安全ポスター1台）		○完全給食実施に向けた準備を行い、令和2年4月からの完全給食をスムーズに開始することができた。					
			○お散歩車等を購入し、園外活動における児童の安全を確保した。					

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	32,832千円	41,446千円	8,614千円	79.2 %		
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課
	事	05 保育所事業				41,446千円		
	細事	04 保育所整備事業（繰越）						
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進		主な財源	市債 旧児童福祉施設解体事業債（合併特例債） 31,100千円				
目的	建物に基礎杭があることが判明し、杭の撤去に時間を要することから、平成30年度からの繰越事業として旧田村保育所除却事業を実施する。							
主要な事務・事業の概要	○旧田村保育所解体・敷地整備工事 32,832千円							
	・工事監理委託料 561千円 ・施設除却工事費 32,271千円 敷地面積：2,100.8㎡ （主な解体施設） 保 育 所：木造平屋建（一部鉄骨造）469.31㎡ 倉 庫：木造平屋建17㎡ 屋外プール：20㎡ 砂 場：22.5㎡ そ の 他：油分離槽、遊具、立木 等 （参考） 所在地：京丹後市久美浜町閑地内			成果・課題	統廃合により空き施設となっている老朽化した旧保育所施設を撤去した。			

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費				97.5 %		
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額		
	事	05 保育所事業				12,037千円		
	細事	05 保育所施設管理事業						
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進		主な財源	負担金	保育認定児保育料			983千円
目的	適切な維持管理のもと、必要な点検・整備を実施し、施設を利用する児童、職員が安全かつ快適に過ごすことができる環境を整える。	府補		第3子以降保育料無償化事業費補助金		163千円		
		府補		きょうと地域連携交付金（完全給食準備事業）		73千円		
		市債		児童福祉施設整備事業債（過疎対策債）		600千円		
主要な事務・事業の概要	○報償費		3千円	○完全給食実施準備経費		168千円		
	土地使用謝金（たちばな保育所園庭入口）			施設修繕費（たちばな、久美浜）		157千円		
	○需用費		2,163千円	配線用差込接続器設置手数料（島津、宇川）		11千円		
	消耗品費		101千円					
	修繕費		2,062千円					
	○役務費		617千円					
	通信運搬費		32千円					
	貯水槽法定検査、消防設備点検、浄化槽法定検査等手数料		69千円					
	火災保険料（13施設分）※旧施設含む		516千円					
	○委託料		1,598千円					
	施設警備、グリストラップ収集・処理、浄化槽維持管理 等							
	○使用料及び賃借料		105千円					
	土地借上料（たちばな保育所駐車場等用地）		10千円	成果・課題	○老朽化等に伴う施設の修繕及び工事を実施し、施設の安全管理を適切に行うことができた。 ○完全給食実施に向けた準備を行い、令和2年4月からの完全給食をスムーズに開始することができた。 ○施設や設備が老朽化していることから、大規模な改修等が必要となるものがあり、計画的に行っていく必要がある。			
	清掃用具借上料		95千円					
	○工事設計委託料・工事請負費		1,838千円					
島津保育所下水道接続及び浄化槽解体撤去工事設計委託		636千円						
	大宮北保育所 園児用プール改修工事		499千円					
	島津保育所 保育室及び職員室エアコン設置工事		703千円					

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	41,864千円	42,045千円	181千円	99.5 %		
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課
	事	06 認定こども園事業						
	細事	03 認定こども園施設管理事業				負担金	保育認定児保育料	1,263千円
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進	主な財源	負担金	教育認定児保育料	1,180千円			
			府補	第3子以降保育料無償化事業費補助金	692千円			
			府補	きょうと地域連携交付金（完全給食準備事業）	149千円			
			市債	児童福祉施設整備事業債（過疎対策債）	33,900千円			
目的	適切な維持管理のもと、必要な点検・整備を実施し、施設を利用する児童、職員が安全かつ快適に過ごすことができる環境を整える。							
主要な事務・事業の概要	○需用費		2,415千円	○完全給食実施準備経費		343千円		
	消耗品費		351千円	施設修繕費（峰山、大宮、網野、弥栄、かぶと山）		323千円		
	修繕費		2,064千円	給湯貯湯タンク処分料（網野）		20千円		
	○役務費		866千円					
	貯水槽法定検査、消防設備点検、浄化槽法定検査等手数料		38千円					
	火災保険料（6施設分）		828千円					
	○委託料		3,603千円					
	施設警備、グリストラップ収集・処理、自動ドア保守点検		2,954千円					
	消防設備点検、自家用電気工作物安全管理、害虫駆除 等							
	丹後こども園FRPプール撤去・処分業務		649千円					
	○使用料及び賃借料		247千円					
	重機借上料（峰山・網野こども園園庭整備）		37千円					
	清掃用具借上料		210千円					
	○工事請負費		34,390千円	成果・課題	○突発的な事案に伴う施設の修繕等を実施し、施設の安全管理を適切に行うことができた。 ○完全給食実施に向けた準備を行い、令和2年4月からの完全給食をスムーズに開始することができた。 ○建設してから年数が経過している施設もあることから、大規模な改修等が必要となるものがあり、計画的に行っていく必要がある。			
大宮こども園中央監視設備・空調自動制御設備更新工事		33,990千円						
網野こども園2歳児保育室フローリング化工事		400千円						

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	56千円	56千円	0千円	100.0 %		
	目	01 児童福祉総務費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課
	事	04 ファミリーサポートセンター事業				56千円		
	細事	01 ファミリーサポートセンター事業	主な財源	子ども・子育て支援交付金（1/3）		18千円		
基本計画		25 子育て支援の総合的な推進		子ども・子育て支援交付金（1/3）		18千円		
目的	子どもの預かり等の援助を受ける方、援助を行う方からなる会員同士の援助活動を調整し、概ね生後2か月から小学校3年生までの子どもを持つ家庭の子育て支援を図る。							
主要な事務・事業の概要	新規及び登録済みのまかせて会員を対象に、援助活動に必要な専門的な知識の取得やスキルアップを目的とした講習会を実施した。							
	○実施事業内容 ・新規登録会員及び登録更新会員講習会 参加者 2人 ○会員数（令和2年3月末） 前年度 ・依頼（おねがい）会員 42人 53人 ・援助（まかせて）会員 16人 22人 ・両方会員 1人 2人 ※活動延べ件数 5件 9人 ※利用者実人数 おねがい会員：1人 4人 まかせて会員：2人 1人 ○事業費 ・役務費（補償保険料） 56千円			成果・課題	○援助会員の講習会で、受講者に子どもの世話や看病の仕方を再確認する機会を提供し、援助技能の向上を図った。 ○援助会員による子どもの一時的な預かりにより子育て支援をすることができた。 ○より一層円滑に運営するためには、援助会員の確保が課題である。			

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局											
	項	02 児童福祉費	147千円	184千円	37千円	79.8 %													
	目	01 児童福祉総務費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課											
	事	06 子ども未来まちづくり審議会事業				184千円													
	細事	01 子ども未来まちづくり審議会事業				主な財源													
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進																		
目的	すべての子どもが健康で幸せに暮らせるまちづくりの推進及び子ども・子育て支援事業計画、保育所再編等推進計画、特定教育・保育施設の利用定員の設定等について審議する。																		
主要な事務・事業の概要	平成27年度に策定した第1期子ども子育て支援事業計画を見直し、第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画を策定するため、審議会を開催した。																		
	○報酬（審議会委員） 委員：10人 4回開催 124千円																		
	○旅費（費用弁償） 23千円																		
	※審議会開催状況																		
	<table><thead><tr><th></th><th>日 程</th><th>審 議 内 容</th></tr></thead><tbody><tr><td>第1回</td><td>令和元年5月30日</td><td rowspan="4">・京丹後市子ども・子育て支援事業計画について ・幼児教育・保育の無償化について</td></tr><tr><td>第2回</td><td>令和元年8月7日</td></tr><tr><td>第3回</td><td>令和元年9月10日</td></tr><tr><td>第4回</td><td>令和元年10月8日</td></tr></tbody></table>									日 程	審 議 内 容	第1回	令和元年5月30日	・京丹後市子ども・子育て支援事業計画について ・幼児教育・保育の無償化について	第2回	令和元年8月7日	第3回	令和元年9月10日	第4回
	日 程	審 議 内 容																	
第1回	令和元年5月30日	・京丹後市子ども・子育て支援事業計画について ・幼児教育・保育の無償化について																	
第2回	令和元年8月7日																		
第3回	令和元年9月10日																		
第4回	令和元年10月8日																		
※審議会への諮問：令和元年5月30日																			
※審議会からの答申：令和元年10月9日																			
				成果・課題	○審議会での審議・答申していただき、第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画を策定することができた。 ○今後も、多様化する子育て支援ニーズへの対応、子どもや子育てに関し審議していただき、子育て世帯やすべての子どもたちが健康で幸せに暮らせるまちづくりを推進していく必要がある。														

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
学校教育課	小坂 貴寛

重点目標	2	確かな学力・生き抜く力を育みます
基本的方針	小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。 一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。	

1. 施策の方向性 PLAN

1. 小中一貫教育の推進	①「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む小中一貫教育を着実に進めます。 ②中学校区を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学校園の教育活動を進めます。 ③小中一貫教育等について保護者や地域の理解を得るとともに連携を深めるため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供の機会を拡充します。 ④学識経験者や市民、保護者及び学校園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。 ⑤小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校評価を充実します。
2. 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上	①子どもの発達や学習の特性等に応じた保幼小中一貫の教育課程により、すべての学校園で就学前から中学校修了までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。 ②教職員の授業実践力や生徒指導力を高める研修を充実します。 ③加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。 ④京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇り、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協力と参画により、すべての小中学校で実施します。 ⑤子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学校園と家庭が連携した取り組みを充実します。 ⑥中学校区を単位として学校園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域教育環境づくりを推進します。 ⑦市民が学校の教育活動を積極的に支援する学校支援ボランティアの取り組みを拡充します。 ⑧放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制づくりを進めます。
3. 確かな学力の育成	①小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間の系統的な学習指導を実現します。 ②全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的に行います。 ③すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実を位置付け、系統的・継続的な指導を行います。 ④「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。 ⑤自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学校園に普及します。 ⑥家庭学習が定着するよう、学校と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。 ⑦学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校、高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。
4. 社会を生き抜く力の育成	①子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。 ②「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。 ③児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲を高めるため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。 ④小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～平成36年度	
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

2. 主な取組と構成事務事業一覧		PLAN	DO	※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照	CHECK	ACT	
1. 小中一貫教育の推進				決算額(単位:千円)		事務の改善	
主な取り組み				H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課					
①「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む小中一貫教育を着実に進めます。							
②中学校区を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学校園の教育活動を進めます。							
③小中一貫教育等について保護者や地域の理解を得るとともに連携を深めるため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供の機会を拡充します。							
④学識経験者や市民、保護者及び学校園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。							
⑤小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校評価を充実します。							
1 小中一貫教育推進事業		学校教育課		309	540	252	現状維持
「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の実現に向けて協議会及び専門部会で調査研究を行い、小中一貫教育を推進する。							
2 小中一貫教育実践事業		学校教育課		5,777	5,640	5,705	現状維持
「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の推進に向け、市内全域で小中一貫教育を実践する。							
2. 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上				決算額(単位:千円)		事務の改善	
主な取り組み				H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課					
①子どもの発達や学習の特性等に応じた保幼小中一貫の教育課程により、すべての学校園で就学前から中学校修了までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。							
②教職員の授業実践力や生徒指導力を高める研修を充実します。							
③加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。							
④京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇り、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協力と参画により、すべての小中学校で実施します。							
⑤子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学校園と家庭が連携した取り組みを充実します。							
⑥中学校区を単位として学校園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域の教育環境づくりを推進します。							
⑦市民が学校の教育活動を積極的に支援する学校支援ボランティアの取り組みを拡充します。							
⑧放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制作りを進めます。							
授業実践力向上対策事業		学校教育課		1,242	985	1,574	現状維持
授業実践力開発講座、小中一貫検証講座及び教育実践力サポート講座を開設し、教員の資質向上を図る。							
3 学習支援体制整備事業		学校教育課		-	-	-	現状維持
「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、放課後を活用した教育活動を実施することにより、子どもたちの学びを支援する仕組みづくりを進める。							
4 学校支援地域本部事業《再掲》		生涯学習課		-	-	-	現状維持
「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図る。							
3. 確かな学力の育成				決算額(単位:千円)		事務の改善	
主な取り組み				H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課					
①小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間の系統的な学習指導を実現します。							
②全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的に行います。							
③すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実を位置付け、系統的・継続的な指導を行います。							
④「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。							
⑤自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学校園に普及します。							
⑥家庭学習が定着するよう、学校と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。							
⑦学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校、高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。							
5 教科用図書採択事業		学校教育課		25	150	71	現状維持
丹後教科用図書採択地区協議会において教科用図書の調査・研究を行い、市立小中学校で使用する教科用図書の公正かつ適正な採択を行う。							

3. 確かな学力の育成			決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課					
	6 小学校教育振興事業	学校教育課	22,438	52,116	26,047	現状維持	
	副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導を実践し、学力等の向上を図る。						
	7 小学校教育振興備品整備事業	学校教育課	11,347	10,850	10,085	現状維持	
	授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、児童の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。						
	8 小学校就学援助事業	学校教育課	18,452	17,937	20,578	現状維持	
	要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する児童の保護者等の経済的負担を軽減する。						
	9 中学校教育振興事業	学校教育課	29,511	26,247	37,416	現状維持	
	副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導の実践や部活動、体育大会等への参加を支援し、学力等の向上を図る。						
	10 中学校教育振興備品整備事業	学校教育課	7,953	7,741	8,538	現状維持	
	授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、生徒の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。						
	11 中学校就学援助事業	学校教育課	20,771	19,403	17,443	現状維持	
	要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する生徒の保護者等の経済的負担を軽減する。						
4. 社会を生き抜く力の育成			決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課					
① 子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。							
② 「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通した探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。							
③ 児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲を高めるため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。							
④ 小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。							
	12 学校情報化推進事業	学校教育課	18,161	71,121	30,638	現状維持	
	小中学校の情報通信ネットワークの整備・維持管理を行うとともに、情報管理の徹底と学校情報化を行う。また、ICTを活用した学習環境を推進する。						
	13 小・中学校情報教育環境整備事業【再編交付金活用事業】《再掲》	学校教育課	-	-	-	統合(整理)	
	平成26年度に整備した市内の全小中学校27校(小学校20校、中学校7校)の情報教室パソコン等について、平成30年度分のリース料を支出する。						
	14 児童生徒国際交流事業	学校教育課	2,977	1,224	5,570	現状維持	
	国際交流事業を推進することにより、語学力の向上はもとより、国際感覚をもちグローバル社会で活躍できる人材を育成する。						
	15 外国語指導助手招致事業	教育総務課	26,626	25,853	27,212	現状維持	
	自治体国際化協会(JETプログラム)の斡旋を受け、6人の外国語指導助手(ALT)を招致・任用し、小中学校で授業等の補助を行うことで、外国語教育及び国際理解教育の促進を図る。						
	16 国際交流員招致事業	学校教育課	3,079	4,198	5,553	現状維持	
	一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用して国際交流員を任用し、現代社会のグローバル化に対応する。						
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業			決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課					
	17 奨学金事業	教育総務課	11,492	8,029	12,564	改善・効率化	
	経済的に困窮している世帯で勉学意欲のある生徒や学生に対し、奨学金の給付及び貸付を行い、就学を支援する。						
	18 奨学基金	教育総務課	10,607	727	23	改善・効率化	
	経済的理由により大学等への修学が困難な者に対し、奨学金を給付することを目的とした奨学基金への積立金						
	19 谷口謙・未来応援基金	教育総務課	21	208	762	改善・効率化	
	経済的理由により大学等への進学及び修学が困難な者に対し、奨学金を貸し付けることを目的とした谷口謙・未来応援基金への積立金						
			計	190,788	252,969	210,031	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。 一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。
-------	--

	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
				年度		年度		年度
主な目標指標	学校園関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区)	中学校区	0	H25	6学園	R1	6 (全中学校区で実施)	R6
	学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童の割合<小学生>	%	73.2	H25	77.6	R1	80%以上	R6
	学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の生徒の割合<中学生>	%	50.6	H25	62.3	R1	70%以上	R6
	一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着	%	小中学校各教科の全国平均正答率		小学校算数を除く全教科全国平均以上	R1	市平均の全教科全国平均以上	R6
	将来の夢や目標を持っている生徒の割合<中学生>	%	70.0	H25	71.9	R1	90%以上	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	《学校園関係者による中学校区（学園）ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立（実施中学校区）》 各学校の関係者評価は、小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤に作成している。また、各学園の学校関係者評価の必須項目に「小中一貫教育の推進」を設定することで、学園の取組み等の検証・評価を各校園単位でPDCAサイクルにより進めることができた。令和2年度よりいよいよ学校運営協議会をすべての学園に設置し、学校の関係者評価とともに、学園全体の方針の承認や評価・検証を確実に進めていくことを目指していく。 《学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童生徒の割合》 学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童生徒の割合は、前年度と比べて小学生では2.0%減少したが中学生は4.5%増加した。各学園で「家庭学習の手引き」を作成・配布するなど、学習習慣の定着に向けた取組や指導の効果は表れてきているものの、小中学生とも目標値にはあと一歩届いていない状況である。引き続き、家庭学習の充実に向けた家庭との連携を日常的に進め、家庭学習習慣の定着をより図っていく必要がある。 《一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着》 全国学力・学習状況調査結果は、小学校において一部の教科で全国平均を下回ったものの、おおむね全国平均以上の学力を付けている。各校園が学力調査の結果を分析し、授業改善や個に応じた支援を丁寧に行っていることや、一貫性のある系統的な指導が確実に進んでいる成果ととらえている。引き続き、児童生徒の学力向上を図るため、各校園の授業改善や授業研究等を推進していく必要がある。 《将来の夢や目標を持っている生徒の割合》 将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合は、ほぼ前年度同様で、おおむね全国平均と同じ状況となっている。引き続き、キャリア教育の視点も入った「丹後学」のモデルカリキュラムを積極的に活用するとともに、生徒の自己肯定感を高める取組や小中一貫教育によるキャリア教育のより一層の推進・充実を図っていく必要がある。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	28年度からの小中一貫教育の全市展開を踏まえ、学園単位によるPDCAサイクルの確立とその検証・評価に基づく小中一貫教育推進基本計画等の適切な改訂を行う。また、各学園を会場とした市教育フォーラム等の啓発活動により、教職員・保護者・地域住民への成果の明確化を図る。
	2	学園コーディネーター等の配置を継続するとともに、各学園に設置された学校・地域連携協議会の学園運営協議会(コミュニティ・スクール)への移行を令和2年度に実施し、学校、家庭、地域が連携した学習環境の体制作り、目指す子ども像に基づく学校・地域が連携した取組みを推進する。
	3	保幼小中一貫教育モデルカリキュラム及び保幼小接続モデルプラン等を活用した各学園での系統的で一貫性のある指導を充実させるため、授業改善・授業研究を更に推進するとともに、全国学力・学習状況調査の学園分析結果を活用し個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
	4	総合的な学習の時間を活用した「丹後学モデルカリキュラム」の自校園化に向けた取組みと興味・関心・意欲を高めるICT機器の整備推進を図るとともに、中学生の海外派遣や児童生徒の国際交流等を推進することにより、国際社会を生きる日本人としての基礎的な能力の育成を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	540千円	585千円	45千円	92.3 %	課	学校教育課
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額		
	事	11 小中一貫教育推進事業				1,066千円		
	細事	01 小中一貫教育推進事業	主な財源					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の実現に向けて協議会及び専門部会で調査研究を行い、小中一貫教育を推進する。							
主要な事務・事業の概要	○小中一貫教育研究推進協議会（委員謝金、費用弁償） 77千円 ・協議会委員 13人（大学教授、学識経験者、PTA、学校教職員等） ・協議会の開催 2回 ・調査研究事業 小中一貫教育実施校における効果と課題の整理			○授業実践力向上研修会（講師謝金、消耗品費） 65千円 ・授業実践力向上研修会（参加者：41人） 開催日：令和元年10月10日（木） 場 所：大宮中学校				
	○学校教育連携専門部会 ・専門部会 学校運営部員 6人 ・開催回数 学校運営部会 2回			○教育フォーラムの開催 ・教育フォーラム（参加者：122人） 開催日：令和元年11月20日（水） 場 所：丹後小学校				
	○保幼小中一貫教育モデルカリキュラム第3版作成（印刷製本費） 277千円 ・作成部数：600部							
	○小中一貫教育全国サミットへの参加（旅費、燃料費等） 121千円 開催日 令和元年11月7日（木）・8日（金） 開催地 大阪府堺市 市小学校、大泉学園、さつき野学園ほか（参加者：13人）			成果・課題 ○京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラム第3版を作成し、小中一貫教育を具体的に進めるための適時性と一貫性・連続性に着目した授業改善に向け、各学校に配布、活用した。 ○小中一貫教育研究推進協議会及び学校教育連携専門部会による研究と検証を積み重ね、小中一貫教育推進基本計画に基づくより良い教育体制の整備を推進することができた。 ○引き続き、小中一貫教育を推進するための研究及び検証を進める必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	5,640千円		6,197千円	557千円	91.0 %		
	目	02 事務局費					(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	11 小中一貫教育推進事業							
	細事	02 小中一貫教育実践事業	主な財源						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実								
目的	「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の推進に向け、市内全域で小中一貫教育を実践する。								
主要な事務・事業の概要	○小中一貫教育の実践（報償費、消耗品費、印刷製本費等） 3,705千円 ・峰山学園（授業研究会、合唱祭、部活動体験、リーフレット作成等） ・大宮学園（小中合同研修会、講演会、体験学習、リーフレット作成等） ・網野学園（SNS講演会、部活動体験、授業体験、リーフレット作成等） ・丹後学園（合同避難訓練、合唱祭、部活動体験、リーフレット作成等） ・弥栄学園（授業研究会、保幼小中行事交流、部活動体験等） ・久美浜学園（あいさつ運動、部活動体験、リーフレット作成等） ○特色ある学校づくりの支援（報償費、消耗品費、委託料等 1,935千円 実施校：小学校16校、中学校6校 主な取組内容：郷土学習、環境学習、農業体験、ものづくり体験、キャリア教育、図書館教育、人権学習等								
	成果・課題	○小中一貫教育の実施により、各学園が教育目標「目指す子ども像」を設定し、カリキュラムや指導方法等を統一することで、学園内の小中学校が一体となった教育活動を系統的に行うことができた。 ○合唱祭等の小中連携、合同授業等の小中連携、合同避難訓練等の保幼小中連携等、学園内の小中学校が連携した教育活動の充実を図ることができた。 ○今般流行の新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、可能な範囲で活動を行っていく必要がある。							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																					
	項	01 教育総務費	985千円	987千円	2千円	99.7 %	課	学校教育課																					
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額																							
	事	12 教育のまちづくり推進事業				2,078千円																							
	細事	02 学習支援体制整備事業	府補 地域で支える学校教育推進事業費補助金 (2/3) 650千円																										
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源																										
目的	「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、放課後を活用した教育活動を実施することにより、子どもたちの学びを支援する仕組みづくりを進める。																												
主要な事務・事業の概要	○中学生の放課後学習支援（講師謝金、消耗品費） 982千円 学習が遅れがちな中学3年生を対象に、学習習慣の確立と基礎学力の定着、学力向上による高校進学率の向上を目的として、放課後の学習支援を行った。																												
	<table><tr><th>学校名</th><th>回数</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>峰山中学校</td><td>36回</td><td>452人</td></tr><tr><td>大宮中学校</td><td>37回</td><td>585人</td></tr><tr><td>網野中学校</td><td>20回</td><td>660人</td></tr><tr><td>丹後中学校</td><td>48回</td><td>949人</td></tr><tr><td>弥栄中学校</td><td>41回</td><td>908人</td></tr><tr><td>久美浜中学校</td><td>59回</td><td>2,269人</td></tr></table>			学校名	回数	参加人数	峰山中学校	36回	452人	大宮中学校	37回	585人	網野中学校	20回	660人	丹後中学校	48回	949人	弥栄中学校	41回	908人	久美浜中学校	59回	2,269人					
	学校名	回数	参加人数																										
峰山中学校	36回	452人																											
大宮中学校	37回	585人																											
網野中学校	20回	660人																											
丹後中学校	48回	949人																											
弥栄中学校	41回	908人																											
久美浜中学校	59回	2,269人																											
○職員出張旅費 3千円			成果・課題	中学生の学習習慣の確立と基礎学力の定着に寄与した。また、ICT機器を活用し、個々の学習進度に応じた学習支援を行うことができた。																									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	150千円	154千円	4千円	97.4 %	課	学校教育課
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額		
	事	09 教科用図書採択事業				154千円		
	細事	01 教科用図書採択事業						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源					
目的	丹後教科用図書採択地区協議会において教科用図書の調査・研究を行い、市立小中学校で使用する教科用図書の公正かつ適正な採択を行う。							
主要な事務・事業の概要	令和2年度から使用する小中学校の教科用図書について、公正かつ適正な採択を行うために、丹後教科用図書採択地区協議会において文部科学省の教科書目録に掲載された教科用図書を調査・研究した。							
	○負担金、補助及び交付金 丹後教科用図書採択地区協議会分担金 150千円 ・構成団体（2市2町1組合） 京丹後市・宮津市・伊根町・与謝野町教育委員会 与謝野町宮津市中学校組合教育委員会 ・委員 教育委員会教育長 4人 教育委員会委員 16人 ・採択教科 新学習指導要領に基づく小学校全科 現学習指導要領に基づく中学校全科（道徳を除く）			成果・課題	丹後教科用図書採択地区協議会の調査・研究結果に基づき、令和2年度から市立小中学校で使用する教科用図書について、公正かつ適正な採択を行うことができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	02 小学校費	52,116千円	55,311千円	3,195千円	94.2 %			
	目	02 教育振興費				(参考)当初予算額	課	学校教育課	
	事	01 小学校教育振興事業				47,156千円			
	細事	01 小学校教育振興事業	府補 ぎょうと地域連携交付金（教育振興事業） 14,830千円						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源						
目的	副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導を実践し、学力等の向上を図る。								
主要な事務・事業の概要	教室内での学習活動のほか、各学校の創意工夫や独自性を活かしたさまざまな教育活動に取り組んだ。			○委託料 5,173千円 ・スクールバス定期外運行運転委託料 5,173千円					
	○報償費 1,329千円 ・入学記念品（395人分） 299千円 ・卒業記念品（445人分） 1,030千円 ○旅費 1千円 ・費用弁償（大地の学習講師費用弁償） 1千円 ○消耗費 43,257千円 ・消耗品費 43,065千円 学用品、理科実験費、学力検査、指導書（教職員用）ほか ・印刷製本費 192千円 社会科副読本「わたしたちのぎょうたんご」400部 ※3年生用			○使用料及び賃借料 2,351千円 ・自動車借上料 2,107千円 ・有料道路通行料 219千円 ・駐車場使用料 25千円 ○負担金、補助及び交付金 5千円 ・大会参加負担金 5千円 第6回山陰海岸ジオパーク小学生駅伝競走大会：出場校 橋小学校 開催日：令和元年10月26日（土） 場所：但馬ドーム周辺駅伝コース					
				成果・課題	学校内での学習活動に加え、各学校の創意工夫や独自性を活かしたさまざまな社会活動、体験活動などの校外学習を行うことで、児童の基礎学力の向上や社会を生き抜く力を高めることができた。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費					95.8 %		
	目	02 教育振興費	10,850千円		11,316千円	466千円	(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	02 小学校教育振興備品整備事業					10,055千円		
	細事	01 小学校教育振興備品整備事業	主な財源	国補 理科教育設備整備費等補助金（1/2） 737千円					
	寄附金 ふるさと応援寄附金 700千円								
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	繰入金 ふるさと応援基金繰入金 3,000千円						
目的	授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、児童の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。								
主要な事務・事業の概要	学習環境を整えるため、必要となる教材備品を購入した。図書については、充足率の向上に努めるよう整備を行うとともに、学校図書館蔵書管理システムを使用して管理を行った。		○備品購入費 9,964千円						
	○需用費 157千円 ・修繕料（教材備品の修繕）		・教材備品整備 5,175千円 （内、ふるさと応援寄附金充当額 540千円）						
○役務費 5千円 ・家電リサイクル料（テレビ1台）		・学校図書整備 3,315千円 （内、ふるさと応援寄附金充当額 160千円）							
○使用料及び賃借料 724千円 ・ソフトウェア使用料（全小学校分） （学校図書室蔵書管理システム用）		・理科教育等設備整備（理科・算数備品） 1,474千円							
		成果・課題	新学習指導要領の実施に向け、計画的な学習教材、教育備品及び学校図書の整備に努めるとともに、理科（算数）教育設備については、国の補助金を活用し計画的に整備を行うことで、学習指導要領に沿った教育環境を整えることができた。						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	02 小学校費	17,937千円	18,086千円	149千円	99.1 %			
	目	02 教育振興費				(参考)当初予算額	課	学校教育課	
	事	03 小学校就学援助事業				21,315千円			
	細事	01 小学校就学援助事業	主な財源	国補 就学援助費補助金 (1/2)	101千円				
	国補 特別支援教育就学奨励費補助金 (1/2)	533千円							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実								
目的	要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する児童の保護者等の経済的負担を軽減する。								
主要な事務・事業の概要	○就学援助費 16,869千円			○特別支援教育就学奨励費 1,068千円					
	・要保護認定者 19人 (H30: 21人) 202千円 修学旅行費 96千円 医療費 106千円 ・準要保護認定者 235人 (H30: 239人) 14,835千円 学用品費等 4,038千円 給食費 9,552千円 修学旅行費 988千円 医療費 257千円 ・準要保護認定者 (被災児童) 2人 (H30: 2人) 112千円 学用品費等 32千円 給食費 80千円 ※申請者数 291人 (H30: 296人) 認定者数 256人 (H30: 262人) ・令和2年度新入学児童生徒学用品費入学前支給分 1,720千円 支給者数 34人 ※令和2年2月21日支給			・対象者 34人 (H30: 37人) 学用品費等 370千円 給食費 648千円 修学旅行費 50千円					
				成果・課題	○就学に必要な学用品費、給食費、修学旅行費等を支援することで、対象児童の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新入学児童生徒学用品費の入学前支給を行ったことで、新入学児童の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○制度内容の周知を徹底するとともに、世帯状況や家計状態などを考慮し、公正かつ適正な援助に引き続き努める必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	26,247千円		26,687千円	440千円	98.3 %		
	目	02 教育振興費					(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	01 中学校教育振興事業					30,367千円		
	細事	01 中学校教育振興事業	主な財源	府補 きょうと地域連携交付金（教育振興事業） 7,470千円					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実								
目的	副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導の実践や部活動、体育大会等への参加を支援し、学力等の向上を図る。								
主要な事務・事業の概要	教室内での学習活動のほか、各学校の創意工夫や独自性を活かしたさまざまな教育活動や異なった学年が参加する部活動に取り組んだ。				○委託料 11,054千円 ・スクールバス定期外運行運転委託料 11,054千円				
	○報償費 1,084千円 ・入学記念品（446人分） 249千円 ・卒業記念品（460人分） 835千円 ○需用費 9,455千円 ・消耗品費 9,114千円 学用品、理科実験費、学力検査、指導書（教職員用）ほか ・印刷製本費 341千円 社会科副読本「京丹後市の歴史」500部 ※令和2年度入学の新中学1年生用				○負担金、補助及び交付金 4,596千円 ・体育大会等選手派遣費補助金 4,596千円				
	○役務費 58千円 ・楽器運搬手数料（峰山、大宮中学校吹奏楽部） 58千円				成果・課題	学校内での学習活動に加え、各学校の創意工夫や独自性を活かしたさまざまな社会活動、体験活動などの校外学習を行うことで、生徒の基礎学力の向上や社会を生き抜く力を高めることができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	7,741千円		8,029千円	288千円	96.4 %		
	目	02 教育振興費					(参考)当初予算額		
	事	02 中学校教育振興備品整備事業						7,531千円	
	細事	01 中学校教育振興備品整備事業	主な財源	理科教育設備整備費等補助金（1/2）122千円					
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実		ふるさと応援寄附金300千円					
目的	授業に必要な教材備品や学校図書等を計画的に整備することで、生徒の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。			繰入金2,000千円					
主要な事務・事業の概要	学習環境を整えるため、必要となる教材備品を購入した。図書については、充足率の向上に努めるよう整備を行うとともに、学校図書館蔵書管理システムを使用して管理を行った。 また、音楽備品については、適正な維持管理を行うとともに計画的に整備した。 ○需用費351千円 ・修繕料（教材備品の修繕） ○役務費328千円 ・楽器調整手数料（峰山、網野、弥栄中学校分）324千円 ・家電リサイクル料（テレビ1台）4千円 ○使用料及び賃借料256千円 ・ソフトウェア使用料（全中学校分） （学校図書室蔵書管理システム用）		○備品購入費6,806千円 ・教材備品整備3,092千円 （内、ふるさと応援寄附金充当額 210千円） ・学校図書整備1,505千円 （内、ふるさと応援寄附金充当額 90千円） ・理科教育等設備整備（理科・数学備品）245千円 ・音楽備品整備1,964千円						
			成果・課題 ○計画的な学習教材、教育備品及び学校図書の整備に努めるとともに、理科（数学）教育設備については、国の補助金を活用し計画的に整備を行うことで、学習指導要領に沿った教育環境を整えることができた。 ○新学習指導要領の実施を見据え、学習教材や教育設備・備品については、より一層の整備・充実が必要である。						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	19,403千円		19,702千円	299千円	98.4 %	課	学校教育課
	目	02 教育振興費					(参考)当初予算額		
	事	03 中学校就学援助事業					23,391千円		
	細事	01 中学校就学援助事業	主な財源	国補 就学援助費補助金（1/2）		130千円			
基本計画 26 未来を拓く学校教育の充実		国補 特別支援教育就学奨励費補助金（1/2）		759千円					
目的	要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する生徒の保護者等の経済的負担を軽減する。								
主要な事務・事業の概要	○就学援助費 17,808千円				○特別支援教育就学奨励費 1,595千円				
	・要保護認定者 14人（H30：19人） 329千円				・対象者 32人（H30：29人）				
	修学旅行費 287千円 医療費 42千円				学用品費等 541千円 給食費 634千円 修学旅行費 420千円				
	・準要保護認定者 127人（H30：143人） 15,240千円								
	学用品費等 5,970千円 給食費 5,702千円 修学旅行費 3,539千円 医療費 29千円								
	※申請者数 169人（H30：188人） 認定者数 141人（H30：162人）								
	・令和2年度新入学児童生徒学用品費入学前支給分 2,239千円				成果・課題 ○就学に必要な学用品費、給食費、修学旅行費等を支援することで、対象生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新入学児童生徒学用品費の入学前支給を行ったことで、新入学生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○制度内容の周知を徹底するとともに、世帯状況や家計状態などを考慮し、公正かつ適正な援助に引き続き努める必要がある。				
	支給者数 39人 ※令和2年2月21日支給								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	71,121千円	71,156千円	35千円	99.9 %	課	学校教育課
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額		
	事	07 学校情報化推進事業				71,556千円		
細事	01 学校情報化推進事業	繰入金 再編交付金事業基金繰入金 35,369千円						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源					
目的	小中学校の情報通信ネットワークの整備・維持管理を行うとともに、情報管理の徹底と学校情報化を行う。また、ICTを活用した学習環境を推進する。							
主要な事務・事業の概要	市内小中学校に整備した校内LAN及び校務用パソコン、普通教室用パソコン、情報教室用パソコン及びサーバー機器の維持管理を行うとともに、老朽化した校務用パソコン580台の更新やウイルス対策を行った。また、小中学校（小学3年から中学3年）の普通教室及び、特別支援教室に整備した電子黒板等の維持管理及び利用促進を行った。			○使用料及び賃借料 55,361千円				
	○旅費（普通旅費） 8千円			・ 有料道路、駐車場使用料 10千円				
	○需用費 2,421千円			・ パソコン借上料 50,815千円				
	・ パソコン・校内LAN関連消耗品 49千円			サーバーシステム借上（8台）				
	・ パソコン・校内LAN関連修繕費（50件） 2,372千円			校務用パソコン借上（580台）				
	○委託料 13,016千円			情報教室用パソコン借上（798台）ほか				
	・ 校務用パソコン導入作業委託料（580台） 10,526千円			・ ソフトウェア使用料 4,536千円				
	・ サーバーシステム・パソコン・校内LAN保守委託料 1,769千円			校務支援システム、ウイルス対策ソフト（1,504台分）ほか				
	・ 校務支援システム保守委託料 721千円			○備品購入費 315千円				
				・ 校務用プリンタ更新（4台）				
成果・課題				○ネットワークを利用した遠隔操作などにより、小中学校等に整備した校内LAN、1,802台のパソコン（校務、普通教室、情報教室、タブレット）、電子黒板及びサーバー機器の維持管理を効果的かつ適切に行うことができた。 ○ICT支援員の配置等により、GIGAスクール構想に基づき令和2年度整備予定の児童生徒1人1台タブレット端末等の利活用を促進する必要がある。 ○新型コロナウイルスによる休校に備え、オンライン授業の訓練を行う必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	1,224千円	1,506千円	282千円	81.2 %	課	学校教育課
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額		
	事	15 児童生徒国際交流事業				4,682千円		
	細事	01 児童生徒国際交流事業						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	国際交流事業を推進することにより、語学力の向上はもとより、国際感覚をもちグローバル社会で活躍できる人材を育成する。		主な財源					
主要な事務・事業の概要	○小学生の国際交流		83千円					
	中学生海外派遣事業で本市と交流のあるニュージーランドのイングレウッド小学校と島津小学校の児童が、ライブ交流や手作りのメッセージカード等の交換を行った。							
	・消耗品費、通信運搬費、ビデオ撮影・編集委託料							
	○小中学生文化体験							
	小中学生を対象とした異文化理解・国際交流プログラムを実施した。							
主要な事務・事業の概要	○中学生の海外派遣		1,141千円					
	語学力の向上及び国際的視野を持った人材を育成するため、ニュージーランドへの海外派遣事業を行った。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため現地研修は中止となったが、事前研修を4回行った。							
	派遣期間：令和2年3月19日（木）～27日（金）の8泊9日間（中止）							
	派遣対象生徒：中学2年生 15人（選考により決定）							
	・消耗品費、中学生海外派遣事業費補助金、印刷製本費 ほか							
成果・課題			○小学生国際交流及び小中学生文化体験を行い、国際交流事業を推進することにより語学力の向上及び国際的視野をもった人材を育成することができた。 ○中学生海外派遣は事前研修のみの実施となった。天災等の影響により現地に生徒を派遣できない場合のプログラムについても充実を図る必要がある。 ○国際的視野をもった児童生徒を育成するため、国際交流事業の取組の充実を図る必要がある。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	25,853千円		26,259千円	406千円	98.4 %	課	教育総務課
	目	04 外国青年招致事業費					(参考)当初予算額		
	事	01 外国語指導助手招致事業					28,080千円		
	細事	01 外国語指導助手招致事業	繰入金 ふるさと応援基金繰入金 10,000千円						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源						
目的	自治体国際化協会（JETプログラム）の斡旋を受け、6人の外国語指導助手（ALT）を招致・任用し、小中学校で授業等の補助を行うことで、外国語教育及び国際理解教育の促進を図る。								
主要な事務・事業の概要	○外国語指導助手の任用経費（6人分）		22,652千円		○負担金		1,404千円		
	・報酬		19,558千円		・自治体国際化協会負担金		1,234千円		
	・社会保険料、労災保険料、雇用保険料		3,094千円		・来日直後オリエンテーション参加費用負担金		170千円		
	○外国語指導助手支援員の任用経費		184千円		成果・課題				
	・賞金（通訳補助等）		64千円						
	・謝金		120千円						
	○外国語指導助手等の旅費		669千円						
	・帰国旅費（1人）		230千円						
	・費用弁償、研修旅費（ALT、職員）		439千円		○外国語指導助手を各中学校に1人ずつ配置し、週1回程度各小学校に派遣することで、児童・生徒が生きた外国語や外国文化を学ぶ機会を直接的・継続的に確保することができ、外国語教育と国際理解教育の促進につなげることができた。 ○切れ目のない継続的な活用のため、ALTの心身の負担を軽減するため生活支援等の充実が必要である。				
	○外国語指導助手の賃貸住宅に係る経費		944千円						
・住居の敷金、礼金等（峰山、丹後、久美浜町域）		811千円							
・住宅保険（峰山、丹後、久美浜町域）		71千円							
・備品修繕費等		62千円							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	01 教育総務費	4,198千円		4,223千円	25千円	99.4 %	課	学校教育課	
	目	04 外国青年招致事業費					(参考)当初予算額			
	事	02 国際交流員招致事業					4,365千円			
	細事	01 国際交流員招致事業	主な財源							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実									
目的	一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」を活用して国際交流員を任用し、現代社会のグローバル化に対応する。									
主要な事務・事業の概要	国際交流員を学校教育課に配置し、国際交流や異文化理解について、その専門性と見識や経験を活かした指導、助言を行った。									
	○報酬、共済費									4,027千円
	・ 国際交流員報酬（1人） （280千円×4か月（平成31年4月～令和元年7月）） （300千円×8か月（令和元年8月～令和2年3月）） ・ 社会保険料、雇用保険料									
	○研修にかかる経費		65千円	成果・課題						
	・ 費用弁償、普通旅費									
○自治体国際化協会負担金		106千円	国際交流員を配置し、国際交流関係事業の実施や児童生徒の国際理解教育の推進を図ることができた。							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	01 教育総務費	8,029千円	8,040千円	11千円	99.8 %			
	目	03 奨学費				(参考)当初予算額	課	教育総務課	
	事	01 奨学金事業				16,564千円			
	細事	01 奨学金事業	繰入金 奨学基金繰入金 2,664千円	繰入金 谷口謙・未来応援基金繰入金 5,312千円					
基本計画 26 未来を拓く学校教育の充実			主な財源						
目的	経済的に困窮している世帯で勉学意欲のある生徒や学生に対し、奨学金の給付及び貸付を行い、就学を支援する。								
主要な事務・事業の概要	経済的に困窮している世帯（家庭）で勉学意欲のある大学生等を対象に奨学金を給付した。また、令和元年度大学等在学者及び令和2年度大学等進学予定者を対象に、奨学金の貸付を行った。			○貸付奨学金 5,312千円					
	○奨学金選考・検討委員会経費（2回開催） 53千円			・修学支援金（4人） 2,512千円					
	・報酬 委員 4千円（半日）×（6人×2回） 48千円			大学生等 1,000千円×2人					
	・費用弁償 5千円			大学生等 280千円×1人					
	○給付奨学金 2,664千円			大学生等 232千円×1人					
	・大学生等			・入学支度金（4人） 2,800千円					
	月額12千円×12月×6人 864千円			進学予定者 700千円×4人					
	月額10千円×12月×15人 1,800千円								
				成果・課題	○厳しい経済状況の中で、勉学意欲と能力のある生徒及び学生への就学支援を行うことにより、困窮世帯の生徒及び学生が勉学に取り組むための環境を整えることができた。 ○近年、応募者が減少傾向であるため、周知方法を工夫するとともに制度設計を検討する必要がある。 ○文部科学省における高等教育の無償化制度の設置（令和2年4月実施）に伴い、今後の市奨学金制度の見直し等を検討する必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局														
	項	01 教育総務費	727千円	728千円	1千円	99.8 %	課	教育総務課														
	目	03 奨学費				(参考)当初予算額																
	事	02 奨学基金				23千円																
	細事	01 奨学基金	財産収入 奨学基金利子収入 57千円 諸収入 奨学資金貸付償還金滞納繰越分 670千円																			
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実																				
目的	経済的理由により大学等への修学が困難な者に対し、奨学金を給付することを目的とした奨学基金への積立金																					
主要な事務・事業の概要	○奨学基金積立金 670千円 ・旧網野町で貸し付けた奨学資金償還金分 670千円																					
	○奨学基金積立金（利子分） 57千円																					
	(単位：千円)																					
	<table><tr><td>平成30年度末 現在高 ①</td><td colspan="3">令和元年度中増減額</td><td>令和元年度末 現在高 ①-②+(③+④)</td></tr><tr><td></td><td>繰入金 ②</td><td>運用利子 ③</td><td>積立金 ④</td><td></td></tr><tr><td>139,087</td><td>2,664</td><td>57</td><td>670</td><td>137,150</td></tr></table>		平成30年度末 現在高 ①	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高 ①-②+(③+④)		繰入金 ②	運用利子 ③	積立金 ④		139,087	2,664	57	670	137,150					
平成30年度末 現在高 ①	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高 ①-②+(③+④)																		
	繰入金 ②	運用利子 ③	積立金 ④																			
139,087	2,664	57	670	137,150																		
(充当：1事業) ・奨学金事業 2,664千円		成果・課題																				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局												
	項	01 教育総務費	208千円	209千円	1千円	99.5 %														
	目	03 奨学費				(参考)当初予算額	課	教育総務課												
	事	03 谷口謙・未来応援基金				129千円														
	細事	01 谷口謙・未来応援基金	財産収入 谷口謙・未来応援基金利子収入 41千円 諸収入 奨学資金貸付償還金 167千円																	
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源																	
目的	経済的理由により大学等への進学及び修学が困難な者に対し、奨学金を貸し付けることを目的とした谷口謙・未来応援基金への積立金																			
主要な事務・事業の概要	○谷口謙・未来応援基金積立金 167千円 ・京丹後市貸付奨学金で貸し付けた奨学資金償還金分 167千円 ○谷口謙・未来応援基金積立金（利子分） 41千円																			
			(単位：千円)																	
			<table><tr><th rowspan="2">平成30年度末 現在高 ①</th><th colspan="3">令和元年度中増減額</th><th rowspan="2">令和元年度末 現在高 ①-②+(③+④)</th></tr><tr><th>繰入金 ②</th><th>運用利子 ③</th><th>積立金 ④</th></tr><tr><td>80,495</td><td>5,312</td><td>41</td><td>167</td><td>75,391</td></tr></table>						平成30年度末 現在高 ①	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高 ①-②+(③+④)	繰入金 ②	運用利子 ③	積立金 ④	80,495	5,312	41	167
平成30年度末 現在高 ①	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高 ①-②+(③+④)																
	繰入金 ②	運用利子 ③	積立金 ④																	
80,495	5,312	41	167	75,391																
(充当：1事業) ・奨学金事業 5,312千円		成果・課題																		

京丹後市教育振興計画
施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
教育総務課	溝口 容子
学校教育課	小坂 貴寛
生涯学習課	引野 雅文

重点目標	3	子どもを健やかに育む教育環境を充実します
基本的方針	災害や事件・事故等に備えた安全確保のため、学校施設の老朽化対策や耐震化等を計画的に進めるとともに、児童生徒が自らの安全をまもるための能力を身に付けさせる安全教育や、また、ボランティアの協力を得る等、地域が一体となって支える教育環境づくりを進めます。 また、年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、すべての子どもの健やかな育ちを保障する教育環境を整備します。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 子どもの安全・安心の確保	①児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導や子ども安心パトロール車の運行等、保護者や地域ボランティアの協力を得ながら、学校内外における安全確保に努めます。 ②学校再配置による校区の拡充に伴い、遠距離通学用スクールバスの安全な運行管理及び車両管理を実施します。 ③児童生徒自身の危機対応能力を育むため、各学校の危機管理マニュアルに基づく防災教育や安全教育を計画的・継続的に実施します。
2. 学校施設環境等の整備充実	①学校再配置に伴う拠点校の施設整備を進めます。 ②学校施設耐震化計画に基づき、学校施設の耐震化及び非構造部材の耐震対策を計画的に進めます。 ③学校施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい学校施設の改修・修繕等を計画的に進めます。
3. 個に応じた支援体制の充実	①発達障害等を含む障害のある子ども一人ひとりのニーズに対応したきめ細かな支援を行うため、学校園と保護者、行政、医療及び関係機関等が広く連携し、乳幼児期から青年期までを見通した特別支援教育を進めます。 ②外国語を母語とするなど日本語の習得が十分ではない児童生徒に対し、スクールサポーターを配置するなど個別に日本語支援を行う体制を整備します。
4. ボランティアによる学習支援の推進	①市民のボランティア意識を高め、自らの知識や学習で培った技術などを学校で、児童に紹介する機会づくりを進めます。 ②市民ボランティアが、地域の中で、子どもたちの活動を支える環境づくりを進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市学校施設耐震化計画	耐震化に対する国の動向や財政措置の状況を的確にとらえつつ、本市における学校施設の耐震化を可能な限り早く、計画的に進めていくことを目的に、本計画を定めるもの	平成22年11月	平成22年度～平成26年度	
京丹後市学校再配置基本計画	急速に少子化が進むなか、本市の次代を担っていく子どもたちに、より良い教育環境や教育条件を整えるため、学校力を高めるための学校規模などを考えた学校再配置の取組みを進めていくために策定	平成22年12月	平成23年度～令和2年度	前期(H23～27年度)と後期(H28～R2年度)に区分し、段階的に再配置を進める

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 子どもの安全・安心の確保			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導や子ども安心パトロール車の運行等、保護者や地域ボランティアの協力を得ながら、学校内外における安全確保に努めます。						
② 学校再配置による校区の拡充に伴い、遠距離通学用スクールバスの安全な運行管理及び車両管理を実施します。						
③ 児童生徒自身の危機対応能力を育むため、各学校の危機管理マニュアルに基づく防災教育や安全教育を計画的・継続的に実施します。						
1 学校医委嘱事業		学校教育課	21,368	20,073	19,968	
学校保健安全法に基づき、各学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を置き、児童生徒の健康の保持増進及び教育現場の環境衛生の維持向上を図る。						
2 学務経費		学校教育課	5,336	4,963	5,553	現状維持
学齢簿の管理、就学時健診、小中学校の枠を超えた取組及び特別支援学級の交流活動の実施など、教育活動の充実のための環境づくりに取り組む。						

1. 子どもの安全・安心の確保		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
3	学校安全対策事業	学校教育課	6,013	5,075	6,662	現状維持
	保護者や地域の協力を得ながら安全で安心できる学校づくりを推進し、児童生徒を事件や事故から守る。					
4	児童教職員健康管理事業	学校教育課	8,609	7,012	8,938	現状維持
	児童及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、児童及び教職員の健康の保持増進と小学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。					
5	生徒教職員健康管理事業	学校教育課	5,263	5,175	6,042	現状維持
	生徒及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、生徒及び教職員の健康の保持増進と中学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。					
6	小学校スクールバス運行管理事業	学校教育課	94,857	96,312	93,997	現状維持
	小学校に通学する遠距離及び特に必要と認めた児童の安全な通学手段を確保する。					
7	小学校スクールバス購入事業	学校教育課	16,268	-	-	休止
	小学校に通学する遠距離及び特に必要と認めた児童の安全な通学手段を確保する。					
8	小学校通学支援事業	学校教育課	292	270	270	現状維持
	遠距離通学をする児童を対象に、通学の状況に応じて遠距離通学補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。					
9	中学校スクールバス運行管理事業	学校教育課	75,815	71,569	72,714	現状維持
	中学校に通学する遠距離及び特に必要と認めた生徒の安全な通学手段を確保する。					
10	中学校スクールバス購入事業	学校教育課	-	-	19,169	改善・効率化
	スクールバスで通学する生徒の安全を確保するため、老朽化した車両の更新を行う。					
11	中学校通学支援事業	学校教育課	302	199	207	現状維持
	自転車通学をする生徒を対象に、通学の状況に応じてヘルメット購入補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。					
2. 学校施設環境等の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 学校再配置に伴う拠点校の施設整備を進めます。 ② 学校施設耐震化計画に基づき、学校施設の耐震化及び非構造部材の耐震対策を計画的に進めます。 ③ 学校施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい学校施設の改修・修繕等を計画的に進めます。						
12	学校再配置推進事業	学校教育課	3,348	856	-	縮小
	京丹後市学校再配置基本計画に基づく「学校づくり準備協議会」を設置し、学校再配置による新しい学校づくりに向けた取組を推進する。					
13	小学校再配置施設整備事業	教育総務課	-	-	-	終了・廃止
	学校再配置計画に基づく平成30年4月の丹波小学校と新山小学校の再配置に伴い、児童数が増加する新山小学校校舎の増改築工事を行う。(29年度実施)					
14	小学校再配置施設整備事業【繰越】	教育総務課	-	-	-	
	学校再配置に伴い拠点校となる学校施設の改修を行い、児童が安全に安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。					
15	小・中学校情報教育環境整備事業(基金事業)【再編交付金活用事業】	学校教育課	44,580	-	-	統合(整理)
	平成26年度に整備した市内の全小中学校27校(小学校20校、中学校7校)の情報教室パソコン等について、平成30年度分のリース料を支払うもの。					
16	小・中学校情報教育環境整備事業【再編交付金活用事業】	学校教育課	86,389	-	-	終了・廃止
	児童生徒の情報教育環境を充実させ一層の教育振興を図るため、全小中学校にICT機器(電子黒板、指導用タブレット等)を整備する。					
17	小学校施設改修事業	教育総務課	181,402	179,624	105,200	現状維持
	老朽化している学校施設が多い中、小学校施設における改修工事等を行い、児童が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。					
18	小学校施設改修事業【繰越】	教育総務課	-	4,130	-	
	学校施設における改修工事等を行い、児童が安全に安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。					
19	小学校施設管理事業	教育総務課	27,852	28,372	27,461	現状維持
	学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。					
20	中学校施設改修事業	教育総務課	18,043	9,724	26,884	現状維持
	老朽化している学校施設が多い中、中学校施設における改修工事等を行い、生徒が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。					
21	中学校施設改修事業【繰越】	教育総務課	-	8,555	-	
	学校施設における改修工事等を行い、生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。					

22	中学校施設管理事業	教育総務課	9,953	10,330	10,232	現状維持
学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。						
23	小学校管理運営事業	学校教育課	141,719	136,900	141,297	現状維持
適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施する。						
24	小学校事務補助経費	学校教育課	1,251	932	-	縮小
学校事務職員の複数配置を要する小学校に事務職員を配置し、学校事務をサポートすることにより、円滑な教育活動の実施と適正な学校運営を行う。						
25	中学校管理運営事業	学校教育課	59,613	59,585	62,390	現状維持
適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、中学校における円滑な教育活動を実施する。						
26	中学校事務補助経費	学校教育課	4,831	3,382	-	縮小
学校事務職員の複数配置を要する中学校に事務職員を配置し学校事務をサポートすることにより、円滑な教育活動の実施と適正な学校運営を行う。						
27	網野給食センター管理運営事業	学校教育課	36,989	34,755	38,714	現状維持
小学校4校(網野北・網野南・島津・橘)、網野中学校に栄養バランスの取れた給食を提供し、児童生徒の心身の健全な発達に寄与する。						
28	網野給食センター施設改修事業	教育総務課	1,498	-	-	休止
安全・安心な給食を提供できるよう、網野学校給食センターの改修工事等を行い、適切な施設管理を行う。						
29	小学校給食管理運営事業	学校教育課	131,013	132,384	159,919	現状維持
栄養バランスの取れた給食を提供し、児童の心身の健全な発達に寄与する。						
30	中学校給食管理運営事業	学校教育課	40,302	39,231	46,877	現状維持
栄養バランスの取れた給食を提供し、生徒の心身の健全な発達に寄与する。						
31	学校給食一般経費	学校教育課	1,155	1,139	988	現状維持
学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、献立研究会の活発な活動を促し、衛生管理や栄養面での充実を図る。						
32	公立学校施設災害復旧事業	教育総務課	788	211	-	縮小
令和元年10月台風19号の暴風により被災した学校施設の復旧を図る。						
3. 個に応じた支援体制の充実			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 発達障害等を含む障害のある子ども一人ひとりのニーズに対応したきめ細かな支援を行うため、学校園と保護者、行政、医療及び関係機関等が広く連携し、乳幼児期から青年期までを見通した特別支援教育を進めます。						
② 外国語を母語とするなど日本語の習得が十分ではない児童生徒に対し、スクールサポーターを配置するなど個別に日本語支援を行う体制を整備します。						
33	小学校スクールサポーター等設置事業《再掲》	学校教育課	-	-	-	現状維持
スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。						
34	中学校スクールサポーター等設置事業《再掲》	学校教育課	-	-	-	現状維持
スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。						
4. ボランティアによる学習支援の推進			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 市民のボランティア意識を高め、自らの知識や学習で培った技術などを学校で、児童に紹介する機会づくりを進めます。						
② 市民ボランティアが、地域の中で、子どもたちの活動を支える環境づくりを進めます。						
35	地域学校協働本部事業	生涯学習課	4,325	3,837	3,543	現状維持
「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図る。						
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業			決算額(単位:千円)			事務の改善
事務事業名称・事業内容(実績)			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
36	日用品費等援助事業	子ども未来課	47	26	45	現状維持
低所得世帯を対象に日用品、文房具等の購入に要する費用、食事に要する費用、行事への参加に要する費用等の実費徴収額について、費用の一部を助成する。						
37	児童福祉総務一般経費	子ども未来課	8,090	2,990	977	改善・効率化
児童福祉業務を円滑に遂行するために必要な一般経費						
38	教育委員会一般経費	教育総務課	3,897	3,984	4,022	現状維持
「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会を運営する。						

			決算額(単位:千円)			事務の改善
			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
事務事業名称・事業内容(実績)		担当課				
39	事務局一般経費	教育総務課	13,343	7,010	6,556	現状維持
教育委員会事務局の円滑な運営を行う。						
40	学校跡施設管理事業	教育総務課	6,627	4,752	3,245	改善・効率化
学校再配置により閉校となった学校施設の維持管理を行う。						
41	学校教育施設整備基金	教育総務課	-	-	1,583	拡大
旧大宮第三小学校及び旧三津小学校の建物貸付料をもとに、学校教育施設の整備等を進めるため、学校教育施設整備基金に積み立てるもの。						
計			1,061,178	883,357	873,453	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	災害や事件・事故等に備えた安全確保のため、学校施設の老朽化対策や耐震化等を計画的に進めるとともに、児童生徒が自らの安全をまもるための能力を身に付けさせる安全教育や、また、ボランティアの協力を得る等、地域が一体となって支える教育環境づくりを進めます。 また、年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、すべての子どもの健やかな育ちを保障する教育環境を整備します。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
				年度		年度		年度
	市立小学校の耐震化	%	88.5	H25	100	R1	100	R6
	市立中学校の耐震化	%	93.5	H25	100	R1	100	R6
	非構造部材の耐震対策	%	0(調査中)	H26	100	R1	100	R6
	学校支援ボランティア登録者数	人	427	H25	557	R1	500	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	◎	《市立小学校の耐震化》 学校施設耐震化計画による小学校の耐震化は平成27年度をもって完了した。 《市立中学校の耐震化》 学校施設耐震化計画による中学校の耐震化は平成26年度をもって完了した。 《非構造部材の耐震対策》 国が指導する大規模空間(体育館やランチルームなど200㎡以上の空間を有する箇所等)の非構造部材耐震対策は、平成28年度をもって完了した。 《学校支援ボランティア登録者数》 ボランティア登録者数は名簿の整理を行ったことから減少した。高齢化が進んでいるため、学校のニーズに応じたボランティアの確保が課題である。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	児童生徒を事件や事故から守るため、スクールガード・リーダーによる巡回指導及び子ども安心パトロール車の運行を継続して実施するとともに、除雪活動や子どもたちを見守る地域ボランティア等の拡充を図る。
	2	老朽化が進む学校施設を適切に維持管理を行うとともに教育環境の改善を図るため、計画的にトイレの洋式化事業を進める。また学校施設の長寿命化計画を定め、中長期的な視点で改修等を行う。
	3	特別な支援が必要な子どものニーズに対応するため、学校園へのスクールサポーター(介護支援員)を継続配置するとともに、学校園及び保護者、関係機関が連携し、特別支援教育体制整備の推進を図る。
	4	ボランティア人材の発掘・育成・確保に重点を置きながら、より効果的、効率的なコーディネーターの配置等、多様化する学校ニーズに対応できる推進体制整備を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	20,073千円		20,077千円	4千円	99.9 %	課	学校教育課
	目	02 事務局費					(参考)当初予算額		
	事	04 学校医委嘱事業					20,052千円		
	細事	01 学校医委嘱事業							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源						
目的	学校保健安全法に基づき、各学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を置き、児童生徒の健康の保持増進及び教育現場の環境衛生の維持向上を図る。								
主要な事務・事業の概要	○報酬		20,050千円		成果・課題 学校医、学校歯科医、学校薬剤師の配置により、健康診断（内科・歯科等）、学校環境衛生検査はもとより、保健管理等に関する専門的指導を必要に応じて受けることができ、児童生徒の健康の保持増進及び教育現場の環境衛生の維持向上を図ることができた。				
	・医師報酬								
	小学校	17人	6,087千円						
	中学校	6人	2,629千円						
	・歯科医報酬								
	小学校	17人	6,087千円						
	中学校	6人	2,629千円						
	・薬剤師報酬								
	小学校	17人	2,064千円						
	中学校	6人	554千円						
○旅費									
・費用弁償		23千円							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局				
	項	01 教育総務費	4,963千円	5,125千円	162千円	96.8 %						
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課				
	事	05 学務経費							5,125千円			
	細事	01 学務経費	主な財源									
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実										
目的	学齢簿の管理、就学時健診、小中学校の卒を超えた取組及び特別支援学級の交流活動の実施など、教育活動の充実のための環境づくりに取り組む。											
主要な事務・事業の概要	○学齢簿の管理（委託料）		311千円	○児童生徒・教職員健康診断（消耗品費、印刷製本費、施設使用料）					20千円			
	学齢簿関連システム保守料及びシステム改修料			○各種通知封筒印刷					40千円			
	○特別支援学級ふれあい交流会（消耗品費）		61千円	○職員旅費（第63回京都府学校保健研究大会参加）					5千円			
	・小学校ふれあい交流会											
	小学校及び中学校が集まって交流											
	実施中学校区：全中学校区											
	・中学校ふれあい交流会											
	体育交流会 開催日 令和元年6月12日（水）場所：丹後中学校											
	参加校：全中学校											
	○人権教育研究会（消耗品費）		46千円									
	○就学時健康診断（医師謝金、消耗品費、費用弁償）		763千円									
	○負担金		3,717千円									
	・日本スポーツ振興センター負担金		3,559千円									
	・京都府学校保健会負担金		44千円									
	・京都府学校保健主事会負担金		18千円									
・京都府特別支援教育研究協議会負担金		10千円										
・教育研究事業負担金		86千円										
			成果・課題	○各学校の保健衛生環境の維持向上、健康の保持増進を図り、健全で安全な教育環境の推進につながった。 ○特別支援学級の交流活動の実施など、教育活動の充実のための環境づくりができた。								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	5,075千円	5,329千円	254千円	95.2 %		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	06 学校安全対策事業				5,329千円		
	細事	01 学校安全対策事業	主な財源 府補 繰入金 諸収入	地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業補助金(2/3) 1,099千円 ふるさと応援基金繰入金 2,000千円 市有自動車損害共済金 42千円				
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	保護者や地域の協力を得ながら安全で安心できる学校づくりを推進し、児童生徒を事件や事故から守る。							
主要な事務・事業の概要	○子ども安心パトロール車(にこにこカー)の運行・管理 3,270千円 各学校に20台、教育委員会事務局に1台を配置し、児童生徒の登下校時に教職員やPTA、地域の見守り隊が巡回し安全確保や犯罪被害防止に努めた。 ・維持管理費及び運行経費 燃料費(ガソリン代) 1,023千円 消耗品費・修繕料(車検、車両消耗品、事故車両修繕ほか) 1,168千円 手数料・保険料・公課費 1,079千円 配車一覧			○スクールガード・リーダー巡回・指導 警察官OBの5人をスクールガード・リーダーに委嘱し、小学校を中心に登下校時の巡回活動及び学校の安全指導を行った。 年間巡回活動等の実績:5人で323回 報償金・保険料(活動謝金、総合補償保険料) 1,693千円 ○学校の除雪活動 積雪時の通学の安全性を高めるため、ボランティアによる除雪活動体制づくりを支援した。 保険料(ボランティア活動保険)・修繕料(除雪機) 112千円				
	1 峰山小、長岡小	8 いさなご小	15 峰山中	成果・課題 ○各小中学校で、教職員やPTA、地域の見守り隊(ボランティア)等による地域ぐるみの見守り活動が展開されるなど、学校を支える地域の安全体制づくりを推進することで、児童、生徒の安全につながっている。 ○子ども安心パトロール車(にこにこカー)やスクールガード・リーダーによる登下校時の巡回の継続等により、更に安全体制の強化を図っていくことが必要である。 ○通学路の安全性をより高めるため、関係機関と連携し除雪体制を推進する必要がある。				
	2 大宮第一小	9 網野南小、吉野小	16 大宮南小					
	3 網野中	10 橘小	17 島津小					
	4 丹後中	11 宇川小	18 網野北小					
	5 大宮中	12 弥栄小	19 丹後小					
	6 高龍小	13 久美浜中	20 かぶと山小、久美浜小					
	7 教育委員会事務局	14 弥栄中	21 しんざん小					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局			
	項	02 小学校費	7,012千円	7,278千円	266千円	96.3 %					
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額	課	学校教育課			
	事	04 児童教職員健康管理事業				8,356千円					
	細事	01 児童教職員健康管理事業	主な財源								
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実									
目的	児童及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、児童及び教職員の健康の保持増進と小学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。										
主要な事務・事業の概要	○需用費（保健衛生消耗品、医薬材料ほか）			1,097千円		○使用料及び賃借料			834千円		
	○委託料			5,081千円		・自動車借上料（検診時医師送迎用）			44千円		
	・児童検診委託料			3,918千円		・機械器具借上料（AEDリース料・17校）			790千円		
	心臓検診委託料 1次 833人（1・4年、経過観察者）										
	2次 99人										
	眼科検診委託料 2,456人										
	耳鼻科検診委託料 2,459人										
	尿検査委託料（春）1次 2,459人 2次 62人										
	尿検査委託料（秋）1次 2,464人 2次 64人										
	脊柱側湾症検診委託料 7人（校医抽出者）										
	・教職員健康診断委託料 981千円										
	・教職員結核検診委託料 182千円										
				成果・課題	各種健康診断を実施するなどし、児童及び教職員の健康を保持増進するとともに、学校の安全・安心な環境を整備することができた。						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	5,175千円	5,293千円	118千円	97.7 %		
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	04 生徒教職員健康管理事業						
	細事	01 生徒教職員健康管理事業	主な財源					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	生徒及び教職員の健康管理を行うとともに、設備の安全対策を講じることにより、生徒及び教職員の健康の保持増進と中学校の教育活動における安全・安心な環境を整える。							
主要な事務・事業の概要	○需用費（保健衛生消耗品、医薬材料ほか）635千円			○使用料及び賃借料590千円				
	○委託料3,950千円			・自動車借上料（検診時医師送迎用）18千円				
	・生徒検診委託料3,185千円			・機械器具借上料（AEDリース料・6校）572千円				
	心臓検診委託料 1次 471人（1年、経過観察者）							
	2次 67人							
	眼科検診委託料 1,336人							
	耳鼻科検診委託料 1,341人							
	尿検査委託料（春）1次 1,364人 2次 94人							
	尿検査委託料（秋）1次 1,352人 2次 107人							
	血液検査委託料 462人（2年、経過観察者）							
	腎臓側わん症検診委託料 15人（校医抽出者）							
	・教職員健康診断委託料644千円			成果・課題				
	・教職員結核検診委託料121千円							
				各種健康診断を実施するなどし、生徒及び教職員の健康を保持増進するとともに、学校の安全・安心な環境を整備することができた。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																												
	項	02 小学校費	96,312千円	96,313千円	1千円	99.9 %																														
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額	課	学校教育課																												
	事	05 小学校通学対策事業				111,364千円																														
	細事	01 小学校スクールバス運行管理事業	主な財源																																	
基本計画																																				
26 未来を拓く学校教育の充実		使用料	市営バス乗車料			518千円																														
		繰入金	ふるさと応援基金繰入金	30,000千円																																
目的	小学校に通学する遠距離及び特に必要と認めた児童の安全な通学手段を確保する。																																			
主要な事務・事業の概要	遠距離通学及び通学路の状況や冬期積雪時等、特に必要と認めた児童の通学のためにスクールバスを運行した。																																			
	○スクールバス運行管理委託料		96,285千円																																	
	※バスの運転及び車両の維持管理を業者委託したもの																																			
	<table><tr><td>いさなご小</td><td>3台</td><td>橘小</td><td>1台</td><td>弥栄小</td><td>3台</td></tr><tr><td>しんざん小</td><td>1台</td><td>島津小</td><td>1台</td><td>久美浜小</td><td>1台</td></tr><tr><td>大宮南小</td><td>3台</td><td>丹後小</td><td>4台</td><td>高龍小</td><td>4台</td></tr><tr><td>網野南小</td><td>3台</td><td>宇川小</td><td>1台</td><td>かふと山小</td><td>4台</td></tr><tr><td colspan="5">計</td><td>29台</td></tr></table>		いさなご小	3台	橘小	1台	弥栄小	3台	しんざん小	1台	島津小	1台	久美浜小	1台	大宮南小	3台	丹後小	4台	高龍小	4台	網野南小	3台	宇川小	1台	かふと山小	4台	計					29台				
	いさなご小	3台	橘小	1台	弥栄小	3台																														
しんざん小	1台	島津小	1台	久美浜小	1台																															
大宮南小	3台	丹後小	4台	高龍小	4台																															
網野南小	3台	宇川小	1台	かふと山小	4台																															
計					29台																															
○バス停維持管理経費		10千円																																		
・火災保険料、土地借上料（15.66㎡）																																				
○需用費（消耗品費）		17千円																																		
成果・課題	○スクールバスの運行により、小学校に通学する児童の安全な通学手段を確保することができた。 ○より安全なスクールバスの運行を行うため、引き続き運行管理委託業者への指導及びドライバーへの安全啓発等を行う必要がある。																																			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費	270千円	271千円	1千円	99.6 %	課	学校教育課
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額		
	事	05 小学校通学対策事業				269千円		
	細事	03 小学校通学支援事業	主な財源					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	遠距離通学をする児童を対象に、通学の状況に応じて遠距離通学補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。							
主要な事務・事業の概要	○遠距離通学補助金		270千円					
	小学校名	対象児童数	補助金額					
	大宮南	8人	117千円					
	宇 川	10人	153千円					
	計	18人	270千円					
			成果・課題	遠距離通学をする児童を対象とした遠距離通学の支援を行うことで、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図ることができた。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	71,569千円	71,603千円	34千円	99.9 %		
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	05 中学校通学対策事業				79,422千円		
	細事	01 中学校スクールバス運行管理事業	主な財源 使用料 市営バス乗車料 1,422千円 繰入金 ひるさと応援基金繰入金 20,000千円					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	中学校に通学する遠距離及び特に必要と認めた生徒の安全な通学手段を確保する。							

主要な事務・事業の概要	遠距離通学及び通学路の状況や冬期積雪時等、特に必要と認めた生徒の通学のためにスクールバスを運行した。															
	○スクールバス運行管理委託料	71,521千円														
	※バスの運転及び車両の維持管理を業者委託したもの。															
	<table><tr><td>峰 山 中 学 校</td><td>1台</td></tr><tr><td>大 宮 中 学 校</td><td>(1台)</td></tr><tr><td>網 野 中 学 校</td><td>3台</td></tr><tr><td>丹 後 中 学 校</td><td>2台</td></tr><tr><td>弥 栄 中 学 校</td><td>1台</td></tr><tr><td>久 美 浜 中 学 校</td><td>10台</td></tr><tr><td>計</td><td>17台 (18台)</td></tr></table>	峰 山 中 学 校	1台	大 宮 中 学 校	(1台)	網 野 中 学 校	3台	丹 後 中 学 校	2台	弥 栄 中 学 校	1台	久 美 浜 中 学 校	10台	計	17台 (18台)	
	峰 山 中 学 校	1台														
大 宮 中 学 校	(1台)															
網 野 中 学 校	3台															
丹 後 中 学 校	2台															
弥 栄 中 学 校	1台															
久 美 浜 中 学 校	10台															
計	17台 (18台)															
※大宮中の車両は、大宮南小スクールバスの大宮中生徒対象分																
○車両維持管理経費	1千円	成果・課題	○スクールバスの運行により、中学校に通学する生徒の安全な通学手段を確保することができた。 ○より安全なスクールバスの運行を行うため、引き続き運行管理委託業者への指導及びドライバーへの安全啓発等を行う必要がある。													
○バス停・車庫維持管理経費	47千円															
・燃料費、火災保険料																

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																							
	項	03 中学校費	199千円	223千円	24千円	89.2 %																									
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額	課	学校教育課																							
	事	05 中学校通学対策事業																													
	細事	03 中学校通学支援事業																													
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源																													
目的	自転車通学をする生徒を対象に、通学の状況に応じてヘルメット購入補助金を支給し、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図る。																														
主要な事務・事業の概要	○通学用ヘルメット購入補助金（補助率1/2）		199千円																												
	<table><thead><tr><th>中学校名</th><th>対象生徒数</th><th>補助金額</th></tr></thead><tbody><tr><td>峰 山</td><td>101人</td><td>91千円</td></tr><tr><td>大 宮</td><td>46人</td><td>41千円</td></tr><tr><td>網 野</td><td>20人</td><td>18千円</td></tr><tr><td>丹 後</td><td>8人</td><td>7千円</td></tr><tr><td>弥 栄</td><td>41人</td><td>37千円</td></tr><tr><td>久美浜</td><td>5人</td><td>5千円</td></tr><tr><td>計</td><td>221人</td><td>199千円</td></tr></tbody></table>		中学校名	対象生徒数	補助金額	峰 山	101人	91千円	大 宮	46人	41千円	網 野	20人	18千円	丹 後	8人	7千円	弥 栄	41人	37千円	久美浜	5人	5千円	計	221人	199千円			成果・課題		
中学校名	対象生徒数	補助金額																													
峰 山	101人	91千円																													
大 宮	46人	41千円																													
網 野	20人	18千円																													
丹 後	8人	7千円																													
弥 栄	41人	37千円																													
久美浜	5人	5千円																													
計	221人	199千円																													
				自転車通学をする生徒を対象としたヘルメットの購入支援を行うことで、通学の安全確保と保護者の負担軽減を図ることができた。																											

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	01 教育総務費	856千円	907千円	51千円	94.3 %			
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課	
	事	08 学校再配置事業				1,064千円			
	細事	02 学校再配置推進事業				主な財源			
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実								
目的	京丹後市学校再配置基本計画に基づく「学校づくり準備協議会」を設置し、学校再配置による新しい学校づくりに向けた取組を推進する。								
主要な事務・事業の概要	学校再配置事業を円滑に推進するため、学校づくり準備協議会を設置し、新しい学校の開校に向けた取組を進めるとともに、開校式の実施及び開校に伴う地域（旧校区）での取組を支援した。								
	令和元年度開校（4月） 丹後小学校								
	○式典関連経費 235千円 ・旅費（校章・校歌作成者旅費） 191千円 ・消耗品費（式典用装飾花、看板等） 41千円 ・手数料（クリーニング代） 3千円 ○開校準備経費 11千円 ・需用費（事務用品等） 11千円 ○開校記念誌補助金（旧豊栄小） 610千円								
				成果・課題	○再配置後の校区の関係者で構成する「学校づくり準備協議会」を設置し、新たな学校づくりに向けて取り組み、計画通りの再配置を実現することができた。 ○地域の状況変化に応じた計画の見直しを継続するとともに、計画の検証・評価を行う必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	02 小学校費					99.9 %			
	目	01 学校管理費	179,624千円		179,625千円	1千円	(参考)当初予算額	課	教育総務課	
	事	03 小学校施設整備事業					198,190千円			
	細事	01 小学校施設改修事業								
基本計画 26 未来を拓く学校教育の充実			主な財源							
目的	老朽化している学校施設が多い中、小学校施設における改修工事等を行い、児童が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。									
主要な事務・事業の概要	○久美浜小学校プール改修等工事			155,438千円		○次年度実施に向けた業務委託				6,203千円
	・委託料（工事監理業務・意図伝達業務）			3,795千円		・トイレ改修工事実施設計業務				5,443千円
	・工事請負費			151,643千円		（網野南小・かぶと山小・久美浜小）				
	○網野南小学校プールろ過装置電動弁取替工事			1,353千円		・網野南小学校職員室等エアコン更新工事設計業務				760千円
	・委託料（工事設計業務）			198千円						
	・工事請負費			1,155千円						
	○宇川小学校屋内消火栓配管改修工事			4,050千円						
	・委託料（工事設計業務）			378千円						
	・工事請負費			3,672千円						
	○その他工事請負費			12,580千円						
・かぶと山小学校普通教室床改修工事			1,290千円		成果・課題	○久美浜小学校プールの全面的な改修工事を行うなど、児童の安全・安心を最優先に優先順位を考慮して施設整備を行うことにより、良好な教育環境を整えることができた。 ○多くの学校施設が築30年～40年を経過しており学校施設の老朽化が進む中、文部科学省作成のインフラ長寿命化計画（行動計画）に則り、個々の学校施設の現状を把握し、長寿命化計画を作成する必要がある。				
・大宮第一小学校4年教室エアコン改修工事			1,174千円							
・かぶと山小学校プール槽補修工事			1,298千円							
・大宮第一小学校給食調理室給湯器更新工事ほか12件			8,818千円							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費	4,130千円	4,399千円	269千円	93.8 %	課	教育総務課
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額		
	事	03 小学校施設整備事業				4,399千円		
	細事	01 小学校施設改修事業（繰越）	主な財源	市債 小学校施設整備事業債（合併特例債） 3,800千円				
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	学校施設における改修工事等を行い、児童が安全に安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。							
主要な事務・事業の概要	大宮南小学校プール内に設置されているブロック塀及びプール周辺部等の土留壁について、建築基準法に定められている塀の高さ、鉄筋補強、フェンスへの取替工など基準に適した構造へ改修工事を行った。							
	○工事請負費		4,130千円					
	・大宮南小学校プール改修工事		4,130千円					
				成果・課題	施設整備を行うことにより、良好な教育環境を整えることができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	02 小学校費	28,372千円	28,526千円	154千円	99.4 %	課	教育総務課	
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額			
	事	06 小学校施設管理事業				27,517千円			
	細事	01 小学校施設管理事業							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実								
目的	学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。		主な財源						
主要な事務・事業の概要	○施設等修繕費 11,621千円 ・校舎、体育館、給食調理室、消防設備等の修繕 ○各種検査、手数料 1,015千円 ・浄化槽法定検査、貯水槽法定検査、消火器リサイクル料 ごみ持込処理手数料、産業廃棄物処理手数料、漏水検査手数料 ○建物火災保険料 983千円 ○施設保守管理等委託料（15業務） 12,557千円 ・デマンド監視業務、消防設備等保守点検、浄化槽維持管理、電気設備保守管理、エレベーター保守点検、給食用リフト保守点検、学校警備、プール給排水設備保守点検、給食施設消毒等業務、PCB収集運搬等、プール循環点検、雑木伐採、貯水槽保守点検、グリストラップ処理、便槽高圧洗浄・消毒 ○施設用地借上料 150千円 ・いさな小学校（学童農園用地ほか 751.22㎡） ○施設修繕のための原材料、消耗品 641千円 ・グラウンド用山土、砂、体育館用ドレッシングオイル、修繕用木材等			○網野北小学校芝生化事業 851千円 ・芝生肥料、草刈機用燃料、芝刈機修繕、補植用芝生及び芝生用土購入 芝生目土作業委託料 ○備品購入費 554千円 ・小学校施設消火器 178本（17校）					
				成果・課題	○更新時期を迎えた消火器を順次更新するなど、施設の適切な維持管理により、学校運営を円滑に行うことができた。 ○老朽化した施設が多い中、良好な学習環境の確保に向け、今後も適切な維持管理を行う必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	9,724千円		9,922千円	198千円	98.0 %	課	教育総務課
	目	01 学校管理費					(参考)当初予算額		
	事	03 中学校施設整備事業					10,030千円		
	細事	01 中学校施設改修事業							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実								
目的	老朽化している学校施設が多い中、中学校施設における改修工事等を行い、生徒が安全に、安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。		主な財源						
主要な事務・事業の概要	○網野中学校屋外渡り廊下改修工事 2,689千円 ・委託料（工事設計業務） 432千円 ・工事請負費 2,257千円 ○久美浜中学校体育館窓開閉装置改修工事 1,425千円 ・委託料（工事設計業務） 410千円 ・工事請負費 1,015千円 ○その他工事請負費 5,610千円 ・久美浜中学校通級教室空調機器設置工事 497千円 ・大宮中学校貯水槽内改修工事 367千円 ・丹後中学校第2体育館屋根改修工事 864千円 ・網野中学校浄化槽調整ブロー取替工事 473千円 ・大宮中学校体育館バレー床金具修繕工事 583千円 ・大宮中学校体育館照明機器改修工事 495千円 ・大宮中学校フラッグボール設置工事 1,116千円 ・峰山中学校体育館放送設備改修工事ほか5件 1,215千円				成果・課題	○生徒の安全・安心を最優先に優先順位を考慮して施設整備を行うことにより、良好な教育環境を整えることができた。 ○多くの学校施設が築30年～40年を経過しており学校施設の老朽化が進む中、文部科学省作成のインフラ長寿命化計画（行動計画）に則り、個々の学校施設の現状を把握し、長寿命化計画を作成する必要がある。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	8,555千円	12,220千円	3,665千円	70.0 %		
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額	課	教育総務課
	事	03 中学校施設整備事業				12,220千円		
	細事	01 中学校施設改修事業（繰越）	市債 中学校施設整備事業債（合併特別債） 3,400千円					
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源					
目的	学校施設における改修工事等を行い、生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる教育環境を整備する。							
主要な事務・事業の概要	網野中学校の外周に設置されている建築基準外のブロック塀の撤去及びフェンス設置工事を実施した。また、老朽化により故障した管理棟の空調設備の改修を行った。							
	○工事請負費 8,555千円 ・ 網野中学校外周塀等改修工事 3,719千円 ・ 網野中学校管理棟空調設備改修工事 4,836千円							
			成果・課題	施設整備を行うことにより、良好な教育環境を整えることができた。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	10,330千円	10,425千円	95千円	99.0 %		
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額	課	教育総務課
	事	06 中学校施設管理事業				9,956千円		
	細事	01 中学校施設管理事業						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源					
目的	学校施設の適切な維持管理により、良好な学習環境の確保を図る。							
主要な事務・事業の概要	○施設等修繕 3,380千円 ・校舎、体育館、給食調理室、消防設備等の修繕							
	○各種検査、手数料 137千円 ・浄化槽法定検査、貯水槽法定検査、消火器リサイクル料等							
	○建物火災保険料 550千円							
	○施設保守管理等委託料（10業務） 4,238千円 ・デマンド監視業務、消防設備等保守点検、浄化槽維持管理、電気設備保守管理、給食用リフト保守点検、学校警備、雑木伐採、給食施設消毒等業務、貯水槽保守点検、グリストラップ処理							
	○施設用地借上料 1,460千円 ・弥栄中学校（給食棟、テニスコート用地 4,922㎡）							
	○施設修繕のための原材料、消耗品 295千円 ・グラウンド用山土、砂、体育館用ドレッシングオイル、修繕用木材等							
	○備品購入費 270千円 中学校施設消火器 88本（6校）							
	成果・課題	○更新時期を迎えた消火器を順次更新するなど、施設の適切な維持管理により、学校運営を円滑に行うことができた。 ○老朽化した施設が多い中、良好な学習環境の確保に向け、今後も適切な維持管理を行う必要がある。						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	02 小学校費				98.5 %			
	目	01 学校管理費	136,900千円	138,981千円	2,081千円	(参考)当初予算額	課	学校教育課	
	事	02 小学校管理運営事業				141,701千円			
	細事	01 小学校管理運営事業							
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源	寄附金 ふるさと応援寄附金 100千円					
目的	適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施する。								
主要な事務・事業の概要	学校運営に必要な維持管理等を行うとともに、教育環境を整えるための体制整備を実施した。			○使用料及び賃借料 434千円 ・テレビ受信料、ガス警報器使用料 256千円 ・印刷機借上料、コピー機借上料 178千円					
	○需用費 99,956千円 ・消耗品費、燃料費（事務用品、用紙、灯油ほか） 28,891千円 ・食糧費、印刷製本費（来客用茶、卒業証書印刷ほか） 552千円 ・電気代 46,355千円 ・水道料 23,430千円 ・修繕費（印刷機等の修繕） 728千円 ○役務費 4,895千円 ・電話代、郵送料 3,570千円 ・手数料（ピアノ調律、ミシン調整ほか）、保険料 1,325千円 ○委託料 27,378千円 ・プール水質検査委託料 201千円 ・作業員業務人材派遣委託料（11校、11人） 26,723千円 ・理科薬品廃棄処分、害虫駆除委託料 454千円			○備品購入費 3,649千円 ・保健器具、特別支援学級備品、ストーブほか 3,649千円 （内、ふるさと応援寄附金充当額 100千円） ○負担金、補助及び交付金 588千円 ・校長会、教頭会、教務主任会ほか各種団体負担金 588千円					
				成果・課題	○教育環境の整備や維持管理など、児童が安心して安全に学ぶことのできる学校づくりに取り組み、小学校における円滑な教育活動を実施することができた。 ○より充実した教育環境の整備と学校施設の効率的な管理運営に努めていく必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費	932千円		982千円	50千円	94.9 %	課	学校教育課
	目	01 学校管理費					(参考)当初予算額		
	事	02 小学校管理運営事業					982千円		
	細事	02 小学校事務補助経費							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源						
目的	学校事務職員の複数配置を要する小学校に事務職員を配置し、学校事務をサポートすることにより、円滑な教育活動の実施と適正な学校運営を行う。								
主要な事務・事業の概要	複数配置校 大宮第一小学校 事務補助 1人（1日4時間・週5日勤務）								
	○臨時職員賃金 929千円 ○共済費（労災保険料、雇用保険料） 3千円								
					成果・課題	○学校事務の点からサポートすることにより、円滑な教育活動の実施と適正な学校運営を行うことができた。 ○学校事務の更なる効率化・平準化を図るため、複数校による事務業務を共同で行う研究や取組を進めていく必要がある。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	59,585千円	61,124千円	1,539千円	97.4 %		
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	02 中学校管理運営事業				63,184千円		
	細事	01 中学校管理運営事業				寄附金 ふるさと応援寄附金 100千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源					
目的	適正な学校運営や教育環境の充実に取り組み、中学校における円滑な教育活動を実施する。							
主要な事務・事業の概要	学校運営に必要な維持管理を行うとともに、教育環境を整えるための体制整備を実施した。			○使用料及び賃借料 393千円				
	○需用費 43,997千円			・テレビ受信料、ガス警報器使用料 91千円				
主要な事務・事業の概要	・消耗品費、燃料費（事務用品、用紙、灯油ほか） 13,868千円			・コピー機、印刷機借上料 302千円				
	・食糧費、印刷製本費（来客用茶、卒業証書ほか） 308千円			○備品購入費 2,377千円				
主要な事務・事業の概要	・電気代 22,148千円			・電話機、ストーブ、特別支援学級用備品ほか 2,377千円				
	・水道料 7,429千円			(内、ふるさと応援寄附金充当額 100千円)				
主要な事務・事業の概要	・修繕費（印刷機等の修繕） 244千円			○負担金、補助金及び交付金 1,028千円				
	○役務費 2,405千円			・校長会、教頭会、教務主任会ほか各種団体負担金 1,028千円				
主要な事務・事業の概要	・電話代、郵送料 1,660千円			成果・課題				
	・手数料（ピアノ調律、クリーニング、ごみ処理ほか） 745千円							
主要な事務・事業の概要	○委託料 9,385千円			○教育環境の整備や維持管理など、生徒が安心して安全に学ぶことのできる学校づくりに取り組み、中学校における円滑な教育活動を実施することができた。				
	・理科薬品廃棄処分 125千円			○より充実した教育環境の整備と学校施設の効率的な管理運営に努めていく必要がある。				
主要な事務・事業の概要	・作業員業務人材派遣委託料（4校、5人） 9,260千円							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	3,382千円	3,550千円	168千円	95.2 %	課	学校教育課
	目	01 学校管理費				(参考)当初予算額		
	事	02 中学校管理運営事業				3,550千円		
	細事	02 中学校事務補助経費						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源					
目的	学校事務職員の複数配置を要する中学校に事務職員を配置し学校事務をサポートすることにより、円滑な教育活動の実施と適正な学校運営を行う。							
主要な事務・事業の概要	複数配置校 大宮中学校 事務補助 1人（1日6時間・週5日勤務） 再配置校 久美浜中学校 事務補助 1人（1日6時間・週5日勤務） ○臨時職員賃金 2,850千円 ○共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 532千円							
				成果・課題	○学校事務の点からサポートすることにより、円滑な教育活動の実施と適正な学校運営を行うことができた。 ○学校事務の更なる効率化・平準化を図るため、複数校による事務業務を共同で行う研究や取組を進めていく必要がある。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	05 保健体育費	34,755千円	35,113千円	358千円	98.9 %			
	目	04 学校給食費				(参考)当初予算額	課	学校教育課	
	事	02 網野給食センター管理運営事業				39,447千円			
	細事	01 網野給食センター管理運営事業	主な財源	市債	学校給食配送車整備事業債（過疎対策債）	4,800千円			
		市債		学校給食センター整備事業債（過疎対策債）	1,200千円				
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	小学校4校（網野北・網野南・島津・橋）、網野中学校に栄養バランスの取れた給食を提供し、児童生徒の心身の健全な発達に寄与する。								
主要な事務・事業の概要	○臨時職員任用経費（調理補助員10人、事務補助員1人）		11,408千円	○浄化槽維持管理委託、浄化槽法定検査手数料					1,299千円
	○給食調理及び施設等維持経費		9,711千円	○配送車運転委託					717千円
	・消耗品費（厨房用消耗品ほか）		1,842千円	○検便検査、その他検査					504千円
	・燃料費（ボイラー用灯油、ガス、配送車燃料）		3,156千円	○その他（旅費、保険料、電気設備保守管理委託ほか）					729千円
	・光熱水費（電気、水道代）		4,713千円						
	○修繕料		1,993千円						
	・厨房内調理機器修理		346千円						
	・施設修理（浄化槽設備ほか）		1,153千円						
	・車両点検、車検修理（配送車3台、軽トラック1台）		494千円						
	○備品購入費		8,394千円						
	・給食配送車1台		4,895千円	成果・課題	○網野町域の小中学校の学校給食を効率的に調理し、栄養バランスの取れた安心・安全な給食を提供することができた。 ○安心・安全な給食の提供を維持するため、老朽化が進む設備・備品等について計画的な更新及び修繕を行っていく必要がある。				
	・蒸気回転釜1台、ガス回転釜1台		1,819千円						
	・給食用備品（配送コンテナ3台、蒸しカゴほか）		1,401千円						
	・小型除雪機		279千円						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	132,384千円	133,305千円	921千円	99.3 %	課	学校教育課
	目	04 学校給食費				(参考)当初予算額		
	事	04 小学校給食管理運営事業				134,092千円		
	細事	01 小学校給食管理運営事業	主な財源	諸収入 小学校給食調理機器類貸付料 4,500千円	市債 小学校給食備品整備事業債（過疎対策債） 1,000千円			
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	栄養バランスの取れた給食を提供し、児童の心身の健全な発達に寄与する。							
主要な事務・事業の概要	小学校の給食を提供するために必要な体制の確保と、調理機器の整備などの維持管理等を行った。 ○臨時調理師（大宮第一小 7人） 6,521 千円 ・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 415 千円 ・賃金 6,106 千円 ○給食調理 13,813 千円 ・消耗品費 1,038 千円 ・燃料費（ガス） 10,824 千円 ・修繕料（調理機器） 1,558 千円 ・手数料（包丁研磨・調理備品移設） 393 千円 ○給食調理業務委託 109,109 千円 ・委託料（12校） 峰山小、いさなご小、しんざん小、長岡小、大宮南小、丹後小 宇川小、吉野小、弥栄小、久美浜小、高龍小、かぶと山小			○備品購入 2,915 千円 コンベクションオープン（峰山小・かぶと山小：各1台） 消毒保管庫（かぶと山小：1台） （冷凍）冷蔵庫（長岡小・丹後小：各1台） 牛乳用保冷庫（宇川小・久美浜小・かぶと山小：各1台） 保存食用冷凍庫（峰山小・大宮南小：各1台）ほか ○協議会等負担金 26 千円 ・全国学校栄養士協議会負担金 12 千円 ・京都府学校給食研究会負担金 9 千円 ・京都府学校栄養士協議会負担金 5 千円				
	成果・課題 ○給食調理業務の民間委託を行うなど、給食を提供するために必要な体制の確保と効率的な運営を図ることができた。 ○民間の活用を進めるとともに、引き続き栄養バランスの取れた安心・安全な給食を提供する必要がある。 ○安心・安全な給食の提供を維持するため、老朽化が進む設備・備品等について計画的な更新及び修繕を行っていく必要がある。							

予 算 科 目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	39,231千円	39,853千円	622千円	98.4 %		
	目	04 学校給食費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	05 中学校給食管理運営事業				40,995千円		
	細 事	01 中学校給食管理運営事業	主 な 財 源	諸収入	中学校給食調理機器類貸付料	1,104千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	市債		中学校給食備品整備事業債（過疎対策債）	400千円			
目 的	栄養バランスの取れた給食を提供し、生徒の心身の健全な発達に寄与する。							
主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要	中学校の給食を提供するために必要な体制の確保と、調理機器の整備などの維持管理等を行った。			○備品購入 905 千円 食器消毒保管庫、業務用冷蔵庫（峰山中：各1台） 保存食用冷凍庫、三槽シンク（久美浜中：各1台）				
	○臨時調理師（峰山中、大宮中、久美浜中 計10人） 12,259 千円 ・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 1,592 千円 ・賃金 10,667 千円			○協議会等負担金 46 千円 ・全国学校栄養士協議会負担金 30 千円 ・京都府学校給食研究会負担金 3 千円 ・京都府学校栄養士協議会負担金 13 千円				
	○給食調理 7,598 千円 ・消耗品費 1,258 千円 ・燃料費（ガス） 5,130 千円 ・修繕料（調理機器） 895 千円 ・手数料（包丁研磨、調理備品移設） 315 千円			成 果 ・ 課 題	○給食調理業務の民間委託を行うなど、給食を提供するために必要な体制の確保と効率的な運営を図ることができた。 ○民間の活用を進めるとともに、引き続き栄養バランスの取れた安心・安全な給食を提供する必要がある。 ○安心・安全な給食の提供を維持するため、老朽化が進む設備・備品等について計画的な更新及び修繕を行っていく必要がある。			
○給食調理業務委託 18,423 千円 ・委託料（2校） 丹後中、弥栄中								

予 算 科 目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	1,139千円	1,180千円	41千円	96.5 %		
	目	04 学校給食費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	50 学校給食一般経費				1,783千円		
	細事	01 学校給食一般経費	主な財源					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、献立研究会の活発な活動を促し、衛生管理や栄養面での充実を図る。							
主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要	○衛生管理の徹底 1,124 千円 学校給食衛生管理基準に基づく給食調理施設の衛生管理を徹底するため、各種検査を実施するとともに、職員の衛生管理の研修及び衛生対策関連の消耗品の種類や内容を統一しての一括購入・供給を行った。 ・衛生用消耗品購入 841 千円 ・給食調理員等検便検査 188 千円 ・給食用食材細菌検査等 18 千円 ・職員の衛生管理研修 77 千円 京都府学校給食研究協議大会への参加：7人 他市視察：2人							
	○栄養士負担金 15 千円 ・京都府栄養士会負担金							
	成果・課題	○学校給食全般における衛生管理の徹底及び給食献立の研究を進めることで、衛生管理と栄養面での充実につながった。 ○給食調理施設の衛生管理はもとより、学校関係者や給食従事者に対する安全教育を徹底するとともに、各種検査の充実を図り、より安心・安全な学校給食を実施していく必要がある。						

予算科目	款	11 災害復旧費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 文教施設災害復旧費	211千円	2,223千円	2,012千円	9.4 %		
	目	01 公立学校施設災害復旧費				(参考)当初予算額	課	教育総務課
	事	01 公立学校施設災害復旧事業				0千円		
	細事	01 公立学校施設災害復旧事業						
基本計画			主な財源					
目的	令和元年10月台風19号の暴風により被災した学校施設の復旧を図る。							
主要な事務・事業の概要	○委託料		211千円					
	・網野北小学校プール附属棟災害復旧工事設計業務							
主要な事務・事業の概要	参考		繰越明許費を除いた最終予算額		212千円			
			実質的な予算執行率		99.5 %			
主要な事務・事業の概要	■令和2年度への繰越事業		2,011千円					
	・網野北小学校プール附属棟災害復旧事業 令和2年6月完成							
			成果・課題	○令和元年10月台風19号の暴風により、網野北小学校プール附属棟の屋根が剥落する災害が発生したため、復旧工事に向けた設計業務を実施した。 ○引き続き復旧事業を実施することにより、早期に学校施設の回復を図る必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																								
	項	01 教育総務費	3,837千円	3,875千円	38千円	99.0 %																										
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課																								
	事	12 教育のまちづくり推進事業				3,875千円																										
	細事	01 地域学校協働本部事業				府補	地域で支える学校教育推進事業費補助金 (2/3)			1,951千円																						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源																													
目的	「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図る。																															
主要な事務・事業の概要	地域全体で学校教育を支援するため、さまざまな特技や技能を持った地域の人材を「学校支援ボランティア」として登録し、全てのこども園、小・中学校で、学習支援やクラブ活動支援、学校の環境整備などの活動を行った。																															
	○地域コーディネーター謝金 (6人分)		3,048千円																													
	○地域コーディネーター旅費		291千円																													
	○消耗品、印刷製本費		497千円																													
	○有料道路通行料		1千円																													
	<活動概要>																															
	○実施期間		平成31年4月1日～令和2年3月31日																													
	○実施場所		市内全小学校(17校)、中学校(6校)、こども園(6園)																													
	○地域コーディネーター		6人(配置先:6中学校)																													
	○ボランティア登録者数		557人(令和元年度新規登録者数16人)																													
○広報紙の発行		2回(ボランティア募集、活動報告)																														
※ボランティアの登録状況(令和2年3月末現在) (単位:人)																																
町域	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	市外	合計																								
人数	114	91	144	72	65	59	12	557																								
成果・課題	○ボランティア活動の内容等																															
	・学習支援(教科指導補助、「総合的な学習」講師補助、部活動指導支援等) ・環境支援(学校環境整備、学校図書室整理、安全確保、学校行事等の補助等)																															
	<table><tr><td>区 域</td><td>活動日数</td><td>活動人数(延べ)</td></tr><tr><td>峰山中学校区</td><td>1,191日</td><td>3,509人</td></tr><tr><td>大宮中学校区</td><td>386日</td><td>487人</td></tr><tr><td>網野中学校区</td><td>597日</td><td>4,120人</td></tr><tr><td>丹後中学校区</td><td>193日</td><td>454人</td></tr><tr><td>弥栄中学校区</td><td>279日</td><td>557人</td></tr><tr><td>久美浜中学校区</td><td>501日</td><td>5,400人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>3,147日</td><td>14,527人</td></tr></table>								区 域	活動日数	活動人数(延べ)	峰山中学校区	1,191日	3,509人	大宮中学校区	386日	487人	網野中学校区	597日	4,120人	丹後中学校区	193日	454人	弥栄中学校区	279日	557人	久美浜中学校区	501日	5,400人	合 計	3,147日	14,527人
	区 域	活動日数	活動人数(延べ)																													
峰山中学校区	1,191日	3,509人																														
大宮中学校区	386日	487人																														
網野中学校区	597日	4,120人																														
丹後中学校区	193日	454人																														
弥栄中学校区	279日	557人																														
久美浜中学校区	501日	5,400人																														
合 計	3,147日	14,527人																														
	○地域住民の経験や特技を学校の教育活動等に活かすことで、地域による学校教育支援はもとより、多世代交流に繋がり、市民の生きがい作りになっている。 ○地域による学校の「支援」から、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」体制に発展させる必要がある。 ○学校活動の多様化に伴うニーズを的確に把握し、地域特性を活かした人材(ボランティア登録者)をより多く確保していく必要がある。																															

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	26千円	98千円	72千円	26.5 %	課	子ども未来課
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額		
	事	04 保育支援事業				98千円		
	細事	02 日用品費等援助事業	主な財源	国補	子ども・子育て支援交付金(1/3)	8千円		
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進	府補		子ども・子育て支援交付金(1/3)	8千円			
目的	低所得世帯を対象に日用品、文房具等の購入費などの実費徴収額について、費用の一部を助成し、対象家庭の経済的負担を軽減する。							
主要な事務・事業の概要	○扶助費(日用品費等援助費) 26千円 ・支給児童数 2人(2世帯) 5歳児(1号認定児)1人、5歳児(2号認定児)1人 ・事業費 給食費 3,600円 × 6か月 × 1人 = 21,600円 教材費・行事費等 2人分 4,370円 計 25,970円							
				成果・課題	低所得世帯の給食費、教材費、行事への参加に要する費用等の一部を助成することで、対象家庭の経済的負担を軽減することに寄与した。			

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	2,990千円		3,108千円	118千円	96.2 %	課	子ども未来課
	目	01 児童福祉総務費					(参考)当初予算額		
	事	50 児童福祉総務一般経費					985千円		
	細事	01 児童福祉総務一般経費	府補 子ども・子育て支援事業費府補助金（10/10） 19千円						
基本計画		25 子育て支援の総合的な推進	主な財源						
目的	児童福祉業務を円滑に遂行するために必要な一般経費								
主要な事務・事業の概要	○ 報酬 36千円 ・ 京丹後市いじめ問題調査委員会委員報酬（5人・1回）				○ 公課費 10千円 ・ 公用車重量税（2台）				
	○ 旅費 86千円 ・ 幼児教育・保育無償化意見交換会ほか担当者会議旅費 68千円 ・ 京丹後市いじめ問題調査委員会委員費用弁償 18千円 ○ 需用費 561千円 ・ 公用車燃料代（3台）及び車検（2台）費用等 ○ 役務費 136千円 ・ 車検費用、自動車損害保険料等 ○ 使用料及び賃借料 38千円 ・ 有料道路通行料 ○ 備品購入費 49千円 ・ 子ども未来課執務室シュレッダー（1台） ○ 償還金利息及び割引料 2,074千円 ・ 過年度子ども・子育て支援交付金国庫返還金 2,059千円 ・ 過年度子ども・子育て支援体制整備総合推進事業費国庫返還金 15千円				成果・課題	支出内容を精査しながら、児童福祉業務を適切に遂行することができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局		
	項	01 教育総務費	3,984千円	4,080千円	96千円	97.6 %				
	目	01 教育委員会費				(参考)当初予算額	課	教育総務課		
	事	50 教育委員会一般経費				4,080千円				
	細事	01 教育委員会一般経費								
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源								
目的	地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会を運営する。									
主要な事務・事業の概要	教育委員の報酬、会議参集や研修費用及び丹後地方教育委員会連合会負担金を支出した。教育委員会会議は、定例会12回、臨時会9回と協議会5回を開催した。また、各種研修や先進地視察・市内学校視察等の活動を行った。									
	○報酬 3,456千円 ・教育委員の報酬（4人） ○旅費等 170千円 ・近畿市町村教育委員会研修大会参加に要する経費 ・先進地視察研修に要する経費（大阪府茨木市教育委員会ほか） ※視察テーマ：学力の向上について ・各種研修、会議出席等市内用務出席に要する経費 ・ガソリン代、有料道路通行料、駐車場使用料 ○負担金 358千円 ・丹後地方教育委員会連合会負担金									
	成果・課題	○各種研修会への参加や管内・管外の視察を実施するなど、積極的な活動を行うことにより幅広い識見を得ることができた。 ○課題解決に向け、地域の意向や教育現場等の状況を把握し、教育施策や教育委員会の意思決定に反映させるため、管内視察等の充実を図る必要がある。								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	7,010千円	7,681千円	671千円	91.2 %		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	教育総務課
	事	50 事務局一般経費				8,313千円		
	細事	01 事務局一般経費	主な財源					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	教育委員会事務局の円滑な運営及び公用車の適正な維持管理を行う。							
主要な事務・事業の概要	○事務局運営に係る経費 4,418千円			○各協議会、団体への負担金 140千円				
	・臨時職員及び人材派遣職員経費 3,013千円 （公用車管理員、育休等代替、事務補助 各1人） ・教育委員会活動点検評価謝金（2人） 40千円 ・各種協議会等出張旅費（教育長、職員等） 323千円 ・教育委員会交際費 10千円 ・激励金 500千円 （スポーツ等の国際大会・全国大会に出場する選手を激励 カヌーほか10競技） ・書籍、消耗品費ほか 532千円			全国都市教育長協議会負担金、近畿都市教育長協議会負担金、 定時制通信教育振興会負担金、安全運転管理者講習会負担金等				
	○教育振興計画中間見直しに係る経費 439千円							
	・印刷製本費（計画冊子300部及び概要版21,000部）							
	○公用車の維持管理経費 2,013千円			成果・課題				
	・公用車6台（うち車検2台）の燃料費、保険料、車検等経費			○教育委員会事務局の運営について、経費削減に努めながら円滑な執行ができた。 ○平成30年度から2か年かけて教育振興計画の中間見直しを行い、後期計画として京丹後市教育振興計画（令和2年度改定版）を策定し、併せて概要版を全戸配布することで、周知することができた。				

外算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																		
	項	01 教育総務費	4,752千円	4,777千円	25千円	99.4 %	課	教育総務課																		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額																				
	事	14 学校跡施設管理事業				3,370千円																				
	細事	01 学校跡施設管理事業	主な財源	財産収入 土地建物貸付収入 1,540千円 財産収入 学校教育施設整備基金利子収入 1千円																						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実																									
目的	学校再配置により閉校となった学校施設の維持管理を行う。																									
主要な事務・事業の概要	○閉校施設修繕料（7施設） 1,638千円 消防設備、貯水槽、漏水等の修繕を行い、施設の適正管理を図った。 修繕施設：旧橋小学校・旧宇川中学校・旧海部小学校・旧湊小学校 旧大宮第三小学校・旧豊栄小学校・旧黒部小学校		○積立金 1,541千円 学校教育施設整備基金積立金 建物賃貸借料を基に国が算出した国庫納付金相当額以上を積み立てる ・旧大宮第三小学校分 214千円 ・旧三津小学校分 1,326千円 ・基金利子分 1千円 (単位：千円)																							
	○維持管理経費 598千円 貯水槽法定検査手数料（容量10m ³ を超える貯水槽2施設）、建物火災保険料 廃家電処理手数料、貯水槽保守点検、消火器リサイクル手数料等		<table><tr><th rowspan="2">平成30年度末 現在高</th><th colspan="3">令和元年度中増減額</th><th rowspan="2">令和元年度末 現在高</th></tr><tr><th>繰入金</th><th>運用利子</th><th>積立金</th></tr><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>①-②+③+④</td></tr><tr><td>2,178</td><td>0</td><td>1</td><td>1,540</td><td>3,719</td></tr></table>						平成30年度末 現在高	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高	繰入金	運用利子	積立金	①	②	③	④	①-②+③+④	2,178	0	1	1,540	3,719
	平成30年度末 現在高	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高																					
		繰入金	運用利子	積立金																						
	①	②	③	④	①-②+③+④																					
2,178	0	1	1,540	3,719																						
○工事請負費 748千円 学校跡施設（旧豊栄小学校）高圧気中開閉器取替工事																										
○備品購入費 227千円 学校跡施設消火器 74本（8施設）		成果・課題 ○更新時期を迎えた消火器を順次更新するなど、学校跡施設を適切に管理することができた。 ○旧海部小学校の一部を京都府教育委員会（京都府立久美浜高等学校）へ無償貸与し、学校跡施設の有効活用を図った。 ○利活用が進まない施設については、施設の耐震性及び老朽化の状況等を考慮し、解体も含めて検討する必要がある。																								

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
学校教育課	小坂 貴寛
生涯学習課	引野 雅文
子ども未来課	服部 智昭

重点目標	4	豊かな人間性・社会性を育みます
基本的方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切にする豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。	

1. 施策の方向性 PLAN

1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成	①小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。 ②生命を大切にする心や他人を尊重する心などを育むとともに、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。 ③地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。 ④各中学校区において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取り組みを協働して進めます。 ⑤情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。
2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実	①子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や内面理解の充実を図ります。 ②学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。 ③いじめの防止等に関する基本的な方針を基に、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し対策の総合的な実施を一層推進します。 ④不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰を目指すため、教育支援センター「麦わら」の相談支援機能を高めます。
3. 家庭・地域の教育力の向上	①各中学校区の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。 ②家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担うため、就学前から青年期までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。 ③子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、すべての町域における家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。 ④子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動を充実します。 ⑤地域における子どもたちの活動拠点を確保し、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行う地域子ども教室の拡充を進めます。 ⑥青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。
4. 芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成	①子どもが生涯にわたって芸術や自然を愛する心や豊かな感性を育むための体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。 ②学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市いじめ防止等基本方針	国、府、学校、地域社会、家庭及びその他の関係者が連携のもと、社会総がかりでいじめの問題の克服に向けて取り組むとともに、いじめ防止対策推進法第12条の規定に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定	平成26年6月	計画期間の定めなし	策定から3年経過を目途に見直し(平成30年度見直し)

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

2. 主な取組と構成事務事業一覧		PLAN	DO	※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照	CHECK	ACT
1. 人を思いやり、尊重する社会性の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額			R1決算額	
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課			R2予算額	
① 小中一貫教育による学校園や校種を超えた交流授業や合同行事など、多様な集団での活動を充実し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係や社会性を育みます。					評価を踏まえた今後の方向性	
② 生命を大切にすると心や他人を尊重する心などを育むとともに、すべての教育活動において、就学前から中学校までの系統性・一貫性のある道徳教育や人権教育を推進します。						
③ 地域の人々との幅広い交流の機会を拡充することで、ルールやマナー、社会常識、社会性を育みます。						
④ 各中学校区において、学校園、家庭及び地域が子どもたちの生活実態や課題を共有し、規範意識や社会性を高める取り組みを協働して進めます。						
⑤ 情報機器の適切な使用やSNSに代表される情報通信ネットワークのルール・モラル等について、児童生徒の実態に応じて具体的に指導するとともに、専門家や学校支援ボランティア等と連携し、系統的かつ一貫性のある指導体制を整備します。						
2. 生徒指導体制、教育相談体制の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額			R1決算額	
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課			R2予算額	
① 子どもたちが集団生活を通して課題を解決する意欲と実践力を身に付けることができるよう、一人ひとりの生活実態の把握や、内面理解の充実を図ります。					評価を踏まえた今後の方向性	
② 学校園の状況に応じてスクールサポーターを配置するなど、子ども一人ひとりの課題やニーズに対応するきめ細かな支援体制を整備します。						
③ いじめの防止等に関する基本的な方針を基に、組織体制の整備を行うとともに、関係機関と連携し対策の総合的な実施を一層推進します。						
④ 不登校等の児童生徒の多様な実態と課題に対応し、学校復帰を目指すため、教育支援センター「麦わら」の相談支援機能を高めます。						
3. 家庭・地域の教育力の向上		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額			R1決算額	
↓ 事務事業名称・事業内容(実績)		担当課			R2予算額	
① 各中学校区の学校園、家庭及び地域が、育みたい子ども像や児童生徒の実態及び課題を共有し、緊密に連携して指導を行うしくみづくりを進めます。					評価を踏まえた今後の方向性	
② 家庭は自己肯定感や豊かな心、他者に対する思いやりや命を大切にする気持ちなどを養う最も重要な役割を担うため、就学前から青年期までの子どもの成長段階に応じた家庭教育支援を進めます。						
③ 子どもの豊かな人間性・社会性を育むとともに、孤立しがちな親や子育てに悩みを抱えている親への支援等のため、すべての町域ににおける家庭教育支援チームの活動を進めるとともに、関係団体の活動を支援します。						
④ 子どもたちが身近な地域で体験や交流ができる活動を充実します。						
⑤ 地域における子どもたちの活動拠点を確保し、地域ボランティアの協力を得て様々な体験活動、地域住民との交流活動を行う地域子ども教室の拡充を進めます。						
⑥ 青少年の健全育成と安全・安心な地域づくりのため、青少年健全育成会をはじめ、関係団体と連携した効果的な活動を進めます。						

10	家庭こども相談室事業	子ども未来課				
	家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。		1,318	289	294	現状維持
11	家庭教育事業	生涯学習課				
	発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。		1,841	1,574	1,860	現状維持
12	放課後児童健全育成事業	子ども未来課				
	保護者の就労等により放課後や長期休業期の昼間に家庭保育を受けることができない児童に対し、安全で充実した生活の場を与えることにより、その健全な育成を図る。		163,785	177,977	317,477	拡大
13	子ども放課後対策推進事業	子ども未来課				
	放課後に小学校の余裕教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。		891	874	780	現状維持
4.	芸術文化を通じた豊かな感性、情緒の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
①	子どもが生涯にわたって芸術や自然を愛する心や豊かな感性を育むための体験活動や、学校支援ボランティア等の専門的な知見や技能を活用するなど、我が国や京丹後市の伝統文化や自然環境、文化・芸術等に親しみ、学ぶ機会を充実します。					
②	学校園や家庭での読書活動により子どもの豊かな情緒を育むため、関係機関・団体等との連携・協力関係をさらに強化し、学校園、家庭及び地域が一体となった取り組みを進めるとともに、学校図書館の機能強化を図ります。					
	上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業		決算額(単位:千円)			事務の改善
	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課	H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
14	放課後子ども総合プラン事業	子ども未来課				
	国の「放課後子ども総合プラン」に基づき実施する、放課後子ども教室の運営方法を検討するため運営委員会は、任期満了に伴い、必要な審議等を子ども未来まちづくり審議会にて行うこととした。		0	0	-	統合(整理)
		計	263,959	267,140	444,606	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校園、家庭、地域及び行政の協働により、子どもたちが周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を育むとともに、人や社会との絆、思いやりを大切にする豊かな人間性・社会性を育みます。 また、不登校等の課題がある児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行います。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
				年度		年度		年度
	不登校児童の発生率<小学校>	—	5人/0.16%	H25	0.32	R1	減少させる	R6
	不登校生徒の発生率<中学校>	—	47人/2.49%	H25	3.87	R1	減少させる	R6
	いじめの認知件数/発生率<小学校>	—	386件/12.7%	H25	420件 17.0%	R1	減少させる	R6
	いじめの認知件数/発生率<中学校>	—	189件/10.2%	H25	40件 2.8%	R1	減少させる	R6
	認知されたいじめの年度内解消率<小学校>	—	357件/92.5%	H25	72.0 (いじめの解消要件が定義されたため、令和元年度第2回調査の追跡調査結果を記載)	R1	100%	R6
	認知されたいじめの年度内解消率<中学校>	—	181件/95.8%	H25	98.0 (いじめの解消要件が定義されたため、令和元年度第2回調査の追跡調査結果を記載)	R1	100%	R6
	いじめはいけないことだという意識がある児童の割合<小学校>	%	97.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙小6	H25	98.9	R1	増加させる	R6
	いじめはいけないことだという意識がある生徒の割合<中学校>	%	90.9 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙中3	H25	97.9	R1	増加させる	R6
	学校のきまりや規則を守る意識がある児童の割合<小学校>	%	93.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙小6	H25	94.9	R1	増加させる	R6

	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
				年度		年度		年度
主な目標指標	学校のきまりや規則を守る意識がある生徒の割合<中学校>	%	90.8 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	97.2	R1	増加させる	R6
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童の割合<小学校>	%	94.4 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	94.6 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目から外れたため京都府学力テスト質問項目による) 小4	R1	増加させる	R6
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う生徒の割合<中学校>	%	95.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	98.2 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目から外れたため京都府学力テスト質問項目による) 中2	R1	増加させる	R6
	人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合<小学校>	%	94.0 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙小6	H25	96.1	R1	増加させる	R6
	人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合<中学校>	%	93.2 「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問用紙中3	H25	96.5	R1	増加させる	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

進捗状況区分		評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○		《不登校児童生徒の出現率》 不登校児童生徒の出現率は、小中一貫教育の推進による各校園での未然防止を重点とした取り組みや確実な情報の共有等によって、不登校解消に一定の成果は上がっているものの、不登校の出現率が増加傾向にある。特に中学校では、前年度比0.75%の増加となっており、出現率を減少させるための効果的な未然防止の取組強化が更に必要である。
○ 予定どおり進んでいる			《いじめの認知件数/認知率》 いじめの認知率は、小学生で2.1%減少し、中学校はほぼ横ばいであった。いじめを積極的に認知し指導しているものと捉え、引き続き、些細な兆候も見逃さない組織的な対応を行うとともに、認知件数・認知率のみにとらわれず、より丁寧な指導を継続していく必要がある。
▲ 少し遅れている			《認知されたいじめの年度内解消率》 令和元年度第2回いじめ調査の認知事象に基づく追跡調査結果では、小学校は新型コロナウイルス感染症の影響により聞き取り調査が実施できなかった未解消数値であり、中学校で2%が未解消であり、解消要件を踏まえ児童生徒に寄り添った指導を継続している。今後も、各校のいじめ防止基本方針に基づき、実態把握や情報共有、組織的な対応を徹底し丁寧な指導を行うとともに、関係機関と連携した体制強化を図っていく必要がある。
× 大幅に遅れている			《いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合》 いじめはいけないことだという意識がある児童生徒の割合は、年間3回のいじめ調査や追跡調査、児童生徒への丁寧な指導により、小学校ではほぼ横ばい、中学校では増加し小中学校ともに高い水準を維持している。今後も児童生徒の豊かな心を育成するため、道徳科をはじめ、学校の教育活動全体を通じた取組みの充実を図る必要がある。
			《学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合》 学校のきまりや規則を守る意識がある児童生徒の割合は、小中学校ともに増加した。各校園の丁寧な指導及び小中一貫教育による一貫性のある指導等によって、規範意識は確実に高まっている。引き続き、小学校低学年からの規範意識の醸成等による系統的な指導を進めていく必要がある。
			《人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合》 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小学生では増加し、中学生ではほぼ横ばいで、小中学生ともに高い水準で推移している。教育活動全体を通じた丁寧な指導により、人の気持ちを理解して行動したり、発言したりすることの重要性が確実に身に付いてきている。今後も個別の配慮児童生徒への丁寧な指導が必要である。
			《人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合》 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、小中学校ともにほぼ横ばいであるが高い水準で推移している。教育活動全体を通じた丁寧な指導により、社会貢献等への意識が確実に身に付いてきている。今後更に高めていくため、ボランティア活動など体験学習等の充実を図る必要がある。

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度での主な取組)

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	子どもたちの自尊感情を高め、豊かな人間性・社会性を育むため、保幼小中一貫教育による交流学习や児童会・生徒会活動などの集団活動を充実させるとともに、道徳科をはじめキャリア教育等学校の教育活動全体を通じた系統的で一貫性のある指導の更なる充実を図る。
	2	いじめや不登校など、児童生徒の多様な課題に対応するため、臨床心理士による教育相談体制を拡充するとともに、教育支援センターの相談支援機能を更に高めるなど、個の課題やニーズに応じたきめ細かな相談支援体制の整備・強化を図る。
	3	地域の子ども教室では、体験活動だけでなく、教室間での情報交流についても支援しながら教室活動の維持、拡充に努める。青少年健全育成会では、各地域ごとに子どもの体験活動を実施するほか、あいさつ運動や夏休みパトロールなどで地域の子どもの見守り活動を継続する。また平成28年度からスタートした「放課後子ども教室」事業は、安定的運営を目指す。
	4	子どもたちの芸術や自然を愛する心豊かな感性を育むため、教育活動等における文化体験や芸術鑑賞など、国や府の様々な事業や学校支援ボランティア等を活用し、伝統文化や芸術等に親しむ機会を充実させるとともに、学校図書の充足率向上を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費	1,667千円		1,708千円	41千円	97.5 %		
	目	02 教育振興費					(参考)当初予算額		
	事	04 小学校教育推進事業					1,934千円		
	細事	02 小学校教育推進活動実践事業					府補 KYO発見仕事・文化体験活動推進事業補助金 (2/3)		
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源						
目的	地域社会における仕事や文化の体験活動、総合的な学習活動等を実践し、豊かな人間性の育成を図る。								
主要な事務・事業の概要	○校外学習や仕事・文化体験活動、総合的な学習活動（講師謝金、消耗品費等） 1,197千円 ・「KYO発見 仕事・文化体験事業」推進事業（府補助事業：全校で実施） 574千円 ・総合的な学習活動推進事業（市単独事業：全校で実施） 623千円 ○教育研究事業負担金 146千円 京丹後市小学校教育研究会 小学校教育に関する研究を推進し、小学校教育の充実・発展と教職員の資質の向上を図るため、各教科の研究、研修会等を実施。 ○修学旅行引率補助金 324千円 小学校17校 引率教員68人								
	成果・課題	○地域社会における仕事や文化の体験活動を通して、キャリア教育を推進するとともに、規範意識、コミュニケーション能力、人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性を育む教育のより一層の推進につながった。 ○児童の基礎学力の向上や豊かな人間性を育てる教育を継続して実践していくため、教職員の資質の向上と併せ、各学校の創意工夫による効果的な実践活動が必要である。							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	1,230千円	1,361千円	131千円	90.3 %		
	目	02 教育振興費				(参考)当初予算額		
	事	04 中学校教育推進事業				1,161千円		
	細事	02 中学校教育推進活動実践事業						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源	府補	KYO発見仕事・文化体験活動推進事業補助金（2/3）				250千円
			府委	未来の担い手育成プログラム研究事業費委託金（10/10）				200千円
目的	国府等の研究指定校を受けて教育活動に取り組むとともに、体験活動や総合的な学習活動の充実、特色ある教育等を実践し、基礎学力の向上や豊かな人間性の育成を図る。							
主要な事務・事業の概要	○校外学習や仕事・文化体験活動、総合的な学習活動（消耗品費等） 473千円 ・「KYO発見 仕事・文化体験事業」推進事業（府補助事業：全校で実施） 315千円 ・総合的な学習活動推進事業（市単独事業：全校で実施） 158千円		○修学旅行引率補助金 250千円 中学校6校 引率教員48人					
	○和装教育推進事業（講師謝金、クリーニング手数料等） 224千円 ・着付け体験学習（金中学校） 受講生徒：460人							
	○教育実践研究指定事業（消耗品費、バス運行委託料等） 200千円 ・未来の担い手育成プログラム研究校 実施校：弥栄中学校 実施年度：令和元年度～3年度（3か年）							
	○教育研究事業員負担金 83千円 京丹後市中学校教育研究会 中学校教育に関する研究を推進し、教職員の資質の向上と中学校教育の推進を図るため、各教科の研究、研究集録・指導案の作成を実施。		成果・課題 ○国や府等の研究指定校を受けて教育活動に取り組むことで、生徒の基礎学力の向上を図るとともに、規範意識、コミュニケーション能力、人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性を育む教育のより一層の推進につながった。 ○生徒の基礎学力の向上や豊かな人間性を育てる教育を継続して実践していくため、教職員の資質の向上と併せ、各学校の創意工夫による効果的な実践活動が必要である。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	01 教育総務費	199千円		266千円	67千円	74.8 %	課	学校教育課	
	目	02 事務局費					(参考)当初予算額			
	事	13 いじめ防止推進事業					266千円			
	細事	01 いじめ防止啓発推進事業	主な財源							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実									
目的	「京丹後市いじめ防止等基本方針」に基づくいじめ防止等の啓発活動を実施し、市と市民が一体となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。									
主要な事務・事業の概要	〇いじめ防止講演会（講師謝金）		参加者：66人	75千円	〇インターネットモラル研修会					参加者：34人
	開催日：令和元年11月14日（木）				開催日：令和元年8月9日（金）					
	講師：NPO法人ストップいじめ！ナビ 副代表理事 須永祐慈 氏				会場：大宮庁舎					
	会場：アグリセンター大宮				講師：ライン株式会社 オフィシャルインストラクター 石田浩平 氏					
主要な事務・事業の概要	〇いじめ防止啓発グッズ作成（消耗品費、印刷製本費）		96千円		成果・課題					〇いじめ防止講演会及び街頭啓発キャンペーンを通じて、広く市民にいじめの問題等について、正しい理解や意識の高揚を促すことができた。 〇スマートフォン等を利用したSNSなど、インターネットを介した誹謗中傷やいじめ事象が増加傾向にあることから、保護者への啓発活動と併せて教職員の指導力の向上を図る必要がある。
	いじめ防止啓発用ポケットティッシュ 街頭啓発用 10,000個									
	街頭啓発 実施日：令和元年11月6日（水）									
	場所：ショッピングセンターマイン									
主要な事務・事業の概要	いじめ防止啓発PRカードシール 小学新1年生用 450枚									
	〇いじめ相談専用電話設置（通信運搬費）		28千円							
	フリーダイヤル利用料、いじめ相談専用携帯電話利用料									
	相談受付：24時間対応									
主要な事務・事業の概要	対応者：教育委員会事務局指導主事、臨床心理士									
	※いじめ相談件数：0件									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	285千円		364千円	79千円	78.2 %		
	目	02 事務局費					(参考)当初予算額		
	事	13 いじめ防止推進事業					389千円	課	学校教育課
	細事	02 いじめ防止対策等運営事業	主な財源						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実								
目的	いじめ問題対策連絡会議及びいじめ防止対策等専門委員会を設置し、関係機関が一体となって、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。								
主要な事務・事業の概要	〇いじめ問題対策連絡会議経費（委員数：21人） 18千円 保育所、こども園及び小中学校におけるいじめの防止対策や早期発見、いじめへの対処等に関する協議を行うため、「いじめ問題対策連絡会議」を設置し、教育、福祉、医療、保健、警察及び司法等の関係機関との連携を図った。 開催日：令和元年5月30日（木） 会 場：京丹後市役所峰山庁舎 ・報償費（委員謝金） 16千円 ・旅費（費用弁償） 2千円		〇いじめ防止対策等専門委員会経費（委員数：5人） 267千円 いじめの防止等のための対策に関する事項や重大ないじめ事象が発生した場合に調査を行うため、弁護士、医師、臨床心理士、学識経験者からなる「いじめ防止対策等専門委員会」を設置し、会議を開催するなど、それぞれの専門的な立場からいじめ事象に対する助言を受けた。 開催日：第1回 令和元年10月26日（土） 第2回 令和2年3月14日（土） 会 場：京丹後市役所大宮庁舎 ・報酬 154千円 ・旅費（普通旅費・費用弁償） 80千円 ・消耗品費 16千円 ・有料道路通行料 17千円						
			成果・課題	〇専門的な立場から指導・助言を受けることにより、学校に対していじめの防止等のための取組やいじめ事象の解決に向けた支援を行うことができた。 〇いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こり得ることを踏まえ、いじめの未然防止及び早期発見に向けた取組を推進する必要がある。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	7,794千円	7,804千円	10千円	99.8 %		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事	10 就学支援・教育相談事業				9,544千円		
	細事	02 教育支援センター管理運営事業						
基本計画 26 未来を拓く学校教育の充実			主な財源	府委 いじめ対策・不登校支援等推進事業費委託金（10/10） 702千円 繰入金 ふるさと応援基金繰入金 5,000千円				
目的	不登校、又はその傾向にある児童生徒の学校生活への復帰等の社会的自立を支援する。							
主要な事務・事業の概要								
		不登校等にある児童生徒及び当該児童生徒の保護者に対し、教育相談及び適応指導を通じ、学校生活への復帰等の社会的自立を支援するため、京丹後市教育支援センター「まわら」の指導員が各小中学校や関係機関と連携しながら支援を行った。						
		教育支援センター運営経費						
		配置人数 5人 教育支援センター指導員						
		配置体制 3人体制 指導員 ①週2日 1日7時間 1人 ②週3日 1日7時間 4人						
主要な事務・事業の概要		通所児童生徒数 19人						
		相談延べ件数 1,182件						
		来所延べ人数 1,475人						
		○共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 716千円						
		○臨時職員賃金（指導員） 6,796千円						
主要な事務・事業の概要		○旅 費（ひきこもり家族研修会 ほか） 22千円						
		○需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、修繕料 ほか） 209千円						
		○役務費（通信運搬費、自動車損害保険料 ほか） 51千円						
		成果・課題	○教員経験の豊富な指導員による児童生徒等への学習及び生活の支援や、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーのカウンセリングなどにより、個々のケースに応じた支援を行い、学校復帰や進路実現等の社会的自立を図ることができた。					
			○中学校の不登校が増加していることから、より早期の段階で未然防止活動への対策を図る必要がある。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																				
	項	02 小学校費	36,966千円	37,347千円	381千円	98.9 %																																						
	目	02 教育振興費				(参考)当初予算額	39,830千円	課	学校教育課																																			
	事	04 小学校教育推進事業																																										
	細事	01 小学校スクールサポーター等設置事業				主な財源																																						
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実																																											
目的	スクールサポーターを配置し、児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。																																											
主要な事務・事業の概要	○介護職員 26人（1日7時間、週5日勤務） ・臨時職員賃金 30,892千円 ・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 6,057千円 ・事務費（校外学習引率に伴う旅費、入場料、参加負担金） 17千円			配置一覧 <table><tr><th>学校名</th><th>介護</th><th>学校名</th><th>介護</th></tr><tr><td>峰山小</td><td>4人</td><td>橋小</td><td>1人</td></tr><tr><td>しんざん小</td><td>2人</td><td>丹後小</td><td>2人</td></tr><tr><td>長岡小</td><td>1人</td><td>吉野小</td><td>2人</td></tr><tr><td>大宮第一小</td><td>2人</td><td>弥栄小</td><td>1人</td></tr><tr><td>大宮南小</td><td>1人</td><td>久美浜小</td><td>1人</td></tr><tr><td>網野北小</td><td>2人</td><td>高龍小</td><td>1人</td></tr><tr><td>網野南小</td><td>3人</td><td>かぶと山小</td><td>2人</td></tr><tr><td>島津小</td><td>1人</td><td>計</td><td>26人</td></tr></table>					学校名	介護	学校名	介護	峰山小	4人	橋小	1人	しんざん小	2人	丹後小	2人	長岡小	1人	吉野小	2人	大宮第一小	2人	弥栄小	1人	大宮南小	1人	久美浜小	1人	網野北小	2人	高龍小	1人	網野南小	3人	かぶと山小	2人	島津小	1人	計	26人
	学校名	介護	学校名	介護																																								
峰山小	4人	橋小	1人																																									
しんざん小	2人	丹後小	2人																																									
長岡小	1人	吉野小	2人																																									
大宮第一小	2人	弥栄小	1人																																									
大宮南小	1人	久美浜小	1人																																									
網野北小	2人	高龍小	1人																																									
網野南小	3人	かぶと山小	2人																																									
島津小	1人	計	26人																																									
成果・課題	○必要に応じてスクールサポーターを配置することで、円滑な授業や効率的な学校運営を行うことができた。 ○児童一人ひとりの課題・特性を的確に把握するとともに、必要とする学校を的確に見極め、効果的なスクールサポーターの配置に努めていく必要がある。																																											

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																		
	項	03 中学校費	28,007千円	28,474千円	467千円	98.3 %																																				
	目	02 教育振興費				(参考)当初予算額	課	学校教育課																																		
	事	04 中学校教育推進事業				29,201千円																																				
	細事	01 中学校スクールサポーター等設置事業	府補 部活動指導員配置促進事業補助金 (2/3) 1,669千円																																							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源																																								
目的	スクールサポーターを配置し、生徒一人ひとりの課題・特性を的確に把握し、よりきめ細やかな指導に努めるとともに、円滑な授業を実施する。																																									
主要な事務・事業の概要	○介護職員 5人 (1日7時間、週5日勤務) ○講師 (小中一貫コーディネーター) 6人 (1日7時間45分、週4日勤務) ○心の教室相談員 2人 (1日7時間45分、週5日勤務) ○部活動指導員 8人 (1日1時間、年間258時間勤務) ・臨時職員賃金 24,473千円 ・共済費 (社会保険料、労災保険料、雇用保険料) 3,534千円			配置一覧																																						
				<table><thead><tr><th>学校名</th><th>介護</th><th>小中一貫 コーディネーター</th><th>相談員</th><th>部活動 指導員</th></tr></thead><tbody><tr><td>峰山中</td><td>2人</td><td>1人</td><td rowspan="6">2人</td><td>1人</td></tr><tr><td>大宮中</td><td>1人</td><td>1人</td><td>2人</td></tr><tr><td>網野中</td><td>1人</td><td>1人</td><td>1人</td></tr><tr><td>丹後中</td><td>0人</td><td>1人</td><td>1人</td></tr><tr><td>弥栄中</td><td>1人</td><td>1人</td><td>2人</td></tr><tr><td>久美浜中</td><td>0人</td><td>1人</td><td>1人</td></tr><tr><td>計</td><td>5人</td><td>6人</td><td>2人</td><td>8人</td></tr></tbody></table> ※相談員は3校に1人の配置。					学校名	介護	小中一貫 コーディネーター	相談員	部活動 指導員	峰山中	2人	1人	2人	1人	大宮中	1人	1人	2人	網野中	1人	1人	1人	丹後中	0人	1人	1人	弥栄中	1人	1人	2人	久美浜中	0人	1人	1人	計	5人	6人	2人
学校名	介護	小中一貫 コーディネーター	相談員	部活動 指導員																																						
峰山中	2人	1人	2人	1人																																						
大宮中	1人	1人		2人																																						
網野中	1人	1人		1人																																						
丹後中	0人	1人		1人																																						
弥栄中	1人	1人		2人																																						
久美浜中	0人	1人		1人																																						
計	5人	6人	2人	8人																																						
成果・課題	○必要に応じてスクールサポーターを配置することで、円滑な授業や効率的な学校運営を行うことができた。 ○心の教室相談員を配置し、生徒が悩みを話せる環境を整えることで、生徒の不安を和らげることができた。また、部活動指導員を配置することで、部活動の質の向上と部活動担当教諭の負担軽減を図ることができた。 ○生徒一人ひとりの課題・特性を把握するとともに、必要とする学校を的確に見極め、効果的なスクールサポーターの配置に努めていく必要がある。																																									

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																												
	項	02 児童福祉費	289千円	326千円	37千円	88.6 %																														
	目	01 児童福祉総務費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課																												
	事	03 家庭こども相談室事業				3,058千円																														
	細事	01 家庭こども相談室事業	諸収入 保育所等職員研修事業補助金 8千円																																	
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進	主な財源																																		
目的	家庭児童の適正な養育及び福祉の向上を図る。																																			
主要な事務・事業の概要	要保護児童対策地域協議会構成機関等と連携の下、児童虐待の未然防止、早期発見と適切な対応を行うとともに、支援が必要な児童や家庭（育児不安・養育力危機・不登校等）について相談援助活動・家庭訪問・同行支援等を行った。			○京丹後市児童相談等取扱件数																																
	事業実績額			<table><tr><th>種別</th><th>詳細</th><th>件数</th><th>種別</th><th>詳細</th><th>件数</th></tr><tr><td rowspan="2">養護</td><td>児童虐待</td><td>268</td><td rowspan="2">育成</td><td>性格行動</td><td>2</td></tr><tr><td>その他</td><td>134</td><td>不登校</td><td>5</td></tr><tr><td>障害</td><td>発達障害</td><td>6</td><td rowspan="2">計</td><td>適性・育児等</td><td>8</td></tr><tr><td>非行</td><td>＜犯行為等＞</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					種別	詳細	件数	種別	詳細	件数	養護	児童虐待	268	育成	性格行動	2	その他	134	不登校	5	障害	発達障害	6	計	適性・育児等	8	非行	＜犯行為等＞	0			
	種別	詳細	件数	種別	詳細	件数																														
養護	児童虐待	268	育成	性格行動	2																															
	その他	134		不登校	5																															
障害	発達障害	6	計	適性・育児等	8																															
非行	＜犯行為等＞	0																																		
○旅費 要保護児童対策地域協議会講演会講師旅費 12千円 調整担当者研修会等旅費 123千円 ○需用費 啓発物品・事務用品等 35千円 ○役務費 職員対応用携帯電話通話料（3台） 71千円 ○備品費 職員対応用携帯電話購入（1台） 38千円 ○負担金 京都府家庭相談員連絡協議会負担金 10千円			○要保護児童対策地域協議会運営状況 ・代表者・実務者会議 2回 ・ケース進行管理会議 5回 ・ケース検討会議 162回 ・講演会 1回（令和元年11月30日開催） 参加者143人																																	
			成果・課題 ○調整担当者研修等を受講し、複雑・多様化する家庭児童問題に対応するための専門的知識を向上させることができた。 ○面談・家庭訪問・電話相談の実施、ケース検討会議の開催、要保護児童対策地域協議会の取組等により、さまざまな課題のある家庭への対応や支援を行うことができた。 ○適切で迅速な支援につなげるため、担当者の研鑽を重ねるとともに、関係機関との連携をさらに深めていくことが必要である。																																	

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																	
	項	04 社会教育費	1,574千円	1,575千円	1千円	99.9 %																																			
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課																																	
	事	10 家庭教育事業				1,938千円																																			
	細事	01 家庭教育事業	府補 家庭教育支援基盤形成事業補助金 (2/3) 708千円																																						
基本計画			27 多様な学びを支援する社会教育の充実																																						
目的	発達段階に応じた学習及び交流機会を提供するとともに、PTA活動を支援することによって、全ての教育の出発点であり、子どもの成長の基礎となる家庭教育を推進する。		主な財源																																						
主要な事務・事業の概要	乳児期から就学前、思春期の各発達段階に応じた学習機会の提供と家庭教育支援チームによる子育て支援活動を実施した。 また、引き続きPTA活動の支援を行った。																																								
	○家庭教育支援チーム事業（ファシリテーター謝金等） 857千円				○子育て講座（講師謝金等） 213千円																																				
	子育て経験者や専門的な知識・経験を持つサポーターで構成する「家庭教育支援チーム」を各地域公民館で組織し、地域課題に即した子育て支援活動を行った。																																								
	※家庭教育支援チーム：計6チーム、子育てサポーター：計46人																																								
	<table><tr><th>事業</th><th>回数</th><th>延べ参加者数</th></tr><tr><td>子育て交流会</td><td>28回</td><td>519人</td></tr><tr><td>「手紙で結ぶ家族の絆」事業</td><td>12回</td><td>227人</td></tr><tr><td>子育て広場</td><td>8回</td><td>236人</td></tr><tr><td>高校生と赤ちゃんのふれあい交流</td><td>21回</td><td>311人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>69回</td><td>1,293人</td></tr></table>			事業	回数	延べ参加者数	子育て交流会	28回	519人	「手紙で結ぶ家族の絆」事業	12回	227人	子育て広場	8回	236人	高校生と赤ちゃんのふれあい交流	21回	311人	合 計	69回	1,293人	<table><tr><th>事業</th><th>回数</th><th>延べ参加者数</th></tr><tr><td>乳幼児期子育て講座</td><td>3回</td><td>53人</td></tr><tr><td>就学前、思春期子育て講座</td><td>3回</td><td>330人</td></tr><tr><td>親子リフレッシュ体操教室</td><td>18回</td><td>475人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>24回</td><td>858人</td></tr></table>					事業	回数	延べ参加者数	乳幼児期子育て講座	3回	53人	就学前、思春期子育て講座	3回	330人	親子リフレッシュ体操教室	18回	475人	合 計	24回	858人
	事業	回数	延べ参加者数																																						
	子育て交流会	28回	519人																																						
	「手紙で結ぶ家族の絆」事業	12回	227人																																						
	子育て広場	8回	236人																																						
	高校生と赤ちゃんのふれあい交流	21回	311人																																						
合 計	69回	1,293人																																							
事業	回数	延べ参加者数																																							
乳幼児期子育て講座	3回	53人																																							
就学前、思春期子育て講座	3回	330人																																							
親子リフレッシュ体操教室	18回	475人																																							
合 計	24回	858人																																							
※広報紙発行：1回				○京丹後市PTA協議会補助金 504千円 市研究大会の開催、各種研修会の参加、安全会掛金等への助成																																					
成果・課題																																									
○子どもの発達段階に応じた子育てに関する学習機会を提供し、子どもとのコミュニケーションの大切さや、生活習慣を身に付けさせるための家庭の役割の重要性などについて啓発することができた。 ○関係機関との連携により、課題の共有とより効果的な学習会等の実施を進める必要がある。																																									

予算科目	款	03 民生費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	02 児童福祉費	177,977千円	181,460千円	3,483千円	98.0 %		
	目	03 保育事業費				(参考)当初予算額	課	子ども未来課
	事	02 放課後児童健全育成事業				176,242千円		
	細事	01 放課後児童健全育成事業	使用料 放課後児童健全育成事業利用料 20,664千円 使用料 公有財産使用料 9,971千円 国補 子ども・子育て支援交付金（1/3） 21,394千円 府補 子ども・子育て支援交付金（1/3） 15,958千円 諸収入 市有自動車損害共済金 123千円					
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進							
目的	保護者の就労等により放課後や長期休業期の昼間に家庭保育を受けることができない児童に対し、安全で充実した生活の場を与えることにより、その健全な育成を図る。		主な財源					
主要な事務・事業の概要	保護者の就労等により、放課後や長期休業期等の昼間に家庭保育を受けることができない小学校に通学する児童を対象に、安心して生活できる場を提供することで、子どもたちの健やかな成長に努めた。			○工事請負費（久美浜・口大野エアコン移設工事等） 397千円				
	○開設状況 年間開設日数：280日（うち新型コロナウイルス感染症対策対応分：15日） 開設時間：授業終了後～午後6時30分 （長期休業期及び土曜日は午前7時30分～午後6時30分） 年間平均児童数：467人（10か所、12支援単位） 峰山55人・長岡19人・いさご42人・大宮62人 口大野①49人・口大野②41人・網野南38人・網野北47人 丹後20人・弥栄26人・久美浜①46人・久美浜②22人			○その他の経費（火災・自動車共済等保険料・自動車重量税ほか） 1,146千円				
				参考		繰越明許費を除いた最終予算額 178,460千円 実質的な予算執行率 99.7 %		
				■令和2年度への繰越事業 3,000千円 ・放課後児童クラブ園舎等解体事業（工事設計） 令和2年6月完成				
成果・課題	○需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費等） 6,110千円							
	○委託料（消防設備点検、浄化槽点検、児童送迎車運転等） 8,667千円							
	○放課後児童健全育成事業委託料 161,657千円 （うち新型コロナウイルス感染症対策対応分 6,615千円）							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局		
	項	04 社会教育費	874千円	948千円	74千円	92.1 %	課	子ども未来課		
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額				
	事	18 子ども放課後対策推進事業				948千円				
	細事	01 子ども放課後対策推進事業	府補 京のまなび教室推進事業補助金 (2/3) 582千円							
基本計画	25 子育て支援の総合的な推進		主な財源							
目的	放課後に小学校の余裕教室を子どもたちの安全・安心な居場所として活用し、地域住民の参画により、子どもたちが心豊かで健康やかに育まれる環境づくりを推進する。									
主要な事務・事業の概要	○委託料 放課後子ども教室運営委託料 (2か所)		874千円							
	※事業の概要									
		網野北小学校区放課後子ども教室	網野南小学校区放課後子ども教室							
	実施場所	網野北小学校施設内	網野南小学校施設内							
	委託先	放課後子ども教室実行委員会	放課後子ども教室実行委員会							
	参加児童数	延べ819人 (1回平均22人)	延べ1,712人 (1回平均46人)							
	支援員の数	延べ231人 (1回平均6人)	延べ295人 (1回平均8人)							
	実施日	平成31年4月～令和2年3月 (授業のある水曜日の放課後) 37回								
	活動内容	自主学習、体験活動、集団遊び、自由遊び、スポーツなど								
	成果・課題	○子どもたちの安全・安心な活動拠点 (居場所) として放課後子ども教室を開設し、地域住民の協力を得て子どもたちに世代間交流の機会を提供するとともに、さまざまな体験活動を実施することができた。 ○子ども教室の運営は、地域住民の協力を得て実施することになっており、スタッフの確保が課題である。								

京丹後市教育振興計画
施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
生涯学習課	引野 雅文

重点目標	5	生涯にわたる豊かな学びを支援します
基本的方針	まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。	

1. 施策の方向性 **PLAN**

1. 生涯学習の体制づくり	①市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。 ②市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。 ③市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。
2. 人権教育の推進	①人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を推進します。 ②さまざまな人権問題について正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。
3. 文化芸術活動の推進	①市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館を拠点として、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実します。 ②関係機関及び団体と連携し、地域の特色を活かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。
4. 社会教育施設の整備充実	①公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。 ②老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市子どもの読書活動第二次推進計画	本市の将来を担う子どもたちが、今後も更に本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるように、子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進するために策定	平成26年6月	平成26年度～平成30年度	京丹後市子どもの読書活動第三次推進計画を策定(令和2年度～令和6年度)

2. 主な取組と構成事務事業一覧 **PLAN** **DO** ※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照 **CHECK** **ACT**

1. 生涯学習の体制づくり		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
① 市民の多様な学習ニーズや地域課題に対応するため、学習内容の評価・検証や情報提供等を進めます。						
② 市民の身近な学習及び交流の拠点である中央公民館及び地域公民館の活動の充実を図るとともに、地区公民館との連携を強化することによって、地域での公民館活動を支援します。						
③ 市民の自主的かつ自発的な学習の場である図書館の機能の充実と利用の促進を図ります。						
1	社会教育委員設置事業	生涯学習課	410	555	528	現状維持
	社会教育委員を設置し、社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うことによって、市民の声を反映した社会教育事業を推進する。					
2	社会教育指導員設置事業	生涯学習課	21,319	19,001	-	改善・効率化
	生涯学習課及び各地域公民館に社会教育指導員を配置し、社会教育の推進体制を整備するとともに、事業を積極的に展開することにより社会教育活動の充実を図る。					
3	成人式開催事業	生涯学習課	1,179	481	1,232	改善・効率化
	人生の節目としての式典を開催することによって、大人になったことの自覚を促すとともに、今後自らの人生を生き抜こうとする青年(新成人)を祝い激励する。					
4	青少年教育事業	生涯学習課	1,900	1,570	1,570	現状維持
	地域の青少年を守り育てる活動を支援し、将来を担う青少年の心豊かな人間の基礎づくりと健全な成長を促す。					
5	高齢者教育事業	生涯学習課	2,489	2,448	2,850	現状維持
	高齢者大学の講座を市内全域で実施することによって、高齢者の社会参加と生きがいづくりに貢献するとともに、その知識や経験を活かした地域活動を推進する。					

1. 生涯学習の体制づくり			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
6	中央公民館管理運営事業	生涯学習課	39,930	38,504	37,879	現状維持
	地域住民の学習及び交流活動の拠点として設置されている地区(自治)公民館活動を支援し、地域の活性化を推進する。					
7	峰山地域公民館管理運営事業	生涯学習課	9,472	8,460	9,299	現状維持
	峰山地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。					
8	大宮地域公民館管理運営事業	生涯学習課	260	164	174	現状維持
	大宮地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。					
9	網野地域公民館管理運営事業	生涯学習課	471	322	376	現状維持
	網野地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。					
10	丹後地域公民館管理運営事業	生涯学習課	6,308	15,832	358,813	縮小
	丹後地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。					
11	丹後地域公民館管理運営事業【繰越】	生涯学習課	-	15,832	-	終了・廃止
	丹後地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。					
12	弥栄地域公民館管理運営事業	生涯学習課	9,022	7,164	7,254	現状維持
	弥栄地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。					
13	久美浜地域公民館管理運営事業	生涯学習課	1,336	545	156	現状維持
	久美浜地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。					
14	公民館一般経費	生涯学習課	15,341	15,110	34,059	現状維持
	地域公民館長の配置に係る経費及び公用車の維持管理等、公民館運営に係る経費。					
15	図書館管理運営事業	生涯学習課	48,650	65,237	137,311	縮小
	資料や情報を収集、整理、保存し、提供することで、市民の読書、調査研究等の要求に応え、生涯学習活動を推進する。					
16	社会教育総務一般経費	生涯学習課	2,718	406	3,303	現状維持
	社会教育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、女性教育活動団体に対しその活動を支援するための補助金を交付し生涯学習の振興を図る。					
2. 人権教育の推進			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 人権啓発推進協議会の活動の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、人権に関する正しい理解と認識を高める活動を推進します。						
② さまざまな人権問題について正しい理解と認識を深めるため、学校園、家庭及び地域など、身近な場での学習機会の充実と促進を図るとともに、関係機関・団体と連携し、職員及び指導者の資質向上を図るための学習機会の提供に努めます。						
17	人権教育事業	生涯学習課	211	182	242	現状維持
	あらゆる人権問題について正しく理解し、認識を深めるための学習機会を提供するなど、人権教育を推進することにより、人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。					
3. 文化芸術活動の推進			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館を拠点として、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実します。						
② 関係機関及び団体と連携し、地域の特色を活かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。						
18	文化芸術事業	生涯学習課	32,590	33,475	33,975	現状維持
	市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送ることができるよう文化芸術活動を支援し、ゆとりと潤いのある社会づくりを推進する。					
4. 社会教育施設の整備充実			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 公民館や図書館等をはじめとする社会教育施設の設備・機能の充実を図り、社会教育の実践活動を行う環境整備を進めます。						
② 老朽化が進んでいる社会教育施設は、利用者の安全・安心に資するため、計画的な整備改修を検討します。						
19	地区公民館管理運営事業	生涯学習課	4,414	4,333	4,534	現状維持
	地域住民の身近な生涯学習・地域活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。					
20	峰山いさなご施設管理運営事業	生涯学習課	7,456	7,756	9,579	現状維持
	林業の振興のほか、スポーツ及びレクリエーション活動による市民の健康づくり、生きがいづくりを推進し、市民福祉の向上を図る。					
21	マスターズビレッジ管理運営事業	生涯学習課	15,466	15,340	15,751	現状維持
	大宮ふれあい工房(陶芸・染色体験施設等)、ふれあいスポーツ広場等を管理運営することで、市民の交流及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図る。					

	22	マスターズビレッジ管理運営事業【繰越】	生涯学習課	4,805	-	-	終了・廃止
	大宮ふれあい工房「あそびの広場」内に設置した遊具の修繕を実施し、利用者の安全を確保するとともに環境整備に努めた。						
	23	アグリセンター管理運営事業	生涯学習課	6,996	6,880	18,214	現状維持
	施設の維持管理及び運営を行い、農業・農村の活性化及び地域住民の福祉・健康増進に寄与する。						
	24	たちばな会館管理運営事業	生涯学習課	1,190	1,235	1,205	現状維持
	橘地区における生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。						
	25	網野教育会館管理運営事業	生涯学習課	1,224	1,239	1,257	現状維持
	教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。						
26	丹後地域公民館耐震診断事業【再編交付金活用事業】	生涯学習課	3,514	-	-	終了・廃止	
生涯学習及びコミュニティ活動の拠点施設としての耐震性能を確認するため、耐震診断業務を実施した。							
			計	238,671	262,071	679,561	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	まちづくりや福祉等多様な分野の関係部局、また学校園、保護者、地域住民、企業、大学等の多様な主体との協働により、住民相互のネットワークづくりを進め、子どもから大人まで、だれもが生涯にわたり学び続けることができ、その成果を地域社会に還元することのできる環境づくりを進めます。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度		年度		年度	
	青少年の体験活動事業数	事業	42	H25	55	R1	60	R6
	趣味・教養講座数	事業	29	H25	52	R1	35	R6
	地域課題学習講座数	事業	2	H25	10	R1	10	R6
	高齢者大学の参加者数	人	789	H25	791	R1	1,000	R6
	人権学習会の参加者数	人	820	H25	1,154	R1	1,200	R6
	図書の年間貸出冊数(市民1人当たり)	冊	5.2	H25	5.37	R1	7.0	R6
	地域公民館施設の利用回数	回	4,308 (令和元年度) ※改正時追加指標	R1	4,308	R1	7,000	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	▲	《青少年の体験活動事業数》 地域公民館等の事業のほか、京都府や府内大学などの関係機関と連携し事業を実施している。効率的な事業運営とするため複数の地域公民館が合同で実施する講座もあるため事業数としてはほぼ横ばいである。今後も社会教育団体や学校、地域と連携・協力をしながら学習機会を提供する。 《趣味・教養講座数》 市民の自発的な学習を支援し継続的な学習活動を促進することができた。講演会や講座などの学習機会と情報の提供を行うことで、今後も市民生活の向上を図る。 《地域課題学習講座数》 各町の公民館連絡協議会を中心に地域の現状把握や課題共有に努め講座が行われているが、今後も社会の変化に対応し学習していく必要がある。また、地域の社会教育や地域活動を推進する拠点である地区公民館の中には担い手不足等の課題を抱えている公民館もあり、地区、公民館、行政が、ともに実態に応じた地域コミュニティのあり方について考える必要がある。 《高齢者大学の参加者数》 高齢者大学の運営は定着しつつあるが、教養講座といえども自己完結型で終わるのではなく身につけた学びを地域活動や若い世代に伝えるなど、学びの循環が必要。退職によるライフスタイルの変化や、情報化、加齢に伴う心身の衰えや介護問題など、学習者によって抱える課題が多様化しており、より一層のニーズの把握と、対象者への周知が必要である。 《人権学習会の参加者数》 インターネット社会における人権の尊重、外国人の人権問題など、身近な生活の場で直面する課題においても日常生活の習慣として身につけ実践することができるよう学習機会の内容や方法の工夫改善に努める。 《図書の年間貸出冊数（市民1人当たり）》 住民一人当たりの貸出数は増加し、行事等の開催、企画展示の実施などにより、多様な学習機会の提供に寄与した。しかし、貸出点数は昨年度より増加しているものの、利用者数をみると増加しているとは言えず、今後更に図書館に関心を持ち利用につながるよう、運営に工夫が必要。また、市民の求める居場所としての空間づくりも、図書館整備の中で検討していく必要がある。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
		《地域公民館施設の利用回数》 社会教育活動、生涯学習及びコミュニティ活動を行う拠点として管理、運営を行うことができた。また、地域の身近な課題、生活課題等に即した学習機会の提供ができた。施設の老朽化に伴う維持管理が課題である。 (令和2年度丹後地域公民館耐震改修等工事实施) ※平成30年12月丹後地域公民館耐震強度不足のため貸館休止、平成30年12月から令和元年10月までは丹後庁舎を、10月からは丹後庁舎と旧豊栄小学校を代替施設として使用した。 ※平成30年度・令和元年度の数値は、休館前の数値と代替施設の数値を含めた数値。

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	中央公民館体制の再構築の下、公民館体制及び新たな地域コミュニティの在り方について、関係機関等との協議等を進める必要がある。併せて生涯学習社会の中核的施設となる図書館整備を検討するとともに、利用者が主役となる図書館活動を展開する。
	2	講演会の参加者が固定化傾向にあるため、講演の内容について、同和問題など継続的な課題はあるものの、インターネットによる人権侵害や自己実現、幸福追求など新たな人権課題にも目を向けながら、幅広く人権について考える機会を提供していく。
	3	関係団体等と連携し、優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供、地域の特色を活かした芸術・文化活動を実施並びに支援するとともに、文化活動を支える人材育成を地道に取り組む。
	4	必要な修繕の実施を行うなど、利用者が安心・安全に利用できる環境を整備し、併せて利便性の向上を図るとともに、今後の施設の在り方を検討する必要がある。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	555千円	654千円	99千円	84.8 %	課	生涯学習課
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額		
	事	02 社会教育委員設置事業				630千円		
	細事	01 社会教育委員設置事業						
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		主な財源					
目的	社会教育委員を設置し、社会教育行政全般について調査・研究及び審議し、答申及び建議を行うことによって、市民の声を反映した社会教育事業を推進する。							
主要な事務・事業の概要	社会教育委員会議を開催し、社会教育事業及び社会教育の諸課題について審議するとともに、委員の研修機会を提供した。			＜会議の主な内容＞（3回開催）				
	○委員報酬（委員：15人、報酬対象：12人）			341千円	・「新たな地域コミュニティ」づくりの取組について			
	○旅費（費用弁償、研修事業への参加旅費）			90千円	・丹後地域公民館、図書室の改修整備について			
	○需用費（研修事業資料代、燃料費）			44千円	・令和2年度予算・社会教育指導の重点について ほか			
	○使用料及び賃借料（有料道路通行料）			15千円	＜委員研修等＞			
	○負担金、補助及び交付金			65千円	・丹後地方社会教育委員連絡協議会総会・研修会（6月6日：宮津市）			
・京都府及び丹後地方社会教育委員連絡協議会分担金			・京都府社会教育委員連絡協議会総会（6月29日：京田辺市）					
			・近畿（兼全国）社会教育研究大会【兵庫大会】（10月24、25日：神戸市）					
			・丹後地方社会教育委員連絡協議会理事・幹事会（2回）					
			成果・課題	○社会教育事業及び社会教育の諸課題について審議し、市民の意向を反映した社会教育行政を進めることができた。 ○公民館体制及び新たな地域コミュニティの在り方について、引き続き審議を行う必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	19,001千円		19,033千円	32千円	99.8 %	課	生涯学習課
	目	01 社会教育総務費					(参考)当初予算額		
	事	03 社会教育指導員設置事業					19,033千円		
	細事	01 社会教育指導員設置事業	主な財源						
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実								
目的	生涯学習課及び各地域公民館に社会教育指導員を配置し、社会教育の推進体制を整備するとともに、事業を積極的に展開することにより社会教育活動の充実を図る。								
主要な事務・事業の概要	社会教育事業の立案・運営や社会教育関係団体等への指導・助言を行った。				○社会教育指導員の配置 全8人				
	○社会教育指導員報酬 15,984千円 月額報酬166,500円×12か月×8人				・生涯学習課 1人 ・峰山地域公民館 1人 ・大宮地域公民館 1人 ・網野地域公民館 2人 ・丹後地域公民館 1人 ・弥栄地域公民館 1人 ・久美浜地域公民館 1人				
	○共済費 2,670千円 ・社会保険料 2,521千円 ・労災保険料 55千円 ・雇用保険料 94千円								
	○旅費 347千円								
					成果・課題	○社会教育指導員を配置することで社会教育事業の効果的な実施と社会教育団体の育成・支援を行うことができ、住民のニーズに応えた社会教育活動を推進することができた。 ○令和2年度からは会計年度任用職員として、引き続き効果的・効率的な配置に努める必要がある。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	481千円		618千円	137千円	77.8 %	課	生涯学習課
	目	01 社会教育総務費					(参考)当初予算額		
	事	04 成人式開催事業					1,238千円		
	細事	01 成人式開催事業							
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実		主な財源					
目的	人生の節目としての式典を開催することによって、大人になったことの自覚を促すとともに、今後自らの人生を生き抜こうとする青年（新成人）を祝い激励する。								
主要な事務・事業の概要	令和2年成人式は令和2年3月15日（日）に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年11月1日（日）に延期（予定）とした。								
	<対 象> 平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれの市内在住者及び市内各中学校卒業生660人（男330人、女330人）								
	○報償費 記念品（慶弔用ふくさ）等		408千円						
	○需用費（消耗品費）		13千円						
	○役務費（通信運搬費等）		60千円		成果・課題	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止策を適切に講じながら実施する必要がある。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	1,570千円	1,570千円	0千円	100.0 %		課	生涯学習課
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額			
	事	05 青少年教育事業				1,700千円			
	細事	01 青少年教育事業							
基本計画			27 多様な学びを支援する社会教育の充実	主な財源					
目的	地域の青少年を守り育てる活動を支援し、将来を担う青少年の心豊かな人間の基礎づくりと健やかな成長を促す。								
主要な事務・事業の概要	○京丹後市青少年健全育成会補助金			400千円					
	青少年の体験活動やあいさつ運動、夏祭りパトロールなど、青少年の健全育成に資する取組を実施する組織に対し、補助金を交付。								
	○少年少女児童合唱団補助金（3団体×130千円）			390千円					
	音楽を通して子どもたちの自分を表現する力や社会性、豊かな心を育む活動を行う団体に対し、補助金を交付。								
	○地域子ども教室補助金（6団体×130千円）			780千円					
地域の中に子どもたちの居場所を確保するとともに、さまざまな体験活動、住民との交流活動等地域全体で子どもを守り育てる活動を行う教室に対し、補助金を交付。									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	2,448千円		2,612千円	164千円	93.7 %	課	生涯学習課
	目	01 社会教育総務費					(参考)当初予算額		
	事	09 高齢者教育事業					2,850千円		
	細事	01 高齢者教育事業		主な財源 府補 諸収入	市町村高齢化対策推進事業費補助金（1/2） 社会教育事業等参加料				210千円 809千円
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実								
目的	高齢者大学の講座を市内全域で実施することによって、高齢者の社会参加と生きがいづくりに貢献するとともに、その知識や経験を活かした地域活動を推進する。								
主要な事務・事業の概要	○高齢者大学								
	・受講者数 791人（令和2年3月31日現在）								
	・実施地域 各町域（各地域公民館主管）								
	・事業の概要								
	学園	一般講座		教養講座					
		回数	延べ参加者数	延べ回数	延べ参加者数	講座数	内 容		
	峰山	7回	417人	117回	1,616人	10講座	ちぎり絵、民謡 等		
	大宮	6回	203人	32回	391人	7講座	庭木剪定、歌ごえ 等		
	網野	9回	881人	180回	3,087人	11講座	陶芸、水彩画 等		
	丹後	6回	300人	52回	671人	9講座	詩吟、俳句 等		
弥栄	7回	255人	53回	585人	8講座	絵手紙、歴史 等			
久美浜	6回	276人	51回	609人	7講座	古典文学、絵画 等			
合計	41回	2,332人	485回	6,959人	52講座				
※合同講座を含む									
○京都工芸繊維大学との連携事業									
・内 容 京都工芸繊維大学キャンパス見学と京都府立植物園散策									
・参加者数 35人									
○報償費（講師謝金） 1,669千円									
○旅費 26千円									
○需用費（消耗品費、燃料費、食糧費） 253千円									
○委託料（バス運転委託料） 316千円									
○使用料及び賃借料（会場使用料、有料道路通行料等） 184千円									
成果・課題									
○高齢者大学各種講座の実施により、仲間づくり、生きがいづくり、健康づくりの機会を提供し、高齢者の社会参加の促進と生きがいづくりに寄与することができた。 ○減少傾向にある参加者の増加に努めるとともに、より一層の高齢者の社会参加の促進と学習の成果を地域活動等に活かす取組を推進する必要がある。									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	38,504千円	38,514千円	10千円	99.9 %	課	生涯学習課
	目	02 公民館費				(参考)当初予算額		
	事	01 中央公民館管理運営事業				38,969千円		
	細事	01 中央公民館管理運営事業	市債	過疎地域自立促進特別事業債（過疎対策債）			30,300千円	
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実	主な財源						
目的	地域住民の学習及び交流活動の拠点として設置されている地区（自治）公民館活動を支援し、地域の活性化を推進する。							
主要な事務・事業の概要	研修会の実施や活動交付金の交付等により、地区公民館活動の支援を行った。			○地区公民館活動交付金 36,382千円				
	○公民館職員研修会講師謝金 61千円							
	第1回	実施日	令和元年6月28日					
		会 場	アグリセンター大宮					
		演 題	「持続可能な地域づくりを考える」					
		講 師	兵庫県朝来市市長公室総合政策課 馬袋 貞紀 氏					
		参加者数	89人					
	第2回	実施日	令和元年11月21日					
		会 場	アグリセンター大宮					
		演 題	「対話による人づくり・地域づくり」					
		講 師	まちとしごと総合研究所 岡本 卓也 氏					
		参加者数	86人					
	○持続可能な地域づくり「新たな地域コミュニティ」の取組 地区公民館機能を含む「新たな地域コミュニティ」の在り方について、市長公室とともに市内43地域で説明会を開催。市の考え方を提案し、地域での主体的な検討を支援した。			○地区公民館活動の支援を通じて、住民のコミュニティ活動の推進を図るとともに、学習及び交流機会の提供など、地区公民館が地域づくりの拠点としての機能を発揮することに寄与した。 ○各町公民館連絡協議会の取組により研修や地区公民館同士の情報交流が行われ、それぞれの公民館事業の活性化を図ることができた。 ○公民館体制及び「新たな地域コミュニティ」の在り方について、引き続き地域及び関係機関等との協議を進める必要がある。				
○公民館総合（傷害）保険料（53地区館分） 2,061千円			成果・課題					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	8,460千円		8,563千円	103千円	98.7 %	課	生涯学習課	
	目	02 公民館費					(参考)当初予算額			
	事	02 地域公民館管理運営事業					9,469千円			
	細事	01 峰山地域公民館管理運営事業	主な財源	使用料	峰山地域公民館使用料	827千円				
基本計画 27 多様な学びを支援する社会教育の充実		諸収入		社会教育事業等参加料	35千円					
		諸収入		峰山地域公民館水道使用料負担金	175千円					
目的	峰山地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。									
主要な事務・事業の概要	地域の生涯学習と交流を促進する機会と場所の提供及び施設の維持管理を行った。					○報償費（講師謝礼） 52千円				
	<利用状況>					○需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕費） 4,203千円				
	区分	利用回数	利用者数	区分	利用回数	利用者数	○役務費（通信運搬費、ごみ処理手数料、火災保険料） 135千円			
	大会議室	599回	17,258人	第2会議室	420回	3,752人	○委託料（宿日直、清掃、エレベーター保守点検ほか） 4,048千円			
	第1会議室	362回	3,911人	視聴覚室	19回	285人	○使用料及び賃借料（テレビ放送受信料） 22千円			
	練習室	410回	3,834人	料理実習室	71回	1,318人				
	講義室	345回	7,279人	展示コーナー	41回	819人				
	和室	781回	10,688人	合計	3,048回	49,144人				
	<主な公民館事業>									
	事業種別	事業・講座名	回数	延べ参加者数	決算額					
	青少年教育	夏休み子ども体験事業	9回	176人	10千円	成果・課題	○地域住民に幅広い学習機会を提供することで、社会教育活動を推進することができた。			
	成人教育	ハーブガーデン講座	14回	204人	12千円		○引き続き、地域住民のニーズ把握に努めるとともに、時代や地域課題に即した事業展開を図る必要がある。			
		花とグリーン講座	1回	21人	6千円		○広報の工夫・充実にも努めるなど、引き続き参加者の増加を図る必要がある。			
		エコクラフト講座	1回	6人	6千円		○施設の老朽化に伴い、適正な維持管理に努める必要がある。			
		お菓子・パン講座	3回	36人	18千円					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局			
	項	04 社会教育費	164千円	193千円	29千円	84.9 %	課	生涯学習課			
	目	02 公民館費				(参考)当初予算額					
	事	02 地域公民館管理運営事業				193千円					
	細事	02 大宮地域公民館管理運営事業	主な財源	諸収入	社会教育事業等参加料	23千円					
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実										
目的	大宮地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。										
主要な事務・事業の概要	地域の生涯学習と交流を促進する機会と場所の提供を行った。										
	<主な公民館事業>										
	事業種別	事業・講座名							回数	延べ参加者数	決算額
	青少年教育	お菓子づくりとお作法教室							1回	20人	6千円
		ハッピーハロウィン							1回	24人	—
		親子で楽しむ科学あそび							1回	22人	10千円
	成人教育	丹後ちりめん講座							3回	23人	10千円
		リフレッシュヨーガ講座							7回	108人	—
		花とグリーン講座							3回	59人	6千円
	○報償費（講師謝金）								32千円		
○需用費（消耗品費）		132千円									
成果・課題	○地域住民に幅広い学習機会を提供することで、社会教育活動を推進することができた。 ○引き続き、地域住民のニーズ把握に努めるとともに、時代や地域課題に即した事業展開を図る必要がある。 ○広報の工夫・充実にも努めるなど、引き続き参加者の増加を図る必要がある。										

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	322千円	414千円	92千円	77.7 %	課	生涯学習課
	目	02 公民館費				(参考)当初予算額		
	事	02 地域公民館管理運営事業				414千円		
	細事	03 網野地域公民館管理運営事業	主な財源	府補 土曜日の教育支援体制等構築事業補助金 (2/3) 24千円 諸収入 社会教育事業等参加料 8千円				
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実							
目的	網野地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。							
主要な事務・事業の概要	地域の生涯学習と交流を促進する機会と場所の提供を行った。							
	<主な公民館事業>							
	事業種別	事業・講座名	回数	延べ参加者数	決算額			
	成人教育	ジオ・山野草ウォーク (3館合同実施)	3回	24人	—			
	芸術文化	網野町ふれあいコンサート	1回	400人	68千円			
	青少年教育	網野町ウィークエンド事業 ユタッコ仲間	8回	312人	36千円			
	○報償費(講師謝金)				36千円			
	○需用費(消耗品費、燃料費)				172千円			
	○役務費(通信運搬費、ごみ持ち込み手数料)				31千円			
	○使用料及び賃借料(会場借上料、テレビ放送受信料)				83千円			
成果・課題	○地域住民に幅広い学習機会を提供することで、社会教育活動を推進することができた。 ○引き続き、地域住民のニーズ把握に努めるとともに、時代や地域課題に即した事業展開を図る必要がある。 ○広報の工夫・充実に努めるなど、引き続き参加者の増加を図る必要がある。							

予算科目

款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
項	04 社会教育費	15,832千円	15,854千円	22千円	99.8 %	課	生涯学習課
目	02 公民館費				(参考)当初予算額		
事	02 地域公民館管理運営事業				835千円		
細事	04 丹後地域公民館管理運営事業	主な財源	諸収入 市有建物損害共済金 69千円				
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		市債 社会教育施設整備事業債 (過疎対策債) 14,600千円				
目的	丹後地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。		市債 社会教育施設整備事業債 (合併特別債) 700千円				

主要な事務・事業の概要

地域の生涯学習と交流を促進する機会と場所の提供及び施設の維持管理、耐震補強等改修工事のための実施設計を行った。						○報償費 (講師謝金、青少年意見発表会用報償物品) 46千円	
<利用状況>						○需用費 213千円	
公民館代替施設【丹後庁舎】						・消耗品費、燃料費、修繕料 (地域公民館屋上防水補修工事)	
公民館代替施設【旧豊栄小学校】						○役務費 (火災保険料) 19千円	
区分	利用回数	利用者数	区分	利用回数	利用者数	○委託料 (バス運転委託料、情報機器リサイクル業務委託料) 190千円	
202会議室	55回	526人	和室	5回	135人	○備品購入費 (角印1個) 8千円	
204会議室	89回	960人	会議室	11回	215人	○丹後地域公民館耐震補強等改修事業関係経費 15,356千円	
305会議室	36回	392人	調理実習室	6回	120人	・手数料 (地域公民館耐震改修計画判定料) 500千円	
306会議室	86回	521人				・地域公民館耐震改修等工事実施設計業務委託料 14,856千円	
合計	266回	2,399人	合計	22回	470人		
<主な公民館事業>							
事業種別	事業・講座名	回数	延べ参加者数	決算額			成果・課題
青少年教育	環境学習「たんごふるさと探検隊」	2回	11人	—	○地域住民に幅広い学習機会を提供することで、社会教育活動を推進することができた。		
	第30回丹後町青少年意見発表会	1回	196人	22千円	○耐震補強等改修工事のための実施設計を計画どおり行い、地域住民の活動場所の早急な確保に寄与した。		
成人教育	トレッキング講座	3回	46人	18千円	○引き続き、地域住民のニーズ把握に努めるとともに、時代や地域課題に即した事業展開を図る必要がある。		
	ジオ・山野草ウォーク (3館合同実施)	3回	24人	6千円	○広報の工夫・充実に努めるなど、引き続き参加者の増加を図る必要がある。		

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	3,082千円	12,000千円	8,918千円	25.6 %	課	生涯学習課
	目	02 公民館費				(参考)当初予算額		
	事	02 地域公民館管理運営事業				12,000千円		
	細事	04 丹後地域公民館管理運営事業（繰越）	市債 社会教育施設整備事業債（合併特例債） 2,900千円					
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		主な財源					
目的	丹後地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。							
主要な事務・事業の概要	丹後地域公民館の耐震補強等改修工事を実施するために、工事場所の地盤調査等業務を行った。							
	○委託料 3,082千円 ・地盤調査等委託料							
				成果・課題	地盤調査の結果、耐震補強等改修工事を実施するために必要な地盤の強度があることが確認できた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																									
	項	04 社会教育費	7,164千円	7,334千円	170千円	97.6 %	課	生涯学習課																																									
	目	02 公民館費				(参考)当初予算額																																											
	事	02 地域公民館管理運営事業				7,295千円																																											
	細事	05 弥栄地域公民館管理運営事業	主 な 財 源	使用料	弥栄地域公民館使用料	56千円																																											
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実	諸収入	社会教育事業等参加料	15千円																																													
目的	弥栄地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。																																																
主要な事務・事業の概要	地域の生涯学習と交流を促進する機会の提供及び、施設の維持管理を行った。				○報償費（講師謝金） 42千円																																												
	<利用状況> <table><tr><th>区分</th><th>利用回数</th><th>利用者数</th></tr><tr><td>大会議室</td><td>240回</td><td>6,485人</td></tr><tr><td>小会議室</td><td>273回</td><td>6,932人</td></tr><tr><td>和室（1 階）</td><td>80回</td><td>4,560人</td></tr><tr><td>和室（2 階）</td><td>76回</td><td>5,172人</td></tr><tr><td>大ホール</td><td>225回</td><td>11,243人</td></tr><tr><td>料理実習室</td><td>78回</td><td>2,371人</td></tr><tr><td>合計</td><td>972回</td><td>36,763人</td></tr></table> <主な公民館事業> <table><tr><th>事業種別</th><th>事業・講座名</th><th>回数</th><th>延べ参加者数</th><th>決算額</th></tr><tr><td rowspan="3">成人教育</td><td>お菓子教室</td><td>4回</td><td>143人</td><td>6千円</td></tr><tr><td>剪定講座</td><td>1回</td><td>47人</td><td>30千円</td></tr><tr><td>花とグリーン講座</td><td>1回</td><td>9人</td><td>6千円</td></tr></table>				区分	利用回数	利用者数	大会議室	240回	6,485人	小会議室	273回	6,932人	和室（1 階）	80回	4,560人	和室（2 階）	76回	5,172人	大ホール	225回	11,243人	料理実習室	78回	2,371人	合計	972回	36,763人	事業種別	事業・講座名	回数	延べ参加者数	決算額	成人教育	お菓子教室	4回	143人	6千円	剪定講座	1回	47人	30千円	花とグリーン講座	1回	9人	6千円	○需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、修繕料、光熱水費） 3,246千円 ○役務費（通信運搬費、手数料、保険料） 98千円 ○委託料（宿日直、清掃ほか施設管理委託料） 3,540千円 ○使用料及び賃借料（テレビ放送受信料、土地借上料） 238千円		
区分	利用回数	利用者数																																															
大会議室	240回	6,485人																																															
小会議室	273回	6,932人																																															
和室（1 階）	80回	4,560人																																															
和室（2 階）	76回	5,172人																																															
大ホール	225回	11,243人																																															
料理実習室	78回	2,371人																																															
合計	972回	36,763人																																															
事業種別	事業・講座名	回数	延べ参加者数	決算額																																													
成人教育	お菓子教室	4回	143人	6千円																																													
	剪定講座	1回	47人	30千円																																													
	花とグリーン講座	1回	9人	6千円																																													
	成果・課題				○地域住民に幅広い学習機会を提供することで、社会教育活動を推進することができた。 ○引き続き、地域住民のニーズ把握に努めるとともに、時代や地域課題に即した事業展開を図る必要がある。 ○広報の工夫・充実に努めるなど、引き続き参加者の増加を図る必要がある。 ○施設の老朽化に伴い、適正な維持管理に努める必要がある。																																												

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	545千円	611千円	66千円	89.1 %	課	生涯学習課	
	目	02 公民館費				(参考)当初予算額			
	事	02 地域公民館管理運営事業				611千円			
	細事	06 久美浜地域公民館管理運営事業	諸収入 社会教育事業等参加料 20千円						
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		主な財源						
目的	久美浜地域の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として設置している地域公民館の管理運営を行い、地域住民の身近な学習・交流機会の確保と充実を図る。								
主要な事務・事業の概要	地域の生涯学習と交流を促進する機会と場所の提供を行った。 なお、令和元年8月2日から久美浜庁舎内に移転し業務を行った。			○報償費（報償金） 21千円					
	＜主な公民館事業＞			○需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費） 403千円					
	成人教育	ジオ・山野草ウォーク （3館合同実施）	3回	24人		6千円	○役務費（通信運搬費、手数料、火災保険料） 83千円		
		ツインぼーるエクササイズ教室	1回	12人	6千円	○委託料（施設管理委託料） 20千円			
		からだメンテナンス教室	1回	15人	6千円	○使用料及び賃借料（印刷機借上料、テレビ放送受信料） 18千円			
	家庭教育	親と子のふるさと教室（秋編）	1回	25人	3千円				
				成果・課題	○地域住民に幅広い学習機会を提供することで、社会教育活動を推進することができた。 ○引き続き、地域住民のニーズ把握に努めるとともに、時代や地域課題に即した事業展開を図る必要がある。 ○広報の工夫・充実にも努めるなど、引き続き参加者の増加を図る必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	15,110千円	15,304千円	194千円	98.7 %	課	生涯学習課
	目	02 公民館費				(参考)当初予算額		
	事	50 公民館一般経費				15,304千円		
	細事	01 公民館一般経費						
基本計画			主な財源					
目的	地域公民館長の配置に係る経費及び公用車の維持管理等、公民館運営に係る経費							
主要な事務・事業の概要	○地域公民館長報酬・共済費			13,835千円	○使用料及び賃借料		112千円	
	・報酬（月額報酬166,500円×12か月×6人）			11,988千円	・有料道路通行料		18千円	
	・社会保険料			1,811千円	・駐車場使用料		2千円	
	・労災保険料			36千円	・AED借上料		92千円	
	○旅費（公民館大会参加等）			210千円	○京都府公民館連絡協議会分担金		34千円	
	○需用費			719千円	○公課費（自動車重量税）		27千円	
	・消耗品費（公民館大会資料代等）			53千円				
	・燃料費（公用車燃料）			308千円				
	・食糧費（来客用お茶）			6千円				
	・修繕費（車検修理費）			352千円				
	○役務費（自動車登録手数料、自動車損害保険料）			149千円	成果・課題	地域公民館の安定的な運営体制と公民館職員としての研修の機会を確保することができた。		
○委託料（バス運転委託料）			24千円					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局			
	項	04 社会教育費	65,237千円	65,516千円	279千円	99.5 %	課	生涯学習課			
	目	03 図書館費				(参考)当初予算額					
	事	01 図書館管理運営事業				74,959千円					
	細事	01 図書館管理運営事業									
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実	主な財源	寄附金	ふるさと応援寄附金	400千円						
			繰入金	ふるさと応援基金繰入金	5,000千円						
			市債	社会教育施設整備事業債（過疎対策債）	3,400千円						
目的	資料や情報を収集、整理、保存し、提供することで、市民の読書、調査研究等の要求に応え、生涯学習活動を推進する。										
主要な事務・事業の概要	○図書館協議会委員報酬・費用弁償（委員10人、3回開催）		102千円		<利用状況等>						
	○市立図書館（2館）図書室（4室）の管理運営費		53,419千円								
	・臨時職員賃金、共催費（臨時職員18人及び臨時代行職員）		32,263千円								
	・図書購入費（AV資料含む）		7,180千円								
	・雑誌及び新聞購入費		1,291千円								
	・図書システム・業務用端末等更新		6,395千円								
	・図書システム利用料、保守委託料		2,850千円								
	・その他経費（旅費、光熱水費、空調設備保守点検委託料ほか）		3,440千円								
	○久美浜図書室移転整備費（令和元年8月2日移転）		8,247千円								
	・書架、図書等移転作業委託料		497千円								
	・オープニングセレモニー業務委託料		200千円								
	・書架等備品購入費		7,550千円								
	○丹後図書室移転整備費（令和2年10月末移転予定）		3,469千円								
	・移転改修工事設計業務委託料		3,408千円								
	・建築確認手数料		61千円								
<主なサービス内容>				成果・課題							
・資料（図書・AV資料・雑誌新聞）の収集、整理、保存、貸出 ・図書館相互協力											
・レファレンスサービス ・おはなし会、大人を対象とした朗読等の行事開催											
・学校、保育所、こども園等との連携による読書推進事業 など											
				○6館（室）により市内全域にサービスを行うとともに、久美浜図書室を移転整備し、図書サービスの充実及び環境整備を図ることができた。							
				○学校・園との連携、事業の実施など、図書を利用した多様な学習機会を提供できた。							
				○未利用者等への図書館活動の周知に努め、利用拡大を図る必要がある。							
				○丹後図書室の移転整備を進めるとともに、今後の図書館の在り方について、引き続き検討する必要がある。							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	406千円	426千円	20千円	95.3 %		
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	事	50 社会教育総務一般経費				426千円		
	細事	01 社会教育総務一般経費						
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実	主な財源					
目的	社会教育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、女性教育活動団体に対しその活動を支援するための補助金を交付し生涯学習の振興を図る。							
主要な事務・事業の概要	○旅費（研修会参加）		20千円					
	○需用費（消耗品費）		20千円					
	○使用料及び賃借料（有料道路通行料）		5千円					
	○京丹後市連合婦人会活動補助金		361千円					
	活動内容：講演会、各種ボランティア、管外研修 ほか							
				成果・課題	○社会教育関係職員の資質向上のための研修機会を確保することができた。 ○市連合婦人会の活動を支援することにより、女性の自主的な学習活動、ボランティア活動等の推進に寄与した。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局									
	項	04 社会教育費	182千円	246千円	64千円	73.9 %		課	生涯学習課								
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額											
	事	12 人権教育事業				246千円											
	細事	01 人権教育事業				国補 府補 府補	障害者地域生活支援事業費補助金（1/2） 人権問題啓発事業費補助金（1/2） 障害者地域生活支援事業費補助金（1/4）			11千円 62千円 5千円							
基本計画	22 人権を尊重するまちづくり	主な財源															
目的	あらゆる人権問題について正しく理解し、認識を深めるための学習機会を提供するなど、人権教育を推進することにより、人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現を目指す。																
主要な事務・事業の概要	人権に関する多様な課題についての学習機会を設けるとともに、障害者の社会参加や交流を促進する研修会を実施した。			○聴覚障害者交流研修会 23千円													
	○人権教育研究京丹後市大会 128千円			<table><tr><td>実施日</td><td>令和元年10月25日</td></tr><tr><td>会 場</td><td>大宮保健センター</td></tr><tr><td>内 容</td><td>手話歌、ユニボッチャ体験、エコクラフト体験</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>20人</td></tr></table>					実施日	令和元年10月25日	会 場	大宮保健センター	内 容	手話歌、ユニボッチャ体験、エコクラフト体験	参加者数	20人	
	実施日	令和元年10月25日															
	会 場	大宮保健センター															
	内 容	手話歌、ユニボッチャ体験、エコクラフト体験															
参加者数	20人																
<table><tr><td>実施日</td><td>令和元年8月21日</td></tr><tr><td>会 場</td><td>京都府丹後文化会館</td></tr><tr><td>演 題</td><td>「つながることで 見えてきたもの」</td></tr><tr><td>講 師</td><td>三重県松阪市立第二小学校 世古口 静香 教諭</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>320人</td></tr></table>			実施日	令和元年8月21日	会 場	京都府丹後文化会館	演 題	「つながることで 見えてきたもの」	講 師	三重県松阪市立第二小学校 世古口 静香 教諭	参加者数	320人	○その他経費（消耗品費） 14千円				
実施日	令和元年8月21日																
会 場	京都府丹後文化会館																
演 題	「つながることで 見えてきたもの」																
講 師	三重県松阪市立第二小学校 世古口 静香 教諭																
参加者数	320人																
○視覚障害者交流研修会 17千円																	
<table><tr><td>実施日</td><td>令和元年6月27日</td></tr><tr><td>会 場</td><td>大宮保健センター</td></tr><tr><td>内 容</td><td>ハーモニカ演奏、手で見える絵本紹介、ユニボッチャ体験</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>24人</td></tr></table>			実施日	令和元年6月27日	会 場	大宮保健センター	内 容	ハーモニカ演奏、手で見える絵本紹介、ユニボッチャ体験	参加者数	24人	成果・課題	○人権講演会の実施により、市民が人権問題について理解と認識を深める機会を提供することができた。 ○参加者を集めることが難しい傾向にあるが、人権教育は重要な取組であり、時代に合った興味関心を持たれるテーマを設定し、市内の各種団体や組織との連携を図るなど、さらに多くの市民に人権について考えてもらう機会を提供することが必要である。					
実施日	令和元年6月27日																
会 場	大宮保健センター																
内 容	ハーモニカ演奏、手で見える絵本紹介、ユニボッチャ体験																
参加者数	24人																

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	33,475千円	33,475千円	0千円	100.0 %		課	生涯学習課
	目	01 社会教育総務費				(参考)当初予算額			
	事	11 芸術文化事業				33,475千円			
細事	01 芸術文化事業		主な財源						
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実								
目的	市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送ることができるよう文化芸術活動を支援し、ゆとりと潤いのある社会づくりを推進する。								
主要な事務・事業の概要	文化芸術活動の推進を図るため、文化活動団体への支援を行い、市民が優れた文化芸術に触れる機会の提供及び市民による文化活動の充実に努めた。			○丹後文化芸術祭実行委員会補助金 1,300 千円 丹後地域2市2町の住民参加の文化事業として、幼児から高齢者まで、舞台部門（6事業）、展示部門（2事業）、セミナー（2事業）を実施した。					
	○京都：Re-Search実行委員会負担金 1,500 千円 若手アーティスト5人が本市の歴史・自然・文化をテーマにした現代アート作品を制作し、市内で展示会を実施した。 ・展示会 9日間開催、延べ参加者数：631人			○小町ろまん全国短歌大会開催補助金 125 千円 ・開催日 令和元年11月30日（土） ・会場 アグリセンター大宮 ・短歌投稿 一般の部424首、高校生の部744首、中学生の部1,457首 小学生の部519首（合計）3,144首 ・大会内容 添削教室、開会式典、記念講演、入選作品の発表・表彰・講評 ・参加人数 100人					
	○京都府丹後文化事業団運営補助金 27,000 千円 映画上映やコンサート、公演など多くの事業を実施し、丹後地域における豊かな文化の振興及び普及に努めた。								
	○京丹後市文化協会活動費補助金 3,500 千円 ・加盟団体 151団体、2,026人 ※令和2年3月末現在 総合文化祭として、「舞台芸術祭」や「総合作品展」を実施したほか、支部事業等を多数実施し、市民の芸術鑑賞機会や自主的な活動の場を提供した。								
	○京丹後文化のまちづくり推進事業補助金 50 千円 廃校になった旧五十河小学校、旧野間小学校の校歌保存事業を実施した。			成果・課題 ○子どもから大人まで、幅広い世代が優れた文化を鑑賞する機会の提供及び地域文化の普及・振興等を推進し、文化芸術活動の充実を図ることができた。 ○市民ニーズを的確に把握した事業の推進、文化協会等各団体の更なる自立運営に向けて支援していく必要がある。 ○京丹後市文化芸術振興条例に基づき、文化芸術に関する施策の総合的、計画的な推進方策等の在り方を検討する必要がある。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																							
	項	04 社会教育費	4,333千円	4,699千円	366千円	92.2 %	課	生涯学習課																							
	目	02 公民館費				(参考)当初予算額																									
	事	03 地区公民館管理運営事業				4,699千円																									
	細事	01 地区公民館管理運営事業	諸収入 網野、新庄公民館光熱水費負担金 272千円																												
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実				主な財源																									
目的	地域住民の身近な生涯学習・地域活動の拠点である、網野地域の地区公民館を維持・管理する。																														
主要な事務・事業の概要	網野地域の地区公民館の施設管理費、補助金など、維持管理に係る経費を支出した。			<利用状況>																											
	○地区公民館施設管理費			・網野地区公民館																											
	・地区公民館施設管理委託料（1館分） 480千円			<table><tr><td>区 分</td><td>利用回数</td><td>利用者数</td></tr><tr><td>大広間</td><td>135回</td><td>5,109人</td></tr><tr><td>大会議室</td><td>119回</td><td>3,141人</td></tr><tr><td>小会議室</td><td>154回</td><td>3,069人</td></tr><tr><td>公民館会議室</td><td>27回</td><td>499人</td></tr><tr><td>和 室</td><td>158回</td><td>1,182人</td></tr><tr><td>調理室</td><td>6回</td><td>120人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>599回</td><td>13,120人</td></tr></table>					区 分	利用回数	利用者数	大広間	135回	5,109人	大会議室	119回	3,141人	小会議室	154回	3,069人	公民館会議室	27回	499人	和 室	158回	1,182人	調理室	6回	120人	合 計	599回
区 分	利用回数	利用者数																													
大広間	135回	5,109人																													
大会議室	119回	3,141人																													
小会議室	154回	3,069人																													
公民館会議室	27回	499人																													
和 室	158回	1,182人																													
調理室	6回	120人																													
合 計	599回	13,120人																													
成果・課題	○適正に維持管理を行うことにより、施設の機能、利用者の利便性を維持確保することができた。			○網野地域には地区集会施設の一部を公民館施設として占用しているものがある。この施設管理費について負担割合を設定し、補助金などにより支出しているが、他地域の地区公民館の現状を踏まえ、市負担の軽減・廃止に向けて調整を図る必要がある。																											

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局															
	項	04 社会教育費	7,756千円		7,896千円	140千円	98.2 %	課	生涯学習課															
	目	05 社会教育施設費					(参考)当初予算額																	
	事	01 峰山いさなご施設管理運営事業					7,759千円																	
細事	01 峰山いさなご施設管理運営事業		主な財源	使用料	公有財産使用料	58千円																		
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実			使用料	峰山林業総合センター使用料	79千円																		
				使用料	峰山いさなご工房使用料	586千円																		
				使用料	峰山いさなごコート使用料	208千円																		
			諸収入	峰山林業総合センター木工教室等材料代	50千円																			
目的	林業の振興のほか、スポーツ及びレクリエーション活動による市民の健康づくり、生きがいづくりを推進し、市民福祉の向上を図る。		諸収入	太陽光発電余剰電力料	267千円																			
主要な事務・事業の概要	市民の学習と交流を促進する機会の提供及び施設の維持管理を行った。				○管理運営経費 3,166千円																			
	<利用状況>				・需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料） 2,465千円																			
	<table><tr><td>区 分</td><td>利用回数</td><td>利用人数</td></tr><tr><td>林業センター</td><td>160回</td><td>1,481人</td></tr><tr><td>いさなご工房</td><td>280回</td><td>992人</td></tr><tr><td>いさなごコート</td><td>307回</td><td>6,240人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>747回</td><td>8,713人</td></tr></table>				区 分	利用回数	利用人数	林業センター	160回	1,481人	いさなご工房	280回	992人	いさなごコート	307回	6,240人	合 計	747回	8,713人	・役務費（通信運搬費、浄化槽法定検査手数料、火災保険料） 158千円				
	区 分	利用回数	利用人数																					
	林業センター	160回	1,481人																					
	いさなご工房	280回	992人																					
	いさなごコート	307回	6,240人																					
	合 計	747回	8,713人																					
					・委託料（消防設備等保守点検委託料、浄化槽維持管理委託料） 300千円																			
					・使用料及び賃借料（テレビ放送受信料、機械器具借上料） 52千円																			
				・備品購入費（パソコン1台） 191千円																				
○管理者及び臨時職員配置に係る経費 4,590千円																								
・施設管理者報酬（1人） 1,998千円																								
・共済費（社会保険料、労災保険料、雇用保険料） 339千円																								
・臨時職員賃金（2人） 2,209千円																								
・旅費 44千円																								
				成果・課題	適切な施設の管理及び貸し出し、木工・陶芸の指導、定期講座の実施などを通して、市民に学習と交流の機会を提供し、スポーツ・文化活動の振興、健康づくりの推進などに寄与することができた。																			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	15,340千円	15,498千円	158千円	98.9 %		
	目	05 社会教育施設費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	事	02 マスターズビレッジ 管理運営事業				14,965千円		
	細事	01 マスターズビレッジ 管理運営事業	主な財源	使用料	大宮ふれあい工房使用料		1,667千円	
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実	使用料		大宮ふれあいスポーツ広場使用料		246千円		
		諸収入		大宮ふれあい工房関係諸収入		27千円		
目的	大宮ふれあい工房（陶芸・染色体験施設等）、ふれあいスポーツ広場等を管理運営することで、市民の交流及び健康づくりの場を提供し、生涯学習の推進を図る。							
主要な事務・事業の概要	市民の学習と交流を促進する機会の提供及び施設の維持管理を行った。		○マスターズビレッジ施設管理運営委託料 11,015 千円 委託先：（一社）京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部					
	＜利用状況＞		○施設維持管理経費 3,944 千円					
	ふれあい工房	展示室	利用者数	2,697人				・需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料等） 2,971 千円
		会議室	利用者数	979人				・役務費（通信運搬費、火災保険料） 119 千円
		陶芸体験	入場者数	1,123人				・委託料（電気設備保安管理委託料、草刈委託料等） 569 千円
			(内体験者数)	(821人)				・使用料及び賃借料（テレビ放送受信料、清掃用具借上料等） 61 千円
		染色体験	入場者数	695人				・備品購入費（パソコン1台） 224 千円
			(内体験者数)	(540人)				
	その他	利用者数	3,061人					
	ふれあいスポーツ広場		利用者数	6,308人				○体験事業経費（材料代） 381 千円
合 計		14,863人						
成果・課題			○陶芸、染色実習室、展示室、会議室及びスポーツ広場の利用提供並びに各種講座及び教室を実施することで、市民の生きがいづくり及び健康増進に寄与することができた。 ○施設の老朽化が進行する中、施設所有者である京都府等と、今後の適切な維持管理や運営の在り方を検討する必要がある。					

予算科目	款	06 農林水産業費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 農業費	6,880千円	7,147千円	267千円	96.2 %		
	目	07 農業関連施設費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	事	01 アグリセンター管理運営事業				7,147千円		
	細事	01 アグリセンター管理運営事業	使用料	アグリセンター使用料	1,006千円			
基本計画	02 6次産業化・ブランド化で農林業を振興	主な財源						
目的	施設の維持管理及び運営を行い、農業・農村の活性化及び地域住民の福祉・健康増進に寄与する。							
主要な事務・事業の概要	地域農林業の振興、生涯学習活動の推進及び地域福祉の増進を図るよう、施設の維持管理を行った。			＜利用状況＞				
	○需用費	3,898千円				区 分	利用回数	利用人数
	消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料（地盤・擁壁等修繕、多目的ホール空調設備・照明修繕等）					農業技術研修室	203回	2,120人
	○役務費（通信運搬費、保険料）	48千円				視聴覚教育室	263回	7,134人
	○委託料	2,906千円				地域活性化研修室	157回	3,445人
	施設清掃、休日・夜間管理業務、設備保守管理、移動観覧席点検、空調設備保守点検、自動ドア保守点検、グリストラップ処理、害虫駆除、消防設備等保守点検、特殊建築物・設備定期保守業務					多目的ホール（エントランス含む）	182回	14,664人
	○使用料及び賃借料（テレビ放送受信料）	7千円				調理加工実習室	33回	645人
	○備品購入費（掃除機1台）	21千円				合 計	838回	28,008人
			成果・課題	○農林業の振興にかかる研修会・講演会をはじめ、生涯学習や福祉など幅広い分野で施設活用ができた。 ○築後20年以上が経過する中で、設備や機材の老朽化が目立つため、計画的な修繕を実施するなど、適切な施設管理を行う必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局			
	項	04 社会教育費	1,235千円	1,256千円	21千円	98.3 %	課	生涯学習課			
	目	05 社会教育施設費				(参考)当初予算額					
	事	03 たちばな会館管理運営事業				1,199千円					
	細事	01 たちばな会館管理運営事業	諸収入 たちばな会館光熱水費負担金 308千円								
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実	主な財源									
目的	橋地区における生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。										
主要な事務・事業の概要	地域の生涯学習と交流を促進する機会の提供及び施設の維持管理を行った。										
	<利用状況>			○施設維持管理費 1,235千円							
				・需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕費） 690千円							
				・役務費（通信運搬費、火災保険料） 65千円							
				・委託料（施設管理委託料） 480千円							
						○地域の学習活動及びコミュニティ活動の拠点施設として適正に維持管理することで、施設を活用した効果的な地域活動を促進することができた。					
						○かねてより検討している施設の管理方法などの見直しについては、引き続き地元の意向を聞き、進めていく必要がある。					
						○利用が減少している図書室については、令和2年4月末をもって閉室とし、今後は大会議室として利用提供していく。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局			
	項	04 社会教育費	1,239千円	1,268千円	29千円	97.7 %					
	目	05 社会教育施設費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課			
	事	04 網野教育会館管理運営事業				1,268千円					
	細事	01 網野教育会館管理運営事業									
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実	主な財源									
目的	教育及び地域の文化活動・生涯学習の拠点として当該施設を管理運営し、地域住民に各種活動の場を提供するとともに、施設の利用の促進を図る。										
主要な事務・事業の概要	地域の生涯学習と交流を促進する機会の提供及び施設の維持管理を行った。			○施設維持管理費 1,239千円							
	<利用状況>			・需用費（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料） 539千円							
				・役務費（通信運搬費、火災保険料等） 47千円							
				・委託料（施設管理委託料、浄化槽維持管理委託料） 630千円							
				・使用料及び賃借料（テレビ放送受信料） 14千円							
			・原材料費（駐車場整備用砕石） 9千円								
成果・課題				○人権学習や地域の拠点施設として適正に維持管理することで、施設を活用した効果的な学習及び地域活動を促進することができた。 ○かねてより検討している施設の管理方法などの見直しについては、引き続き地元の意向を聞き、進めていく必要がある。							

京丹後市教育振興計画
施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
文化財保護課	新谷 勝行

重点目標	6	歴史文化を活用し、郷土への愛着と誇りを育みます
基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	①京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育の導入にあわせ、「丹後学」を積極的に展開します。特に、ジオパークに認定された地質遺産を活用したフィールド学習を、小学生を対象に実施します。 ②子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③文化財セミナーや京丹後史博士育成講座等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図ります。
2. 文化財の保護と活用	①市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新等を通して文化財の保全を図ります。 ②京丹後市史編さん事業での調査成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③京丹後市デジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡を整備し、活用することで郷土への誇りと愛着を培い、併せて古代丹後の輝かしい資産を観光資源としても活用します。
3. 資料館施設の整備充実	①市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ②児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③郷土の歴史や文化財の調査を進め、貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野銚子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元の立場からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課			
①京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育の導入にあわせ、「丹後学」を積極的に展開します。特に、ジオパークに認定された地質遺産を活用したフィールド学習を、小学生を対象に実施します。					
②子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。					
③文化財セミナーや京丹後史博士育成講座等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図ります。					
1	文化財保護啓発事業	文化財保護課			
市内に数多く残されている文化財や調査成果などを市民などに公開することで郷土の歴史や文化財について学ぶことのできる機会を提供し、その認識を高める。		-	-	-	統合(整理)

2. 文化財の保護と活用		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新等を通して文化財の保全を図ります。 ② 京丹後市史編さん事業での調査成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③ 京丹後市デジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡を整備し、活用することで郷土への誇りと愛着を培い、併せて古代丹後の輝かしい資産を観光資源としても活用します。					
2	市指定文化財等補助金 文化財保護課	2,000	2,000	2,000	現状維持
文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。					
3	史跡等維持管理事業 文化財保護課	1,357	1,837	1,133	現状維持
指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。					
4	遺跡整備事業 文化財保護課	13,301	27,659	31,174	拡大
丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。					
5	遺跡整備事業【繰越】 文化財保護課	-	18,473	-	
丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。					
6	遺跡発掘調査等事業 文化財保護課	4,331	6,031	4,419	拡大
発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。					
7	遺跡発掘調査等事業【繰越】 文化財保護課	2,317	-	-	
平成29年度より実施した途中ヶ丘公園陸上競技場整備計画に伴う途中ヶ丘遺跡の試掘調査を行い、その成果をまとめた報告書を刊行することにより文化財保護を図るとともに活用につなげる。					
3. 資料館施設の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課				
① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め、貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。					
8	郷土資料館管理運営事業 文化財保護課	5,981	6,865	3,132	拡大
民俗資料等の収蔵・調査・公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。					
9	古代の里資料館管理運営事業 文化財保護課	9,529	12,656	59,601	拡大
考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。					
10	指定管理施設運営事業 文化財保護課	8,505	8,488	8,488	現状維持
琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。					
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業		決算額(単位:千円)			事務の改善
事務事業名称・事業内容(実績) 担当課		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
11	文化財保護審議会委員設置事業 文化財保護課	191	155	234	現状維持
文化財の指定解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。					
12	文化財保護一般経費 文化財保護課	295	364	324	現状維持
文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。					
計		47,807	84,528	110,505	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本の方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度		年度		年度	
	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468 (5事業、17講座)	H25	1,459	R1	1,700	R6
	資料館、文化館入館者数	人	13,808 (3施設)	H25	13,163	R1	15,000	R6
	史跡整備	遺跡	6	H25	7	R1	8	R6
	文化協会加盟サークル数	団体	170	H25	151	R1	200	R6
	文化芸術事業の開催回数	回	-	R1	70	R1	100	R6
	京都府丹後文化会館利用者数	人	-	R1	28,896	R1	42,000	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本の方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	▲	《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》 文化財セミナー(1回、100名)、京丹後史博士育成講座(8回、165名)、網野銚子山古墳発掘調査現地説明会(1回、166名)等の参加者のほか、高齢者大学・出前講座等の対応(31回、1,028名)があった。30年度末の実績値を上回ることができた。 今後、魅力ある講座や企画を打ち出し、目標値に近づけるようにしたい。 《資料館、文化館入館者数》 開館2年目の郷土資料館は、開館記念無料開放を5月上旬まで実施した昨年度と比べ入館者数が大きく減少した。また丹後古代の里資料館、琴引浜鳴き砂文化館は、10連休のあった5月は入館者が増加したが、新型コロナウイルスの影響が出始めた3月の入館者数が減少したため、結果的に2館ともに入館者が減少した。 各館ともに、外的要因に打ち勝つような魅力ある企画を打ち出し、今後の集客増につなげていきたい。 《史跡整備》 京丹後市史跡整備検討委員会の指導を得ながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、30年度より整備事業を進めている。 令和元年度は、検討委員会の指導を得ながら墳丘樹木の整理伐採、周濠の整備を行った。令和2年度以降も引き続き、環境整備事業を進め、令和5年度には完成予定である。 《文化協会加盟サークル数》 各加盟団体が実施の教室や大会、市協会が実施の総合文化祭を通じて、市民のかたへ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援していく。 《文化芸術事業の開催回数》 各地区文化祭、各町文化祭、文化協会総合文化祭、サークル体験、小町ろまん短歌大会、アーティスト・イン・レジデンス、文化芸術祭事業等例年どおりの文化芸術活動が実施できた。 R2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の関係で多くの事業が中止となり目標数が減少する。 《京都府丹後文化会館利用者数》 令和元年度は、2月までは例年通りの事業を開催できたが、2月・3月は新型コロナウイルス感染症の関係で事業中止となり利用者が減少した。 R2年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けるため、目標を下方修正する。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	京丹後史博士育成講座、文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応も行い、学習する機会の充実を図る。
	2	網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の補修、園路整備、周濠整備のほか、進入道路、駐車場等の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。
	3	丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	2,000千円	2,000千円	0千円	100.0 %	課	文化財保護課
	目	06 文化財保護費				(参考)当初予算額		
	事	03 指定文化財等管理事業				2,000千円		
	細事	01 市指定文化財等補助金	主な財源					
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	文化財の修理などの保全事業に対して補助金を交付することにより、貴重な文化財を守り次世代に引き継ぐ。							
主要な事務・事業の概要	○京丹後市指定文化財等補助金 27件 2,000千円 (内訳) ・国、府指定登録文化財補助金該当 9件 1,081千円 ・京都府社寺等文化資料保全補助金該当 18件 919千円 (京丹後市指定文化財及び未指定文化財のうち補助要件を満たすもの) 事業対象は神社・寺院建物の修理、覆屋・収蔵庫の修理、郷土芸能の道具の修理・新調、史跡の修理などで、事業費の総額は、24,781千円であった。 ※参考 平成30年度事業実績 補助件数 14件 補助金額 2,000千円 事業総額 16,523千円							
				成果・課題	市内に数多く残る文化財の保全のために、修理等への補助金を交付することにより、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	1,837千円	1,851千円	14千円	99.2 %	課	文化財保護課
	目	06 文化財保護費				(参考)当初予算額		
	事	03 指定文化財等管理事業				1,203千円		
	細事	02 史跡等維持管理事業	主な財源					
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	指定文化財及びそれに関連する施設の草刈や補修等の維持管理を行い、指定文化財の適切な管理活用を図る。							
主要な事務・事業の概要	○コウノトリモニタリング事業 133 千円 国指定特別天然記念物・コウノトリが市内3か所で営巣したため、モニタリング監視員を置き、観察・記録するとともに、巣周辺の立ち入り制限などの保護活動を行った。			○指定文化財関連施設管理経費 115 千円 郷村新厩、丹後震災記念館等の指定文化財施設の維持管理経費 90 千円 火災保険料（旧口大野村役場、郷村新厩、浜詰遺跡復元住居 25 千円				
	○史跡等草刈・環境美化委託 997 千円 史跡等用地の草刈、清掃等の維持管理を行った。 神明山古墳、函石浜遺跡、赤坂今井墳墓、産土山古墳、郷村新厩、旧口大野村役場、湯舟坂2号墳、竹野神社環境保全地区、高山12号墳、遠慮遺跡、黒部銚子山古墳、震災記念館用地、大谷古墳、浜詰遺跡、細川ガラシャ隠棲地、岡1号墳 計16件 ○指定文化財看板等修繕 592 千円 ・説明板、標柱、案内看板等修繕 290 千円 （遠慮遺跡、市指定文化財鹿野八幡神社、鳴き砂注意喚起） ・浜詰遺跡竪穴住居修繕（市指定史跡） 299 千円 ・看板土地借上料（3か所） 3 千円			成果・課題	○史跡や周辺施設等の環境整備を行うことにより、文化財の保全が図られ、文化財見学等の利用促進につながった。 ○課題として、指定文化財の案内看板等に未整備のものがあるため、適時整備を行い、来訪者の利便性向上と文化財の保護啓発を図る必要がある。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				99.6 %		
	目	06 文化財保護費	27,659千円	27,760千円	101千円	(参考)当初予算額	課	文化財保護課
	事	05 遺跡整備事業				31,290千円		
	細事	01 遺跡整備事業		国補 市債	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(1/2) 遺跡整備事業費(合併特例債)			13,255千円 12,100千円
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進					
目的			丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。					
主要な事務・事業の概要			国史跡網野銚子山古墳について、平成23年度策定の「網野銚子山古墳整備基本計画」に基づき、史跡の保存を図りつつ令和元年度分の環境整備工事を行った。整備工事は、条例に基づき設置した京丹後市史跡整備検討委員会、文化庁等関係機関の指導を受け実施した。 併せて、平成27～29年度に実施した発掘調査について、整理報告を行い、発掘調査報告書を発刊した。 ・史跡整備検討委員会 3回開催(7/1、7/31、1/31) ・発掘調査報告書 300部印刷 ○網野銚子山古墳整備事業費 27,659 千円 ・報酬 史跡整備検討委員会委員報酬(委員12人) 104 千円 ・賃金 発掘調査補助員賃金 620 千円 ・旅費 史跡整備検討委員会委員参集旅費、協議旅費 150 千円 ・需用費 整備事業事務消耗品費 30 千円 - 発掘調査報告書印刷製本費 198 千円 ・委託料 環境整備工事実施設計・監理委託料 4,098 千円 - 報告書図面作成委託料 484 千円 - 維持管理草刈委託料 665 千円 ・工事請負費 環境整備工事費 21,310 千円 - 整理伐採218本、墳丘裾復元盛土291㎡、周溝表示2,300㎡ほか					
					成果・課題	史跡整備検討委員会の指導を受け、網野銚子山古墳の保存を図るための環境整備工事の一部を遂行できた。		

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費				91.0 %		
	目	06 文化財保護費	18,473千円	20,280千円	1,807千円	(参考)当初予算額	課	文化財保護課
	事	05 遺跡整備事業				20,280千円		
	細事	01 遺跡整備事業(繰越)		国補 市債	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(1/2) 遺跡整備事業費(過疎対策債)			8,858千円 9,600千円
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進					
目的			丹後の特色と歴史を物語る重要な文化財の環境整備を推進し、教育・観光・地域づくりの資源などへ有効に活用する。					
主要な事務・事業の概要			国史跡網野銚子山古墳について、平成23年度策定の「網野銚子山古墳整備基本計画」に基づき、史跡の保存を図りつつ平成30年度から令和元年度への繰越分の環境整備工事を行った。 ○網野銚子山古墳整備事業費 18,473 千円 ・委託料 環境整備工事監理委託料 977 千円 ・工事請負費 環境整備工事費 17,496 千円 - 整理伐採419本、墳丘補修盛土4か所、周溝表示2,084㎡、丸太階段1か所設置ほか					
					成果・課題	史跡整備検討委員会の指導を受け、網野銚子山古墳の保存を図るための環境整備工事の一部を遂行できた。		

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	6,031千円	6,394千円	363千円	94.3 %		
	目	06 文化財保護費				(参考)当初予算額	課	文化財保護課
	事	06 遺跡発掘調査等事業				6,249千円		
	細事	01 遺跡発掘調査等事業	主な財源	国補 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（1/2）		2,550千円		
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	府補 埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金（1/4）		1,275千円				
目的	発掘調査等により、市内の遺跡を効果的に保護するための資料を得るとともに、開発等により現地保存の困難な遺跡の記録保存を図り、文化財の保護活用につなげる。							
主要な事務・事業の概要	以下の発掘調査を実施し、開発事業計画に伴う調査の報告書を発行した。 ・整備事業に伴う調査：網野銚子山古墳（網野町） ・開発事業計画に伴う試掘調査：途中ヶ丘遺跡（峰山町）、太田古墳群（弥栄町）、女城跡（弥栄町）、加悦岡遺跡（久美浜町）、浜詰遺跡（網野町） ○発掘調査等経費 6,031 千円 ・賃金 発掘調査補助員賃金 2,947 千円 ・旅費 協議旅費 11 千円 ・需用費 発掘調査消耗品、発電機ガソリン代、器具修繕料等 333 千円 ・役務費 し尿汲取手数料 4 千円 ・委託料 作業員人材派遣委託料 1,209 千円 図面作成委託料 728 千円 ・使用賃借料 重機借上、発電機借上、仮設トイレ借上等 586 千円 ・備品購入費 発掘調査用カメラ（1台）・記録メディア購入 213 千円 ＜調査期間及び成果＞ ・網野銚子山古墳（現地調査 令和元年5月21日～令和2年2月14日） 墳丘斜面から良好な状態の墓石を確認、墳丘テラス面には樹立したまま残る埴輪列と礎石を検出し、古墳の前方形の大きさ・形状を復元する手がかりが得られた。			・途中ヶ丘遺跡（現地調査 平成31年4月15～17日、令和元年9月20～25日） 工事計画範囲は公園造成時の盛土の範囲内であることを確認した。 ・太田古墳群（現地調査 令和元年5月9日～6月4日） 13～16号墳を調査。外表施設はなく既に全壊状態であった。 ・女城跡（現地調査 令和元年5月17日） 調査を実施した2か所のうち1か所で表土直下に地山が存在し、遺構面が浅い場所に位置する可能性が高いことを確認できた。 ・加悦岡遺跡（現地調査 令和元年11月5～15日） 遺跡隣接地7か所の調査を実施。既知の遺跡のすぐ北側で地山を確認し、他の調査箇所では河川堆積層がみられた。遺跡範囲の変更なし。 ・浜詰遺跡（現地調査 令和2年2月17～21日） 3か所の調査を実施。攪乱直下の砂丘堆積が厚く遺構確認できず。				
				成果・課題	○網野銚子山古墳の発掘調査では、残りの良い遺構を確認することができ、今後の整備や古墳の詳細な復元につながる知見を得た。 ○開発に伴う試掘調査では、遺跡の範囲や残り具合を確認でき、今後の開発事業との調整を行うための資料を得た。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	6,865千円	7,075千円	210千円	97.0 %	課	文化財保護課
	目	04 資料館費				(参考)当初予算額		
	事	01 郷土資料館管理運営事業				7,459千円		
	細事	01 郷土資料館管理運営事業	主な財源	使用料 郷土資料館入館料		23千円		
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	民俗資料等の収蔵・調査・公開施設である郷土資料館の維持管理を行い、郷土の歴史や文化遺産に対する住民の関心を高める。							
主要な事務・事業の概要	豊富に残る市所蔵の民俗資料、古文書・典籍・書籍等を適切に保管・公開するとともに、普及啓発事業として「むかしの装い展」、「こどもの節句展」等の企画展示や、体験イベントとして「郷土資料館まつり」を実施した。あわせて高圧の電気設備を低圧電力へ変更する工事を実施した。 令和元年度入館者数822人（平成30年度入館者数1,684人）※開館記念無料開放を実施した平成30年度の4・5月と比べての減少、令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症の流行による小学校利用の減少等により、入館者が減少した。			○郷土資料館電気設備低圧変更工事 3,743 千円 ・工事設計委託料 670 千円 ・工事請負費 3,073 千円 ○体験用経費 18 千円 ・報償費（郷土資料館まつり謝礼） ○備品購入費（ノートパソコン1台） 89 千円 ※パソコンOSのサポート終了による更新				
	○人件費 1,074 千円 ・臨時職員賃金（1人） 1,071 千円 ・労災保険料 3 千円 ○維持管理費 1,941 千円 ・光熱水費 888 千円 ・消耗品費、燃料費 263 千円 ・通信運搬費等 80 千円 ・機械整備委託料 83 千円 ・施設管理委託料（浄化槽維持管理、電気設備保守管理等） 331 千円 ・修繕料（消防設備不良修繕等） 82 千円 ・保険料（火災保険） 53 千円 ・その他管理経費（コピー機リース料、テレビ受信料） 161 千円			成果・課題	○市内小学校3年生の社会科見学の受け入れを行い、実物に触れながら学ぶ等の工夫を行うことで学習効果の向上につなげた。 ○今後、収蔵資料の調査・整理を進めるとともに、常設展示の配置や展示資料の解説内容などを工夫、改善していくことが必要である。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費					96.8 %		
	目	04 資料館費	12,656千円		13,072千円	416千円	(参考)当初予算額		
	事	02 古代の里資料館管理運営事業					15,561千円	課	文化財保護課
	細事	01 古代の里資料館管理運営事業							
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進		主な財源	使用料	古代の里資料館入館料			499千円
					諸収入	古代の里資料館物品販売代金			19千円
目的					諸収入	古代の里資料館陶芸教室実習料			155千円
					諸収入	古代の里資料館書籍販売代金			156千円
					市債	社会教育施設整備事業債（過疎対策債）			2,800千円
主要な事務・事業の概要	考古資料・美術工芸品等の収蔵・調査・公開施設である丹後古代の里資料館の維持管理を行い、文化にふれあい、歴史を学ぶ機会を提供するとともに、郷土の文化遺産に関しての住民の関心を高める。								
	考古資料・美術工芸品を適切に保管・公開し、文化財の保護、普及啓発を図るため、「京丹後市内の学校所蔵資料1・2」、「細川ガラシャ隠棲地」、「新収蔵品展」等の企画展示を開催したほか、夏休み期間の市内小学生入館無料を実施した。 また施設・設備等の劣化に伴う改修工事の実施設計を行った。				○維持管理経費 3,974千円				
	令和元年度入館者数2,821人（平成30年度入館者数3,259人）※3月実施の「古代の里まつり」を翌年度に延期したこと、新型コロナウイルス感染症の流行の影響等により、入館者数が減少した。				・光熱水費 1,185千円				
	○人件費 5,750千円				・消耗品費、燃料費、印刷製本費 307千円				
	・資料館長報酬、共済費、費用弁償 2,415千円				・通信運搬費等 160千円				
	資料館長報酬 166,500円×12か月=1,998千円				・機械整備委託料 85千円				
	・臨時職員賃金、共済費 3,335千円				・施設管理委託料（浄化槽維持管理、電気設備保守管理等） 453千円				
	臨時職員（3人）の賃金と社会保険料等事業主負担分				・修繕料（浄化槽、高圧交流負荷開閉器等） 1,185千円				
					・土地借上料（2,915㎡） 303千円				
					・保険料（火災保険） 28千円				
					・その他経費（清掃用具借上、IT・機材・リース、資料借用旅費等） 50千円				
				・備品購入費（パソコン2台） 218千円					
				※パソコンOSのサポート終了による更新					
○体験用経費 101千円				成果・課題	○普及啓発事業として考古・歴史資料を紹介する企画展示等を開催し、文化財の普及啓発を図った。				
・原材料費（勾玉作り材料及び陶芸体験用材料） 74千円					○市内小中学校の歴史や「丹後学」の授業での活用により、児童生徒の地域の歴史に関する知識を深め、関心を高めることができた。今後もより多くの小中学校の利用を勧めるための工夫が必要である。				
・報償費（窯焼謝礼） 27千円					○開館から20年以上が経過し、屋内外の設備の計画的な更新等が今後の検討課題である。				
○空調設備等改修工事設計委託料 2,831千円									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	8,488千円	8,488千円	0千円	100.0 %	課	文化財保護課	
	目	04 資料館費				(参考)当初予算額			
	事	03 資料館等指定管理運営事業				8,436千円			
	細事	01 指定管理施設運営事業							
基本計画		05 次世代への美しい自然環境の継承	主な財源						
目的	琴引浜鳴き砂文化館の維持管理を行い、琴引浜の鳴き砂の保全及び保護啓発活動、自然環境学習の援助並びに促進を図る。								
主要な事務・事業の概要	鳴き砂や環境保全の学習施設として設置し、指定管理者制度により、地元の掛津区が管理運営を行っている。環境学習のための教育施設であるとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する観光施設としても重要な拠点と位置付けている。								
	令和元年度入館者数9,520人（平成30年度入館者数9,787人）								
	○委託料 指定管理者の管理運営に伴う指定管理委託料			7,200千円					
○使用料及び賃借料 建物の所有者である公益財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料及び駐車場用地賃借料			1,288千円						
			成果・課題	○各種視察受け入れやジオパーク関連事業、ガイド事業への支援・協力などを行い、京丹後市を代表する自然系の展示施設としての役割を果たした。 ○リピーターを含む市内内外の利用者獲得へ向け、展示内容のリニューアル等の検討を進めるほか、施設修繕を計画的に実施し、市の施設として適正な運営に努める必要がある。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	155千円	235千円	80千円	65.9 %	課	文化財保護課
	目	06 文化財保護費				(参考)当初予算額		
	事	01 文化財保護審議会委員設置事業				235千円		
	細事	01 文化財保護審議会委員設置事業	主な財源					
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	文化財の指定解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。							
主要な事務・事業の概要	○文化財保護審議会の開催経費 79千円 文化財指定、市指定文化財の管理・現状変更に関する事項や、文化財関係事業等を検討するため、審議会を開催した。委員定数10人。 ・報酬 半日×2回（4千円×17人・回） 68千円 ・費用弁償 11千円 ○両丹文化財保護連絡協議会への参加経費 76千円 令和元年度は福知山市で開催（令和元年10月30日） ・報酬 協議会出席：1日×8人（7千円×8人） 56千円 ・費用弁償 19千円 ・普通旅費 1千円							
	成果・課題	○文化財関係事業について、審議会委員の意見を聞きながら進めることができた。 ○新たな文化財指定について審議を行うとともに、次年度の指定に向けて、諮問を受け審議を行うことができた。 ○両丹文化財保護連絡協議会へ参加し、各市町間での報告や意見交流を行うことにより、委員の研鑽を積むことができた。						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	364千円	397千円	33千円	91.6 %		
	目	06 文化財保護費				(参考)当初予算額	課	文化財保護課
	事	50 文化財保護一般経費				397千円		
	細事	01 文化財保護一般経費	主な財源					
基本計画	28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進							
目的	文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。							
主要な事務・事業の概要	○文化財関係加盟団体経費 70千円 京丹後市が加盟する文化財関係団体負担金 ・全国史跡整備市町村協議会 40千円 ・全史協近畿地区協議会 10千円 ・全国鳴き砂ネットワーク 20千円							
	○文化財収蔵施設維持管理費 77千円 資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費 (成路分校、十楽倉庫、旧三重保育所、丹後震災記念館) ・光熱水費 36千円 ・火災保険料 17千円 ・草刈委託料 22千円 ・廃消火器処理手数料 2千円							
	○一般事務経費 217千円 ・消耗品費 37千円 ・旅費(史跡整備市町村協議会会議出席等) 180千円			成果・課題	文化財保護事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保護と活用を図ることができた。			

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課		担当課長
学校教育課		小坂 貴寛
生涯学習課		引野 雅文

重点目標	7	たくましく健やかな体づくりと生涯スポーツを推進します
基本的方針	子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 健康な体づくり	①子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。 ②喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、エイズを含む性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。 ③食の知識や規則正しい生活習慣等を身につけさせるため、適切な給食指導を行うとともに、「丹後学」等を通して地場産物や郷土食に親しむ学習をするなど、家庭や地域と連携した食育の取り組みを進めます。 ④児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の一貫した体育指導を進めます。 ⑤学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用したスポーツ指導を進めます。
2. 地域スポーツ活動の推進	①スポーツ推進委員をはじめ地区公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事等への協力等、スポーツの普及を図ります。 ②市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、体育協会等の活動支援及び組織強化を支援します。 ③市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するために、効果的なスポーツ情報と機会の提供を進めます。
3. 競技力の向上	①学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。 ②体育協会と連携し、京丹後市総合体育大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。 ③市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。 ④青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。
4. 社会体育施設の整備充実	①社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。 ②社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設については、見直しや代替利用のあり方も含めて検討を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市スポーツ推進計画	年齢や性別、障害等を問わず、広く市民がその適正やライフステージにに応じてスポーツに参画できるよう、中長期的な展望に立った「京丹後市スポーツ推進計画」を策定するもの	平成26年3月	平成26年度～平成29年度	第2次京丹後市スポーツ推進計画(平成30年度～令和9年度)
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力を全ての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 健康な体づくり			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 子どもの基本的な生活習慣の確立のため、学校園が連携し、発達段階に応じた系統的な指導を行うとともに、その大切さについて家庭への啓発に努めます。						
② 喫煙・薬物乱用などの防止、各種感染症や生活習慣病の予防等に関する指導、エイズを含む性に関する指導について、子どもの発達段階に応じた系統的な指導を行います。						
③ 食の知識や規則正しい生活習慣等を身につけさせるため、適切な給食指導を行うとともに、「丹後学」等を通して地場産物や郷土食に親しむ学習をするなど、家庭や地域と連携した食育の取り組みを進めます。						
④ 児童生徒の体力・運動能力の実態や課題を的確に把握・分析し、小中学校の一貫した体育指導を進めます。						
⑤ 学校園、家庭及び地域が連携して子どもの運動・スポーツ環境の充実を図るため、学校体育施設の開放や学校支援ボランティア等を活用したスポーツ指導を進めます。						

1. 健康な体づくり		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
	1 小中一貫教育推進事業《再掲》	学校教育課	-	-	-	現状維持
	「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の実現に向け、協議会及び専門部会で調査研究を行う。					
2. 地域スポーツ活動の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① スポーツ推進委員をはじめ地区公民館、PTA等と連携し、各種ニュースポーツ教室等の実施や各種スポーツ行事等への協力等、スポーツの普及を図ります。						
② 市民の多様なスポーツニーズに対応した活動を充実するため、体育協会等の活動支援及び組織強化を支援します。						
③ 市民の健康づくりとして、年齢や体力、目的に応じた日常的なスポーツ活動を促進するために、効果的なスポーツ情報と機会の提供を進めます。						
	2 スポーツ推進委員活動事業	生涯学習課	3,374	4,245	3,667	現状維持
市民にスポーツに関する指導を行うスポーツ推進委員を委嘱し、住民の求めに応じた身近な場でのスポーツの機会を提供することにより、市民が気軽に親しめるスポーツ活動を推進し、本市のスポーツの振興を図る。						
	3 保健体育総務一般経費	生涯学習課	300	444	253	現状維持
社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、スポーツ基本法に基づき設置したスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備及びスポーツ活動の推進を図る。						
	4 地域スポーツ推進事業	生涯学習課	6,163	5,987	6,312	現状維持
ライフステージに応じた各種スポーツ大会を実施することで、市民の生きがいの実感や健康づくりを促進するとともに、スポーツを通じた交流機会を確保しスポーツ人口の拡大を図る。						
3. 競技力の向上		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 学校体育団体と連携し、子どもたちの競技スポーツへの関心を高めるとともに競技力の向上を図るため、小中学校の一貫した指導を進めます。						
② 体育協会と連携し、京丹後市総合体育大会の参加者の拡大及び競技力の向上に向けて大会の実施方法等について検討を進めます。						
③ 市民の競技スポーツへの関心を高めるため、トップアスリートによる指導機会の拡充に努めるとともに、トップアスリートの競技を観戦する機会の提供に努めます。						
④ 青少年のスポーツ活動における指導者を育成するため、研修機会の充実を図るとともに、ジュニアアスリートの育成・支援の方法について検討します。						
	5 社会体育団体育成事業	生涯学習課	20,140	19,364	19,811	現状維持
スポーツ団体による主体的な活動を支援し、市民へのスポーツの普及と振興を図るとともに、スポーツによる青少年の健全育成と体力の向上を図る。						
4. 社会体育施設の整備充実		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた 今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 社会体育施設機能の維持・改善のため、老朽化が著しい社会体育施設の改修・修繕等を進めます。						
② 社会体育施設の利用実態を把握して利用率の向上を図るとともに、利用率の向上が見込めない施設や老朽化した施設については、見直しや代替利用のあり方も含めて検討を進めます。						
	6 体育施設管理運営事業	生涯学習課	48,633	58,283	52,508	改善・効率化
市民の身近なスポーツ活動の拠点施設として体育施設を管理することにより、地域スポーツの振興とスポーツ競技力の向上を図る。						
	7 体育施設管理運営事業【繰越】	生涯学習課	9,126	-	-	
グラウンド内の部分的陥没が発生した豊栄山村広場グラウンドの原因調査を行い、復旧工事の方策の検討を進める。						
	8 社会体育用学校開放施設管理運営事業	生涯学習課	2,836	3,296	1,928	現状維持
地域住民にとって身近で利用しやすい学校体育施設を開放及び維持管理することにより、スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、もって生活文化の向上に資する。						
	9 竹野体育館改修事業【再編交付金活用事業】	生涯学習課	-	-	-	終了・廃止
社会体育施設として活用している竹野体育館について、耐震診断の結果、耐震等の改修を行う必要があると判断されたことにより、改修工事を行う。						
	10 保健体育施設災害復旧事業	生涯学習課	697	-	-	終了・廃止
豪雨及び台風等の自然災害により被災した保健体育施設の災害復旧を行う。						
	11 峰山途中ヶ丘公園陸上競技場リニューアル事業	生涯学習課	12,940	192,969	410,174	終了・廃止
峰山途中ヶ丘公園陸上競技場を、日本陸連公認第3種陸上競技場として整備することにより、第2次京丹後市スポーツ推進計画に掲げる「スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実」を推進するとともに、スポーツを通じた交流人口の拡大、地域活性化を図る。						
	12 峰山途中ヶ丘公園陸上競技場リニューアル事業【繰越】	生涯学習課	-	4,910	-	
峰山途中ヶ丘公園陸上競技場を、日本陸連公認第3種陸上競技場として整備することにより、第2次京丹後市スポーツ推進計画に掲げる「スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実」を推進するとともに、スポーツを通じた交流人口の拡大、地域活性化を図る。						
	13 スポーツ施設整備基金	生涯学習課	560	9,152	25,574	縮小
峰山途中ヶ丘公園陸上競技場のリニューアル事業の推進にあたり、京都府の補助金をスポーツ施設整備基金に積み立てるもの。						

上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業			決算額(単位:千円)			事務の改善
事務事業名称・事業内容(実績)		担当課	H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
14	スポーツイベント推進事業	生涯学習課	11,669	10,160	7,672	現状維持
観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援することで、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。						
15	オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業	生涯学習課	6,694	5,462	22,432	縮小
東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域活性化を図る。						
16	オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業【繰越】	生涯学習課	-	15,229	-	
東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域活性化を図る。						
17	ワールドマスターズゲームズ関西推進事業	生涯学習課	723	7,161	7,778	現状維持
ワールドマスターズゲームズ2021関西(WMG)の取組を通じて、本市の滞在型スポーツ観光の推進、障害者スポーツの基盤づくり及び地域の活性化を図る。						
18	東京2020オリンピック聖火リレー事業	生涯学習課	-	955	4,155	現状維持
東京2020オリンピック聖火リレーを実施することにより、大会の機運醸成、ホストタウン事業等の成功に資するとともに、スポーツ振興、地域活性化などスポーツによるまちづくりを推進する。						
計			123,855	337,617	562,264	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本の方針	子どもたちのスポーツに親しむ習慣の確立や体力づくりに取り組み、たくましく健やかな身体を育みます。また、子どもから高齢者まで、だれもが豊かで充実した生活を送ることができるよう、市民が生涯にわたってスポーツに取り組むことのできる環境づくりを進めます。							
主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
				年度		年度		年度
	朝食を毎日食べる児童の割合＜小学校＞	%	97.8 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	97.5	R1	100	R6
	朝食を毎日食べる生徒の割合＜中学校＞	%	91.1 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	91.5	R1	95%以上	R6
	平日、午前7時より前に起きる児童の割合＜小学校＞	%	88.4 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	87.9 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目から外れたため京都府学力テスト質問項目による)	R1	100	R6
	平日、午前7時より前に起きる生徒の割合＜中学校＞	%	77.2 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	82.0 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目から外れたため京都府学力テスト質問項目による)	R1	85%以上	R6
	平日、午後11時より前に寝る児童の割合＜小学校＞	%	91.6 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙	H25	97.2 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目から外れたため京都府学力テスト質問項目による	R1	100	R6
	平日、午後11時より前に寝る生徒の割合＜中学校＞	%	45.0 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙	H25	84.8 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問項目から外れたため京都府学力テスト質問項目による	R1	50%以上	R6
	小学生(5年生)の体力テスト全国平均以上	種目	8種目中7種目	H25	8種目中5種目	R1	全種目	R6
	中学生(2年生)の体力テスト全国平均以上	種目	8種目中4種目	H25	8種目中4種目	R1	全種目	R6
	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	21.6 市民アンケート調査結果	H24	33.0	R1	65.0 (国の目標)	R6

	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
				年度		年度		年度
	京都府民総合体育大会入賞競技数	競技	6 京都府民総合体育大会結果	H25	8	R1	10	R6
	公共スポーツ施設の利用回数	回	11,253 公共施設利用状況調査結果	H24	10,543	R1	13,000	R6
	スポーツイベント参加者数	人	-	R1	13,661	R1	18,600	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	《朝食を毎日食べる児童生徒の割合》 朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学生は増加し中学生はやや減少した。各校園における家庭向けの啓発及び児童生徒への丁寧な指導により確実に定着してきているが、今後も保護者との連携を更に密にし、児童生徒全員が朝食を毎日食べる取組を進めていく必要がある。
○ 予定どおり進んでいる		《平日、午前7時より前に起きる児童生徒の割合》 平日午前7時より前に起きる児童生徒の割合は、小中学生ともに減少した。今後も継続して各校園で課題を共有し、具体的な家庭への啓発等により改善を図っていく必要がある。
▲ 少し遅れている		《平日、午後11時より前に寝る児童生徒の割合》 平日午後11時より前に寝る児童生徒の割合は、中学生はやや減少したが小学生は増加し、小中学生ともに高い水準である。今後も各校園で課題を共有し、具体的な家庭への啓発等により改善を図っていく必要がある。
×		《小学生(5年生)の体力テスト全国平均以上》 小学校では、握力、上体起こし、長座体前屈が全国平均を下回ったが、前年度に比べて全国平均を上回る種目が増加した。引き続き、体育科を含む各校の教育活動全体を通じた体力づくりの取組等により、意識的に課題のある運動能力について克服していく必要がある。
		《中学生(2年生)の体力テスト全国平均以上》 中学校では、握力、長座体前屈などが全国平均を下回ったが、前年度に比べて全国平均を上回る種目が増加した。引き続き、体育科を含む各校の教育活動全体を通じた体力づくりの取組等により、意識的に課題のある運動能力について克服していく必要がある。
		《成人の週1回以上のスポーツ実施率》 日常の中にスポーツを取り入れ、健康増進と体力の向上を図るため、スポーツ推進委員会を中心に地域でのニュースポーツ教室等を開催するとともに、チャレンジデーイベントに初めて取り組み、気軽にスポーツに接する機会を提供した。 ニュースポーツ教室は、年間1,000人を超える参加者があるが参加者が固定化されており、仕事や家事、育児、介護等でスポーツをすることが難しい世代、また障害者、高齢者等に配慮した魅力ある行事の開催とスポーツ教室に関する情報の提供が課題である。
		《京都府民総合体育大会入賞競技数》 入賞競技数も増加、市町村対抗の総合順位は8位となり、前年の9位から順位を上げた。今後は、来年度の2020年東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西を契機とし、競技力の向上を目指す。特に将来性を有するジュニアアスリートを養成する支援体制を整えることが重要である。
		《公共スポーツ施設の利用回数》 スポーツの推進を図るため、積極的に体育施設の開放を行い、利用者の拡大に努めました。近年、公共施設の利用者は減少傾向にあり、市内人口の減少によるものや市民のスポーツ種別が多様化したものと推測する。今後は、公共施設の見直し計画による施設の集約化や指定管理者制度の導入等、より市民のニーズに則した施設環境づくりと機会の提供が求められる。 R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けるため、目標を下方修正する。
		《スポーツイベント参加者数》 スポーツ観光のまちづくりを推進するため、各種スポーツイベントの開催、ジオパークの魅力を活用したウルトラマラソン等を開催することで市内外の参加者が気軽にスポーツができる環境を提供した。今後は各種イベントについて、内外からの意見を聞き入れ、地域と一体となり地域資源等を取り入れ、工夫を行い、参加者が増える取り組みを行っていく必要があります。 R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けるため、目標を下方修正する。

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具 体 的 内 容
施策展開の考え方	1	子どもたちの基本的な生活習慣を確立させるため、学校園が連携し、発達段階に応じた指導を継続するとともに、丹後学を通じた学習や、地産地消・給食指導など、家庭、地域と連携した食育の取組みを更に推進する。
	2	市民のニーズに合ったスポーツの推進や、各地区の事業やPTA活動への協力を行うなど、多くの人がスポーツに親しめる機会を設ける。また、競技性の高いスポーツについては体育協会と連携し活動する機会を支援する。
	3	京丹後市体育協会の更なる組織強化等に向け法人化の検討を支援するとともに、引き続き財政支援を行うことにより、各種スポーツ大会の実施や府民総合体育大会への出場選手の拡大を図り、競技力の向上を目指す。
	4	市内には多くの社会体育施設が点在しているが、地域の大切なコミュニティの場としての役割も大きいため、計画的な施設の修繕を実施する一方、利用が少ない施設の維持管理などについて見直しを行う。
	5	交流人口の増加等、地域活性化を図るため、事業効果の高いスポーツイベントを推進するとともに、東京2020大会、WMG関西に向け、ホストタウンとしての取組、必要な施設整備を推進する。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	4,245千円		4,540千円	295千円	93.5 %	課	生涯学習課
	目	01 保健体育総務費					(参考)当初予算額		
	事	01 スポーツ推進委員活動事業					4,540千円		
	細事	01 スポーツ推進委員活動事業							
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		主な財源						
目的	市民にスポーツに関する指導を行うスポーツ推進委員を委嘱し、住民の求めに応じた身近な場でのスポーツの機会を提供することにより、市民が気軽に親しめるスポーツ活動を推進し、本市のスポーツの振興を図る。								
主要な事務・事業の概要	○スポーツ推進委員報酬（市職員1人を除く51人分）		2,550千円		<活動内容>				
	○旅費（スポーツ推進委員活動費用弁償、職員旅費）		596千円		・ ノルディック・ウォーキング体験会：年間30回、456人参加				
	○需用費（消耗品費、燃料費）		790千円		・ ニュースポーツ体験会（ビーチボールバレーほか）：年間91回、1,726人参加				
	・ スポーツ推進委員シャージ更新（52人分）、研修会テキスト代				・ 地区活動やPTA行事、高齢者大学などにおけるスポーツ指導（ノルディック・ウォーキング、ニュースポーツ、体力テストほか）				
	○役務費（スポーツ安全保険料）		124千円		・ スポーツ大会への協力（丹後100kmウルトラマラソン、丹後大学駅伝ほか）				
	○委託料（バス運転委託料）		61千円						
	○使用料及び賃借料（有料道路通行料、駐車場使用料）		45千円						
○負担金、補助及び交付金		79千円		成果・課題	○「ノルディック・ウォーキング」、「ニュースポーツ」の普及に努め、幅広い年代の方へスポーツへの参加機会を提供することができた。○今後は、スポーツへの参加機会の提供だけでなく、地域において、スポーツ指導をする場を設けられるよう、地区公民館等に働きかけ、連携を図る必要がある。				
・ 各種大会等参加負担金		8千円							
・ 丹後スポーツ推進委員連絡協議会負担金		47千円							
・ 近畿スポーツ推進委員研究協議会参加負担金		24千円							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	444千円	670千円	226千円	66.2 %		
	目	01 保健体育総務費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	事	50 保健体育総務一般経費				670千円		
	細事	01 保健体育総務一般経費						
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		主な財源					
目的	社会体育事業を円滑に実施するための事務経費のほか、スポーツ基本法に基づき設置したスポーツ推進審議会を運営し、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備及びスポーツ活動の推進を図る。							
主要な事務・事業の概要	○報酬（スポーツ推進審議会委員） ・委員：12人、開催回数：2回（5月13日、12月23日）			72千円				
	○旅費 （スポーツ推進審議会委員費用弁償、先進地視察等旅費）			23千円				
	○需用費（消耗品）			4千円				
	○使用料及び賃借料（有料道路通行料）			6千円				
	○備品購入費 ・カローリング購入（2セット）			339千円				
				成果・課題	「第2次京丹後市スポーツ推進計画」に基づき、市民の意見を反映したスポーツ環境の整備、スポーツ活動の推進を図ることができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	5,987千円	6,051千円	64千円	98.9 %		
	目	02 保健体育事業費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	事	01 スポーツのまちづくり推進事業				6,690千円		
	細事	01 地域スポーツ推進事業						
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		主な財源					
目的	ライフステージに応じた各種スポーツ大会を実施することで、市民の生きがいの実感や健康づくりを促進するとともに、スポーツを通じた交流機会を確保しスポーツ人口の拡大を図る。							
主要な事務・事業の概要	○報償費 22千円		＜大会実施状況＞					
	・はしうど杯卓球選手権大会審判員謝金 18千円		大会名		開催日		参加者等	
	・入賞記念品（くみはまニューススポーツ交流大会、はしうど杯卓球大会） 4千円		カヌースプリント春季・秋季大会		5/18(土)、10/26(土)		75人	
	○旅費（職員旅費） 2千円		京丹後チャレンジデー2019		5/29(水)		参加率48.1%、26,527人 秋田県湯沢市を相手に敗戦	
	○需用費（消耗品費、燃料費、食糧費） 241千円		市長杯中学生野球大会		6/1、2（土・日）		6校、130人	
	○委託料 1,062千円		京都府民総合体育大会		8月～2月		15競技参加、入賞8競技	
	・カヌースプリント春季・秋季大会運営委託料 926千円		京丹後市総合体育大会		9/1(日)		21種目、2,000人	
	・市長杯中学生野球大会開催委託料 101千円		くみはまニューススポーツ交流大会		9/22(日)		49人(雨天のため屋外競技のみ)	
	・弥栄町文化祭駅伝大会バス運転委託料 22千円		弥栄町文化祭駅伝大会		11/3(日・祝)		9チーム、127人	
	・京都府民総合体育大会バス運転委託料 13千円		はしうど杯卓球選手権大会		12/1(日)		105人	
○負担金、補助金及び交付金 4,660千円		成果・課題	市民が気軽に参加できるスポーツ事業の実施及びスポーツ大会への支援をすることにより、市民の健康・体力づくりやスポーツを通じた住民間・地域間の交流機会の提供、地域の活性化に寄与した。					
・京都府民総合体育大会派遣費補助金 1,206千円								
・京丹後市総合体育大会開催補助金 3,300千円								
・京丹後チャレンジデー実行委員会補助金 154千円								

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																															
	項	05 保健体育費	19,364千円	19,759千円	395千円	98.0 %																																																	
	目	01 保健体育総務費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課																																															
	事	03 社会体育団体体育成事業				20,029千円																																																	
	細事	01 社会体育団体体育成事業	繰入金 ふるさと応援基金繰入金 2,000千円																																																				
基本計画		27 多様な学びを支援する社会教育の充実	主な財源																																																				
目的	スポーツ団体による主体的な活動を支援し、市民へのスポーツの普及と振興を図るとともに、スポーツによる青少年の健全育成と体力の向上を図る。																																																						
主要な事務・事業の概要	本市の体育振興の中心的な組織である京丹後市体育協会に対し支援を行うとともに、京丹後市スポーツ少年団への支援を行った。 ○京丹後市体育協会補助金 15,727千円 - 加盟団体数：21団体（4,314人） ※令和2年3月末現在 - 本部及び支部事業の実施 - スポーツ指導者研修会の開催（令和元年11月29日） - 各町支部、各競技団体の活動支援（年間） - 大会協力（丹後100kmウルトラマラソン、丹後大学駅伝） - 広報紙の発行（年3回） ○京丹後市スポーツ少年団活動補助金 3,637千円 - 加入団体数：66団体（児童生徒数：1,558人、指導者数：358人） - 事業内容：指導者講習会、各スポーツ教室の支援 ※子どもスポーツ推進事業（補助金）は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止 予定日時：令和2年3月7日（土）17:00～19:00 内容：「メンタルトレーニングから学ぶアスリート育成及び子育て」講演会			＜京丹後市スポーツ少年団 種目別団体数＞ <table><tr><td>種 目</td><td>団体数</td><td>種 目</td><td>団体数</td><td>種 目</td><td>団体数</td></tr><tr><td>野 球</td><td>10</td><td>柔 道</td><td>1</td><td>卓 球</td><td>1</td></tr><tr><td>バレーボール</td><td>11</td><td>硬式テニス</td><td>2</td><td>複 合</td><td>1</td></tr><tr><td>バスケットボール</td><td>5</td><td>ソフトテニス</td><td>2</td><td>カヌー</td><td>1</td></tr><tr><td>サッカー</td><td>7</td><td>バドミントン</td><td>3</td><td>レスリング</td><td>1</td></tr><tr><td>空手道</td><td>6</td><td>少林寺拳法</td><td>1</td><td>スキー</td><td>1</td></tr><tr><td>陸 上</td><td>7</td><td>新体操</td><td>1</td><td rowspan="2">合 計</td><td rowspan="2">66</td></tr><tr><td>剣 道</td><td>4</td><td>体 操</td><td>1</td></tr></table>						種 目	団体数	種 目	団体数	種 目	団体数	野 球	10	柔 道	1	卓 球	1	バレーボール	11	硬式テニス	2	複 合	1	バスケットボール	5	ソフトテニス	2	カヌー	1	サッカー	7	バドミントン	3	レスリング	1	空手道	6	少林寺拳法	1	スキー	1	陸 上	7	新体操	1	合 計	66	剣 道	4	体 操	1
				種 目	団体数	種 目	団体数	種 目	団体数																																														
				野 球	10	柔 道	1	卓 球	1																																														
				バレーボール	11	硬式テニス	2	複 合	1																																														
				バスケットボール	5	ソフトテニス	2	カヌー	1																																														
				サッカー	7	バドミントン	3	レスリング	1																																														
				空手道	6	少林寺拳法	1	スキー	1																																														
				陸 上	7	新体操	1	合 計	66																																														
				剣 道	4	体 操	1																																																
				成果・課題	○スポーツ団体の組織強化を支援することにより、スポーツ団体が実施する各種教室及び大会などを通して、幅広い年代層へスポーツに親しむ機会を提供することができた。 ○京丹後市体育協会の更なる組織強化、効果的な事業実施に向け、法人化等の検討を引き続き支援する必要がある。																																																		

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	58,283千円		59,229千円	946千円	98.4 %	課	生涯学習課
	目	03 体育施設費					(参考)当初予算額		
	事	01 体育施設管理運営事業					52,024千円		
	細事	01 体育施設管理運営事業	主な財源	使用料	社会体育施設使用料	2,751千円			
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実	使用料		公有財産使用料	155千円				
目的	市民の身近なスポーツ活動の拠点施設として体育施設を管理することにより、地域スポーツの振興とスポーツ競技力の向上を図る。	主な財源	諸収入	自動販売機売上料	37千円				
			諸収入	旧宇川中学校施設光熱水費利用負担金	366千円				
			諸収入	旧大宮第三小学校施設光熱水費利用負担金	178千円				
			諸収入	市有建物損害共済金	27千円				
主要な事務・事業の概要	<体育施設の維持管理経費>			<利用状況>					
	○需用費（消耗品費、燃料費、印刷製本費、光熱水費、修繕料） 28,915千円			紅葉ヶ丘運動場（テニスコート） 367 件					
	○役務費（通信運搬費、し尿汲取手数料、火災保険料等） 1,763千円			大宮自然運動公園（グラウンド、テニスコート） 468 件					
	○委託料（運動公園管理、社会体育館管理、浄化槽維持管理等） 15,518千円			大宮社会体育館 919 件					
	○使用料及び賃借料（土地借上、仮設トイレ借上、AED賃借料） 679千円			網野グラウンド（グラウンド、屋内ゲートボール場） 499 件					
	○工事請負費（19件） 11,359千円			網野体育センター（体育室、柔・剣道室、テニスコート） 1,193 件					
	○備品購入費（草刈り機1台） 49千円			丹後社会体育館 468 件					
	<主な工事>			弥栄総合運動公園（体育館、グラウンド、屋根付ゲートボール場など） 1,540 件					
	・五箇体育館キュービクル改修工事 594千円			久美浜中央運動公園（グラウンド、テニスコート、屋根付ゲートボール場） 1,031 件					
	・大宮自然運動公園園路石材改修工事 864千円			その他体育施設（30施設） 4,058 件					
	・大宮自然運動公園もくせい館屋根改修工事 1,253千円			合 計（47施設） 10,543 件					
	・網野体育センターバスケットゴール修繕工事 422千円								
	・豊栄山村広場グラウンド復旧工事 4,690千円								
	・黒部体育館前防犯照明設置工事 83千円								
	・弥栄総合運動公園屋内ゲートボール場シート張替工事 660千円								
	・久美浜中央運動公園屋内ゲートボール場ビニール戸取替工事 311千円								
	・久美浜中央運動公園屋内ゲートボール場ロイター修繕工事 437千円								
・佐濃グラウンド・体育館キュービクル改修工事 1,134千円			成果・課題 ○施設の適切な維持管理を行うことで、市民スポーツ活動の普及・発展に寄与した。 ○平成29年の台風災害により利用停止となっていた豊栄山村広場グラウンドの復旧が完了し、利用を再開する環境が整った。 ○スポーツ活動拠点の効率的・効果的な管理運営を図るため、公共施設見直し計画等に基づき、管理形態の見直し等について検討していく必要がある。						

予算科目	款	10 教育費		本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局		
	項	05 保健体育費		3,296千円	3,301千円	5千円	99.8 %	課	生涯学習課		
	目	03 体育施設費					(参考)当初予算額				
	事	02 社会体育用学校開放施設管理運営事業					1,299千円				
	細事	01 社会体育用学校開放施設管理運営事業		主 な 財 源	使用料 小学校施設使用料	1,046千円					
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		使用料 中学校施設使用料	650千円							
目的	地域住民にとって身近で利用しやすい学校体育施設を開放及び維持管理することにより、スポーツ及びレクリエーションの振興を図り、もって生活文化の向上に資する。										
主要な事務・事業の概要	<利用状況>				○修繕料 1,415千円						
	小学校	体育館	施設数	4	2	4	2	2	3	17	・大宮中学校グラウンドナイター水銀灯修繕 63千円
			利用件数	1,563	653	1,203	301	281	786	4,787	・橋小学校グラウンドナイター器具修繕 227千円
		グラウンド	施設数	4	2	4	2	2	3	17	・弥栄小学校ナイター設備水銀球交換 398千円
			利用件数	617	200	521	218	301	142	1,999	・弥栄小学校グラウンド得点ボード修繕 ほか 727千円
		格技場	施設数	/	/	2	/	/	/	2	○工事請負費 1,761千円
			利用件数	/	/	430	/	/	/	430	・丹後小学校屋外運動場照明取替工事及び配線改修工事
	中学校	体育館	施設数	2	1	1	1	1	1	7	○備品購入費（大宮南小学校体育館バレーボール支柱1組） 120千円
			利用件数	583	277	171	50	257	119	1,457	
		グラウンド	施設数	1	1	1	2	1	1	7	
			利用件数	29	214	131	58	247	79	758	
		格技場	施設数	/	1	1	1	/	1	4	
			利用件数	/	142	31	248	/	84	505	
	合計				施設数 54		利用件数 9,936		成果・課題		○社会体育用に開放する学校施設について、計画的な維持修繕に努め、地域住民のスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することにより、市民が楽しみ共につくるスポーツのまちの推進に寄与した。 ○今後も市民にとって身近で利用しやすい施設として運営に努めていく必要がある。

予算科目	款	08 土木費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	04 都市計画費				69.0%							
	目	03 公園費	192,969千円	279,410千円	86,441千円	(参考)当初予算額	課	生涯学習課					
	事	01 公園等指定管理運営事業				291,867千円							
	細事	02 峰山途中ヶ丘公園陸上競技場リニューアル事業											
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実		市債 都市公園整備事業債（過疎対策債） 190,400千円										
目的	峰山途中ヶ丘公園陸上競技場を、日本陸連公認第3種陸上競技場として整備することにより、第2次京丹後市スポーツ推進計画に掲げる「スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実」を推進するとともに、スポーツを通じた交流人口の拡大、地域活性化を図る。		主な財源										
主要な事務・事業の概要	○第3種公認陸上競技場改修整備 67,710千円		○その他経費 1,548千円										
	・陸上競技場改修工事（令和元年度前払金） 66,660千円		・旅費（先進地視察等） 7千円										
	・陸上競技場改修工事現場技術業務（令和元年度出来高部分払） 576千円		・需用費（消耗品費） 4千円										
	・その他工事（水道メーター設置、分電盤増設） 473千円		・有料道路通行料（先進地視察分） 4千円										
	・水道工事許可手数料 1千円		・水道、下水道加入分担金 942千円										
	○附属施設等改修整備 123,711千円		・し尿処理手数料、便槽高圧洗浄・消毒委託料 591千円										
	・附属施設等改修工事（建築、機械、電気） 118,273千円		<table><tr><td>参考</td><td>運次繰越費を除いた最終予算額</td><td>193,046千円</td></tr><tr><td></td><td>実質的な予算執行率</td><td>99.9%</td></tr></table>		参考	運次繰越費を除いた最終予算額	193,046千円		実質的な予算執行率	99.9%	■令和2年度への繰越事業 86,364千円		
	参考	運次繰越費を除いた最終予算額			193,046千円								
		実質的な予算執行率	99.9%										
	〔屋外トイレ新築工事、屋外倉庫新築工事、既存屋外トイレ改修工事、管理棟改修工事、公共下水道接続工事〕												
・附属施設等改修工事監理業務委託料 3,080千円		・陸上競技場改修工事（令和2年9月完了予定） 83,340千円											
・その他工事（管理棟機械警備装置改修、管理棟外壁等補修） 596千円		・陸上競技場改修工事現場技術業務（令和2年9月完了予定） 3,024千円											
・工事設計業務委託料（フェンス設置工事、外周路補修工事） 1,265千円		成果・課題		○日本陸連公認第3種陸上競技場整備に着手し、令和2年9月末の完成に向け、工事を実施することができた。 ○屋外トイレ、屋外倉庫、管理棟の改修工事が完成し、快適な利用環境を整えることができた。 ○リニューアル完了後は、適切な管理運営を行うとともに、市民利用や大会誘致等、利用促進を積極的に推進する必要がある。									
・建築確認申請手数料（附属施設、競技備品格納用倉庫） 75千円													
・図面作成業務委託料（競技備品格納用倉庫） 422千円													

予算科目	款	08 土木費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 都市計画費	4,910千円	9,658千円	4,748千円	50.8 %		
	目	03 公園費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	事	01 公園等指定管理運営事業				9,658千円		
	細事	02 峰山途中ヶ丘公園陸上競技場リニューアル事業（繰越）	主な財源 市債 都市公園整備事業債（過疎対策債） 4,800千円					
基本計画	27 多様な学びを支援する社会教育の充実							
目的	峰山途中ヶ丘公園陸上競技場を、日本陸連公認第3種陸上競技場として整備することにより、第2次京丹後市スポーツ推進計画に掲げる「スポーツ・レクリエーション環境の整備・充実」を推進するとともに、スポーツを通じた交流人口の拡大、地域活性化を図る。							
主要な事務・事業の概要	○役務費 38千円 ・建築確認申請手数料（附属施設新築）							
	○委託料 4,872千円 ・陸上競技場改修整備工事資材特別単価調査業務 1,696千円 ・附属施設新築工事基本設計及び実施設計業務 3,176千円							
			成果・課題	陸上競技場改修設計に必要な資材単価調査及び附属施設新築工事の設計を行い、工事発注に向けた準備を進めた。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	9,152千円	9,153千円	1千円	99.9 %		
	目	03 体育施設費				(参考)当初予算額	課	生涯学習課
	事	03 スポーツ施設整備基金				15,361千円		
	細 事	01 スポーツ施設整備基金	府補 広域的スポーツ施設充実支援事業補助金 (1/3)					9,152千円
基本計画	29 効率的・効果的な行財政運営		主な財源					
目的	峰山途中ヶ丘公園陸上競技場のリニューアル事業の推進にあたり、京都府の補助金をスポーツ施設整備基金に積み立てるもの。							
主要な事務・事業の概要	〇スポーツ施設整備基金積立金		9,152千円					
	(参考) 基金の状況		単位：(千円)					
	平成30年度末 現在高	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高			
	①	繰入金 ②	運用利子 ③	積立金 ④	①-②+(③+④)			
	560	0	0	9,152	9,712			
			成果・課題					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	10,160千円	10,227千円	67千円	99.3 %	課	生涯学習課
	目	02 保健体育事業費				(参考)当初予算額		
	事	01 スポーツのまちづくり推進事業				10,227千円		
	細事	02 スポーツイベント推進事業	府補 きょうと地域連携交付金 (スポーツイベント推進事業) 4,700千円					
基本計画		04 滞在型観光・スポーツ観光の促進	主な財源					
目的	観光分野と連携し、各種スポーツイベントの開催を支援すること、スポーツを通じた本市の魅力を発信し、交流人口の増加を図る。							

主要な事務・事業の概要	<大会の実施状況等>				
	大会名	開催日	会場	参加者等	大会関係予算(委託料・負担金・補助金) 執行内容
	NISSIN Rally 2019	5/18、19(土・日)	京丹後市内ほか	51台、102人	—
	京丹後市ドラゴンカー選手権大会	8/4(日)	久美浜湾	84チーム、1,008人	実行委員会への補助金 1,800千円
	丹後半島ラリー2019	8/24、25(土・日)	京丹後市内ほか	75台、150人	—
	丹後100kmウルトラマラソン	9/15(日)	京丹後市内	3,105人	実行委員会への補助金 2,678千円 バス運転委託料 822千円
	あみの八丁浜ロードレース大会	10/20(日)	網野町八丁浜周辺	500人	市体育協会への補助金 1,050千円
	丹後大学駅伝(関西学生対校駅伝競走大会)	11/16(土)	京丹後市内ほか	22チーム、440人	後援会への負担金 900千円
	久美浜湾一周駅伝競走大会	11/23(土・祝)	久美浜湾周辺	64チーム、384人	大会運営委託料 1,442千円
	合 計			5,689人	8,692千円
	〇委託料(大会運営委託料等)		2,264千円	成果・課題	〇各種スポーツイベントの開催・支援により、出場者(全体で5,689人)のほか、応援者、関係者等を含め約15,600人が参加し、地域における経済効果及び市の魅力発信につながった。 〇カーコース整備及びライフジャケットの購入を行い、カー大会の円滑かつ安心安全な運営に備えた。
	〇負担金(丹後大学駅伝後援会への負担金)		900千円		
	〇補助金(実行委員会への補助金等)		5,528千円		
	〇久美浜湾カー競技場カーコース巻取りドラム取付工事		715千円		
	〇ライフジャケット購入(100着)		626千円		
	〇その他経費(職員出張旅費、消耗品費、有料道路通行料)		127千円		

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	05 保健体育費	5,462千円	170,914千円	165,452千円	3.1 %	課	生涯学習課					
	目	02 保健体育事業費				(参考)当初予算額							
	事	02 国際ｽﾎﾟｰﾂｲﾅｯﾄ推進事業				1,844千円							
	細事	01 オリﾋﾞｯｸ・ﾊﾞｰﾘﾝﾋﾞｯｸｽﾎﾟｰﾂｽﾀﾝﾄﾞ推進事業	府補 市債	ぎょうと地域連携交付金（オリﾋﾞｯｸ・ﾊﾞｰﾘﾝﾋﾞｯｸｽﾎﾟｰﾂｽﾀﾝﾄﾞ推進事業） 社会体育施設整備事業債（合併特別債）		100千円 4,300千円							
基本計画	04 滞在型観光・スポーツ観光の促進	主な財源											
目的	東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域活性化を図る。												
主要な事務・事業の概要	〔（仮称）久美浜カヌーセンター整備〕		4,664千円	〔外国語セミナー開催事業〕					486千円				
	○旅費、需用費、使用料及び賃借料（有料道路通行料）		17千円	○委託料（外国語セミナー開催、宿泊施設外国人受入セミナー開催）									
	○役務費（建築確認審査手数料）		150千円	〔その他経費〕					47千円				
	○委託料（カヌーセンター改修工事実施設計業務）		4,497千円	○旅費（オリパラ関連意見交換会等）、有料道路通行料									
	〔ホストタウン推進事業〕		176千円	<table><tr><td rowspan="2">参考</td><td>繰越明許費を除いた最終予算額</td><td>5,962千円</td></tr><tr><td>実質的な予算執行率</td><td>91.6%</td></tr></table>					参考	繰越明許費を除いた最終予算額	5,962千円	実質的な予算執行率	91.6%
	参考	繰越明許費を除いた最終予算額	5,962千円										
		実質的な予算執行率	91.6%										
	スペイン代表チームの視察受入れ（令和2年2月、代表コーチ1人）を行った。			■令和2年度への繰越事業 164,952千円 （仮称）カヌーセンター整備事業 令和3年3月完了予定 ・（仮称）久美浜カヌーセンター改修工事、監理業務委託等									
	○旅費、需用費（消耗品費）		99千円										
	○委託料（交流事業）、使用料及び賃借料（宿泊施設使用料等）		77千円										
〔スポーツのバリアフリー講習会〕		89千円											
○報償費（講師謝金）、需用費（食糧費）		62千円	成果・課題 ○ホストタウン推進事業や、事前合宿地の誘致活動などを通して、スポーツを通じた交流を促進し、本市のスポーツ・観光情報を発信することができた。 ○スペイン及びバルトガルカヌーチームの当市でのオリンピック事前合宿が決定した。 ○バリアフリー講習会では、障害者スポーツ、共生社会の実現についての理解を深めるとともに、市民がスポーツに親しむ環境づくりのための契機となった。 ○継続的な事業の実施により、スポーツを通じたまちづくりを推進する必要がある。										
○委託料（会場設営）		27千円											
○概要日時：令和2年2月8日（土）13:30～15:00													
場所：アグリセンター大宮													
演題：「パラスポーツの魅力と可能性-共生社会の実現に向け-」													
講師：高橋 明 氏（大阪体育大学客員教授）													
参加者：54人													

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	15,229千円	30,280千円	15,051千円	50.2 %	課	生涯学習課
	目	02 保健体育事業費				(参考)当初予算額		
	事	02 国際スポーツ交流推進事業				30,280千円		
	細事	01 オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業（繰越）	主な財源					
基本計画	04 滞在型観光・スポーツ観光の促進							
目的	東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業の実施により、スポーツツーリズムの推進、インバウンドの増加及びスポーツによる地域活性化を図る。							
主要な事務・事業の概要	【久美浜湾カヌー競技場1,000mコース整備】		13,145千円					
	○委託料（1,000mコース設計・設営準備業務）		2,695千円					
	○備品購入費（1,000mコース用資材購入）		10,450千円					
	コースワイヤー、ブイ、アンカーセット、距離表示ブイ、スリット板等（9レーン分）							
	【（仮称）久美浜カヌーセンター整備】		2,084千円					
○委託料（カヌー艇庫整備基本設計業務）			成果・課題 オリンピック事前合宿やワールドマスターズゲームズ2021関西を控え、久美浜湾カヌー競技場の機能整備を推進した。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	05 保健体育費	7,161千円	7,220千円	59千円	99.1 %		
	目	02 保健体育事業費				(参考)当初予算額		
	事	02 国際スポーツイベント推進事業				6,156千円		
	細事	02 ワールドマスターズゲームズ関西推進事業				府補 きょうと地域連携交付金（ワールドマスターズゲームズ開催推進事業）		
基本計画			04 滞在型観光・スポーツ観光の促進	主な財源				
目的	ワールドマスターズゲームズ2021関西（WMG）の取組を通じて、本市の滞在型スポーツ観光の推進、障害者スポーツの基盤づくり及び地域の活性化を図る。							
主要な事務・事業の概要	WMG大会競技運営に必要な備品を整備するとともに、プレ大会の開催、大会実施計画案の策定など、WMGの開催に向け、着実な準備を進めた。			【WMG啓発事業】 119千円 ○印刷製本費、委託料（リーフレット20,800部作成） 100千円 ○普通旅費、有料道路通行料、駐車場使用料、関税（啓発イベントほか） 19千円				
	【久美浜湾カヌー競技場審判艇（カタマラン）設置】 4,096千円 ○備品購入費（カタマラン1艇、保管用備品） 4,026千円 ○消耗品費 70千円 【WMG京丹後市実行委員会補助金】 2,507千円 ○WMG京丹後市実行委員会運営補助金 1,793千円 京丹後市実施計画策定支援業務、臨時職員賃金、実行委員会委員旅費等 OSUP全国大会（WMGプレ大会）開催補助金 714千円 ・開催日：7月21日（日） ・参加者数：69人 ・会場：久美浜湾カヌー競技場			【その他経費】 439千円 ○WMG京都府実行委員会負担金 200千円 ○旅費（組織委員会会議等）、有料道路通行料、駐車場使用料 239千円				
			成果・課題	OSUP全国大会（WMGプレ大会）の開催により、競技運営に必要な運営体制等について確認することができた。 ○WMGの取組を契機に、新たなカヌー全国大会（令和2年度より全日本カヌーマラソン選手権大会）を誘致することができた。 ○WMG大会の運営基盤体制の確立のため、本市実行委員会を設立し、大会実施計画案の策定を行った。 ○WMG大会開催を契機に継続的な大会誘致につなげ、スポーツを通じたまちづくりを進める必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	05 保健体育費	955千円	983千円	28千円	97.1 %			
	目	02 保健体育事業費				(参考)当初予算額			
	事	02 国際ｽﾎﾟｰﾂｲﾍﾞﾝﾄ推進事業				0千円			
	細事	03 ｵﾘﾋﾟｯｸ聖火ﾘｰﾚｰ事業				府補 東京2020ｵﾘﾋﾟｯｸ ｵﾘﾋﾟｯｸ聖火ﾘｰﾚｰ開催補助金（1/2）			423千円
基本計画	04 滞在型観光・スポーツ観光の促進	主な財源							
目的	東京2020オリンピック聖火リレーを実施することにより、大会の機運醸成、ホストタウン事業等の成功に資するとともに、スポーツ振興、地域活性化などスポーツによるまちづくりを推進する。								
主要な事務・事業の概要	本市内での実施が決定した東京2020オリンピック聖火リレーの適切な安全安心な実施に向け、警備・運営計画を策定するなど、必要な準備を進めた。								
	○需用費（消耗品費） 広報用のぼりポール300本等			108千円					
	○委託料 京丹後市警備・運営計画策定支援業務			847千円					
	【京丹後市内での聖火リレー実施予定内容】 コース：浅茂川漁港（スタート）～八丁浜小浜キャンプ場付近（ゴール） 走行距離：約2.2km ※令和2年5月26日（火）に開催予定だったが、東京2020オリンピック・パラリンピックの延期に伴い、聖火リレーも延期となった（開催時期未定）。								
				成果・課題	○警備・運営計画を策定するなど、聖火リレーの実施に向けた必要な準備を進めることができた。 ○今後、関係機関との情報共有と連絡調整に努め、新たに示される実施内容等に基づき、計画の見直しなど必要な準備を進める必要がある。				

Ⅲ 学校評価自己評価

1. 学園小中一貫教育報告一覧

学 園 名	「目指す子ども像」、教 育 目 標
1 峰山学園	「教育目標」 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 「目指す子ども像」 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体）
2 大宮学園	（１）教育目標 自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成 （２）目指す子ども像 ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） ○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）
3 網野学園	「目指す子ども像」 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識をもち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 「学校教育目標」 将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進
4 丹後学園	「目指す子ども像」 ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】 ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】 ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】 「教育目標」 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成
5 弥栄学園	「教育目標」 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成
6 久美浜学園	[教育目標] ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成 [目指す子ども像] (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

2. 京丹後市立こども園、学校評価自己評価報告一覧

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
1 峰山こども園	“笑顔でつながろう。みんなの てとて!!” ーはなそう・つたえよう・みんなのおもいー （１）生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 （２）主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 （３）身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
2 大宮こども園	「心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成」 ○健康で安全に活動する子どもの育成 ○身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを表現できる子どもの育成 ○素直で思いやりのある、積極的に関わり合う子どもの育成
3 網野こども園	（１）園児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 （２）自分の思いや考えを表現したり、行動したりする力を養う。 （３）園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 （４）常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。 （５）地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。
4 丹後こども園	一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。
5 弥栄こども園	「ともだち だいすき つながるえがお」 ～やってみたい！明日もやりたい！夢中になって遊ぶこどもをめざして～ ○さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ○生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体を育てる。 ○身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
6 かぶと山こども園	こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》「ぼくもわたしも みんな大好き！」～包みこまれている安心感の中で、 のびのびと生きる子どもをめざして～ 1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
7 峰山小学校	社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら創造的に生きることができる力を育てる。 1 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2 ものごとの価値、生き方・在り方を深く考え自律的に行動する力を育てる。 3 学んだことを生かして、社会に貢献しようとする態度を育てる。
8 いさなご小学校	教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども
9 しんざん小学校	1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
10 長岡小学校	「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども
11 大宮第一小学校	◇ 一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇ やりがいを持って自分の力を発揮する学校【教職員】 ◇ 安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇ 他地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】
12 大宮南小学校	大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を研究し、確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。
13 網野北小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
14 網野南小学校	網野学園小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子ども像 ・ あかるく元気に進んで学ぶ子 ・ みんななかよく支え合う子 ・ のびのび生き生きやりぬく子
15 島津小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
16 橘小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 【学園経営の基本方針】 自然・人・社会とのつながり、郷土を愛する心を育てる。（特に重視）
17 丹後小学校	教育目標（丹後学園共通） 『夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成』 ＜目指す学校像＞ 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校
18 宇川小学校	「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
19 吉野小学校	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図る。 2 確かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人ひとりが大切にされる心の教育の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の小中一貫教育を様々な取組を充実させながら、推進する。
20 弥栄小学校	「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子
21 久美浜小学校	学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を意識した教育活動を推進する。 1 質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士及び教職員と児童との好ましい人間関係の構築を一層進める。 3 中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。
22 高龍小学校	意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 ― 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 ― 1 基礎基本の徹底 2 言語活動の充実（授業づくり） 3 家庭学習時間の確保
23 かぶと山小学校	久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成 めざす児童像 （知）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 （徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 （体）心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子
24 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止
25 大宮中学校	1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼され、開かれた学校づくり 5 教職員の資質能力の向上 6 大宮学園小中一貫教育の推進
26 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を身に付けさせる。 2 未来を展望し、将来を切り拓く力をすべての子どもに身に付けさせる。 3 思いやりをもち、仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育成する。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育成する。
27 丹後中学校	開校6年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
28 弥栄中学校	困難な出来事であろうとも、問題解決に向けて習得した学びをもとに、考えをめぐらし適切な改善策を仲間と共に力を合わせる人間性を涵養する。 ・仲間と共に描いた夢や希望をあきらめることなく、実現しようとする生徒の育成
29 久美浜中学校	○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧を図りながら系統的に実践を積み上げる。 1 生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。 2 学力の充実・向上方策を共有し、全教職員で実践を進める。 （1）学ぶ意欲の向上、基礎基本の徹底 （2）「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、言語活動の充実 3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ地域とともにある学校づくりを目指す。

令和元年度 峰山学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】

「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」「思いやりのある子ども（徳）」「進んで心と体を鍛える子ども（体）」

【教育目標】

「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動）」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。

(1) 確かな学力の育成

言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究）

※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。

ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める

授業の中で目指す児童生徒の姿（3目標）

- ①自己決定をしている
- ②自己存在感を感じている
- ③共感的な人間関係をはぐくんでいる



そのための指導方法（3視点）

- ①主体的に活動する場面が設定された授業
- ②本時の目標が明確で「わかる」授業
- ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業

イ 目標と指導と評価の一体化を進める

（ア）目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計

（イ）単元総括テストの蓄積と検証

(2) コミュニケーション能力の育成

確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動）

ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導）

イ 自己肯定感を高める取組（特別活動）

（ア）学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組

（イ）集団の中で豊かに人とかかわることができる取組

(3) 評価を見通した取組の充実

ア 学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実

イ 教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価（実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 学園内の全ての学校が、年度当初から目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け	(1) 児童生徒の実態や課題などや目指す子ども像、目標方針の共有について ○年度当初の研修会で、峰山学園の児童・生徒実態から明らかにした経営方針を全教職員で確認し、運営ができた。 ○児童・生徒の状況については、各会・部会で共通理解を図り、取組に生かしている。担任会でも、児童の状況について交流を行ったり、指導方法等を学び合ったりしている。 (2) 学校経営及び進行管理 ○経営会議を定期的に開催し、学園内の教育課題の把

		握・整理を行いながら、教育目標・目指す子ども像の実現を目指して経営を行うことができた。 ○経営会議で、運営部会、教育課程部会、生徒指導部会、教育支援部会、学習指導部会の取組等を把握することができた。 ○担任会の実践を進めるために、担当校長・教頭、教務主任、指導教諭が担任会に入り、中学校数学科の教員が5・6学年担任会に入り、学習指導部会と連携できる組織となり、より充実した活動ができた。 ○担任会で総括テストを交流することは、テストを作成するために単元の指導構想をつくったり、5・6年担任会では、中学校の先生方から意見をいただくことができたりして、自らの指導力の向上に役立った。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり (2) 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 (3) 単元総括テストの作成と交流 (4) 京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 (5) 学力充実期間等の設定 (6) 中1ふりスタ (中学校1年生集中振り返り学習) (7) 全ての学年でのふりスタ (8) 中学校体験授業 (9) 「5年生・6年生の心得」 (10) 二分の一人式(小学校4年生)、立志式(中学校2年生) (11) こども園、小学校の接続を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 (12) 小1アプローチプログラム・スタートカリキュラムの実践と検証と改善	就学前から中学卒業までを見通した一貫した指導の充実と教育課程編成を行う。 本年度、0期、Ⅰ期～Ⅲ期をより意識した指導を行うことを年度当初で確認した。教育課程部会、担任会で峰山学園の児童生徒につける力の検討を行ってきた。このことが、一貫性・系統性のある教育課程による指導につながっていく。 (1) 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像の共有 ○経営会議で決定したことを各校へ持ち帰り、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 (2) 就学前から中学卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 ○年間4回校園長会を実施し、連携を深め、10年間を見通した指導について取組を進めることができた。また、教育支援部会へのこども園の参加、1年担任会(こども園の参加)・教育課程会議の取組で、園児・児童の連携した支援を行うことができるようにしてきた。 ●こども園等から小学校へ、小学校から中学校への子どもに関わる情報については、個人情報であることを踏まえた対応と内容については、毎年確認をしてより良いものにしていく必要がある。小1アプローチプログラム・スタートカリキュラムも改善し、実践する。 ○本年度、教育目標、目指す子ども像の実現を目指して、0期、Ⅰ期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしようと確認をして教職員が、協働して指導・支援を行ってきた。次年度以降もさらに0期、Ⅰ期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしていく。 ○指導の重点である確かな学力の育成では、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを各小・中学校で進めることができた。また、秋季研修会と年度末研修会では、学習指導部会が中心となって取り組み、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた。 ○1中学校4小学校だから実施する必要性があること「中学校体験授業」「小学校合同校外学習」等に取り組むことができた。また、「乗り入れ授業(小中連携加配)」「(体育)」にも取り組むことができた。中学校の授業について児童は知ることができ、有用である。 ○児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5

		までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 ○各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく、授業にも生徒指導の3機能を生かす取組ができ、おおむね落ち着いた状況で生活できている。 ○SNSに係る指導を小・中学校で進めることができた。 ●SNSにかかる指導については、PTAとの連携が必要であるので、運営会議とも連携して進める。 ○「二分の一成入式」「立志式」に取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。今後学園としてねらいや趣旨を共通化して、育成すべき力の実現を目指す。 ○今後も、「5・6年生の心得」などは、常に児童生徒の実態を踏まえ、検討を行い、全員で確認をしながら指導を進めていく。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 目指す子ども像の実現・目指す教師像の意識化に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業を通じた研修会 ウ 担任会を通じた研修 (2) 「集団の中で豊かに人とのかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア 峰山中学校合唱祭 イ 部活動体験 ウ 合同授業・学びの交流等 エ 体育祭等 オ 生徒指導の3機能を生かした「わかる・できる」授業実践 カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組	○『『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点』『生徒指導の3機能を生かした授業』について小中学校ともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を前進させることができた。 ○全教職員の研修会での実践研究及び各部会での実践交流を通して、教職員の交流を図ることができた。 ○峰山中学校合唱祭・クリーンキャンペーン・部活動体験・体育祭・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校への不安を解消したり、自己肯定感を高めたりすることができた。 ○小学校合同校外学習・合同授業等を通して小中の交流を深め、豊かな学習を創り上げたりすることができている。 ○交流会等への峰山高等学校教員の参加など、高等学校との連携を今後も進めていく。
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 家庭・地域への情報発信 (2) 学校支援ボランティアの活用 (3) 家庭との連携	○学園の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）と連携した峰山学園PTA統一目標を策定したり、具体的にPTA挨拶運動（峰山学園PTAみんなでおはよう運動及び交通安全指導）を実施したりすることができた。 ○小中一貫教育学園コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を運営会議と分担したことで、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 ○地域コーディネーターの配置を受け、学校支援ボランティア等を活用し、市民が、学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができた。 ○SNSについて、各小中学校で実態に合わせてPTAと連携して取り組むことができた。今後もSNSに係る指導をPTAと連携して進めていく。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
《成果》 1 児童生徒、教職員アンケート結果より ・峰山学園の小中一貫教育の成果は顕著に現れ、峰山学園の児童生徒の課題解消や軽減等は着実に進んでいる。 2 峰山学園の教職員のアンケートによって確実に小中一貫教育で目指している指導が浸透しつつある。授業について小・中学校の教員が協議できるようになってきた。 3 学園経営及び進行管理について ・経営会議が運営会議、教育課程会議及び生徒指導部、学習指導部などを統括する必要がある、組織改編を行った。 ・担任会の実践を進めるためにより機能的な組織体制にして、担任会がより授業づくりの実践推進を担うよう学習指導部と連携できるようにした。 ・担任会の活動内容(総括テスト、学習の振り返り)を明らかにし、授業改善や学力向上に繋がる実践に取り組むことが出来た。 ・学園が標榜している授業改善の3つの柱(授業を見る視点、生徒指導の3機能、目標と指導と評価の一体化)に焦点化した実践を進めることが出来た。 3 10年間を見通して一貫した取組について ・「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担当会に位置付け学習指導部と連携しながら(言葉の力の育成:思考する力・判断する力・表現する力)に焦点を当てた評価テストの作成等に取り組むことができた。 ・生徒指導の3機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた ・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。 特に、0期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を具体化してその指導を行う。学園内で各期に身に付けさせる力を協議して明らかにすることができた。 ・児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。 ・「5年生・6年生の心得」の取組だけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく授業にも生徒指導の3機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一人成式」「立志式」にも取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。 ・「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の3機能を生かした授業」について小中学校とともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を大きく前進させることができた。	改善方策 改善方策 ○令和2年度は、現体制(1中学校4小学校2子ども園の組織図及び組織体制)で運営していく。 ○担任会の取組の継続・発展 担任会…今年度の体制を維持し次の内容に取り組む。 ①学年の学習内容の復習のための課題づくり ②目標と指導と評価の一体化を具体化する総括テストづくりをすることによる指導力の向上を図る。 ③0期～Ⅲ期の指導目標を踏まえた指導の充実を図る。 ○小・中学校教員の研修会 授業づくりを中心とした協議を行い、小中学校で指導力の向上を図る。 ○令和2年度を目指す子ども像・教育目標・目指す教師像について、小中一貫教育推進の手引きをもとに検討を行う。 【令和元年度】 1 目指す子ども像 意欲を持って自ら学ぶ子ども(知) 思いやりのある子ども(徳) 進んで心と体を鍛える子ども(体) 2 教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 3 目指す教師像 教育的愛情と、使命感・情熱に満ちている教師 人間的魅力にあふれている教師 高い「専門性」と「授業力」を持ち、確かな学力をつけることができる教師 児童生徒、保護者、同僚、地域の人から信頼される教師 「京丹後」への理解と愛情と、国際的な視点に立った教育を進めることができる教師 4 学園経営方針 (1)一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童・生徒】 - ア 自分の将来を展望し、意欲を持って学ぶことができる取組を進める。 - イ 自分の思いや考えが表現でき、共に学び、思いやることのできる取組を進める。 - ウ 粘り強く挑戦し、自らの心や体を鍛えることのできる取組を進める。 (2)「中学校卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】 - ア 児童生徒の願い・希望・悩みに正面から向き合い、共感的理解と指導に努める。 - イ 「わかる」「できる」授業・生活の創造に取り組み、専門性の向上を図る。 - ウ 10年間を見通して一貫性・系統性のある指導を行う。 - エ 互いに学び合い、協働的な教育活動を展開する組織を構築する。 - オ 保護者や地域の人達と連携して児童生徒の社会的自立を図る指導を進める。 (3)保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】 - ア PTA・地域と連携した自己肯定感を高める取組を進める。 - イ 保護者・地域へ双方向の情報発信を行う。 - ウ 市民が学校の教育活動を積極的に支援する取組を

きた。 ・小中一貫教育コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を運営会議と分担したことで、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 《課題》 1 令和2年度学園経営に向けて (1) 組織体制及び運営上の改善 ・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、0期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を目指した指導をさらに進める。 (2) 令和2年度に向けての重点的な課題・取組方向 【教育目標・目指す子ども像・学園経営方針】 ・令和2年度についても、学園として教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子」の実現に向けて、PDCAサイクルで、学園経営を行っていく。 【学園指導の重点】 ・特に「確かな学力の育成」に関する取組では、「目標と指導と評価の一体化」を進めて行く。小小連携で、単元末総括テストの作成・実施・評価・改善に力を入れて取組を更に進める。 ・「目標と指導と評価の一体化」について、中学校での実践の分かる化を進める。 ・夏季研修については、教職員の指導力量を高めていく取組の大きな節としていく。特に授業づくりを重点として取組を行う。 ・授業研究については、学習指導部会が中心となって「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「目標と指導と評価の一体化」「生徒指導の3機能を生かした授業」を基に行う。小中全教職員が授業研究にかかわるためにも、各校で視点を明確にした実践を積み上げる。 ・「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」では、「言葉の力の育成」に焦点を当てた実践を進める。 ・生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、自己指導能力・人間関係力を身に付ける指導方法・取組について実践を積み上げていく。その中で、中学校卒業時に付けるコミュニケーション能力を明らかにしていく。同時に、指導者として各学年・発達段階に応じてそのためにどのような手立てが必要か検討していく。 ・学園評価について、方針に基づいて早い段階から、評価の計画・見通しを持ち、学園運営協議会での評価により指導の改善を図る。 ・教育評価（総括テスト等）から、教育指導を実践していく。ゴールや出口を明らかにすることでより質の高い取組を行う。保護者、地域の方々の評価については変更を加える。 【小中一貫教育の具体的な内容】 ・0期・Ⅰ期～Ⅲ期の実践を明確にし、小中一貫教育の姿を確認する。	進める。 ○学園指導の重点 指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動）」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。 教育課程部会が担任会等で協議して作成した（0）Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿一覧」を意識した指導を行う。 (1) 確かな学力の育成 生徒指導の3機能を生かした「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究） ※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。 ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める 授業の中で目指す児童生徒の姿（3目標） ①自己決定をしている ②自己存在感を感じている ③共感的な人間関係をはぐくんでいる そのための指導方法（3視点） ①主体的に活動する場面が設定された授業 ②本時の目標が明確で「わかる」授業 ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業 イ 目標と指導と評価の一体化を進める (ア) 目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計 (イ) 単元総括テストの蓄積と検証 (2) コミュニケーション能力の育成 確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動） ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導） イ 自己肯定感を高める取組（特別活動） (ア) 学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組 (イ) 集団の中で豊かに人とかかわることができる取組 (3) 評価を見通した取組の充実 ア 学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実 イ 教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善 ○ 小中一貫教育の具体的な内容 1 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標方針の共有に向けて (1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け 2 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 (1) 峰山学園の目指す子ども像を見通した指導と教育課
---	--

(3) 令和2年度に向けての年間計画・行事の見直し	程の作成 ア 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり イ 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 ・小6児童の不安感や中1生徒の困り感の再検証 ・中1ギャップの捉え直し ・単元総括テストの作成と交流と検証 ・京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 ・学力充実期間等 ・乗り入れ授業 ・小学校高学年での一部教科担任制(音楽科) ・中1生集中振り返り学習 ・全ての学年でのふりスタ ・中学校体験授業(年2回) ・二分の一人式(小4生)、立志式(中2生) ウ 0期Ⅰ期～Ⅲ期の目指す姿を達成できる指導について協議、実践していく。 エ こども園と小学校の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導 ・小1アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証 3 子ども、教職員の交流と協働 (1)「目指す子ども像」の実現・「目指す教師像」の意識化 ⇒教職員の協働及び教職員の交流 ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業を通じた研修会 ウ 担任会を通じた研修 (2)「集団の中で豊かに人とのかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア 峰山中学校合唱祭 イ 部活動体験・作品展 ウ 合同授業・学びの交流等 エ 峰山中学校体育祭(自由参加) オ 生徒指導の3機能を生かした授業実践 カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組 キ クリーンキャンペーン 4 家庭、地域社会への積極的な情報発信 (1) 峰山学園運営協議会による評価の実施と学園の目標、教育活動の保護者・地域住民への積極的な情報発信 (2) 中学校区の家庭教育の課題(基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等)を踏まえた「峰山学園」PTA統一目標の設定 (3)「峰山学園」PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 (4) 学園の教育活動に支援体制(学校支援ボランティア等)の機能化と充実
----------------------------------	---

令和元年度 大宮学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

- (1) 教育目標
自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成
- (2) 目指す子ども像
- 意欲的に学び、チャレンジする子ども (知)
 - 自他を大切にし、思いやりのある子ども (徳)
 - 心身を鍛え、活動的な子ども (体)

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- (1) 確かな学力の育成：「言語活用カリキュラム」の継続
- ①基礎学力の向上を目指した「主体的・対話的で深い学び」による授業づくり
 - ②小中接続を充実させるための授業づくり、授業計画の策定
 - ③「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指した授業づくり
 - ④保幼小の接続のためのアプローチプログラム・小1スタートカリキュラム
- (2) 人権意識の育成：「人権教育カリキュラム」の継続
- ①人権教育の理念に基づく「自他を大切にする心」を育成するための教育活動の充実
全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成
 - ②人権意識を育成するための人権学習の充実
- (3) 連携・体験活動の充実
- ①5歳児1年生・汽水域を中心にした効率的・効果的な連携教育活動、体験活動の充実
 - ②体験活動を通して「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成
 - ③効率的・効果的な共通した学校のきまり（学習・生徒指導・家庭連携）
 - ④夢・未来式（4年生・中3年生）
- (4) 目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働
- ①教職員の授業研究（主体的・対話的で深い学び）
 - ②合同研修会・実践交流会の実施
- (5) 家庭、地域社会への啓発、情報発信
- ①中学校区の家庭教育の課題を踏まえた「大宮学園」PTA統一目標の策定
 - ②大宮学園PTAによる「家庭のやくそく」の継続、親のための応援塾の継続
 - ③大宮学園PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施
 - ④大宮学園教育支援協議会による大宮学園教育環境づくりの推進
 - ⑤「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 学園内の全ての学校が、教育目標、目指す子ども像を共通化する。 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営計画を各校の経営計画へ位置づける。 (3) 学園内の全ての学校が、学園児童実態・課題、学園重点方針等を各校の経営計画へ位置づける。 (4) 学園小中一貫教育推進部会による理	(1) 学園教育目標及び目指す子ども像に向けて、学園内の2園所、3校での共通化に取り組んだ。 (2) 学園経営計画を各園所、学校の経営計画に位置付け、経営の充実に取り組んだ。 (3) 学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営を統括し、一貫した教育指導・活動の充実に努めた。 (4) 経営会議で園所・校の連携を図り、10年間の一貫した指導の充実に努めた。

	論・実践研究成果を各校に波及させる。	(5) 学園小中一貫教育推進 3 部会の実践研修成果を、各園所・校の運営に波及することができた。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 大中校区小中一貫校教育課程の編成 ① 汽水域指導プログラムの推進等 ・小中学校での乗り入れ授業の計画・実施（加配の活用） ・5・6年生での一部教科担任制 ・中学校授業体験（年2回） ② I 期・II 期・III 期の学習への円滑な接続 ・アプローチプログラム、小1スタートカリキュラム（5歳児担任・1年担任） ・夢・未来式の実施（小4年生・中3年生） ・小4・中1ふりスタ ・春季休業中の共通宿題（6年生） ③ 家庭学習の充実 ・家庭学習の統一手引き ・家庭学習がんばり旬間 (2) 学力充実向上に関する取組の進行管理 ① 学力調査と分析 ② 授業充実・授業力向上 (3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続 ① 5・6年生の心得 ② 共通の生活の決まり ③ 情報モラル教室 ④ 保園小中連携シート (4) モデルカリキュラムに係る推進 ① モデルカリキュラムの研修 ② モデルカリキュラムの年間指導計画への位置付け	(1) 大中校区小中一貫校教育課程の編成について ① 汽水域指導プログラムの推進等について ・小中連携加配に乗り入れ授業（音楽）を実施し、児童の実態把握や指導に効果があった。 ・人権教育加配が小学校での学習補助にあたることで、児童支援や児童の状況把握に効果があった。 ・英語指導について、小学校との授業研究を進めることで、授業づくりについての協働が進んだ。 ② I 期、II 期、III 期の学習への円滑な接続について ・保園と小学校との連携のもと、小1プロブレムの解消に向けての取組を行うことができた。 ・小4と中3で、夢・未来式に取り組んだ。 ・6年生を対象に共通テスト（数学）を実施し、中学入学後のテストに係る不安解消に向けて取り組んだ。 ③ 家庭学習の充実について ・家庭学習の手引き、家庭学習がんばり旬間により、家庭学習習慣の向上に取り組んだ。 (2) 学力向上に関する取組の進行管理について ① 学力充実部で学力分析を行うとともに、視点を明らかにした年間2回の大宮学園授業研究会を行い、授業づくりに取り組んだ。 ② 教科指導の連携・接続を目指し、担任会、小中連携による指導研究に取り組んだ。 (3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続 ① 学園として小中各校、一貫校PTAで情報モラル学習を実施し、多くのことを学ぶことができた。 ② 事例研究、引き継ぎシート等の充実に取り組めた。 (4) モデルカリキュラムに係る推進について ① 学園としてモデルカリキュラムをもとにした授業の実施を行った。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 連携・体験活動 ① 人権意見発表会（学校毎） ② 合唱祭 ③ 体育祭（招待状） ④ 部活動体験 ⑤ 体験授業 ⑥ 花いっぱい運動（学校毎） (2) 幼児・児童・生徒交流活動 ① 児童会・生徒会交流活動 ② 挨拶運動 ③ 生徒会アドバイス ④ 児童会・生徒会スローガン (3) 教職員の交流と協働 ① 担任会（小小担任会、1年担任と5歳児担任、6年担任と中1担任） ② 授業研究 ③ 合同研修・実践交流会	(1) 連携、体験活動、幼児・児童・生徒交流について ① 「おおみや学園のうた」ができ、合唱祭等行事や取組の中で園所校で学園の歌として歌うことができた。 ② 児童会・生徒会交流活動、挨拶運動（ハイタッチモーニング）、部活動体験等、計画通りに取り組めた。 ③ 掲げた大宮学園スローガンを意識して、取り組むことができた。 (2) 教職員の交流と協働について ① 合同授業研究会で、授業づくりについて学ぶ機会は意義があり、今後も充実を図りたい。 ② 3部会での現状分析、実践交流に取り組んだ。

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 中学校区の家庭教育課題を踏まえた「大宮学園」PTA統一目標の策定 (2) 大宮学園PTAによる「家庭のやくそく」の取組 (3) 大宮学園PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施 (4) 大宮学園教育支援協議会運営と大宮学園教育環境づくり (5) 「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発	(1) 大宮学園PTAの目標策定とともに、「令和版 家庭の心得」を配布し、掲示することができた。 (2) 大宮学園PTA事業計画に基づき、「エプロンでおはよう 挨拶運動」や「情報モラル学習会」等、計画的に実施することができた。 (3) 大宮学園教育支援協議会による地域連携、教育支援を進めることができた。また、学園コミュニティ・スクールに向けた取組を進めることができた。 (4) 学園だより、ホームページの更新等で、教育活動の発信に努めた。 (5) 学園評価を実施し、今後に向けた評価をいただいた。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
【成果】 (1) 小中一貫教育の重点（学力・体験活動・不登校）と「大宮学園目指す子ども像」整合性を図り、『連携・体験活動の充実』を経営の重点として推進できた。 (2) 学園3会議（経営、運営、教育課程）及び3部会（学力充実、人権・生徒指導、教育支援）が機能させ、計画的に学園の事業・取組を進めることができた。 (3) すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」の育成に向けて取組を推進することができた。 (4) 2度の授業研究会（市小中一貫教育授業研究会含む）や講師を招聘した学園研修等を通して、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を進めることができた。	【課題】 に対して (1) 学園評価を受け、小中一貫教育の3つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。 ① 市の教育課題改善のため、小中一貫教育の目的についての共通理解を当初全体会で確実に行う。 ② その具現化に向け焦点化した大宮学園小中一貫教育の重点策定を行う。次年度も今年度評価に基づき、『連携・体験活動の充実』、特に「精選（効果的・効率的）」と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 ③ 指導の重点の具現化に向けて、学園で一貫して取り組むことの整理を行い、評価の充実を図る。 (2) 大宮学園小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。 ① 大宮学園3会議と教育課程推進3部会の経営及び活動の充実と各校への効率的な接続を図る。 ② 連携教育活動を効果的・効率的に進める。 ③ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業研究を効果的・効率的に進める。 ④ 担任会・教科部会等を効果的・効率的に進める。 ⑤ 3つの力（ことばの力・思いやる力・つながる力）の育成に向けた授業づくりを進める。次年度から大宮第一小学校が府小研特別活動研究協力校の指定を受けることとなり、特別活動での連携をさらに進める。 (3) 大宮学園教育支援協議会の学園運営協議会（学園コミュニティ・スクール）への円滑な移行を図り、より地域とともにある学園（学校）を目指す。 ① 大宮学園の教育課題を改善するための地域連携をこれまでの組織を発展させた学園運営協議会を活用して強化・充実させる。

令和元年度 網野学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】	
あ：明るく元気に進んで学ぶ子	【知】意欲的に学習に取り組む子ども
み：みんななかよく支え合う子	【徳】規範意識をもち、仲間と支え合う子ども
の：のびのび生き生きやりぬく子	【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども
【学園教育目標】	
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進	

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 規範意識の醸成	
ア 学習規律の確立	
(ア) 人の話を聴く	(イ) 時間を守る (ウ) 服装・姿勢を正す
イ 生活習慣の確立	
(ア) テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める	
(2) 確かな学力の育成	
ア 主体的・対話的で深い学びの実現	
イ 学びのスタイルの確立と活用能力の向上	
(ア) 本時の『めあて』を全体で共有し、提示する。 (イ) 「思考をくぐらせる」場面をつくる。	
(ウ) 「考えを交流する」場面 (ペア・グループ学習等) をつくる。	
ウ 家庭学習の習慣化	
(ア) 低学年：20分以上 (イ) 中学年：40分以上 (ウ) 高学年：60分以上 (エ) 中学：90分以上	
(3) 豊かな人間性	
ア 積極的な生徒指導	
イ コミュニケーション能力の育成	
ウ ボランティア活動	
エ 自立的に生きる基礎の確立	
(ア) 切れ目のない組織的な支援 (イ) 保護者との連携	

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化 (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針・目指す教師像を経営方針へ位置付け (3) 学園内の全ての学校が、「これだけは！」の各学校の経営方針へ位置付け	○ 経営会議で確認したことを各校、各会議・各部会で年間計画に沿って取り組み、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 【児童・生徒アンケート（小学全19項目 中学全20項目）で肯定率80%以上の項目数】 小1（19項目）、小2（18項目）、小3（19項目） 小4（16項目）、小5（18項目）、小6（18項目） 中1（15項目）、中2（16項目）、中3（13項目） ○ 年3回の全体研修会を貴重な学びの場として研修し、網野学園全体の教職員が共有の学びをすることができた。 【教職員アンケート「教職員が互いに学び合い、協働的な組織となった」肯定率76%※昨年度69%】 ○ 「網野学園小中一貫教育だより」「網野学園小中一貫教育教職員だより」「網野学園教育応援会だより」

		を通して各校・各部会・応援会の取組を共有化することができた。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 規範意識を醸成し、落ち着いた環境をつくる取組 ア 「これだけは!」・「これだけは!」(授業編)の取組 イ 5年生中学校授業参観 ウ 6年生中学校授業体験 エ 6年生部活動体験 オ 乗り入れ授業・小小連携授業の取組・小中連携授業等の取組 カ アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検証 (2) 未来を展望し、将来を切り拓く力を育成する取組 ア 家庭学習の手引き・家庭学習がんばり週間の取組 イ 6年生学年末テスト・6年生春季休業中の課題 ウ 中1ふりかえり集中学習・小4ふりかえり学習 エ 京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 (3) 思いやりをもち仲間と共に生きる人間関係を築く取組 ア アルミ缶回収・ボランティア活動 イ 挨拶運動	○ 年間5回学園経営会議(園所小中)を開催し、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有しながら連携を深め、スタートカリキュラム・アプローチプログラムを実践したり、検証したりすることができた。 ○ 行動連携「これだけは」を基に一貫した指導を行い、どの学校、どの園所でも落ち着いた環境を創り出すことができた。 ○ 行動連携「これだけは」(授業編)を基に指導を行い、どの学校、どの園所でも「自分の考えを持つ」「授業で考えを交流する」を推進することができた。しかし、指導者として、更に一步踏み込んだ指導をするまでには至らない部分もあった。 ○ 小学校から中学校へ段差なく接続するために、「5年生中学校授業参観」「6年生部活動体験」「6年生体育祭取組見学」「6年生中学校授業体験」「乗り入れ授業・小小連携授業・小中連携授業」等に取り組むことができた。また、そのことにより規範意識を醸成することができた。 「5年生中学校授業参観」を今年度新たに実施したが、中学校の授業の「速さ」・「量の多さ」・「内容の難しさ」等を実感させることができた。 部活体験を6月に変更し実施した。中3から中1までいる中で、中学生は、小学生に対し中学生らしい態度を示すことができ、6年生は中学校への不安を減らすことなどができた。 土曜活用がなくなったため、今年度は6年生が平常日に体育祭の取組の見学を行った。チームごとに目的達成のために動く様子から、自分達で考える大切さ、行動の素早さ等多くのことを学んだ。 ○ 児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、家庭学習頑張り週間、小4ふりかえり学習・中1ふりかえり集中学習・6年生春季休業中課題・6年生学年末テスト(定期テスト対策)等に取り組むことができた。 ※今後の予定含む ○ 思いやりを持ち、仲間と共に生きる人間関係を築くために、アルミ缶回収・ボランティア活動、挨拶運動に小中合同で取り組むことができた。 ○ 情報モラルについての出前授業(学習会)を、小学4年生、中学1年生等を対象に、N I T情報技術推進ネットワークの篠原嘉一氏を講師として実施できた。SNS利用におけるトラブルについて具体的に知ったり、トラブルに合わないための方法を知ったりできた。

幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 目指す子ども像の実現に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ 授業研究会を通じた研修会 ウ 学年部会を通じた研修 エ 保幼小連携部を通じた研修会 (2) 落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア 6年生網野中学校合唱祭参加 イ 6年生体育祭取組見学 ウ 合同校外学習及び学びの交流 エ 小中合同交流事業（友だち交流会等）	○ 行動連携【しっかり考え学力をのばす「これだけは！」（授業編）】を基にして、各校で授業研究を進めることができた。 また、各校の授業研究を発表することで、網野学園の授業づくりについて発信することができた。 6月26日（水）網野北小学校「算数」 10月25日（金）島津小学校「外国語」 ※京都府小学校教育研究会外国語発表 ○ 年4回の学年部会を通して授業研究、学力充実の取組の交流、共通の校外学習・合同交流学习に取り組むことができた。小小連携の連絡、調整ができた。 ○ 小1学年部会（園所の参加）の中で、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有しながら、アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検証をしたり、研修したりすることで、園所小の協働意識を高めることができた。 ○ 落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事、部活動体験、網野中学校合唱祭参加、授業体験等、児童生徒は交流を通して6年生は中学校への不安を解消したり、中学生は自己有用感を高めたりすることができた。また今年度は新たに、5年生は中学校の授業参観により中学校の授業規律、授業の速さ、内容の多さ等を実感することができた。 ○ 網野高校教職員の授業研究会・網野学園教職員懇親会への参加、小中教職員の網野高校授業公開への参加等により、網野高校との小中高の交流を深めることができた。
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 網野学園教育応援会の取組 ア 網野学園の教育や子育て環境について学校・家庭・地域が一体となり、必要な教育支援を協議し、具体的な取組を推進して、教育力のある地域社会を目指す。 イ 網野学園小中（保・幼）一貫教育の推進に向け、学校（PTA）、家庭、地域社会が連携して取り組む。 (2) 京丹後市PTA協議会網野小中一貫校PTAの取組 ア 網野学園PTAとして、「学園合同交通安全運動」等、一体となって取り組み、学園「目指す子ども像」の実現に向けて連携して取り組む。 イ どの家庭でも、幼児から大切に「これだけは！」（家庭編）の取組 （ア）基本的生活習慣の確立 （イ）規範意識の基礎の確立 （ウ）家庭学習の習慣化	○ 網野学園教育応援会の取組を通して、学校・家庭・地域が一体となり、挨拶運動等、必要な教育支援を行うことができた。 ○ 網野学園PTAとして、「学園合同交通安全運動」等に一体となり、「目指す子ども像」の実現に向けて取り組むことができた。 ○ 網野学園教育応援会により「下校時巡回パトロール」の取組が実施された。 ○ 学園運営協議会に係るモデル指定（市教育委員会）を受けた。教育応援会の運営を通しながら、「網野学園教育応援会が学園単位での学校運営協議会（コミュニティ・スクール）への移行が可能か」について検証し、検証結果を報告した。※予定含む ○ 今年度は網野学園と市PTA共催という形であったが、網野学園家庭教育委員会も受付担当をするなど関わりながら「子育て講演会」が開催された。佛教大学教育学部 原 清治 教授により「子ども達のいじめや不登校」をテーマに講義をして頂き、子育てについて深く考えさせられる機会となった。 ○ 【どの家庭でも、幼児から大切に「これだけ

		は！」(家庭編)】についてリーフレットを配布し、10年間を見通して保護者と連携することができた。 ○ 小中一貫コーディネーターが中心となり、学園日より・ホームページ・リーフレット等を通して、広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○ 学園評価計画に基づいて、アンケートをとり、改善に生かすことができた。 ○ 学校支援ボランティア等を活用し、網野町民が学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができています。
--	--	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
○ 経営会議を定期的に開催し、学園内の教育課題を把握し、目指す子ども像・教育目標の実現に向けて経営することができた。 ○ 学園経営の基本方針に基づいて、重点的な取組内容(①規範意識の醸成、②確かな学力の育成、③豊かな人間性)、行動連携を決定し、学園評価に結び付けることができた。 ○ 運営会議・推進会議、また、重点2部会(生徒指導部会・教育相談部会)及び3部会(給食部・特別活動部・道徳部)の取組の成果・課題を把握し、総合調整をしたり、改善に努めたりすることができた。 ○ 昨年度の評価に基づき経営・企画することで、小中一貫教育関連事業が6年生に集中していることに対する改善をすることができた。 ○ 経営会議までに事務局会議等により学園内の教育課題を把握し、目指す子ども像を実現するための調整及び事務作業を行った。 ○ 経営方針に基づいて、運営上の課題の調整をしたり、年3回の学園全体研修会を実施するための調整及び事務作業を行ったりした。 ○ 園所間・小小間・小中間の連携、各会議・各部会の連携を小中一貫コーディネーターが行うことで、目標に沿った連携や取組を行うことができた。 ○ 小中一貫コーディネーターを中心に、保護者・地域との連携及び網野学園教育応援会の取組を進めることができた。具体的にあいさつ運動等の取組も実践することができた。 ○ 網野学園「共同学校事務室」が、「京都市チーム学校推進校(共同学校事務室)」として、実践研究のテーマ・達成目標を設定し、定例会議(月2回)より、実務に関する共同での事務処理について実践	○ 令和2年度についても、学園として「目指す子ども像」、「教育目標」の実現に向けて、PDCAサイクルで、学園経営を行っていく。 ○ 園、所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を目標とした実践研究が意欲的に進められている。※1:健康な心と体、2:自立心、3:協同性、4:道徳性・規範意識の芽生え、5:社会生活との関わり、6:思考力の芽生え、7:自然との関わり・生命尊重、8:数量・図形、文字等への関心・感覚、9:言葉による伝えあい、10:豊かな感性と表現 これら「10の姿」を、子ども達の成長を連続的なものとして捉える際に役立てながら、園・所と小学校との日常的な連携を一層進める。 ○ また、重点的な取組内容として、平成29年度より、「規範意識の醸成」「確かな学力の育成」「豊かな人間性」に取り組んできた。令和2年度についても継続して取り組み、実践を積み上げていく。同時に、行動連携についても継続して取り組む。その際、Ⅱ期の授業づくりを中心に、研究を推進する。 ○ 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン、ゴールの姿をイメージした単元全体を通した授業について、研究、実践を進める。 ○ 網野学園の課題の一つとして、家庭学習が十分定着できていないことがあげられる。確かな学力の育成を図るためにも、系統的に家庭学習に取り組み、保護者と連携しながら、定着と内容の充実をさせていくことが必要である。 低学年、中学年、高学年、中学校と期待される家庭学習の時間は増えていく。今年度のアンケート結果をみると、低学年から中学年へはスムーズに移行しているが、中学年から高学年、高学年から中学校に向けての移行で躓いている実態がみられる。

的に研究した。また日常的な電子会議を通して各校の状況・情報を共有しながら、組織力により各校課題の解決に取り組んだ。 △ 経営会議は、今後も、学園内の教育課題、各会議・部会等の動きを把握しながら、年間を通して課題を整理したり、新たな取組を提起したりして、的確な学園経営を行う。また、各会議・部会担当校長教頭は、経営会議に連絡報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進める。 △ 来年度も、各校授業研究の教科等については、各校で決定し、行動連携【しっかり考え学力をのばす「これだけは！」（授業編）】を基にしながら、研究を深める。 ※Ⅱ期の授業づくりに、より深く研究を進める。 【教職員アンケート】 ・「思考をくぐらせる」 肯定率60% ※昨年度72% ・「考えを交流する」 肯定率68% ※昨年度87% △ 幼稚園教育要領・保育指針が、平成30年度より実施。また学習指導要領は、小学校では令和2年度、中学校では、令和3年度より完全実施される。児童・生徒がどのように学ぶかに着目して学びの質を高めていく必要があるため、「確かな学力の育成」をする際の大きな柱として、「主体的・対話的で深い学び」の項目を設定した。次年度、Ⅱ期の授業づくりを中心に研究を深め、実践を積み上げる。 △ 島津小学校が、京都府小学校教育研究会外国語活動部会研究協力校（令和元年度発表）として、発表を行った。研究内容の成果を学園の授業研究に活かしていく。 △ 重点2部会（生徒指導部会・教育相談部会）は、学期2～4回、その他の部会（給食部・特別活動部・道徳部）年2・3回と分け、運営した。今後も、課題に応じ、会議の精選を図り、運営していく。 △ 園所小中間の連携、各会議・各部会の連携を小中一貫コーディネーターが行った。来年度も小中一貫コーディネーターが、各小中学校への訪問、各園所への訪問、各会議・部会への参加を行い、連携を図る。 △ 特別支援教育コーディネーターに係る会議等が必要な場合は、教育相談部・特別支援学級部等が柔らかな連携をする。	○ 行動連携『どの家庭でも、幼児から大切にする「これだけは！！」（家庭編）』の中の、規範意識の基礎の確立の中で、「テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める」を挙げている。しかし網野学園生徒指導部会のアンケート結果からも、大きな課題となっている。次年度も情報モラルについての出前授業（学習会）を、小学4年生、中学1年生等を対象に、網野中学校を会場として実施する。経営会議、運営会議が担当する。PTAとの連携も図る。 ○ 不登校等学校不適応の児童生徒が高止まりとなっている。10年間を見通して、家庭と連携し、一人一人の児童生徒が、学校の中に居場所を創ることができる力を身に付けていかなければならない。また、多様で複雑な不登校の要因や背景をできる限りの確に把握し、切れ目のない組織的な支援をしていかなければならない。重点的な取組内容の中にも豊かな人間性に位置付け、「自立的に生きる基礎の確立」に向けて、家庭と連携し系統的に取組を進める。 中学校入学前に、4小学校の児童が顔見知りであったり、名前を知っていたり、話したことがあったりすることは、中学校入学後の人間関係づくりの上で大切である。全学年において、それぞれの学校規模等状況に応じて、柔らかな小小連携を強めていく。 授業の中で「学びの楽しさ」を感じさせたり、「生徒指導の3機能」を意識した指導をしたりすることは、不登校等学校不適応の減少につながるので今後も引き続き推進する。 ○ 第2回全体研修会で立命館大学 野田正人 教授（京都府まなび・生活アドバイザー）の講義を令和元年度に続いて計画する。内容については、授業改善に係るもので設定する。
--	--

令和元年度 丹後学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

- | | |
|-------------------|-----|
| ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 | 【知】 |
| ②自分を大切にし、人を思いやれる子 | 【徳】 |
| ③ねばり強く身体をきたえる子 | 【体】 |

教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- | |
|---|
| ①研究主題を『子どものコミュニケーション能力を育成する。』～生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係～として、コミュニケーション活動を重視する中で、「主体的・対話的で、深い学び」となる授業改善、確かな学力の育成につなげる。 |
| ②保育所・こども園・学校間が連携して、就学前から中学校卒業までを通して適時性、一貫性・連続性のある教育課程を編成し、小中合同事業・保育園接続に係わる事業・小小連携合同事業と3つの事業の充実を目指す。特に、今年度は、保育園に関わる事業を重点に研究を進める。 |
| ③丹後学園の取組や事業等を積極的に発信することで保護者や地域の方の理解を一層深める。 |

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	①子どもの交流を図る行事等の実施を通して、「集団生活の中で人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高める。 ②重点教科を「算数・数学」とし、他教科の指導についても同様に主体的な学びに向けた実践を積む。 ③全体研修会、授業を通した研修会（3回）、学年部会を通した研修を計画的に実施し、目指す子ども像の実現、目指す教師像の意識化に努める。 ④月1回の計画的な経営会議（校園所長会議）を開催し、正確な実態把握に基づく方針を策定し、全教職員への情報提供を行う。 ⑤「学園だより」を発行して、取組の成果・課題の共有を図る。 ⑥組織的な会議運営を行い、教職員が自覚的に取組に参画できるようにする。 ⑦各会議や部会をそれぞれ学園内の各学校を会場にすることで、各校での取組の様子や児童生徒の状況を把握する一助とする。 ⑧丹後学園教育応援会との連携を強め、学園の教育推進に理解と協力をいただく。	○経営方針や計画に従って、学園経営を予定どおり進めることができた。学園内の教育課題の把握・整理を行い、経営方針のもと学園の重点（「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」「評価を見通した取組の充実」）を意識した経営につなげた。 ○運営会議・教育課程会議と学力充実部会・教育相談部会・生徒指導部会・保育園接続部会の4つの部会の実践について成果・課題を明確にし、今後の方向性を示し取組を進めることができた。 ○教育フォーラムにおいて「なかよし交流会」の授業を公開し、丹後学園の取組の概要と教育応援会の紹介、保育園接続部会の活動の報告を行い、高い評価を受けた。 ○学年部会で取り組む研究課題を引き続き設定したことにより、学年部会が充実し教材研究や指導方法の共通化等に取り組むことができた。さらに、目標と指導と評価の一体化を目指した授業研究をすることにより単元総括テストを作成することができた。《事務局会議（代表・庶務・学園コーディネーター）》 ○事務局会議を開催し、各部の取組状況や学園内の教育課題の把握・整理を行い、教育目標を実現するための調整・事務作業を行った。 ○学園経営方針に基づき、運営上の課題の検討や調整を行い、年度初・末全体研修会、夏季研修会を実施するための事前準備、事務作業等を進めた。 ○経営会議の内容について即日コーディネーターがまとめ、各校・園・所に発信した。 ○教育目標、目指す子ども像を学園単位で設定し、その実現に向けて一貫性のある教育活動を進め、実践を積み上げることができた。

		○各学校等で課題に応じた教育実践を行い、校種を超えて連携を図り、全ての学校等が中学校を卒業する姿を想定し、目指す子ども像を共有していく意識が高まった。 ○夏季全体研修等において全教職員が一堂に会して、子どもの実態や今後の適切指導や評価のあり方について協議し、目指す子ども像を明らかにすることができた。 ○夏季研修会において、非認知能力についての理論研修をすることで、丹後学園が大切にしている保育園の接続の重要性を確認することができた。 ●次年度さらに小中一貫教育を推進していくため、子どもの成長につながった具体的な指導方法の資料化や子ども像への到達についての検証が必要である。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	①就学前から中学校までの一貫した生徒指導、自己有用感を高める生徒指導を進め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ②指導方法の系統性や一貫性を重視するために、「目標と指導と評価の一体化」の観点から算数・数学を研究し、指導の方向を2小学校でそろえる。 ③総合的な学習の時間を活用した「丹後学」を教育課程に位置づけ、実践研究を進める。 ④学習指導・生徒指導を大きな柱として、10年間を見通した取組を展開する。 ⑤小1プロブレムを解消するための、保育所や子ども園と小学校との連携を進める。 ⑥中1ギャップ解消のため小学6年生と中学生との交流事業や体験学習等を推進する。	○丹後子ども園長、宇川保育所長を含め経営会議を実施し、連携を図ることで一貫した指導について取組を進めることができた。保育園の取組では、子どもたちの交流により小1プロブレムの解消につながったことや、接続プログラム・スタートカリキュラムを見直し改善を図り、実践したことにより円滑な接続となった。 ○年3回の学園授業研究会を行い、コミュニケーション能力の育成を目指し生徒指導の3機能（自己決定、自己存在感、共感的な人間関係）を生かした授業研究「国語」「社会」「数学」の授業の研究ができた。 ○「中学校授業体験、部活動体験」「小学校合同校外学習」「1年生と5歳児のなかよし交流」等、内容の充実を図りながら計画的に進めることができた。 ○「丹後学園生活のきまり」「にこちゃんのはっぴいでー（交通安全・挨拶）」の取組だけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組を行う中で、コミュニケーション能力を高める機会につながった。 ○交流行事や合同行事等の日程について、年度当初に確定することでスムーズでより効果のあがるものにしていくことができた。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	①2小学校が集合して実施する事業と各校で共通して実施する事業を行う。 【2小学校合同事業】 ②教職員全体研修会・授業研究会を年間3回実施するとともに、保育園接続部会や期別部会・学年部会を開催して、それぞれの課題の改善や解決に向けた取組を実践する。 ③中学校1年生入学後1カ月ごろの状況及び出口となる中学3年生の授業公開を行い、多様な視点で課題共有すると同時に指導について研究協議を行う。（第Ⅱ期及び中3の公開授業）【小中合同事業】 ④教職員間…学年部会での授業研究会・統括テストの作成 保育園接続部会でのスタート研修会【保育園接続に係わる事業】 ⑤保育園の子ども…5歳児と小1年生との交流会（2回） 保育園の教職員…5歳児と小1担任の夏季研修会、テーマは「話す・聞く」	○自己有用感を高め、言語活動をとおして主体的な授業を推進するために小・中学校で「丹後学園学びの指導（指導の視点、学びの力）」をもとに、授業研究を行うことができた。 ○夏季研修会で新指導要領の実施を控え、改定のポイントや全面実施までの動き等の理解を深めた。また各部会の実践交流を通して教職員交流を図ることが進んできた。 ○合唱祭・部活動体験・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校生活への不安を解消する機会になった。 ○合同修学旅行、校外学習、合同避難訓練を通して小・幼中の交流が深まり、コミュニケーション能力を高めたり、豊かな学習を創り上げたりすることができた。 ○各校種での教師の動きや指導を参観することで、互いに学び合うことができ系統的な学習の意義が再確認できた。 ●行事の精選、研修設定を工夫し、適切な時期に実践できるようにしていくことが必要である。

家庭、地域社会との連携、情報発信	①「丹後学園教育応援会」の機能化と充実を図る。(年間2回) ②「丹後学園だより等」を発行し、保護者や地域に配付することで、理解を得られるようにする。また、各校のホームページにて、取組の状況を発信するように計画する。 ③学校支援ボランティアの方々による支援をいただき、教育活動の内容充実に取り組む。	○学園だより・ホームページ・リーフレット等により、情報発信を行い広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○丹後学園教育目標をふまえ、丹後小中一貫校PTAとして共通の目標と活動方針を設定し、連携・協同した取組を行うことができた。(6月、11月の15日を一斉挨拶運動) ○学校と家庭、地域社会の横の連携を深めるために丹後学園教育応援会の会議を年度当初より開催し、小中一貫教育の支援、協力、理解を得ることができた。 ○学園評価計画に基づいて、アンケート等を取り、改善に生かすことができています。 ●小中一貫教育の成果をさらに広く発信し、地域住民へ学園の重点が浸透するように本年度の取組を継続していくことである。
------------------	---	--

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
今年度の成果 ①導入準備期間を含め5年間行ってきた実践を活かして、本実施4年目の丹後学園の経営がスムーズにできた。組織や会議について当初計画したことが、予定どおりに実施できた。 ②発足4年目となる小中一貫教育支援協議会(名称:丹後学園教育応援会)に様々な支援をいただいた。 ③小・中学校だけでなく、こども園・保育所も含めた取組を実践することができた。コミュニケーション力の育成を研究主題に掲げ、各保育園中のそれぞれの実態に合った研究が進んだ。保育所やこども園の園児の状況を学園として情報共有を行うことができ、保育園の接続に関する学園としての研修が進んだ。 ④小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園の園児の状況を学園としての情報共有と交流を丁寧に行い、令和元年度の「教育フォーラム」において、「丹後学園」として、計画的に研究を深めてきた内容を研究発表・授業公開を行うことで、京丹後市に広く発信できた。 ⑤小学校間(校区2小学校)の学年ごとの合同学習、修学旅行等ができ、児童の交流が深まると同時に教員の指導方法等の交流も深めることができた。 ⑥小学校と中学校との教職員の意見交流及び合同研修を通して、相互理解をさらに深めることができた。さらに、実態に応じた指導方法の工夫・改善について、3回の授業研究会を通して研究協議を行い、前進させることができた。また、ゴールとなるめざす中学3年生の姿を共有することができた。 ⑦昨年に引き続き、算数・数学の指導を中心に研究を行うことで、目標と指導と評価の一体化を目指す授業づくりの研究の充実を図ることができた。 今年度の課題 ①学力向上に資するための「モデルカリキュラム」の活用をさらに進める。 ②総合的な学習の時間の学習内容に重複があるので、丹後学園としての総合的な学習の時間の系統立てた内容づくりが課題としてある。	○経営会議は、次年度も、学園内の教育課題、各会議や部会等の活動状況を把握しながら、恒常的に課題を整理や新たな取組を提起し、学園経営を行う。 ○各会議・部会担当校園所長は、経営会議に事前連絡、事後報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進めていく。 ○部会は、学力充実部、教育相談部、生徒指導部・保育園接続部の4部会とする。 ○教育課程会議兼学力充実部会については、教務主任が担当し、学力の調査・分析や学力・授業力向上を図る計画・実践に関わる進行管理、検証等を行う。 ○令和2年度京丹後市給食研究会と、令和2、3年度京都府給食研究会に向けて、学園の中に対応する特設組織をつくる。 ○令和元年度と同様に、重点的な取組内容として「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力」「評価を通じた取組の充実」を設定していく。 ○夏季研修については、運営部会が企画、計画、運営をする。 ○授業研究については、「主体的・対話的で、深い学びの授業づくり～生徒指導の三機能を生かして～」を研究主題として学園で研究を行う。 ○授業研究の推進役は教務主任であるので、授業研究は教育課程会議・学力充実部会が所管する。 ○小中全教職員が積極的な授業研究にかかわるためにも、視点を明確にした協議をしていくことである。 ○「コミュニケーション能力の育成」に関しては、生徒指導の三機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)を生かした取組を充実させていく。特に、授業の中にも生徒指導の3機能を生かした実践を積み上げていく、積極的な生徒指導を行う。また、学校や地域社会の一員として集団の中で人とのかかわる機会を生かし、コミュニケーション能力を身につける。 ○生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、中学校卒業時に身に付けるべき良好な人間関係を構築できるよう実践を重ねていく。 ○学園評価について、令和2年度については、目標を立て、指導し、評価をしていき学園経営を実践していく。また、教育目標の達成に向けた取組の成果と課題をより明確にさせ、具体性のある改善策を検討していく。

令和元年度 弥栄学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、
たくましく生き抜く児童生徒の育成」

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進
 - ・授業実践力等の向上（他校種研修、授業研究会、全体研修会等を通じて）
- (2) 自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の3機能を生かした実践の推進
 - ・異年齢の交流活動、自尊感情、自己有用感、上級生への憧憬
- (3) 教育活動全体を通して「思いやる心」の育成

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	1 自立の基盤をつくる (1) 学園として小中一貫教育の取組を計画的に進める。 (2) 学園内の教育課題、各会議、部会等の把握、指導助言する。(経営会議) 2 教職員の連携 (1) 教育目標、目指す子ども像等を共有し、重点課題及び取り組みの柱を定め、実践する。 (2) 学力の定着、コミュニケーション力、規範意識向上、教職員の資質向上をめざす。 3 信頼される学園づくり (1) 学校、園、家庭、地域社会が連携した「横の連携」を深め、教育目標の具現化を目指す。 (2) 弥栄学園支援協議会との連携と教育環境づくりに努める。	○ 昨年、整理した組織体制によって役割をより明確にして各部会の取組の評価を行い、進行管理に努めた。計画的に会議を設定し、課題を整理し学園経営を予定どおり進めることができた。経営方針のもと学園の重点（「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」、その土台となる「生徒指導の3機能を生かした実践」）の大切さを公開授業や事後の研究協議し、日々の授業に生かしてきた。 ● 継続、廃止を年度内で検討し、園、各校の行事と重なることを回避し行事計画の策定をする必要がある。目指す子ども像を意識した指導について、校種を超えて協議する機会を計画し、検証する時期も取組後に設定するなど具体的な動きが迅速にできるようしていく。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	1 学力向上、授業づくり (1) 幼小中の接続を意識 ・こども園参観、実態報告後研修 (2) 授業研究等 ・夏季研での中学校からの実践報告 ・公開授業後の研究協議（日々の授業に生かすポイント、課題の整理等） (3) 深い学びへ誘う授業展開 ・学習意欲を高める ・安心できる学習環境	○ 教育目標、目指す子ども像について、今年度も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んだ。授業公開や小・中学校の教科担当者から児童生徒の実状や具体的な指導方法について実践報告があり、今後の教科指導について深く考える機会となった。 ○ 夏季全体研修では「こども園」の子ども達の活動を参観し、幼児期における指導や支援について報告を受け、幼小中学校の10年間を見通して教育する

	2 教育活動全体を通じた「思いやる心」の育成 (1) 子どもの実態を把握し、適切な指導について研究協議を行う。 ・合同研究会 ・公開授業 ・状況交流 (2) 交流活動の活性化を図る。 ・合同授業 ・児童と生徒の意見交流等 ・部活体験 (3) 生徒の3機能を生かした実践を推進する。 ・自尊感情、自信と責任 ・上級生への憧憬等を実感させる。	重要性を実感できた。(園児から児童、児童から生徒へ発達する過程を踏まえて、指導を展開していく) ● 今後の指導において、深い学びへ導く授業をめざすために、自力解決するために熟考したり、仲間と共にじっくりと協議したりすることが求められる。そのためにも日々の授業で考える活動の場を提供することや評価材料として複数回の思考を繰り返しながら解答を導き出す問題の設定を準備していくことが要る。言外の意味を汲み取る十分な読解力をつけることが迫られる。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	1 子どもの活動 (1) 幼・小 (2) 小・小 (3) 小・中 ・体験入学、合同授業、部活体験 - 児童会・生徒会交流 2 教職員 (1) 小中合同授業研 (2) 出前授業(中から小へ) (3) 夏季全体研修会 (中学校の授業実践報告等)	○ 英語を活用した合同授業では小学生の活躍の場が少なかったものの中学生の自己有用感や中学生の姿に憧憬の気持ちを持つ機会になった。 ○ 部活動体験については、小中ともに意義のあるものとなった。関心を寄せる小学生は多くいた。 ● 各校ともに学校行事等の取組と並行して準備していくこともあり、形ばかりを取り繕うことになった感もあるため、発展的解消として英断していくことが要る。 ● アンケート結果等をもとに進めるべき取組については、時期とねらい、円滑な運営となるよう計画的に行うことである。
家庭、地域社会との連携、情報発信	1 連携を図る (1) PTA、地域ボランティアの協力 ・登校時のあいさつ、交通安全指導 ・マラソン大会時の交通安全 ・学校行事参観 (2) 情報発信 ・リーフレット作成 ・たより、HPによる行事等紹介	○ 行事の事前連絡や行事後、速やかに活動内容を整理し、学園ニュース(教職員向け)、小中一貫教育だより(保護者、地域向け)、学園ホームページにより情報発信を定期的に行った。また年度初めにはリーフレットを活用し、広く発信ができた。 ○ 弥栄学園教育目標を弥栄小中一貫校PTAの共通した目標と設定し、連携・協同した取組を行うことができた。(学園P家庭教育委員会 音楽を通じた親子のふれあい、交通安全、挨拶運動) ○ 校外でのマラソン大会時の交通安全指導は、地域の、支援協議会、PTAの方々に協力が得られた。(情報発信、協力依頼等) ● 小中一貫教育の手法を用いた学園としての教育活動について、理解や成果を今後も定期的に発信し、地域住民へ教育目標がより浸透していくことである。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
○経営会議 年間を通して、運営会議、教育課程会議、3つの部会の取組の成果を束ね、教育実践の方向性や到達点を明らかにし進めた。 ○月1回のペースで定期的に会議を設定し計画の進捗状況や園・各校の状況も交流しながら計画を進めることができた。 ＊肯定的評価、課題（アンケートから） ・授業に関して・・・話し合い活動を積極的に取り入れることが増えた。 ・安定した学園・学級経営が、児童生徒の落ち着いた生活を担保している。 ・自己肯定感は、小学校、中学校とも全国平均より低い結果となった。 ＊体験授業を受けて、児童の授業や勉強への不安は少し和らぎ、中学校への入学を楽しみする児童が昨年より増えた。 ＊弥栄学園の取組はよいことだと8割を超える肯定的な回答があったが、地域の特徴を生かした小中一貫教育については、わかりづらいとする地域、保護者からの回答があった。 ＊教員の主体的な事前準備や協力により子どもの活発な活動を見ることができた。さらに効果的な取り組みになると成果が期待できる。	1 次年度の京丹後市小中一貫教育授業研をととして、小・中学校での授業づくりに力点を置き第Ⅱ期、Ⅲ期の充実をめざした研究を深める。 ・幼小中学校10年間を見通した指導展開をしている。（園から小、小から中への発達過程を踏まえて、系統的な計画を意識して進める。） ・教育活動全体を通して「思いやる心」を育成し、人権風土に包まれた安心安全な教育環境づくりに全力を尽くす。 ・他者の意見を尊重し、自分の意見を持ち、発信する力をつける。 2 交流・連携活動により体験活動を活性化する。 ・園と小、小と小、小と中との活動により、自信と責任、自己有用感を身につける機会とする。 3 学園の教育目標の具現化を図るために、機能的な動きに加え、効率よく取組の運営ができるように組織を整理する。 ・教育課程会議と学力充実部会は、今年の実績に沿った教育課程を中心に行う部と学力・授業研究を行う部にすみわけをしてそれぞれの活動を充実させる。 ・園、小接続部会の担当は、こども園園長が代表となり、教育課程会議担当校長が代表とともに取組充実を図る。 ・特別支援学級部会は、学年会の一つとして位置付ける。

令和元年度 久美浜学園小中一貫教育報告書

1 「目指す子ども像」、教育目標

[教育目標]

「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成」

[目指す子ども像]

(知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども

(徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども

(体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 中期的な展望(取組の見通し)

年度	教職員の意識	学力	ギャップ(不登校)
28年度 (1年次)	各校の取組の共通点をベースに取り組む	共通項をもとにした取組	保幼小の接続・各校の取組交流
29年度 (2年次)	学園中心の事業の展開・10年間のカリキュラム(必要な教科)検討	授業についての論議・これだけはの推進	児童生徒の情報共有・指導の継続性
30年度 (3年次)	中3卒業までに付けたい力と指導についての教職員による論議	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の在り方確認
1年度 (4年次)	指導の充実期・新学習指導要領と新教科書への対応(小)	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の系統性確認
2年度 (5年次)	久美浜学園保幼小中一貫教育の継続した取組の整理とまとめ・新学習指導要領と新教科書への対応(中)	授業スタイルの充実	情報共有・学園としての指導の継続

(2) 重点目標

「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

(3) 指導の重点

『学力向上』①基礎・基本の徹底 ②言語活動の充実 ③家庭学習時間の確保

(4) 取組の柱

ア	10年間(就学前から中学校卒業まで)の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任をもつという意識の向上 (ア)久美浜学園全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。 (イ)目指す授業として、次期学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識する。その上で、学園テーマとして、「言語活動の充実」を設定し、すべての教職員で幼児児童生徒が自らの考えを深めるための教育活動を志向する。
イ	各校園所における規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校(園)づくり、授業づくり (ア)生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした「わかる授業」により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育てる。 (イ)基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付けきる。 (ウ)系統的な「話し合い活動」の指導とスキルの向上を目指した取組を進める。
ウ	子どもの交流行事並びに教科指導交流の推進による行動連携強化 (ア)共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける保幼小、小小、小中における交流行事 (イ)豊かな教科指導を目指す指導交流(保幼小連携、小小連携、小中連携)
エ	保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組を進める。 (ア)PTA、学校地域連携推進協議会、地域本部事業との連携 (イ)家庭学習時間の確保に向けた連携

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 経営会議を中心に組織的且つ丁寧に、実態や課題、目標、方針等の共通認識を図り、久美浜学園としての共通確認・共有を図る。 ア 年度当初の学園全体会での提起と全体研修会での全教職員による学びを通して、共有を進める。 イ 年3回の公開授業と交流会で、教職員同士の「理解と対話」の充実を図る。 (2) 保幼・小・中で共通指導内容を確認し、PDCAで改善を図りながら共通理解を深める。	○久美浜学園7校園が一つの目標に向かって取り組むことができ、また意識としてもさらに共通理解が進み、小中一貫教育を手段として取り組む素地が整ってきた。今後も「理解と対話」を進め、その上で具体的に取組を進める。 ○テーマや子ども像を受けた様々な取組の中で、教職員が交流し、相互理解が一步步進んでいることが大きい。今後も丁寧に進めていく。 ○共通指導事項を確認し、指導を継続していく。今後も、常に目標やめあてを振り返りながら進めていく。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育課程編成 ア 考えを深め、コミュニケーション能力を高める学習の推進 イ 郷土への愛着と誇りをもち、人となつながら力を育てる学習の推進 ウ 保幼小の接続を中心とした教育課程編成 (2) 重点指導 ア 学力向上 (ア) 授業規律の確立 (イ) 基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり イ 不登校の解消 (ア) 規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (イ) 学級活動の充実と児童会・生徒会活動等自主活動の活性化 (ウ) 自尊感情の高揚 (エ) 保幼・小・中の連携強化 ウ 今日的課題(情報機器の安全な取り扱い) (ア) 「法やルールに関する教育」の推進 (イ) 人権教育の推進	○学園テーマ「言語活動の充実」を各校で追求するとともに、全体交流会のテーマに設定し、中3卒業時の姿について一歩ずつ共有できてきた。また、その成果として『10年間を見通した言語能力表』を作成し活用できた。深い学びについての理解や各校種での目指す姿について協議できた。 ○学園独自で作成したアプローチプログラム、小1スタートカリキュラムの実施状況を検証し、よりよいプログラム等になるように改善した。 ○久美浜学園「授業心得」や小中共通指導事項を継続して取り組んだ。 ○4教科の「これだけは」は小学校でつける力として意識できた。6年生の春休みの課題を見直すことができた。 ○ICTを活用した授業づくりについて、どの場面で、どのように使うのか各校で研究を進めた。今後は授業スタイルの中にICTを組み入れ、より効果的な活用についての研究を深める。 ○PTA・保護者を巻き込んだ久美浜学園共通の「家庭学習がんばり週間」の取組を進めることで、学習習慣の定着を進めた。また、メディア・コントロールを学園全体で進めた。特に小中では、教育課程会議から家庭学習時間の確保、養護部会では保健指導を行いメディア・コントロールについて取り組めた。 ○教育相談部を毎月開催し、情報の交流と指導方法の連携を進めた。 ○学校生活の充実感を味わわせることや基本的生活習慣の確立を各校で図ることで、不登校の解消に取り組んでいる。 ○情報機器の望ましい活用(情報モラル)のための特別講演会を小4、全中学生、保護者対象に実施し、学ぶことができた。

幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 全体会、全体研修会、学校園公開授業と分散会、学力・授業づくり部会、生徒指導・不登校防止部会、学年部会を中心とした教職員の交流と協働 ア 中学校卒業時の生徒の姿を常に意識した協議 イ 児童生徒の実態交流に基づく具体的な取組の推進 ウ 「言語活動の充実」の系統性を意識した指導を目指す授業研究 (2) 学校、校種間をまたがった指導の推進 ア 小小連携、小中連携、専科教育、出前授業等、人的交流をもとにした協働 イ 振り返りスタディ等指導面での協働 (3) 幼児児童生徒の行動連携 ア 保幼の連携 イ 保幼小の連携 ウ 小小連携 エ 小中連携	○全体会・公開授業、交流会等の教職員の行動連携につながる取組では、学びが深まったとか、いろいろな意見が得られ自分の取組に活かしたという肯定的な意見が多い。実際に子どもの姿を見ることで、保幼小中の指導の連続性を図っていく。 ○一方で、行動連携の内容としてもっと具体的な教科や内容にすべしという意見もある。 ○教職員の行動連携においても、交流の継続の大切さと同時に、資料の相互提供など工夫ができる。 ○子どもたちの行動連携事業についても、どの取組にも価値を見出し、そのことを活用して日々の指導に活かすなど、単に事業として終わるだけではなく、そこから広げて学びの機会になっている。それぞれの交流事業の良さを感じている。 ○特に小小連携事業の内容や時期については再検討を望む意見がある。 ○ねらいは中学校での出会いのための「仲間を知る」ということにしぼり、負担の無いように進めていく。
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 久美浜学園小中一貫教育に係る目標、活動等の広報及び啓発 ア たよりの発行(学期1～2回程度)、有線放送による取組紹介 イ リーフレットの作成(4月保護者参観等で配布、説明) ウ ホームページによる広報活動(久美浜学園のページ作成) (2) 基本的生活習慣の確立に向けた共通指導の確認と指導の推進 (3) 学校地域連携推進協議会の取組を通じた「久美浜を支える人」の協議 (4) 地域学校協働本部事業の積極的な活用等による久美浜町民の学校教育活動への参加と積極的支援 (5) 久美浜学園PTA・保護者会との連携による家庭教育支援	○小中一貫コーディネーターの活動により、様々な取組をいろいろな機会を通じて広報できた。その結果、保護者アンケートによると、学園の取組に対する肯定的な意見が年々増えてきており、また、分からないという意見が減ってきている。旧小学校ごとの6つの地区の区長会等に校長、コーディネーターが参加し発信する場を設けた。 ○学校地域連携推進協議会では、学園の取り組みを紹介し、支援を求めるだけでなく、設立当初より「久美浜を支える人づくり」について各団体との協議を進めることができた。次年度からの学園運営協議会に移行に向けて準備ができた。 ○多くのボランティアの皆さんの協力を得て、学園内各校園所の活動が広がっている。 ○保育所園・こども園も一緒になった久美浜学園独自のPTA・保護者会が設立され2年目となり、一緒に取り組むことで、より多くの家庭との連携が進められた。「あいさつ運動」「家庭学習がんばり週間」「スマホ講演会」等10年間を見通した取組に一步步つながってきている。

4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
○テーマ「対話と理解」が授業公開と交流会各部の取組等を通して一層進んできた。交流会で「みんながわかる授業づくり」について話し合い、小中一貫の意識化につながった。 ○幼児教育・保育における取組について学べ、幼児から小学校への接続やその意義について理解が深まってきた。 ○各会議、各部のミッションをより明確にしたことで、限りのある部会ですることが明確になった。また、経営会議の方針のもと企画運営会議が運営し、教育課程に関しても一致して進めるシステムがさらに機能してきた。 ○10月の公開授業の際、全体会でタブレットの操作方法、活用法についての講習を受けた。試行錯誤しながら、どのような活用が効果的かを各校で研究できた。 ○小中連携事業のほか、小小連携事業や園・所の連携事業も確実に実施でき、将来につながる取組にできた。 ○コーディネーターの活躍により、広報・会議のまとめ・幼小中のつながりが確実に進んだ。 ○4PTAと3保育所園・こども園の保護者会も一緒に活動でき、学園PTAの基盤が確かなものになった。 ○学校地域連携協議会で「久美浜を支える人」についての話し合いがより進められた。 △久美浜学園の児童生徒の現状として、後ろ向きの雰囲気流されてしまうところがある。前向きに継続していく力をつける必要がある。 △連携部会の取組は回数に限られている中で、ミッションを成果が見えるところまで高めることが難しい。また、事務局のコーディネートがますます多くなっている。 △学校授業公開と交流会の成果は非常に大きなものであった。授業研究に踏み込むため、各校の重点研究をベースに担任会での学び合える機会を設定したが、日程的にも難しく活かせなかった。	・令和2年度（5年次）を深化の年ととらえ、成果の検証を行う。これまで積み上げてきた保幼小中教員の「対話と理解」をベースに、次の段階にステップアップしていく。市小中一貫教育推進計画の更なる共通理解を図り、更に学校園所公開や交流会を引き続き進める中で指導方法等の継続性について論議していく。具体的には、テーマを「主体的に学ぶ力の伸長」と設定し取り組んでいく ・児童生徒の生徒指導上の課題や不登校の課題について、肯定的評価を基盤に学園の教職員の指導観を見つめ共通化していく。 ・ICTの活用方法を整理し、学習効果の上がるICTの活用法について研究を深める。 ・指導方法の具体的な継続性を図るため、保幼小のアプローチ・プログラムやスタート・カリキュラムのほか、小中間の教育課程上の様々なギャップの解消に取り組む。 ・授業研究に踏み込むため、各学校の重点研究をベースに担任会での学び合いを進めるため、研究授業に参加しやすくするための日程調整、授業に関する資料の配付等を行う。 ・運営面ではこれまで進めてきた部会・会議や事業が一定落ち着いてきたことを受けて、より精選していく。 ・学園運営協議会発足に向けて、規則等を確認しながら進める。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら創造的に生きることができ、 1 将来に生きたる高い学力を育てる。 2 ものごとの価値、生き方・在り方を深く考える。 3 自律的に行動する力を育て、社会に貢献しようとする態度を育てる。		○児童相互の学び合いを大切にした授業づくりが進出し、児童の学習意欲や主体的な学習態度、家庭学習習慣などが一層向上した。 ○児童相互の共感的な人間関係が深まり、学校不適応、問題行動や不登校(傾向)の減少・改善につながった。 △児童が主体的・対話的に深く学び合う指導を教育課程全体で一層進め、質の高い学力と自立・自律の力を確かなものにしている。		人とつながり、かかわり合いながら、将来の社会的な自立を目指して力を付ける学校づくりを行う。 ①学び合う力をつける。(将来に生きて働く学力) ②育ち合う力をつける。(豊かな生き方・在り方)そのために、 ①学び合いによる学習を充実する。 ②問題解決の力を付ける特別活動を充実する。 ③その子らしさを伸ばし合う児童支援を充実する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	○学び合いによる学習を通して、学ぶ意欲と学ぶ力を高める。 ○教科指導を通して、将来の自立に生きたる知識・技能・思考力、自律的に判断し行動する力、他者と協働する力を高める。	①児童相互のかかわり合いの中で学ばせる。話し合い、伝え合い、聴き合い等を通じた教科指導に改善する。 ②ペアワークなど、協働して学ぶための方法(学び方)を指導する。 ③電子黒板やタブレット端末等のICT機器を効果的に活用する。 ④峰山学園共通方針の下、生活習慣の自立と運動させ、主体的に家庭学習に取り組むための系統的指導を行う。 ⑤学習する動機を太らせるため、校区の環境・社会・人材や地元企業・高校、大学を積極的に活用する。	○児童への意識調査では、95%が「相談したり話し合ったりすると学習がよく分かる」と回答しており、結果として「授業は分かりやすい」と思う児童が95%となるなど、授業改善の効果が上がった。学力診断から見える学力も良好な結果となった。 ○電子黒板がほぼ毎日活用され、授業改善が進んだ。 ○宿題を毎日すると回答した児童は95%以上で、家庭学習の量や時間等を自ら調整・計画できる児童が増加した。 ○ボランティア多数、企業経営者等10社・10名以上、高等学校等連携・出前10講座以上など、多数の人材を活用し、学習動機を太らせるキャリア教育が進展した。 △新学習指導要領の理念の一層の浸透を図る。	
生徒指導	○育ち合う力をはぐくむ指導を通して、将来の自立につながる共感的な人間関係を一層醸成する。 ○組織的な児童支援を通して、学校不適応やいじめを未然防止する。	①従来の行事・取組を見直し、将来の社会的な自立を目指した目的・内容・方法に改善する。 ②自ら決定し、話し合い、問題を解決し、成長に気付き合う自律的・自治的で問題解決的な特別活動をつくる。 ③教育活動全体を通して、多様性を認め合い、インクルーシブ環境で育ち合う指導を行う。 ④児童支援に係る分掌活動、支援会議、ケース会議等の質・量を高め、計画的・組織的な児童支援を進める。 ⑤スクールカウンセラーや関係機関、医療、福祉等との情報連携・行動連携を一層進める。	○多くの行事・取組を、児童主体の問題解決型に改善した。結果として、意識調査にトラブルを話し合いで解決すると回答した児童は97%、困っている人のために自分の力を使うとする児童は96%となった。 ○インクルーシブ環境での育ち合いを重視し、継続的ないじめは0件、特定児童への差別的・排他的言動もななく、学校で楽しいことがある児童は97%など、良好な社会的関係で構築できた児童が増えた。 ○年間を通して多様な関係機関との連携を継続し、不適応や発達課題を改善できた児童が多数にのぼった。 △不登校(傾向)児童・家庭への支援、愛着形成等の心理的課題、発達障害等への支援を一層進める必要がある。	

健康（体 育）・安全	○楽しく運動する意欲と習慣を育てる。 ○望ましい自立につながる基本的な生活習慣を確立させる。 ○児童の命と安全を守る。特に交通事故防止を徹底する。	①取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなどの体力づくりに取り組む。 ②基本的な生活習慣を確立するために、児童が自ら生活を点検・改善する取組を行う。 ③家庭やPTAと連携し、SNS・ゲーム等による生活の乱れや安全上の問題に対して、児童・保護者の研修・啓発・実践を進める。 ④PTAや地域の安全ボランティア組織等と連携し、登下校の安全確保と事故防止の取組を行う。	○自分の健康に目を向ける児童が増え、インフルエンザ流行期にも学級閉鎖を行う必要がなかった。 ○非行防止教室やPTAスマホ・ケータイ安全教室など、安全や生活習慣等に対する取組が昨年度より進んだ。 ○PTAや安全ボランティア組織による登校等の見守りとパトロールが毎日実施され、交通事故は0件であった。 △家庭で関わってもらっていると感じている児童はまだ85%以下に留まっており、家庭と連携した基本的な生活習慣確立等への取組を一層進める必要がある。
特別支援教 育	○将来の社会参加に向けた自立を支援するという立場に立ち、すべての児童が学校・学級とつながって育ち合い、その子らしさを伸ばし合えるようにする。	①苦手や特質・特性を修正するのではなく、その子らしさ、その子の得意を伸ばす支援に転換する。 ②どの児童もわかりやすい一斉指導や、どの児童も参加できる集団活動を基本にして、授業や行事を設計する。 ③個別指導に終始せず、育ち合いの視点から、友達の困りに気付いて動ける個と集団を育てる指導を進める。 ④保護者と定期的な懇談の場をもち、児童の将来についての願いを共有し合意形成を図りながら、一人一人に応じた合理的配慮を実現する。	○児童意識調査では、先生は自分の良さを分かっている94%、気軽に相談できる先生がいる98%となった。 ○全ての児童が参加できるよう行事を見直し、個別の環境調整を当たり前として取り組んだ結果、運動や集団活動が苦手な児童も全ての行事に参加できた。 ○困っている人に力を使うとする児童は96%（再掲）など、様々な場面で他者に気付き自ら判断して動くようになる児童が増えた。 ○児童の将来を共有した保護者懇談を重ね、特別支援教育・特別支援学級等への理解や入級希望が高まった。 △児童に対する気付きを即座に共有し、指導や環境調整につなげる態勢を一層強化する。
研修（資質 向上の取 組）	○授業研究等の実践的な校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。	①「つながりの中で学び合う力が豊かに育つ授業づくり」をテーマとした研究を設定して重点的な研修を行う。 ②授業づくり月間（毎学期1回、年間3回）を設定し、すべての教員がオープン授業等によるスキルアップに取り組む。 ③他校に対して積極的な授業公開や実践成果の発信を行う。	○教職員意識調査では、職能を積極的に伸ばせる学校であると94%が回答するなど、研修が充実した。 ○全ての担任が年間複数回の授業を公開し、授業を見合う具体的な研修を行ったことで、授業改善が加速した。 ○峰山学園での複数学年の授業公開、他校の視察受け入れ、府内研究会への実践報告等、多数の発信ができた。 △特別支援教育、児童心理の研修を充実する。
次年度に向けた 改善の方向性	○新学習指導要領の理念を全ての教育活動に浸透させるために、授業・特別活動・取組等の特長、学び合いによる学習、児童が自ら問題解決に取り組む活動、多様性を認め合う取組を一層充実する。 ○不登校（傾向）児童・家庭、愛着形成等の心理的課題、発達障害等に関する教職員研修を充実し、具体的支援を一層進める。 ○児童に対する気付きを即座に共有し、指導や環境調整につなげる態勢を一層強化する。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立いさなご小学校]

学校経営方針(中期経営目標)			前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども	重点目標	1 ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 2 家庭学習や個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。 3 知識・技能を用いて活用する力を育成する授業づくりを進める。	規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指し指導の在り方について研究を進めた。今後さらに新学習指導要領で目指す学力に研究を深めていく必要がある。そのためにも、言葉の力の育成と指導と評価の一体化を進める。	目指す子ども像を具体化する重点 1 自ら考え、判断し、表現する力を向上させる。 2 自ら正しく判断し、行動し、感謝の気持ちを持てる。 3 自ら根気強く、頑張る力を育てる。 4 保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。
	評価項目	教育課程 学習指導 生徒指導	具体的方策 1 算教を研究の柱とし、規律があり、ねらいが明確で児童がわかる授業を研究授業等によって教員が学び合う。 深い学びになる「指導」と「評価」の研究をとおして確かな学力の育成を目指す。 2 発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。 3 身に付けた知識・技能を用いて考える、言葉で表現する力を育成し、振り返りなどを通して学習意欲を高める指導を行う。	成果と課題(自己評価) ○1時間1時間ねらいを明確にした授業づくりを進めることができた。 ○峰山学園の家庭学習の習慣化を図る取組において、自らが開始する時刻、内容、時間を計画して行った。 ○主体的、対話的で深い学びの児童の姿をイメージして研究授業を行うことができた。児童アンケートによると授業が分かると回答した児童の割合が増加した。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として			1 特別支援教育部、教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、連携した指導を進める。 2 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他への思いやり」についての指導を重視する。 3 教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝え、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。	○要支援児童について共通理解を図り、組織的に支援をすることができた。 ○指導の基本に規範意識の高揚と他を思いやる心を位置付けて指導を積み上げてきた。 △児童アンケートによるルールを守って生活することに課題が見られた。3学期重点的に指導を行い、集合の仕方など改善が見られた。 △肯定的な評価活動を大切にして教育活動を進めてきた。今後も継続して評価活動を進める。

健康(体育)・安全	1 全般的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにねばり強く挑戦して、いこうとする態度を育成する。	1 体育部、健康安全部等が中心となり、期間を決め、集中的に朝マラソンや朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力(特に持久力)向上と粘り強く頑張ろうとする意欲を高める。 2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階にに応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。	○体育の授業、また、朝マラソンなど、期間を決めて持久走の取組を行うことができた。児童も一生懸命に取り組むことができた。 ○当番活動、係活動、委員会活動など日常の活動を大切にして指導を行ってきた。発達年齢に応じて、粘り強く取り組む姿勢が見られた。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方方向の情報発信による積極的な学校公開を進める。 2 信頼される学校経営を行いPTA、地域の関係機関、子ども園・中学校等との取組により連携を進める。	1 学校だよりや学級通信、HP等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も紹介したりして、双方方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 無理のないPTA活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。 3 学校として目指す授業、学校行事等に対する保護者、地域の方々の意見、思いをくみ取り、改善に役立てる。	○定期的に学校だよりを発行し、また、ホームページも定期的に更新し、情報公開を行った。 ○授業参観、行事参観を実施して本校の教育を広く紹介する場をもった。 △保護者アンケートなどから本校の教育に対して肯定的な意見をいただいている。その内容を今後も学校教育の改善に役立てていく。
研修(資質向上)	1 職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。 2 峰山学園が目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。	1 峰山学園研修会、校内の授業研修会等とおして、職員の指導力向上に向けた研修を行う。 2 峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方(Ⅰ期、Ⅱ期における指導の在り方)について研修を進める。	○峰山学園研修会、校内で算数科における「深い学び」の指導のあり方について研究を進めることができた。 ○小中一貫教育の各期の児童の姿を意識した指導を進めることができた。
次年度に向けた改善の方向性	本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指し指導の在り方について研究を進めてきた。深い学びの具体的な姿を全教員で確認することには不十分さがあるが、今後さらに新学習指導要領で目指す学力について研究を深めていく。「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け教育を進める。また、小中一貫教育の各期の児童の姿をイメージして指導をするようにしていく。	本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指し指導の在り方について研究を進めてきた。深い学びの具体的な姿を全教員で確認することには不十分さがあるが、今後さらに新学習指導要領で目指す学力について研究を深めていく。「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け教育を進める。また、小中一貫教育の各期の児童の姿をイメージして指導をするようにしていく。	

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立しんざん小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	評価項目	重点目標	具 体 的 方 策	[Let's GO! 笑顔と希望が輝く学校] 1 主体的な学びを大事にする学校 2 何事にも一生懸命に取り組む学校 3 思いやりの心で繋がりが合う学校 を目指して、学園評価・学校評価の結果に基づき教育実践の改善を図り、学校経営を充実させる。
	本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	1 児童実態を的確に把握し学力向上に向けた組織的な研究を行う。 2 新学習指導要領の主旨を理解し、本格実施に向けた準備を組織的に行う。 3 豊かな人間関係を構築し、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。	1 新学習指導要領の主旨に基づき、主体的な学びを育む授業改善と基礎学力の定着を目指した重点研究を組織的に取り組み、教師の指導力の向上を図る。 2 校内研修会やグループ研究を通して教師の指導力向上を目指す。週末の隣接学年部会を活用する。 3 数値目標を設定し、指導の工夫・改善を行う。 4 言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を目指し児童に自己肯定感を育む。生徒指導の3機能を生かした授業づくりを学園組織と連動し追求する。	○ペア・グループ等、多様な学習形態や活動を組み入れ、他者理解を図りながら学びを深めることができた。 ○校内研修会では新学習指導要領の趣旨理解、目指したい授業等、本格実施に備えた研修を行うことができた。 ○校内での漢字検定、学年のまとめ等、合格を目指して最後まで頑張る力が児童についてきた。 ○どの学年においても落ち着いた状況で学習できた。 △家庭背景、発達上の課題等が起因し、基礎学力の定着に課題が残った児童もある。
生徒指導		1 生徒指導の3機能を生かした授業作り、学級経営を行う事で、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、豊かな人間関係を築く力を育む。 2 いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。	1 児童の内面理解や安心して学べる教室環境を築くための職員研修を実施する。(初任者研修の活用、校内研修会の内容の充実) 2 「目的行動」を意識させ規範意識や集団生活上必要なマナーや行動について考えさせ、行動できる力を培う。 3 道徳教育、人権教育、特別支援教育の視点を大事にした取組を組織的に進める。(毎日人権、児童会の取組、日々の授業) 4 いじめをはじめとする気になる事象に関して素早く「報告・連絡・相談」のできる職員の体制を築く。	○どの学級においても生徒指導の3機能を生かした学級経営を心がけ、落ち着いた状況が生み出せた。児童間の関係性も良好である。 ○朝会等で常に「何のための取組か」「どんな力を高めたいのか」を意識できるよう話をした。各学級でも児童に意識化させ、目的意識をもって自分の力を高めようと努力する児童が増えた。 △家庭背景等から学校を欠席しがちな児童があり、保護者への働きかけや教育相談を行うことで後半改善したケースがある。継続的・組織的な支援が必要である。

健康(体育)・安全	1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体力作り、スポーツに親しむ能力や態度を育成する。 2 家庭・地域との連携を図り安心安全な登下校を目指す。 3 基礎的な生活習慣の確立を目指す。	1 朝マラソン、朝縄跳び、日々の体育等を通して基礎体力の向上を図る。委員会の取組を活用し「ギネスに挑戦」させ、スポーツに関する興味関心を育む。 2 発達段階に応じて薬物乱用教室、非行防止教室、SNSに関わる教室に取り組み。保護者への啓発を行う。 3 安全ボラレンティアと連携し見守り活動を充実させる。 4 「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した「生き生き頑張る週間」を設定し生活習慣を確立する。 5 栄養教諭による「食」に関する講話を給食試食会の際に設定し、家庭の意識化を図る。	○朝マラソンに積極的に取り組み、苦手を克服してきて児童があり、マラソン大会に繋げることができた。冬場の朝縄跳びに関しても全校的な高まりのもとに、高度な技を低学年が克服し跳べている。 ○薬物乱用防止教室、非行防止教室を計画的に実施できた。SNS使用に関わっては学級懇談会でも学校から話題提起を行い保護者の意識喚起を行った。 △生活習慣の確立において「早寝、早起き、排便」において課題が残った。迫り切れない家庭の実態もあり、児童の意識の持たせ方にも課題が残った。
特別支援教育	1 障害への理解、多様性を認め合い、好ましい人間関係を築く。 2 発達障害等の特性に応じた個別の支援のあり方を組織的に検討する。 3 自閉・情緒学級新設に伴い、特別支援教育の視点を全教育課程に反映させる。	1 発達障害等を含む個別の支援が必要な児童に対して合理的配慮をはじめとする支援の方策を他機関と連携しより効果的な支援を目指し検討、改善を加えていく。 2 保護者との定期的な懇談のもとに親の願いを反映させた支援計画を作成し、児童の発達を促す。 3 様々な障害に対する理解教育を進める。見える障害、見えない障害等、様々な視点から理解教育を進める。 4 特別支援学級児童や学級に対する理解教育を機会ある毎に関連させて行う。	○特別支援学級が2クラスになったことともあり全校への児童理解や通常の学級児童との交流(交流給食、どんと焼き、学習発表会への援助出演、等)や発信を大事にすることで自然な形で理解が深まった。 ○巡回相談を活用したり障害に関わる研修会を行ったりする中で効果的な支援の方策を検討し、児童の発達を促す指導に努めることができた。 △児童の発達の状況に合わせた特別支援学級だからこそできる支援や指導のあり方をさらに追及していく。
研修(資質向上の取組)	1 小中一貫教育「峰山学園」指導の重点を教職員が共通理解し確かな学力を育む校内研修を実施する。 2 初任者研修を活用し、教師の指導力向上を目指す。 3 教師力の向上に向けた研修や教師の学び合いを重視し教師としての資質能力の向上を図る。	1 峰山学園が目指す「確かな学力」の育成に向けての共通理解を図った上で、重点研究を進める。 2 児童実態に基づき、確かな学力育成に向け、何をどのような方法で育むのか、その取組内容の視点を明確に持ち組織的に研究を推進する。(学年の基礎学力定着に向けた数値目標の設定、学力充実の取組び合いの場になるよう、事前に運営委員会、企画委員会を通して目的を明確化した研修会を実施していく。研修会を企画運営させることで各主任の力量アップを図る。	○確かな学力の育成に向け、重点教科を国語科とし、「読む」力に焦点を当てた研究を行った。形成テスト、単元総括テストを自作し、指導と評価の一体化を目指した。「読む」力を伸ばすことができた。 ○新学習指導要領本格実施に向けた校内研修会を行った。移行に対しての準備を計画的に進め教職員の理解を図った。 △前半期は計画的な運営委員会、企画委員会を遂行できなかった。後半はタイムなスケジュールのもとに実施したが、年間を見通した運営が必要であった。
次年度に向けた改善の方向性	・特別支援学校適と判断された児童が入学していただくために個別のニーズに合った支援を行っていくために特別支援教育、理解教育をさらに進めていく必要がある。 ・「チームしんさん」の組織的・協働的な取組をした学校運営を行い、地域・保護者から信頼される学校作りを進める。 ・新学習指導要領の趣旨に基づく教育の充実、教職員の力量アップを図る研修会を充実させていく。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立長岡小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 (目指す子ども像) ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども		○研究発表会を目標に、生徒指導の3機能とユニバーサルデザインの視点を意識した授業づくりを取り組み、目標と指導と評価を一体化した授業づくりを工夫することができた。 ○特別支援コーディネーターを中心に、児童支援のあり方について検討し、家庭との共通理解を図ることができた。 ○取組を進めることができた。 △長岡トークタイム、ペア学習、授業の振り返り活動等、児童に表現する機会を多く設定したが、さらに主体的に表現する力を付けていく必要がある。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 笑顔あふれる学校づくり「なががおか大作戦」 な何ごとも最後までやりぬこう。ががまん強くつなろう。 お思いを伝え合おう。がが考えをもち行動しよう。 ◎ユニバーサルデザイン(UD)の視点を活かし、主体的・対話的で深い学びを充実させ学力向上を図る。 ・質の高い学力・コミュニケーション能力の育成 ・一人一人を大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導 ・人を思いやる豊かな人間性の育成 ・たくましく健やかな心身の育成 ・安心・安全で信頼される学校づくり(環境整備、保護者・地域連携)
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として 教育課程 学習指導	○質の高い学力の育成 (1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業の推進 (2) 目標と指導と評価の一体化の推進 ○コミュニケーション能力の育成 (3) 言葉の力の育成(対話的な学び、ノート指導、トークタイム) ○基礎的・基本的な知識技能の習得 (4) 全校でドリル活用 (5) 峰山学園家庭学習が (6) 放課後・長期休業の補習	(1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業づくりを目指し、UDの視点、生徒指導の3機能を大切にした授業を展開する。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、市小研の研究とも連動し「深い学び」を追究する。さらに、楽しい授業の工夫と学ぶ意欲を育成する。 (2) 児童実態に応じた目標設定及び学習指導要領完全実施を見据え、評価まで見通した授業づくりを行う。(単元構想・目標の明確化・意欲を高める評価) (3) ノート指導、トークタイム等の工夫、系統性のある指導を進める。 (4) 全校で週2回(月・木)のドリル、週1回(火)補習の活用・充実を図る。 (5) 学期1回の峰山学園家庭学習が元々週間では、意欲付け、目標の明確化、家庭との連携等、学校全体の動きをつくる。 (6) 放課後・長期休業等の補習では、「ジュニアわくわくスタディ」「プラスワンスタディ」等を活用する。	○算数以外の教科・領域の指導目標に、UDと生徒指導を意識し、目標と指導と評価を一体化した授業づくりを工夫した。 ○校内研修を充実させ、工夫・改善を行い授業改善に努めた。 △目に見える学力の課題改善に向けて、さらに少人数であることとを活かしたきめ細やかな指導を進め、個別の課題に迫る取組を継続する。 ○トークタイム、ペア学習、授業の振り返り等、表現する機会を多く設定し、表現力の育成を図ることができた。 △主体的に表現する力を付ける。 ○総括テストを作成する等、目標を明確にして授業づくりを進めることができた。 △各家庭・PTAと連携し、児童の家庭生活における課題を共有し、家庭学習の習慣化を図る取組をさらに進める。
生徒指導	○人を思いやる豊かな人間性の育成	(1) 生徒指導の3機能を活かし積極的な生徒指導を行い、安心できる居場所のある学校、学級をつくり、学級づくり	○児童の状況を全体で共通理解し、課題となる事象には生徒指導部会・教育相談部会をもち組織的に対応した。

	(1) いじめの根絶を目指し、安心して自己表現できる居心地よい学級・学校づくり (2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組	と授業づくりをつなぐ。 (2) 特別な教科道徳の授業を中心に、「法やルールに関する教育」「人権教育」などで豊かな人間性をはぐくむとともに、異年齢活動を通して、温かいつながりをつくり居心地のよい学校・学級づくりを進める。 (3) いじめ防止委員会を定例化し児童の実態把握、全教職員で情報共有、早期発見・早期対応・早期解消に努める。	△学校行事や児童会行事に教職員が協働して取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりを進める。 △居心地のよい学校、学級づくりを目指し、指導のスタンス、発達段階、個別の課題等、その原因をしっかりと分析し、課題に迫る。 ○いじめアンケートを活用し、実態把握・解消に努めた。	△学校行事や児童会行事に教職員が協働して取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりを進める。 △居心地のよい学校、学級づくりを目指し、指導のスタンス、発達段階、個別の課題等、その原因をしっかりと分析し、課題に迫る。 ○いじめアンケートを活用し、実態把握・解消に努めた。
健康（体育）・安全	(1) 健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成 (2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(1) 不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実と取組を推進する。 (2) 目標を明確にし継続的な体力づくりの取組を充実する。 (3) PTAのテーマにある「早寝、早起き、朝ごはん」を児童自身にも意識させ、家庭生活ががんばり週間を活用しながら、家庭と連携して健康的な生活習慣を確立する。 (4) 生命やからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度を育成する。	○中間マラソンや縄とび等、計画的に取組を進め、児童の体力向上を図った。 ○避難訓練を実施し、安全行動の確認ができた。 ○PTA 活動の中にここにこのカーの運行を位置付け、登下校の見守りを継続できた。 △長岡っ子安全ボランティアの方々の協力体制をさらに拡充する。	○中間マラソンや縄とび等、計画的に取組を進め、児童の体力向上を図った。 ○避難訓練を実施し、安全行動の確認ができた。 ○PTA 活動の中にここにこのカーの運行を位置付け、登下校の見守りを継続できた。 △長岡っ子安全ボランティアの方々の協力体制をさらに拡充する。
特別支援教育	(1) 児童の特性を踏まえ、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	(1) UDLのよさを活かした指導を充実する。 (2) 誰もが安心して生活できる学習環境づくりを進める。 (3) 行事や体験活動を工夫して自己肯定感を向上させる。 (4) コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制を構築する。（他機関との連携）	○特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭との連携も含め取組を進めた。 ○UDLを意識した授業づくりについて学び、充実を図ることができた。 △特別支援教育の意義等について、機会をとらえて保護者・地域に発信し、家庭との連携を図り支援を充実させる。	○特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭との連携も含め取組を進めた。 ○UDLを意識した授業づくりについて学び、充実を図ることができた。 △特別支援教育の意義等について、機会をとらえて保護者・地域に発信し、家庭との連携を図り支援を充実させる。
キャリア教育	○夢や希望、将来への展望をはぐくむ (1) 小中一貫教育（丹後学） (2) 体験活動	(1) 小中一貫教育推進計画基本計画を踏まえ、系統的な「総合的な学習の時間」を活用した丹後学を実践すること等で、ふるさとへの愛着をもたせ、身近な仕事を知り、将来の生き方・働き方について考えさせる。 (2) 米作り、社会見学、修学旅行等の社会とのかかわる活動や体験活動を充実させることを通して、興味・関心の幅を広げ自らの役割や働くこと、夢や希望、将来への展望をはぐくむ。	○「総合的な学習の時間」等で、京丹後市小中一貫教育基本計画を踏まえ、丹後学をカリキュラムの中に位置付け実践することを通して、自分を見つめ将来への展望をもたせることができた。 △地域の方々、専門的に優れた外部の方々から力添えをいただき、体験活動や学びを充実させることを目指し、調整する。	○「総合的な学習の時間」等で、京丹後市小中一貫教育基本計画を踏まえ、丹後学をカリキュラムの中に位置付け実践することを通して、自分を見つめ将来への展望をもたせることができた。 △地域の方々、専門的に優れた外部の方々から力添えをいただき、体験活動や学びを充実させることを目指し、調整する。
次年度に向けた改善の方向性		(1) 居心地のよい学級づくりと「わかる」「できる」授業づくりについて研究を進め、どの教室でも「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どの児童へも基礎学力を定着させるなど、児童の学力向上を目指す。 (2) 特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 (3) 居心地のよい学級づくりや地域と連携をした体験活動、学校行事・児童会行事の内容を工夫・充実等カリキュラム・マネジメントを行い、児童が自己肯定感を高め安心して学ぶことができるようにする。 (4) 生活習慣の乱れやSNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「よい睡眠」の大切さを児童が理解できる取組を進め、規則正しい生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。	(1) 居心地のよい学級づくりと「わかる」「できる」授業づくりについて研究を進め、どの教室でも「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どの児童へも基礎学力を定着させるなど、児童の学力向上を目指す。 (2) 特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 (3) 居心地のよい学級づくりや地域と連携をした体験活動、学校行事・児童会行事の内容を工夫・充実等カリキュラム・マネジメントを行い、児童が自己肯定感を高め安心して学ぶことができるようにする。 (4) 生活習慣の乱れやSNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「よい睡眠」の大切さを児童が理解できる取組を進め、規則正しい生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。	(1) 居心地のよい学級づくりと「わかる」「できる」授業づくりについて研究を進め、どの教室でも「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どの児童へも基礎学力を定着させるなど、児童の学力向上を目指す。 (2) 特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 (3) 居心地のよい学級づくりや地域と連携をした体験活動、学校行事・児童会行事の内容を工夫・充実等カリキュラム・マネジメントを行い、児童が自己肯定感を高め安心して学ぶことができるようにする。 (4) 生活習慣の乱れやSNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「よい睡眠」の大切さを児童が理解できる取組を進め、規則正しい生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮第一小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校 【児童】 ◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校 【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校 【保護者】 ◇他地域に誇れる地域とともにある学校 【地域の方】	○組織的授業研究による授業改善、全校体制による補習・補充、家庭との連携充実による基礎学力の安定 ○組織的な学校教育活動の充実 △特性等を踏まえた個に応じた支援による不登校課題等の改善 △大宮学園経営の充実と校内組織推進の強化	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	・読む力・書く力・確実に計算する力等、基礎学力を定着させるため、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 ・組織的で個に応じた指導・補習・補充体制を確立させ、基礎学力の確実な定着を図る。 ・知識・技能を用いて活用する力を育成するため、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を積極的に進める。	・研究推進委員会を中心に、基礎学力の定着のため、ねらいが明確で児童がわかりやすい(具体的手立てのある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。 ・学力診断テスト等の結果分析に基づき、補習・補充、発展学習等を組織的に行うことで、国算の基礎学力の定着と個に応じた指導・支援の充実を進める。 ・身に付けた知識・技能を用いて考える力(活用する力)を育成するため、研究推進委員会を中心となって主体的・対話的で深い学びの実現による授業改善を研究授業の視点とし、日々の授業の中での積極的な実践につなげる。	○校内ICT研修等、自校の教職員の実践から学ぶ実践的研修の有効性が確認された。また中学校との外国語活動や道徳の授業での連携が進み、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を様々な教科等で実践していく流れができた。 ○△各学年の放課後補習、朝ドリルについても計画的に実施できたが、今後は朝学習等で読解力をつけていくための手立てを考えていく必要がある。 ○ODRTにおいて国算とも全ての学年で全国平均を上回った。 ○活用する力を育成するために、先行授業を含む学年による教材研究や2学年同時の授業研究等、本校ならではの授業研究が研究の質を落とさず会議の精選も図りながら推進された。また学園でも共通した授業の視点で研究授業を推進できた。	
生徒指導	・発達段階に応じた「友だちとなかよくし、助け合う」気持ちを育成する指導を進める。	・特別活動、学級活動、道徳科を中心に、全教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかわりに関すること」2-(3)についての指導を重視する。	○人権旬間・月間の取組をきっかけとして、児童が自他のよさを見つたり、再確認したりする機会となっていた。また学年ごとに、指導計画に即した人権学習が進められた。 ○保護者・児童アンケート結果も、数値目標を大きく上回るなど、「友だちとなかよくし、助け合う」気持ちが確実に育成されてきている。	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

	・「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、自己肯定感を高める等、未然防止の視点での積極的な生徒指導を充実させる。	・教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的・継続的に伝えていくことで、自己肯定感を高め、明るく積極的な学校生活への態度を促進させる。	○△不登校傾向の児童とその家庭の様々な状況に対し、教育相談部を中心に多くの教職員が関わりながら、丁寧な対応や支援がなされたことで、長期の欠席が防止できているが、不登校傾向児童の解消には至っていない。 ○いじめ及び自己肯定感に関わる保護者・児童アンケートの数値目標を上回るなど、日頃の指導や調査に基づく対応への理解が深まっている。
健康(体育)・安全	・2020 東京オリ・パラを踏まえた全体的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない意欲を高める。 ・感情をコントロールする(協調性)、集団の中で自分を律する(自制心)、自主的に粘り強く取り組み(やり抜く力)態度を積極的に育成する。	・体育の授業と運動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組を行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすることです。体力(特に持久力)向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 ・協調性・自制心・やり抜く力を育成するため、指導のねらいを明確にした学級、学校の取組及び日々の指導を発達段階に応じて意図的・計画的に推進する。	○マラソン・大縄の取組は、意欲的に取り組ませる手立てを持ち、全体で確認し実施したことにより、体力の向上につながった。 △児童数が多いとはいえ、現時点で欠席ゼロの日がなく、休まず学校に来ようとする意欲を家庭と連携してさらに高めていく必要がある。 ○学年や学校の取組等では事前指導やタイムリーな指導によって、着実にレベルアップが図られている。特に音楽発表会での取組では、この3つを意識した指導が意図的・計画的に推進された。
特別支援教育	・学校生活で配慮を必要とする児童へのきめ細かな支援を組織的に推進する。	・支援会議を中心に配慮を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援方法を明確にしながら、担任・保護者と連携した組織的な指導を進める。	○支援学級の校内授業公開は全ての教員に多くの学びがあった。 ○△個別の教育支援計画について確実な作成がなされた。今後は計画に基づく実践の効果を確実に引き継いでいくことが重要である。
開かれた学校づくり	・丁寧で分かりやすい双方向の情報発信による積極的な学校公開を進める。 ・PTA、地域の関係機関、こども園、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。	・学校だよりや学級通信、HP 等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 ・PTA との積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。またこども園(保育所)と中学校と学園の幼小中一貫教育にかかわる研修、取組をねらいを明確にして確実に実施する。	○毎日の HP の更新及び各種通信の発行等によって、タイムリーに学校の教育活動や泊を伴う学校行事の様子を保護者・地域に発信できている。【HP のアクセス数 2 学期約 2 万回】 ○中学校との幼小中一貫教育に係るニーズに応じた連携の取組(道徳・外国語活動等)が推進された。今後も精選した学園の取組と合わせその充実を図っていく。 ○PTA 活動が、本部役員を中心に計画的で積極的な取組が無理のない範囲で進められている。
次年度に向けた改善の方向性	1 本年度重点目標の学校評価を踏まえ、より実態に合った充実の視点での次年度重点目標の設定と週・月・学期での進捗管理を徹底する。 (1) 保育所・こども園、中学校との連携強化及び家庭とのさらなる連携強化による学力の充実のため、読解力の育成と個に応じた指導をさらに推進 (2) 活用する力の育成、学習意欲向上のための組織的な取組の積極的実施と新学習指導要領の趣旨を踏まえた特別活動の研究推進 2 重点目標を踏まえた学級経営方針・分掌経営方針・具体的方策の作成と成果の全体の全体での確実な確認によって教員の意欲向上及び資質向上を図る。 (1) 学期ごとの個々の教職員への評価と改善の道筋への指導助言 (2) ふれあい三者での指導助言による教職員との信頼関係のさらなる構築		

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮南小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を研究し、確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。			○人権教育を基盤とし、互いの良さを認めあえる学級、仲間はずれやいじめの早期発見・対応により、安心して学び活動できる学級、学校づくりを進めることができた。 ○食育の授業を中心に主体的・対話的で深い学びにつながる授業の研究を深めることができた。 △深い学びのできる授業展開の工夫をし、学力の向上を図る。	大宮学園 めざす子ども像 (1) 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2) 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3) 心身を鍛え、活動的な子どもの育成
評価項目	重点目標	具 体 的 方 策		成果と課題 (自己評価)
教育課程 学習指導	(1) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (2) 基礎基本の定着と活用する力の育成	・わかる・できる授業作りのため、研究授業を行う。 ・言語活用カリキュラムを活用する。(話し合い活動で表現力を高める。) ・生徒指導の3機能を生かした授業作りをする。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。(算数科を中心に) ・新指導要領全面実施に向けて、道徳・外国語に加えて、プログラミング学習についての研修を行う。		○京丹後市小中一貫教育授業研究会に向けて、校内だけでなく、学園全体で事前研・事後研を行うことで、算数の授業改善を図ることができた。 ○総合教育センターの出席授業を活用し、主体的・対話的で深い学びについて学び、自校の実践につなげることができた。 ○△教職員の努力により、どの学年も落ち着いて学習に臨むことができた。しかし、さらに授業改善の必要な学級もあるので、今後授業研を実施する中で、力をつけさせたい。
生徒指導	(1) 児童の人権意識、自尊感情、規範意識を高める。 (2) 児童理解を深める。 (3) いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底させる。	・事例研究を行う。 ・自尊感情を高める取組をする。 ・週に1回は児童の実態交流をし、共通確認を図る。(会議後に時間をとる。) ・実態交流の中で、児童の見方について若い教師に学ばせる場を作り、人権感覚を磨かせる。 ・連絡・報告・相談を欠かさないことを意識づける。		○毎週1回会議後に児童の実態交流の時間を作るとともに、気になる事象があった時は、生徒指導部を中心に事実確認を行い、方向性を決め、複数で早期対応を図ることができた。 △担任によつては、報告が遅れることがあるので、今後とも連絡・報告・相談を密にするよう指導していくとともに、児童・教職員の様子を観察し、気が付いたことは早期に指導することが必要である。

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体 育）・安全	(1) 体力・運動能力の向上 (2) 健康安全教育の充実 (3) 食育・給食指導の充実	・体力テストの結果を踏まえた授業改善をする。 ・ルールを守り、自他を大切にすると安全教育、命の教育をする。 ・昨年度の研究を生かし、PTAとも連携を図り、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識づける。	○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することにより、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。	○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することにより、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。
(A)危機管理	(1) 状況を判断し主体的に行動する態度を育てる。 (2) 児童・教職員の様子を観察し、未然防止・早期発見早期対応を図る。	・避難訓練等で学んだことを生かし、災害が起こった時最善の方法を自ら考え行動できる児童を育てる。 ・日々の様子から情報収集をし、危機について未然防止・早期対応ができるよう、連絡・報告・相談を徹底させる。 ・教職員の観察等を通して、実態を的確に把握し、健康管理を図るために働き方を工夫し、超過勤務時間の削減に努める。	○不審者の侵入を想定した避難訓練や防犯教室を実施することができた。 ○△超過勤務時間を削減するために、会議時間を削減するだけでなく、個々の教職員の意識改革を図ることができた。（一部課題の残る教職員もある。） △異常気象が続く中、今年度は災害時の引き渡し訓練を実施しなかったもので、来年度は実施する。（不審者対応と隔年で行う。）	○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することにより、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。
(B)特別支援教育	(1) 障害のある児童の実態に応じた的確な支援をする。 (2) ユニバーサルデザイン (3) の授業を進める。 児童・保護者のニーズに応じた特別支援教育を進める。	・教科指導・教室経営にユニバーサルデザインの視点を取り入れる。 ・適切な児童の見立てをするとともに、効果的な個別の指導計画が作れるよう、学校体制で取り組む。 ・保護者面談を行い、必要があれば外部機関と連携し、保護者のニーズに応えられるような取組を行う。	○教室環境、授業の流れなどに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることができた。 ○電子黒板を活用して、特性のある児童にも、集中しやすい授業になるよう工夫することができた。 △児童の実態に合った学ばふ場所の提供ができるよう、さらに面談を続け、理解を図る必要がある。	○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することにより、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。
次年度に向けた改善の方向性	・人権教育を基盤にし、互いの違いや良さを認められる学級・学校づくりを推進する。 ・小中一貫教育の視点を大切に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を意識した授業改善を進めることにより、児童の学力向上を図る。 ・外国語・道徳・プログラミング教育などについての実践交流を行い教職員の授業力を高める。			

元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野北小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目	教育課程指導	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○年間を通して、生徒指導の三機能を大切にしたい指導を積み上げ、児童アンケートの結果において、年度始めと比べ年度末は、満足度を12ポイント増加させ、満足度を4ポイント減少させることができた。 ○安定した学級経営を基盤に、落ち着いた授業をし、国語・算数共にAB層を増加、DE層を減少させた。 △多人数学級の経営がより安定することを重点目標とし、組織的・継続的に取り組む。	1 網野学園小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推進する。 2 「いごこちのよい学校」「毎日登校できる学校」「よく学ぶ学校」「信頼される学校」をキーワードとした学校経営をする。
	生徒指導	1 新学習指導要領へのスムーズな移行を図る。 2 単元全体を通して学力向上に取り組む。 3 網野学園学力向上プログラムを計画的に積み上げ、基礎・基本の定着を図る。 4 児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。	1 校内研修で評価等について研修し、認知能力・非認知能力のバランスのよい授業づくり等授業改善に繋げる。 2 単元全体を通して、基礎基本の力、活用力等をつける計画をし、実践する。その結果を単元末テスト等で評価し、次の単元実践に繋げるサイクルについて、算数科の研究授業・公開授業を行い、学び合う。 3 学力補充・スキルタイム・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 4 児童が意欲的に学習できる多様な学習形態を取り入れた授業・環境づくりの設定を進める。	○単元全体を構想した授業研究により、認知・非認知能力のバランスのよい授業づくりについて具体的イメージを共有でき、単元末テストの結果も向上傾向が見られた。 ○スキルタイム、家庭学習における反復練習などにより基礎基本の力を付けることに努めた。 国語AB層(3P↑) DE層(5P↓) 算数AB層(3P↑) DE層(3P↓) h30,h31DRRT比較 △DE層の児童に対して、より多くの時間をかけて学習補充をしたが、時間確保が難しい。 ○年度末漢字・算数テストを目標にさせながら、家庭学習の内容の充実を図った。 ○年間を通して生徒指導の3機能を大切にしたい指導を継続することで、多人数学級を含めて、学級生活に満足な児童を11ポイント増、満足な児童を10ポイント減等、いごこちのよい学校づくりを推進できた。 ○いじめに関わる事象が生じた際は、「本校いじめ防止基本方針」により、組織として早期に事実関係を掌握する等して、事象の早期解決に繋げることができた。 ○道徳の時間において、ペア学習・グループ学習など対話を重視した授業形態は進んだ。次のステップは、対話の内容を深めることである。

健康(体 育)・安 全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図った。基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにも粘り強く挑戦して、いこうとする態度を育成する。 3 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 全員登校27日以上	1 期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と連動することで、体力(特に持久力)向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。 2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を達成段階に応じて明確にし、特にA「主として自分自身に關すること」[希望と勇気、努力と強い意志]についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。 ※持久走、遠泳等との計画的、意図的な関係づけ 3 教育相談部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを打つ。	△「全員登校27日以上」を目標とし、生活点検、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったりする等丁寧な指導を継続したが、全員出席日は16日であった。3/2現在 保護者アンケート 基本的な生活習慣確立 肯定率90% ○本校伝統の「遠泳大会」に向け、計画的で継続的な指導を積み上げること、6年児童が八丁浜沖を泳ぎ切ることができた。○駅伝競走大会での成果 8人入賞 保護者アンケート 粘り強く挑戦 肯定率85% ○配慮児童に係る個別的教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共に作成、教育実践を積み上げ、評価・改善するサイクルを地道に継続できた。 △深夜におけるUSBメモリー紛失という不祥事を起こした。その後は、「京丹後市学校情報通信ネットワーク利用ルール」の徹底を図り、「原則午後8時までの退勤」に努めた。 ○校長通信を活用するなどして、「学校危機は児童の指導の際生じること」「教職員の高い人権意識が必要であること」等、年間を通して危機意識を高めた。 ○緊急対応が必要な場合、PTA本部役員を中心に、情報の共有化を図る等、連携を密にして対処した。 ○見守り隊と連携しながら登校指導をしたり、下校時巡回パトロールの実施をしたりして、安全を確保した。
危機 管理	1 コンブライアイアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待にこたえる。 2 いじめ等問題事象の早期発見・早期解決に努める。 3 超過勤務の縮減に努める。 4 安全な登下校の為の環境づくりを進める。	1 コンブライアイアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。 2 「人権」を大切にしたい学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 3 PTA役員等密接な連携を図りながら、課題解決に臨む。 4 超過勤務時間の実態共有化と年間を通して縮減の働きかけ、校務改善に努める。 5 見守り隊と日常的な連携を図る。	△学校により、学級通信や、ホームページ等で児童のがんばりの様子を伝えることで、学校の取組状況について情報発信できた。保護者アンケート 肯定率94% ※ホームページのアクセス数1日に約250件 ○学校公開日 6月 8日(土) 祖父母参観、給食試食 11月 9日(土) 学習発表会 等
開 か れ た 学 校 づ く り	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校によりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 学校公開日を設け、保護者や地域住民の学校参観を促進する。 3 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○不登校傾向児童、教室に入れない児童、家庭への対応 △学力DE層への学力補充の一層の具体 △働き方改革を具体化するための年間指導計画作成、行事・PTA行事などの見直し 家庭訪問の希望制
次年度に向けた 改善の方向性	△カリキュラムマネジメントによる学校経営構想 △人数の多い特別支援学級の経営 △牛乳パック、フッ化物洗口への対応 △新学習指導要領完全実施に伴う評価の具体 △情報の危機管理などの徹底の継続 △年間を見通した計画的な環境整備		

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野南小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
網野学園小中一貫教育の目標から「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」を目指す子ども像	評価項目	重点目標	具体的方策	1 学校再配置6年目。児童が安心して学校生活を送り、各自の力を最大限発揮できる教育環境をつくる。 2 網野学園小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推進する。 3 「いざこちのよい」「よく学ぶ」「毎日登校できる」をキーワードとした学校経営を行う。 4 基本的な学校運営システムを構築する。	
教育課程 学習指導	○「よく学ぶ」学校 基礎的・基本的な学習内容の習熟と、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育成する。	・網野学園と校内研究と連動させ、「ものの見方・考え方」に着目した授業づくりを進める。 ・授業及び学力補充の取組や網野学園学力向上の取組を効果的に実施し、基礎学力(読み・書き・計算等の習熟)や学習習慣の定着、家庭学習の充実に努める。 ・来年度の新学期指導要領の全面実施に向け、資質・能力の育成に向け、校内研究体制を整え、「主体的、対話的で深い学び」を意識した授業改善を行う。	○計画的な授業研究の積み上げによる課題設定、発問等の工夫についての研究の推進 ○人間関係を構築するための取組の実施と目標に沿った振り返りによる価値づけ △学習内容の確実な定着、「深い学び」を具現化する授業づくり △家庭環境の厳しい児童、不登校傾向児童、低学力児童への一層の具体的な指導 △働き方改革に係る学校運営の改善(教職員の意識変革)	○算教科を重点教科とした校内研究を進め「見方・考え方」に着目した授業づくりを進めることができた。 △児童自らが主体的に学び、仲間と協働しながら考えを深めていくため発問の工夫やコーディネートについて更に研究を進める必要がある。 ○網野学園学力充実月間にスキルタイムを設けてドリル学習を取り入れたり、年間を通した補充学習会を行ったりすることで、基礎学力の定着を図ることができた。 ○個々の児童の特性を教職員全員で共有理解し、個に応じた丁寧な指導を行うことができたことで、いじめや問題事象の未然防止につながった。 ○いじめや問題事象等に対して生徒指導部やいじめ対策委員会等で組織的に対応することができ、早期解決できた。 ○年間通して児童相互の人間関係(つながり)を大切に教育活動を進めることができた。特に丁寧な評価や振り返りを行うことで、取組の意味や価値を考えさせることができた。 △物が壊れるなど行為者不明の事象に対して学級指導や全体指導を行った。規範意識を高めるために今後、更に人権学習や道徳教育を進め心の教育を進める必要がある。	
生徒指導	○「いざこちのよい学校」 互いのよさでつながり合える人間関係を構築するとともに、規律を守り、いじめ・暴言等を許さない機運を高める。「(いじめ)等問題事象の早期発見・早期解消に努める。」	・日々の関わりの中で、生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を大切にしたい教育実践を推進する。 ・教育活動を通して、それぞれの目標や目的、児童の姿勢等について、具体的な評価と行動の振り返りを積み重ねる。(指導者としても、児童自身も振り返りを重視する。)	・網野学園「これだけは」(授業規律確立と規範意識醸成)等で、ルールの大切さの価値付けや共有化を図る。 ・いじめや問題事象等の対応については、窓口の一本化(教頭)とし、正確に事実を確認することを原則として、迅速に、丁寧に、組織的に行う。	○年間通して児童相互の人間関係(つながり)を大切に教育活動を進めることができた。特に丁寧な評価や振り返りを行うことで、取組の意味や価値を考えさせることができた。 △物が壊れるなど行為者不明の事象に対して学級指導や全体指導を行った。規範意識を高めるために今後、更に人権学習や道徳教育を進め心の教育を進める必要がある。	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体 育）・安全	○「毎日登校できる」学校生活リズムを整え、毎日登校し、その目標に向かって挑戦しようとする態度を培う。	・網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、各家庭やPTAとの連携を図り、生活リズムの確立を目指す。 ・家庭支援の必要な児童については、ケース会議やSSWの活用により、個に応じたきめ細やかな支援を行える体制を構築する。 ・毎朝の児童の様子及び登校の状況を把握し、該当分掌と連携した指導や取組を行い、より安全な登下校の確保や不登校（登校しぶり傾向）の早期発見を行う。 ・非行防止教室・乗物乱用防止教室、自転車教室等を早期に実施し、安全についての意識を高める。 ・情報モラル教育を進め、家庭でのルール作りやネットやゲームとの上手な付き合い方についての意識の向上を目指す。	○毎朝の登校の様子を見守ることで児童の状況を把握するとともに、登校しづらい児童への対応を教育相談部を中心に組織的にを行い、不登校の未然防止や早期解決を行うことができた。 ○配慮の必要な児童について、特別支援コーディネーターを中心としてSC・SSWとの連携、校内ケース会議の実施により、個に応じた丁寧な支援を行うことができた。 ○学級懇談会やPTA総会でネットやゲーム使用の現状や上手な付き合い方等について情報提供し、家庭で考える機会を作ることができた。また4年生対象のSNS講習会を通して情報モラル教育を進めることができた。 △ネットやゲームの使用時間（就寝時間含む）について、自律できる力を付ける必要がある。
危機管理	コンプライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待に応える。 超過勤務の縮減に努める。 安全な登下校の環境づくりを進める。	・コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。 ・児童、教職員の人権を大切にしたい学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 ・超過勤務時間実態共有化と年間を通して縮減の働きかけをする。 ・PTA活動の一貫としてあいさつ運動を進めるとともに、民生児童委員、スクールガードリーダー、警察との連携による、登下校の見守り活動を推進する。	○セクハラ、わいせつ等失墜信用行為について研修したり、校内で起きた問題や新聞報道された内容について情報共有したりすることで再発防止や注意喚起することができた。 ○長時間勤務の実態把握を行い、各教職員の自覚を促すとともに、その縮減に向け、行事や取組内容の見直しや業務内容の改善を進めることができ、勤務状況アンケートでは昨年度に比べ負担が軽減された項目が増えた。 ○PTAで朝のハイタッチ運動を年間通して実施していただいたことや地域の方々の見守りにより安全に登校することができた。 △勤務時間の縮減を更に進める。
開かれた学校づくり	保護者、地域、関係機関との連携を大切にしたい学校経営をする。	・PTA役員等と丁寧な連携を図りながら、課題解決に臨む。 ・地域の人材を生かした教育活動を推進する。 ・学校や児童の様子を知ってもらうため、学校関係者については、年間を通して授業参観の機会を広報する。 ・学校便り、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。	○学習支援ボランティアや読み聞かせボランティアなど地域の人材や地域の事業所と連携し教育活動を進めることができたことで、地域への愛着を深めることができた。 ○ホームページの更新をこまめに行い、学校の様子を保護者、地域の方々に広く知っていただくことができた（1日の閲覧数300件～500件） △学校関係者の方への授業参観や行事の案内が十分であった。
次年度に向けた改善の方向性	1 基礎基本の定着と言語活動の充実を目指した授業づくり 2 主体的・対話的な授業を通して深い学びの実現 3 人権教育を基盤においた心の教育の充実 4 家庭との連携による情報モラル教育の推進 5 業務改善による働き方改革の推進		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立島津小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業による学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		○外国語・外国語活動の研究推進により、コミュニケーション力の向上と必然性のある言語活動の授業スタイルが確立してきた。 ○ニュージージーランドの小学生とのライブ交流が実現し、英語を学ぶ意欲の向上と世界への視野が広がった。 △低・中学年では学校で甘えを出す傾向が見られ、遊びの中でのトラブルが多く起きた。 ○丹後学での学びを通して地域のことを知り、地域とつながり、地域の方々へ発信することができた。		1 府小研「外国語教育部」教育研究大会を一つのゴールとして、教職員の指導力向上、児童の学力向上、学校力の向上を目指す。 2 全ての教育活動において、合言葉(短期目標)を位置付け、「島小システム」による学校運営を進める。 3 網野学園の教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育を生かした連携を進める。(学力、生徒指導) 4 生徒指導・教育相談の組織的な対応力・指導力を高め、いじめ・不登校の未然防止に努める。 5 勤務時間縮減に努める。	
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自 己 評 価)	
教育課程 学習指導	・ 網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進める。 ・ 網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。	・ 網野学園「これだけは！」を日常的に実践し、三者会及び企画委員会での評価をしながら全校でやる。 ・ 特に、授業編の3つの柱を授業研究会や日頃の授業でも連動させ、学びを深める。(評価の工夫) ・ 朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させる。 ・ 網野学園と連動して、家庭学習がらばり週間を実施し、効果を高める。(PTAとの連携事業)		○ 網野学園「これだけは！」を意識した授業改善や取組を組織的に推進することができた。 △ 教科・領域によっては授業改善の状況に課題が残った。 ○ 学力充実の取組は、学力向上プログラムにそった基本的な取組はできた。図書の貸し出し冊数も三千冊を超え昨年度を上回った。 ○ 家庭学習がらばり週間には課題を焦点化して取り組み、時間の改善が見られた。	
生徒指導	・ 網野学園「これだけは！」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。 ・ 「島小システム」を機能させ、目標に向けて意欲的に活動する児童を育成する。 ・ 生徒指導の3機能を生かし、いじめ防止の取組を行う。 ・ 心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進める。	・ 生徒指導の3機能を学校の教育活動全体に生かし、主体的に判断し行動する児童の育成に努め、いじめのない学校を目指す。 ・ 学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。 ・ 全ての計画に、短期目標「合言葉」を実践する内容を意図的に取り入れる。 ・ 生徒指導部を中心とする、問題事象の早期発見・早期解決を組織的に行う仕組みを定着させる。 ・ 児童会活動を通して異年齢活動やチームの活動を活発にする。		○ 生徒指導部を中心として、生徒指導の3機能を意識した授業づくり、学級づくりを行い、いじめや問題事象の早期解決・未然防止につながった。 ○ 評価アンケートを活用し、改善の必要な点を全校の場を生かして指導できた。 ○ 2カ月サイクルで示した「合い言葉」は、児童に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○ 児童会活動でも生徒指導の3機能をふまえた指導が日々積み上げられ、児童の変容が見られた。	

健康（体 育）・安全	・網野学園家庭編に基づき取組を、他校と連携し進める。 ・健康の保持増進と体力の向上を図る。 ・安全への実践的態度の育成を図る。 ・食育の推進を図る。	・網野学園「これだけは(家庭編)」に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・朝の体力づくりを、教育活動全体を見通して効果的な内容に改善し、充実を図る。 ・日々の生活・活動を通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。 ・実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。	△基本的な生活習慣への意識は高いが、寝る時刻に30パーセント課題が残った。 ○朝の体力づくりは行事とリンクさせて計画的に行うことで、児童が目標に向かって意欲的に取り組んだ。 ○集団生活の中で安全な生活への指導を行い、誰にとっても楽しい学校への意識が高まりつつある。 ○米作りの学習や栄養教諭による食育授業は、食に関する学習意欲を高めた。	○「外国語・外国語活動」の授業の中で大切に指導してきた3点が、その他の授業や取組に大きく影響し、間違ふことを恐れず考えを出し合って学び合う基礎ができた。(肯定的評価が98%) ○研究大会では、児童の姿として研究の成果を発信することができた。 ○イングリッシュ小学校とライブ交流が3回実施でき、英語への興味や意欲がさらに高まった。 ○生活科の校区探検や丹後学等で、「琴引浜」や地域の自然や遺跡に関心をもち学習を行うことができた。その学びを学習発表会等で発信することでもできた。
特色ある 学校づくり	・外国語活動指導力の向上を図る。 ・豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。 ・「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。	・「外国語・外国語活動」の授業を通して、コミュニケーション力を高める。また、その力を他教科に生かし、自分の考えを活発に出し合い主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを進める。 ・3年次の教育研究大会を通して、3年間の外国語教育の研究成果を広く発信し、今後の教育活動に生かす。 ・イングリッシュ・プライマリー小学校との交流を年間計画に位置付けて、ライブ交流を行い豊かな異文化体験を行う。 ・「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただく」、「発信する」機会を積極的に設け、つながりと地域の良さを実感させる。	・特別支援学級を年度当初から丁寧に行う。 ・個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。	○特別支援学級の存在が、学校全体に温かさを与え、心地よさが広がった。 ○外部の医療機関やSC・SSWと連携した継続的な取組を丁寧に進めた。 ○個別の支援計画・個別の指導計画を作成し、配慮の必要な児童への具体的な指導・支援を行い、一人一人の自立を目指した取組が進んだ。 △引き継ぎを丁寧に行い一人一人の自立を目指した取組を保護者と連携し継続する。
次年度に向けた 改善の方向性	① 外国語科の評価の在り方について ② 外国語教育で付けたコミュニケーション力を他教科や領域に生かし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ③ 小小連携・小中連携をもとにした研究の視点もさらに充実させ、網野学園としての取組を効果的に進める。 ④ 在籍が2名となる次年度、更に特別支援学級を学校教育の軸にして教育的ニーズに応じた支援を適切に進める。			

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名〔 京丹後市立橘小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
		【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子ども 【知】意欲的に学習に取り組む子ども 【み】みんななかよく支え合う子ども 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども 【体】のびのび生き生きやりぬく子ども 【心】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 【学園経営の基本方針】 自然・人・社会とのつながり、郷土を愛する心を育てる。(特に重視)		【教育活動の目標】 「つながりが、たくましく生き抜く たちっ子」の育成 ～智慧を磨き、場を大切に、何事もやり抜く～ ～「元気に、笑顔で、挑戦」する姿を目指し～ (平成31年度 京丹後市指導の重点 目指す教育・子ども像「心豊かにたくましく…」「ふるさとへの愛着と誇り…」「将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶ子ども」に着目) 【教育活動の具現化に向け】 プロジェクトT(たちばな、つながり、プロジェクト) たちばな 智慧をみがこう：知・主体的・対話的で深い学び ばな 場を大切にしよう：徳・豊かな人間関係の追究 な 何事も最後までやりぬこう：体・強い心と体制づくり	
本市の小中一貫教育の基盤として	教育課程 学習指導	◇学習意欲を高める指導工夫の交流 ◇算教科を重点教科とした研究を推進し、主体的・対話的で深い学びの授業改善を行う。 ◇先行実施となった「外国語活動」「外国語」の効果的な授業に向けた実技研修 ◇「考え、議論する道徳の時間」を全担任が指導・評価するための早期の校内研修と取組のPDCA ◇担任とSSが連携し効果的な指導を行い、特別支援学級、2・5年生の学力課題の改善につなげる。 ◇生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、丹後学を参考に地域の魅力をまとめ、発信する力の育成 ◇市小研給食研究会の指定校として、地域の食等を考え、食育の意義を校内外に広く発信する。		○学校教育目標の具現化を一定意識した教職員、児童の動きと家庭、地域への発信が進んだ。 ○教務主任を中心に組織の中核的な役割を果たすミドルリーダーの活躍 ○市給食研究会を開催し、地域の食等を考え、食育の意義を校内外に広く発信した。 ○生徒指導の三機能(自己存在感・自己有用感・共感的人間関係・自己決定の場)の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動を実施させることができた。 △新4年生の学力補充のさらなる改善 △特性のある児童への指導の生徒指導の困難さとその体制づくり	
	生徒指導	◇教育活動全般に生徒指導の三機能の視点を大切にする。(自己存在感・自己有用感・共感的人間関係・自己決定の場) ◇道徳教育、人権学習の充実を図り、豊かな人間性を培う。 ◇話し合い活動を通して自分の考えをもち伝える力を培う。 ◇学級活動、異年齢活動、児童会活動を通して、つながりを通して互いが認め合えることができるようにする。 ◇教育相談部会、生徒指導部会の機能化を図り、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期解消を行うために何でも話せる風通しの良い職員室を目指す。		○生徒指導の三機能(自己存在感・自己有用感・共感的人間関係・自己決定の場)の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動を実施させた。 ○「児童会活動と学校目標の一致した動き」の活性化 児童会目標に「つながる(学校目標)」が入り、それをもとにした、月目標、学級目標の設定した。 △日々の道徳教育や人権学習等の取組を通して、温かいものの見方、違いを認め合える関係づくりに努める。	

健康 (体 育)・安全	1 何事も最後まであきらめずに取り組むこと 強い心を育てる。 (教育活動の具現化④何事も最後までやりぬこう：体・強い心と体)	◇生徒指導部と特別活動部との連携により、月目標の設定・提案をし、全学年が具体的な取組を行い生活の向上を目指す。 ◇オリパ教育を取り入れた授業づくり。 ◇朝の体力づくりの取組等を通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。(市小学校駅伝、ジョオパーク駅伝大会に向けた取組の重視) ◇生活習慣の乱れから、学習意欲が減退しがちな児童に対して、養護教諭、担任を中心にきめ細やかな指導の徹底 ◇6年生を中心にチリ配りや看板作り、全学年の交通安全教室などに取り組む、安心安全な学校を目指す。 ◇網野学園におけるコミュニティスクール趣旨理解の促進を図り、学校運営協議会を核に地域の声を学校運営に生かす。 ◇地域学校協働活動本部の事業、地域やPTAの支援を積極的に教育課程に取り入れ、教職員の働き方改革につなげる。	○市小学校駅伝、ジョオパーク駅伝大会に向けた取組により、本校の強みを大いに発信した。 ○朝の体力作り継続し粘り強く取り組んだ意義が大きい ○月目標を設定し、各学年で具体的な動きをすることで、自ら学校生活を高める機運が高まった。 △ゲームの楽しさを約束で約束を守れず、生活習慣の乱れのある児童の正しい乗り方について、繰り返し指導を行い交通安全に対する実践力を高めたい。校内でも危機管理意識を高め、怪我を減少させたい。
開かれた 学校づくり	1 学校や地域の特色を踏まえつつ、社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラムマネジメントの推進を図り「地域とともに育つ学校」を目指す。 (教育活動の具現化①つながろう、たくましく生き生きと)	◇新学習指導要領移行期として、全教職員が趣旨を十分理解し、学び合う研修の設定 ◇「教員等の資質能力の向上に関する指標」に基づいたキヤリアスデージにふじた資質の向上を図られるように日々の声かけ等含む教職員の長所の伸長を図る。 ◇働き方改革の校内研修を実施しより効率的な業務改善が進むように教職員の意識改革を図る。	○「地域とともに育つ学校づくり」の推進 ア地区運動会、マラソン大会、海の検定等で地域に発信した。地域に元気を！ イ公民館会議等に積極的に参加し、子どもの頑張りを地域で発揮できるように働きかける。 ウ児童会・リレーの復活・マラソンコースを変更し保育園、老人ホームの方の声を援を受ける。 エ学習発表会を地区文化祭と共催し文化の発信地として盛り上げ、芸術の秋、地区の文化的行事を学校として盛り上げる。 オ授業の外部講師を年間約70日、延べ約100名以上の方にお世話になる。「本物に触れる教育」を推進(地域の方を講師に、招待する) △外部の窓口となる教頭の業務過多(地域連携担当教員の設置)
研修 (資 質向上の 取組)	1 学校課題に見合う研修テーマとし課題克服を図る。 2 教職員が自己課題を設定し研修テーマを設定し指導力を高める。	○勤務主任がリードし授業改善、教育課程の進行管理、学習評価の研修など積極的に実施し研修が深まり個々の資質向上に寄与した。 ○働き方改革を具体的に推進した。教頭・教務を核に企画会議、職員周知を行い実践した。 ア休憩時間の確保・1時限を早め、昼読書を設置、AB交代制で指導と休憩を確保 イ業務の精選・行事、児童会、PTA、分掌、対外業務、学習指導等の月毎に仕分け ウ会議の精選・職員会議、校内研修会、PTA、各部会の会議数の削減、連絡調整事項へ移行、会議時刻を19:00開始、開始時刻厳守等 △教員個々に見合う資質向上の指導助言とその進行管理	○勤務主任がリードし授業改善、教育課程の進行管理、学習評価の研修など積極的に実施し研修が深まり個々の資質向上に寄与した。 ○働き方改革を具体的に推進した。教頭・教務を核に企画会議、職員周知を行い実践した。 ア休憩時間の確保・1時限を早め、昼読書を設置、AB交代制で指導と休憩を確保 イ業務の精選・行事、児童会、PTA、分掌、対外業務、学習指導等の月毎に仕分け ウ会議の精選・職員会議、校内研修会、PTA、各部会の会議数の削減、連絡調整事項へ移行、会議時刻を19:00開始、開始時刻厳守等 △教員個々に見合う資質向上の指導助言とその進行管理
次年度に 向けた改 善の方向 性	方針 『中学校進学後を含む社会に出た際、1つながら、たくましく生き抜く人材』の育成を図る ① 地域とともに育つ学校づくりをさらに推進・橋の強み生かし、子どもの元気を地域に 館、民生委員、等目指す子ども像の共有②本物に触れ、出逢う「社会に開かれた教育課程」・外部授業・学校の働き方改革に ③ 学びに向かう力の育成(自力解決力)・自ら考え主体的に課題解決に向かう心の育成 指導 ① 学習指導要領全面実施を見越した業務改善による働き方改革の推進 ② 風通しの良い明るい職員室「チーム橋」協働性の向上 ③ 個に応じた 教育目標具現化 ～プロジェクトT (たちばな、つながり、プロジェクト) ～ ・ つながろう、たくましく生き生きと ・ 智(ち)恵をみがこう : 知・「主体的・対話的で深い学び」の追究 ・ 場(ば)を大切にしよう : 徳 ・ 豊かな人間関係の追究 ・ 何(なに)事もやりぬこう : 体 ・ 強い心と体の追究	○勤務主任がリードし授業改善、教育課程の進行管理、学習評価の研修など積極的に実施し研修が深まり個々の資質向上に寄与した。 ○働き方改革を具体的に推進した。教頭・教務を核に企画会議、職員周知を行い実践した。 ア休憩時間の確保・1時限を早め、昼読書を設置、AB交代制で指導と休憩を確保 イ業務の精選・行事、児童会、PTA、分掌、対外業務、学習指導等の月毎に仕分け ウ会議の精選・職員会議、校内研修会、PTA、各部会の会議数の削減、連絡調整事項へ移行、会議時刻を19:00開始、開始時刻厳守等 △教員個々に見合う資質向上の指導助言とその進行管理	○勤務主任がリードし授業改善、教育課程の進行管理、学習評価の研修など積極的に実施し研修が深まり個々の資質向上に寄与した。 ○働き方改革を具体的に推進した。教頭・教務を核に企画会議、職員周知を行い実践した。 ア休憩時間の確保・1時限を早め、昼読書を設置、AB交代制で指導と休憩を確保 イ業務の精選・行事、児童会、PTA、分掌、対外業務、学習指導等の月毎に仕分け ウ会議の精選・職員会議、校内研修会、PTA、各部会の会議数の削減、連絡調整事項へ移行、会議時刻を19:00開始、開始時刻厳守等 △教員個々に見合う資質向上の指導助言とその進行管理

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標 (丹後学園共通) 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 1 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 2 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 3 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 4 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成	学校経営目標 1 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 2 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 3 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成 4 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成	○基礎基本を定着させる学習を、全校チャレンジとして取り組むことができた。 ○異年齢活動をとおり、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになった。 △学力向上を目指して、個別指導に取り組んだが、学習の定着に課題が残った。 △研究推進からの提起による授業研をもつことができ、学ぶことができ、コミュニケーション能力の育成を意識した日常的な実践に引き続き心がける必要がある。	・新学習指導要領の理念である地域に開かれた特色ある学校を目指し、児童・保護者・地域の人間達とつとめて「丹後小学校」ができてよかったと思えるように、児童同士のつながりを大切にしたい学校経営を行う。 ・少人数である旧豊栄小学校区の児童に配慮をしながら、お互いのよさを生かしていき、学力課題や不登校問題の解決を目指していく。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導 ・単元の指導構想をもとに、単元を通してどんな力をつけたのか、何をどこまで、できるよにするのかを明らかにする。 ・「学び合い」を通して、「わかる」「できる」を実感させ、「深い学び」につなげる授業づくりを進める。	・丹後学園の研究主題である「子どものコミュニケーション能力を育成する」～生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)を生かした取組の充実～と併せて、本校の研究推進部からの提起を受け授業における「学び合い」の充実を図っていく。 ・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。 ・家庭との連携を密にし、学習習慣の確立に向けて取り組む。	○新学習指導要領の理念や育成すべき資質・能力について共通確認し、単元の指導構想のための単元シートを導入し研究を進めることができた。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善につなげて、点の知識をつないで、高次の深い学びにつなげる授業づくりの研究を進めてきた。 △学力向上に向けて少人数指導を実施して、効果を上げることができたが、少人数指導ができていない学級によって課題が残った。
生徒指導	・生徒指導の3機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。	・丹後学園の生活のきまりを守り、教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、意識して伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・いじめ、不登校の未然防止のために教育相談部を中心に面談の実施を行うとともに情報共有し、組織的な対応を行う。	○異年齢での学級掃除に取り組み、児童の頑張りやあいさつ、生活面での良さを玄関ホール、トイレ、ポスターに毎日掲示することで、相互理解が図られ規範意識が高まってきている。 ○不登校傾向の児童については、ほぼ毎日登校し、大幅に改善を図ることができてきている。中学校とも連携をして、受け入れ態勢についても準備している。 ○いじめアンケート以外に教育相談部を中心に年3回のアンケートと面談を実施していじめ防止を行った。

健康（体育）・安全	・全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。	・全年体育育の時間にサーキットトレーニングを継続して行う。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。	○年間を通じて学校を休む児童が少なく、元気に学校に来ることができている。 △家庭環境の厳しさから、基本的な生活習慣の確立に向けて十分に指導ができなかった児童がいる。 ケース会議等で、引き続き改善に向けて努力をしていく。
危機管理	・3つの安全（生活・交通・災害） ※安心安全な学校生活ができる。	・登下校時のこここカーの運行や、学校支援ボランティアとの連携により安全な登下校につなげる。 ・登下校のみならず、校外のきまりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。 ・校内の危険箇所点検を行い、適宜、修繕などをすることとで教育環境を整える。 ・児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実にを行い、連続欠席とにならないように、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。	○登下校時に『こここカー』（巡回指導車）による巡回を1年通して行ってきたことによりタイムリーな指導ができ、交通事故の発生を抑えることができた。 ○校外のきまりを守ることを意識させることで、生徒指導に関わる問題事象もほとんどなくなってきた。 ○児童の欠席は、いじめや不登校の予兆と考えると、理由について確実に把握するようにしてきた。
開かれた学校づくり	・丁寧で分かりやすい情報発信を行う。 ・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。	・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。 ・新設校などでPTA行事の見直しを行い無理なく実施可能な行事や取組を行っていく。また関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 ・児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実にを行い、連続欠席とにならないようにする。全員登校の日教が多くなるよう、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。 ・読み聞かせボランティア・図書館指導員により、読書への興味を高め本好きな児童を増やす。	○開校1年目の学校であるので、各行事の実施に際しては、PTAの全面的な協力を得て、実施に際しては綿密な打ち合わせと準備を行い実施した。実施後に総括をして、改善点を出し次年度に引き継ぐ内容を決めることができた。 ○図書館指導員による、ブックトークなど読書に興味を持てる取組を実施することができた。 ○児童の欠席があった場合の担任からの働きかけを確実に行ったことで、連続欠席にならない学校風土をつくることができた。
次年度に向けた改善の方向性	・今年度の少人数指導による効果が確認できたので、学力課題の大きい学年への少人数指導を行い学力向上に向けて学校が一つになって取り組む。 ・令和2年、3年の京都府給食研究会発表校として、学校組織を再編して令和3年の発表に向けて組織的に学校経営を行っていく。 ・再配置2年目となる丹後小学校が、安定した学校運営ができるように引き続き教職員全員で不断の努力をしていく。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立宇川小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】		前年度の成果と課題 ○全国へき地研に向け、学校一体となった研究活動により、多様な人とのコミュニケーションや話し合い活動が充実し、児童の伝え合う力が高まった。 △個に応じた指導と学力向上を図る取組は充実したが、授業改善と学力の定着は課題である。 ○児童同士の人間関係や思いやりの心は育ってきた。自己肯定感を更に高めていきたい。 △地域や学園と連携した学習を充実させることができたが、児童に付ける資質・能力を明確にした教育活動を実施していく必要がある。		本年度学校経営の重点(短期経営目標) (1)小規模校の特性を踏まえた効率的、効果的な学校運営を行う。 (2)小中一貫教育と本校の研究を連動させ、児童のコミュニケーション能力や主体性の育成、授業改善による学力向上を図る。 (3)家庭と連携し、基本的生活習慣の確立や自己肯定感を高める。 (4)へき地・小規模校として、地域と連携した教育活動を充実させ、宇川への愛着の気持ちを持ち育む教育を推進する。	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	1 「分かる・できる」授業、主体的・対話的で深い学びの授業を行い、学力向上を目指す。 2 個に応じた指導や家庭学習、読書活動を充実させ、基礎学力を定着させる。	1 国語の授業研究を全学年で実施し、生徒指導の三機能を生かした授業、新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善を行い、児童の資質・能力を高める。 2 実態把握を基に、個人カルテの活用やドリルタイム・放課後補習等、個に応じた指導を進める。学力強化月間の設定し、学習意欲の向上と家庭学習、読書活動充実の具体化を図る。		○国語を重点に講師招聘、全学級の授業研究会や公開授業、丹後学園の研究で学び合い、教師の授業実践力を高めた。 児童アンケートでは、ほぼ全員が「わかる」「主体的に取り組んでいる」と回答した。○学力強化月間の計算チャレンジや自主学習の取組、放課後補習を全員対象にする等、基礎学力向上の取組を強化することができた。家庭学習の習慣がほぼ定着し、読書量も増加した児童が多い。 △深い学びに繋がる授業改善を進め、個人カルテを基に全児童の学力向上を目指していきたい。	
生徒指導	1 児童自らが課題解決する実践力や自己管理能力、自己肯定感を高める。 2 人権意識・規範意識の高揚を図り、いじめのない安定した学校生活を送らせる。	1 目標設定と具体化を児童が考え実践し、達成させる指導を行う。その中で振り返りや互いの良さを認め合い伝え合う場を設定する。 2 道徳の時間や人権月間を中心に人権意識を高める取組、日常的な指導と併せていじめアンケートを実施し、児童の実態を把握しながら、年間を通じた計画的な指導を行う。 3 生徒指導部と特別活動部が連携した月目標を設定し、児童の規範意識・実践力を高める。		○児童会の取組や行事等、児童が主体的に考え創る過程を大事にしなが、学年を超えて友達の良いところや感謝を伝える活動が実施できた。児童アンケートの「協力」「仲良く」「良い所を見つめる」は昨年より良い結果で、ほぼ100%の児童が肯定的評価をしている。 △安定した学校生活であったが、児童・保護者アンケートにも自己肯定感の低さや自分の思いを伝えることに課題が見られる。 ○「挨拶」や「廊下歩行」等、児童課題に応じた月目標を設定し、学級や児童会等、学校一体の取組ができ、徐々に改善が図られた。 △取組がなくても、常に自分で考え判断し、正しい行動が継続できる実践力を付けたい。	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学級の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 体力の向上と基本的な生活習慣を確立させ、強い体をつくる。 2 安全に生活するための知識や判断力、行動力を育成する。 3 粘り強く挑戦する態度を養う。	1 全校の体力づくりや行事・運動を連動させた取組、家庭と連携した「元気貯金」等の取組を計画的に行い、体力向上と基本的な生活習慣を確立させる。 2 安全に関わる行事や学級指導、外部講師による学習等、安全に関する意識と実践力を高める取組を行う。 3 粘り強く挑戦し、継続するための手立てや指導を体育・道徳・学級指導等で行う。	○年間を通して中間マラソンや縄跳び、運動会、遠泳大会等、行事・授業・放課後練習等で全校の体力づくりや運動能力向上を図った。また年数回「げんき貯金」の取組で基本的な生活習慣の啓発を行った。 △外遊びは増えたが運動の2極化が見られ、「早寝早起き」の課題や長時間のゲーム等、気になる課題がなかなか改善しない児童もいる。 ○避難訓練、交通安全、非行防止教室等、外部講師等の協力などで、様々な機会に安全指導が実施でき、知識や意識は高まってきている。 △児童は全員「最後までやり遂げる」と答えているが、保護者のアンケート結果の評価は低い。更に意識して様々な場面で指導したい。	○サポート委員会（特別支援教育部+教育相談）を中心に個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。 2 特別支援学級児童と交流学級との学習や全校児童との交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童や人との交流の場を設定する。	○コミュニケーション能力の育成を意識した取組の中で、自分から他の学年や地域の人へも積極的に対話できる児童が増えた。 ○他校や保育所との合同学習等、大きな集団の中でも自分達で計画、協力しながら、各自が責任持ってやりきる力が付いてきつつある。 △まだ声の小さい児童もいる。自信を持って自分の考えが言え、主体的に取り組む力を更に高めたい。 ○様々な教育活動で地域の方の協力や交流の場を多く持ち、地域学習のまとめや思いを学習発表会等の場で積極的に発信できた。 △地域との交流や人材活用を図った学習を更に取り入れたい。
特別支援教育	1 教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に行う。 2 障害児者理解教育を進める。	1 サポート委員会（特別支援教育部+教育相談）を中心に個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。 2 特別支援学級児童と交流学級との学習や全校児童との交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童や人との交流の場を設定する。	○サポート委員会（特別支援教育部+教育相談）を中心に個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。 2 特別支援学級児童と交流学級との学習や全校児童との交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童や人との交流の場を設定する。	○サポート委員会（特別支援教育部+教育相談）を中心に個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。 2 特別支援学級児童と交流学級との学習や全校児童との交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童や人との交流の場を設定する。	○サポート委員会（特別支援教育部+教育相談）を中心に個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。 2 特別支援学級児童と交流学級との学習や全校児童との交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童や人との交流の場を設定する。
特色ある学校づくり	1 へき地・小規模校及び地域の特性を生かし、児童の活躍と主体的な学びがある教育活動を進める。 2 地域のことを学び、地域への愛着と地域の未来を考える児童を育成する。	1 学級だけでなく全校や異年齢、異学年の児童・児童・生徒、地域の方等、多様な場で様々な人と関わり、コミュニケーションを図りながら、個々が活躍できる教育活動を実施する。 2 生活科や総合的な学習の時間等で、家庭や地域と連携し、地域素材・地域人材を生かした探究学習を充実する。	○学級だけでなく全校や異年齢、異学年の児童・児童・生徒、地域の方等、多様な場で様々な人と関わり、コミュニケーションを図りながら、個々が活躍できる教育活動を実施する。 2 生活科や総合的な学習の時間等で、家庭や地域と連携し、地域素材・地域人材を生かした探究学習を充実する。	○学級だけでなく全校や異年齢、異学年の児童・児童・生徒、地域の方等、多様な場で様々な人と関わり、コミュニケーションを図りながら、個々が活躍できる教育活動を実施する。 2 生活科や総合的な学習の時間等で、家庭や地域と連携し、地域素材・地域人材を生かした探究学習を充実する。	○学級だけでなく全校や異年齢、異学年の児童・児童・生徒、地域の方等、多様な場で様々な人と関わり、コミュニケーションを図りながら、個々が活躍できる教育活動を実施する。 2 生活科や総合的な学習の時間等で、家庭や地域と連携し、地域素材・地域人材を生かした探究学習を充実する。
次年度に向けた改善の方向性	○へき地、小規模校の特性を生かし、保幼小中一貫教育や地域連携、教育課程の工夫により、特色ある学校づくりを行う。 ・個々への丁寧な指導と授業改善、家庭や地域人材の協力で、児童の確かな学力を向上させる。 ・多様な人との関わりの中で、主体的、創造的な活動と最後までやり切らせる指導で、自信や自己肯定感を高める。 ・規範意識・人権意識を向上させ、何事も自分で考え、判断し、より良い行動や生活ができる自立の力を高める。				

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立吉野小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と主体的な学習の育成を図る。 2 豊かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人ひとりが大切にされる心の教育の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の中小一貫教育を様々な取組を充実させながら、推進する。	重点目標 1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と主体的な学習の育成を図る。 2 豊かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人ひとりが大切にされる心の教育の推進に基づく、生きる力の育成を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の中小一貫教育を様々な取組を充実させながら、推進する。	前年度の成果と課題 ○重点教科の国語科を中心に主体的・対話的で深い学びの授業づくりをどの学級においても、進めることができた。 ○研修や授業研究会の場だけでなく、日常的に授業や生徒指導等の交流ができた。 ○中堅教員を中心に様々な課題に気付き、学校改善に向けた意識の高揚と改善を図る取組が進められるようになってきた。 ○全ての教育活動の中で、組織的・協働的な動きづくりができた。 △「深い学び」のための授業改善と質の高い学力の育成に向けた工夫、改善を図る。 △保護者、地域、その他の関係機関との丁寧な対応や連携を更に深め、信頼される学校及び特色ある学校、開かれた学校づくりの推進を図る。		本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、主体的・対話的で深い学びの授業改善を図り、基礎・基本の確実な習得と定着、質の高い学力の育成を目指す。 2 様々な活動を通して、思いやりの心や豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」を推進する。 3 家庭・地域、関係機関との連携を深め、信頼される学校・特色ある学校・開かれた学校づくりを通して、「生きる力」の育成に努める。 4 就学前から中学校卒業までを見通した弥栄学園小中一貫教育の推進及び充実を図る。 5 中堅教員の指導力、対応力の向上を図り、人材育成を行う。
		具体的方策 1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を一体化させた指導を推進する。 (1)授業をデザイン化し、指導と評価を一体化した授業づくりを推進する。 (2)授業づくりを通して学習意欲の向上を図るとともに、主体的に自主勉強に取り組む指導と環境づくりを進める。 (3)学園の取組とも連動させながら、学級や児童の学力課題克服のための取組を推進する。 2 主体的、対話的で深い学びの授業づくりの実践(授業改善)を積み上げる。 (1)新学習指導要領を意識した移行期の教育課程を編成し、実践する。 (2)小中一貫モデルカリキュラムを活用し、各教科等の指導計画を改善し、主体的・対話的で深い学びの授業改善を推進する。 (3)校内や学園の授業研究会や研修、出前講座、その他関連の研修を通して、教員の指導力向上を図り、児童の学力の充実・向上につなげる。		成果と課題(自己評価) ○各学年とも、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を進めることができ、学習意欲や落ち着いた学習に向かう力を高めることができた。 ○学園の取組と連動させながら、自主勉強の取組を進め、家庭学習の充実や主体的な学びへつなげることができた。 ○移行期の内容を教育課程に位置付け、基礎・基本、内容や量・スピードにも対応できる力を育成するための授業づくりと「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を進め、学力の定着や向上につなげることもできた。 ○教員の指導力や資質の向上を図るため、校内、学園等の研修を充実させ、学び合う教員を育成し、授業改善と児童の学力向上につなげることができた。 △安定した学級経営や授業改善を通し、実践を進めたが評価テストでの高得点につながらない課題がある。 △高位層や中間層の更なる伸びにつながりにくかった。

生徒指導	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営実践を行い、自尊感情の醸成を目指す。 2 望ましい集団活動や多様な体験活動を充実させ、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。 3 非行防止教室、法やルールに関する教育、情報モラル等の指導を通して、いじめ等の未然防止や規範意識の高揚を図る。 4 児童の内面理解に努め、児童、保護者との信頼関係を構築し、取組や対応等を丁寧にもたせ、迅速に進める。	○生徒指導の3機能を生かした学級経営や異年齢集団活動を通して、高学年のリーダー性の育成と良好な人間関係づくりを進めることができた。 ○各学級や学校全体の安定につながった。 ○非行防止教室等や様々な事象の教材化、家庭との連携等を通して、規範意識の高揚やいじめ、不登校の未然防止、早期の発見、対応ができています。 △児童一人一人の内面理解や状況把握に努め、家庭との連携を強化しながら適切な指導を継続していく。	○年間を通して体力づくりの取組を組織的に進め、基礎的な体力を身に付け、大会等で成果を発揮することができた。 ○家庭と連携して毎学期生活点検を実施し、学期始めの生活習慣づくりにつながった。 ○安全等に関する取組を保護者や地域ボランティアと連携して行い、安全な登下校、交通事故0や防止につながっている。	○家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。 △更に実施に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧な、組織的、継続的に行う。 ○伝統や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。
健康(体育)・安全	1 食育、健康な心と体づくりの取組を推進する。 2 危機管理意識の高揚を図る。 3 校内安全点検を実施し安全な施設管理を行うとともに、登下校等の安全指導を徹底し、PTAや地域のボランティア等と連携した取組を進める。	1 食育の推進と、年間を通して朝の体力づくり(マラソン、縄跳び)、毎学期の生活点検による生活習慣づくりを進める。 2 危機管理意識を高め、事故等の未然防止に努める。 3 校内安全点検を実施し安全な施設管理を行うとともに、登下校等の安全指導を徹底し、PTAや地域のボランティア等と連携した取組を進める。	○年間を通して体力づくりの取組を組織的に進め、基礎的な体力を身に付け、大会等で成果を発揮することができた。 ○家庭と連携して毎学期生活点検を実施し、学期始めの生活習慣づくりにつながった。 ○安全等に関する取組を保護者や地域ボランティアと連携して行い、安全な登下校、交通事故0や防止につながっている。	○家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。 △更に実施に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧な、組織的、継続的に行う。 ○伝統や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。
特別支援教育	1 特別な教育支援が必要な児童の課題、障害に応じた支援や指導方法の改善、充実を図る。 2 家庭や関係機関との連携を図る。	1 支援が必要な児童の教育支援計画、個別の指導計画等を整備する。 2 障害のある人を正しく理解するための理解教育を計画的に進める。また、特別支援教育に係る研修を行い、指導に活かす。 3 本人や保護者のニーズに合わせた教育支援に向けた懇談を丁寧な組織的、継続的に行う。 4 個々の合理的配慮を明確にし、個に応じた指導の推進及び充実と関係機関との連携を図る。	○家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。 △更に実施に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧な、組織的、継続的に行う。 ○伝統や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。	○家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。 △更に実施に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧な、組織的、継続的に行う。 ○伝統や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。
特色ある学校づくり	家庭、地域との連携を深め、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。	1 伝統や校風を大切にしたい教育活動を展開する。 2 郷土への愛着と誇りをはぐくむために保護者や地域の人材等を積極的に活用し、連携・協働による教育活動を推進する。	○家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。 △更に実施に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧な、組織的、継続的に行う。 ○伝統や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。	○家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。 △更に実施に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧な、組織的、継続的に行う。 ○伝統や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。
次年度に向けた改善の方向性	1 校内研修を充実させて指導力を高め、「基礎・基本の定着に向けた授業」と「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の推進と学力の向上を図る。 2 教育環境の充実を図るとともに生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業づくりを推進し、児童一人一人の内面理解に努め、望ましい集団活動を通して、郷土を愛し、豊かな心をはぐくむ教育の充実を図る。 3 弥栄学園保幼小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた学園経営を行い、園小、小小、小中の連携及び一貫した取組の実践と評価を重ね、円滑な接続を図る。 4 家庭・地域との信頼関係を構築し、連携を深めながら、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。	○生徒指導の3機能を生かした学級経営や異年齢集団活動を通して、高学年のリーダー性の育成と良好な人間関係づくりを進めることができた。 ○各学級や学校全体の安定につながった。 ○非行防止教室等や様々な事象の教材化、家庭との連携等を通して、規範意識の高揚やいじめ、不登校の未然防止、早期の発見、対応ができています。 △児童一人一人の内面理解や状況把握に努め、家庭との連携を強化しながら適切な指導を継続していく。	○年間を通して体力づくりの取組を組織的に進め、基礎的な体力を身に付け、大会等で成果を発揮することができた。 ○家庭と連携して毎学期生活点検を実施し、学期始めの生活習慣づくりにつながった。 ○安全等に関する取組を保護者や地域ボランティアと連携して行い、安全な登下校、交通事故0や防止につながっている。	○家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。 ○定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。 △更に実施に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧な、組織的、継続的に行う。 ○伝統や校風を大切にしたい取組を継続し、地域との連携のもと特色ある学校づくりを進めることができた。 ○保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。 △更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立弥栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子		○複数体制指導、個に応じた指導を進めることで、落ち着いて学習に臨ませることができ、学習規律も身に付けさせることができた。 ○いじめの未然防止や不登校傾向等、課題となる状況に対し組織的に取り組み、早期発見・改善に導くことができた。 △学力定着には課題があり、活用力、書く力に弱さがある。 △自らの課題に気づき、解決していこうという意欲や判断力に課題が見られる。		1 学級経営を基盤とした授業づくり 2 新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善 3 人権教育・道徳教育の充実 4 小中一貫教育の推進 5 信頼される学校づくり	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	1 学力実態と課題に応じて個に応じた指導の充実を図る。 2 新学習指導要領の趣旨に沿った教育課程経営を行い主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善を進める。 3 学園課題・学校課題克服に向けた小中一貫教育の推進	1 楽しく学び、わかる授業づくりを進め、基礎基本の徹底・個に応じた指導(TT・少人数授業)・家庭学習充実等の取組を行う。 2 新学習指導要領実施に向けての研修、カリキュラム・マネジメントを進める。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校内・学園研究授業を推進する。 3 学園の取組が学園課題・学校課題克服に向けた効果的なものとなるよう推進する。(園小連携、家庭学習の取組・授業研究・教科・領域部会等)	○算数は複数体制指導で、わかる授業づくり・個に応じた指導を進め、学力の定着を図ることができた。国語の研究授業を行うことで主体的・対話的な深い学びについて指導力向上が図れた。また、学園課題に向けて1年・6年の授業公開をし、園小接続、小中接続の指導の系統性について連携を進めることができた。課題であった書く力の向上には成果が見られた。 △弥栄学園の課題でもあるが、発達段階に応じた指導を更に工夫改善し、系統的に行っていく必要がある。		
生徒指導	1 好ましい人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成する。 2 規範意識を醸成する。 3 組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期対応を進める。	1 学級活動や児童会活動、異年齢集団活動を通しての育成 ・児童会と学級が連動する特別活動実践 ・よりよい学級・学校生活づくりのための学級活動・話し合い活動の充実(月目標の設定と取組) 2 約束やきまりを守って生活できる力を付ける。 ・学園共通「学びのルール」の指導 ・非行防止教室、インターネット安全教室等 ・丁寧な登下校指導 3 児童の変化や危険信号を見逃さないよう日頃からの児童の見守り、信頼関係の構築に努め、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組を進める。	○よりよい学校生活を築けるよう、児童会本部の提案のもと、各学年が学級目標を設定して自治的な動きができるようになってきている。 ○約束やきまりを守り、互いに思いやりをもつて過ごせるよう、生徒指導部と特別活動部が連動・連携して取組を進めることで、児童の意識が変革した。 ○いじめ対策委員会や生徒指導部で児童の気になる状況に対しタイムリーかつ組織的に対応することができた。 △更に一層、児童と教職員との信頼関係を深め、悩みごとがあれば相談できる関係性を深めていく必要がある。		

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 体を動かすことを楽しみ、遊びや運動の仕方を工夫する力を付ける。 2 生活習慣の改善 3 生活安全・交通安全・災害安全の指導を推進し、安全な生活を営む判断力と実践力を養う。	1 児童の体力・運動能力実態を把握し、体育指導・体力向上の取組を充実させる。 2 家庭と連携した生活習慣改善の取組 3 児童自ら災害や事件・事故等から、安全を守るための能力を身に付ける安全教育を保護者・地域と連携して行う。（地域安全ボランティアとの連携） ・毎月の安全教育指導（便りの発行、朝会指導） ・交通安全、防犯教室、防犯訓練、引き渡し訓練 ・ここにこカーパトロール、見守り指導等	○マラソンやなわとびなど、体力づくりの取組を行い、市小学校駅伝競走大会では2年連続入賞ができた。 △年度末の体力テスト結果分析では、全学年柔軟性と一部の学年を除いて腹筋・背筋力に課題が見られた。怪我の多さとも関係していると考えられ、授業の工夫改善と家庭との連携が必要である。 ○安全に関する取組を定期的に行い、地域連携を進めるとともに児童の意識を啓発することとできた。 △広域の校区で安全に登下校ができたのは、多くの地域ボランティアのおかげであるが、下校時には、子どもの気も緩んで危険な状況も見られた。
開かれた学校づくり	1 学校からの発信の充実 2 地域学習、丹後学を通して、児童が人とつながり、ふるさとを愛する心や感謝の心を育む。 3 地域人材の活用	1 学校や学園の取組・様子を積極的に発信し、理解と協力を得る。（学校便り全戸配布・学園便り・ホームページ） 2 丹後学をはじめ、広い校区の地域教材を積極的に取り入れ、地域から学ぶ。 3 学校支援ボランティアを活用し、学習効果をあげるとともに地域とのつながりを深める。	○定期的なホームページ更新、地域全戸への学校だより配布で広報することができた。 ○地域教材や地域人材を活用した生活科、社会科、総合的な学習の時間（丹後学）の授業を行い、地域から学ぶとともに地域への愛着を深めた。
特別支援教育	1 障害や特性を踏まえた個別に応じた指導・支援を充実させる。	1 配慮を要する児童への指導支援を学校体制で行う。 2 研修（特性把握、合理的配慮・自立活動等指導・支援）を実施し、個別の指導計画・個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実させる。	○個別の教育支援計画の整備し、家庭と共通理解を図り、指導支援を行った。 ○外部と連携した指導支援の検討・充実を図ることができた。（カウンセラー、学びアドバイザー、臨床心理士等） △より一層ユニバーサルな視点で教育活動を進めていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	① A 部会（学力充実・授業研究）・B 部会（自主性・規範意識の向上）・C 部会（配慮児童・家庭への指導支援）を中心に学校課題改善にむけた動きを更に推進する。 ② 信頼される学校づくりに向けた情報発信、迅速・誠実・丁寧な対応を行うとともに、危機管理意識を全教職員がしっかかりもち、日々の教育活動にあたる。 ③ 働きがいがあり、かつ健康的な職場づくりを進める。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学級の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、見える学力として12月のDRTの結果(標準得点)を昨年度よりも学級平均の向上並びに個人別に伸ばす児童を増やすことを目指す。 2 話し合い活動を含めた、学び合いのスキルを高め、総合的な学力を一步高める。	1 「分かる」「考える」授業づくりをICTの活用等も含め工夫して進めるとともに、ドリルタイムや家庭学習では習熟を目指した「量の確保」を進める。 2 一斉による指導のほか、個別に配慮しながらの指導も組み合わせ授業を構想していく。 3 単元全体を見通し、「読む・書く」の活動を適切に位置付け、考えたり表現したりする力を伸ばす。 4 「話し合い活動」の系統表をもとに指導を継続し、「対話」に係る力を積み上げる。	「すべては久美小の子どもの成長のために」～子どもに力をつけることを強く意識する～ 1 教育活動のキーワード 『チーム久美小 「尊重」「協働」「サポート」』 2 そのために大事にすること (1) 目標・目的を明確にした上で具体的な方策を考え、評価を踏まえた具体的な改善策の検討を重視する。 (2) 肯定的評価や指導のあり方等、教育活動を進める指導観について学び合い、教職員自身がコミュニケーションを大切にしていく。 (3) 児童一人一人の力を伸ばすための学習指導力や学級経営力を高める努力をする。
	生徒指導	1 気持ちよく生活できるための必要なマナーやルールを考え、実行できる力、相手を思いやる心の育成を進めるための授業や取組を進める。 2 「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な指導、相談活動をさらに充実させる。	1 豊かな人間性を育むために、児童会活動を通じた異年齢活動を更に進める。 2 生徒指導の三機能による学級づくりを進め、児童相互及び教職員との深い信頼関係に基づき好ましい人間関係を育成する。 3 日々の子どもたちの様子を全教職員で見守り、情報交流を丁寧に行うことで、「いじめ」や「不登校」の芽を逃さない。また、常に起こりうることを想定しながら危機感を持って教育活動を進める。	○6年生を中心とした児童会活動や各学級活動により、つながりを広めたり深めたりする取組が今年も進められた。学級内での人間関係による問題を常に解決しながら日々の成長を促すことができた。 ○「いじめ」については、年3回のアンケートを中心に常に様子の変化を見守り、日々解決していくことができた。 ○昨年度は3名の児童が登校のしにくさがあったが、本年度は1名と減少し、改善傾向にある。 △児童の衝動性による問題が継続している中で、保護者連携を含め、適切な指導や環境づくりを行う必要がある。

健康（体 育）・安全	1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせるとともに、様々な取り組みを通じて我慢強く活動する心を育てる。 2 安全な生活を営むための対応力を育成する。	1 日常生活で当たり前のことが当たり前にできる子どもに育てるために、基本的な生活習慣や学校生活、家庭学習等、1日のルーティンの確立を目指して、粘り強い声かけと保護者連携を進める。 2 交通ルールの順守や不審者への対応、日々の安全な生活等を進めるために、事例を教材化し情報を正しく判断できるようにする。	○学校内での基本的な生活習慣づくりについて、「久美小当たり前ルール」から重点的にテーマや期間を設定して、全学年による意識化を図ることができた。家庭でも、がらんどり週間等の取組を通して、家族一緒に前向きに取り組んでいたという家庭が多かった。 ○1年間地域の見守り活動や家庭での指導のおかげで登下校中や自転車による交通事故はなかった。 △家庭での生活リズム（睡眠時間・メディア視聴・SNS・家庭学習等）の改善に向けての継続的な取組が必要である。
研修（資 質 向 上 の 取 組）	1 新学習指導要領への対応としての「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と本校重点課題である「ことばの育成（話し合い活動の充実）」を関連付け、解決につながる校内研究・研修の充実を図る。	1 新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子どもとの姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 2 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点による評価のあり方の研修を進める。 3 「話し合い活動を通してことばの力の育成と主体的で対話的な学び」について、実践しながら研究を進める。	○久美浜学園の取組と運動させるとともに、校内でも「話し合い活動」を中心とした指導のあり方を学び合った。さらに、スキルのな力と話し合わせる視点・内容の大切さも研究することができた。 ○学習過程におけるICT活用の効果的な位置付けや、ノート指導や板書との使い分け等、指導のあり方を互いに学び合うことができた。 △これまでの「話し合い活動」の研究を土台にして、主体的な学びやICT活用についての授業展開を模索していく必要がある。
特色ある 学校づく り	1 保幼小中10年間を見通し、中学校卒業時の生徒のあるべき姿を明確にしながら教育活動を推進する。 2 地域に学び、地域とともに歩む学校にする。	1 昨年度のシステムや方向性を継続し内容充実を図る。特に、「理解と対話」のキーワードのもと、学園教職員で常に交流しながら、「中学校卒業時の生徒のあるべき姿」を検討し、本校の教育活動において常に意識していく。 2 教科や総合的な学習の時間等において、様々な地域の資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々の交流や学びを大切にする。	○「理解と対話」を重点として、特に保小連携において児童・園児の姿を中心に取り組んだ。また、6年生と中学生の姿や現状を交流・協議する中で、学力充実に向けた学園共通する取組（事後交流・学習課題「中学校への道」・小中学生の意識の差異等）の焦点化や具体化を進めることができた。 △教科や総合的な学習の時間において、地域の資源（商店・自然・グストディチャー・伝説等）から、多くを学ぶことができた。一方で、準備や展開に係る時間確保が難しく、今後とも行事の精選と共に、地域から学ぶ視点を大事にしていく。
次年度に向けた 改善の方向性		1 これまでの久美浜学園全体の10年間を見通した教育活動の積み重ねを土台として、小中間の様々な教育課程上のギャップについて、より具体的に点化した取組を通して一歩ずつ改善していく。 2 本校の重点課題である「学力向上」に向けて、現在の重点研究や学力向上の取組を継続するとともに、①肯定的評価を基にした生徒指導の3機能を生かした学級づくり、②学習内容を確実に定着させる授業づくり、③「基礎基本の徹底」と「主体的な学び合い」のある授業づくり、④ICT（電子黒板・タブレット等）を効果的に活用した授業づくりを進めていく。 3 学校の取組全体や会議設定の工夫等を通して、教職員の授業準備や研修の時間確保を更に進め、そのことを通して授業実践や学級経営力の向上を進める。	

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立高龍小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 — 1 基礎・基本の徹底 2 言語活動の充実(授業づくり) 3 家庭学習時間の確保		○素直に反応し、取組を進めようとしたことができた。 △規範意識を高める必要がある。 △「わかる授業」「できる授業」を通して国算の基礎・基本の力を身に付ける取組を進める必要がある。 △児童の実態を把握し、必要な支援を行い、一人一人の自己肯定感を高める必要がある。	「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」 1 自分の考えを表現することができる。 2 自分や友だちのよいところを見つけることができる。 3 いろいろなことに挑戦することができる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	1 ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進め、知識・技能の習得を図る。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補完体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を用いて思考・判断・表現する力を育成する授業を進める。	1 研究推進部を中心に、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の算数科の研究授業・公開授業を行い、知識・技能の習得を図り、学び合う。 2 学力補完・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 児童が主体的に学習に取り組むことができる多様な学習形態を取り入れた単元・授業のデザイン及び環境づくりを行う。	○一人年1回の授業公開・研究授業に取り組み、導入を工夫し、児童が主体的・対話的に学ぶ授業を行うことができた。 ○授業のユニバーサルデザイン化をすすめだれもが「わかる」「できる」授業研究を進めることができた。 ○保護者アンケートで約97%が、児童に意欲的に学習する場が設定できているとの回答が得られた。 ○意欲的に学習する場である漢字検定に71名(49%)が挑戦することができた。 ○久美浜高校と連携しプラスワンスタディに取り組みことができた。 △家庭と連携し基礎・基本の定着を図らなければならない。
生徒指導	1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。	1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。また、いじめについて、未然防止に重点を置き、規範意識の醸成を図る。 2 「特別な教科 道徳」を中心に、道徳教育・人権教育を推進する。特に「主として人とかかわりに関すること【親切、思いやり】」を重視する。	○生徒指導部・特別活動部が連携し、全校で「時間を守る」「話を聞く」等の月目標に取り組み、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評価したりすることができた。 ○6年生をリーダーとして、運動会・チーム遊び・大縄大会に取り組み、友達の良い所を見つ取る取組を行うことができた。 ○保護者アンケートで約97%が、児童に「思いやり」の心が育成できているとの回答が得られた。 ○11月の人権月間に、「道徳」の授業を中心に人権教育に関わる授業公開(地域へも公開)を行い、児童に親切・思いやりについて考えさせることができた。

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、強い心と体を作る。 2 困難なことにも粘り強く、調整しながら挑戦していいこうとする態度を育成する。	1 期間を決め、体力づくりの取組を図る。体育の授業と連携することで、体力の向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、強い心と体を作る。 2 個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にし、特に「特別な教科 道徳」を中心に「主として自分自身に關する事【希望、努力と強い意志】」について指導し、粘り強く、調整しながら挑戦する態度を高める。	○基本的な生活習慣の取組と合わせて、メディアコントロールについて指導することができた。その取組を京都府学校保健会で発表することができた。 ○天候不順の中、地域の山「高龍ヶ岳」に4・5・6年生で協力し、登山することができた。 ○絵画の取組では、粘り強く取り組み、全国教育美術展で21名の入賞者を出すことができた。 △生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後とも家庭と連携して取組を進めなければならない。
特別支援教育	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 支援部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援の手立てを明確にし、担任と連携した指導を進める。 2 保護者との懇談を実施し、個々への合理的配慮を明確にするとともに個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する。	○教育支援部会に、一人一人のニーズに応じた指導方法を検討したり、見直したりすることができた。SC・SSW・臨床心理士・巡回教育相談を活用し、児童の指導に生かすことができた。 ○年間を通して保護者と懇談することができた。保護者の願いを取り入れた個別の指導計画・教育支援計画を作成することができた。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○6月に学校公開日を設定し、保護者地域住民に広報することができた。また、授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行し、学校の方針の理解・保護者との連携が一層進んだ。 ○ホームページの来訪者が一日約200件あり、1月27日現在235,986のカウンタとなっている。 ○稲作・読み聞かせ・書初め・スキーマ・ミシン等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができた。
次年度に向けた改善の方向性	久美匠学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。今後、より児童の実態と合わせた短期の課題設定・達成目標を設定し、更に成果の見える取組を行う。 1 個に応じた指導と一斉指導の充実を図り、規範意識を醸成し、誰もが安心して学習に参加できる環境を創り上げる。 2 算数科の授業研究・公開授業等を行い、互いに授業を見合いながら、児童が主体的・対話的で深い学びができていく授業を行い、誰もが「わかる」「できる」授業研究を進める。 3 ドリルタイムの充実、放課後補習・学期末・学年末補習等に取り組み、基礎・基本の力を身に付ける。 4 児童に自分なりの考えを持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。また、読書の量と質を高め、児童の語彙力を高める。 5 困難なことにも粘り強く、調整しながら挑戦する態度を育成し、学力の安定を図る。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立かぶと山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成 めざす児童像 (知)意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (徳)自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (体)心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子	重点目標 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識した授業改善を行う。 ○児童一人一人に基礎・基本を定着させ、学び合い活動を深める。	○児童理解に努め、教育相談部を中心に組織的に動き、体調不良による欠席が少なくなった。 ○配慮を要する児童に対する手立てを丁寧に行うことができ た。 △学習規律の徹底、最後までやりきらせる指導に弱さがある。 △ルールやきまりを守らないマイナスの方向に流れることがあり、守りきらせることができなかった。	(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 (2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実 させる学習活動の推進 (3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進
評価項目	具 体 的 方 策	成果と課題 (自己評価)	
教育課程 学習指導	・「やってみよう・できた」を実感させる授業を展開し、学ぶ意欲と根気強く努力する力を向上させる。 ・言語活動の充実を図るため、話す・聞く・書く活動を取り入れながら自分の考えを伝え、学び合いのよさを実感させる。 ・単元構想をもち、どんな力をつけるのか、各時間のつながりを意識して授業を行う。 ・学習規律の確立を図る。 ・学習内容の習熟のため、家庭との連携を深め、家庭学習を充実させる。	○授業研を全学級実施し、事前事後研修の充実により、主体的・対話的で深い学びについてどのように授業を構想するかポイントを絞って実践・検証が行えた。 ○児童同士の交流、教師との対話により理解を深められるように、何を理解させるのかを明らかにして授業展開に組み入れた。 △基礎基本の問題について、時間内に多くの問題を解くスピードについて改善は必要である。 △家庭学習では、進んで取り組めない実態がある。一斉の指導と個別の支援が引き続き指導が必要である。	
生徒指導	○安心と安定感のある学級経営の充実を図る。 ○規範意識を高め、基本的生活習慣を確立する。	○生徒指導の3機能を活かした学級経営の推進により、望ましい人間関係を育成する。 ・友達とのトラブルを解消する取組を通して、自己と他者の折り合いのつけ方を学ばせる。 ・日々の肯定的評価を積み重ね、自己肯定感を高めるとともに、お互いの良さや頑張りを認め合える集団づくりを進める。 ・児童理解に努め、個に応じた指導を行う。個と集団との関わりの中で、認め合い、成長できるようにする。 ・ルールやきまりの意味を理解させ、全員がルールを守ることを大切にす。	○肯定的な声掛けに心がけ、お互いの良さを見つめるように進めることができた。 ○学級全員で取り組むことの良さや、勝負だけではない取組過程での値打ちを認めることにより、自分の成長や集団の成長について児童が実感できることを積み重ねた。 ○自分の思いを伝え、相手の気持ちも理解しようとする中で学級集団も落ち着いている。 △不登校の児童に対して、教育相談部を中心に対応した。不登校未然防止として必要なことを分析する。 △感情に任せ、自己中心的な言動があり、その都度指導した。 見つけた時が指導の機会ととらえ指導を継続する。

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

本市の小中一貫教育の諸計画及び全学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	○規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる。	・朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）を計画的に実施する。 ・家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取り組みを進める。 ・登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々と連携した取組を進める。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等）	○朝マラソンを実施し、取組期間中は一生懸命取り組みることができた。 ○長期休業明けに生活リズムを整える取組を行い、学校の生活リズムに戻せるように指導した。 ○学園の取組として「メディアアカウントロール」の指導を行った。 △登下校の安全については、ボランティアの方々と連携してきたが、安全という点では、歩き方など課題として残った。
特別支援教育	○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。	・特別支援学級在籍児童にとどまらず、各通常学級に在籍する配慮を必要とする児童への支援の在り方について研修を深める。 ・スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、市臨床心理士と連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。また、必要に応じて保護者への啓発を進めていく。 ・個に合った指導について、保護者と方向性を確認しながら個別的教育支援計画を作成し、指導に活かす。 ・保護者と今後の進路についても確認し、適切な就学指導を行う。	○配慮を要する児童の交流を丁寧に行い、教職員間で児童理解を進めることができた。 ○スクールカウンセラー、学び生活アドバイザー、市の臨床心理士と連携し、児童理解や対応について助言を受け適切な支援が行えた。 ○保護者との面談を重ねながら、効果的な支援を検討し実践できた。 △児童の教育支援計画、指導計画を作成することはできたが、活用につなげることが不十分な部分もあった。今年度の振り返りを次年度の支援につなげる。
開かれた学校づくり	○学校や児童の様子等を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	・授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 ・学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。そのために、取組の目的や方法を分かりやすく伝えられるように工夫する。 ・年度初めに本年度の経営方針等を示し、年度末にそれについての評価を得るというサイクルで進める。学校評価や保護者アンケートを活用し改善に活かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを活用して、地域の方とのつながりを広げる。	○授業参観は毎回多くの参観者があり、行事への参観・協力もPTAと協力して行うことができた。 ○行事や取組の様子を学校便りや学級だより、ホームページにより発信することができた。 △教育活動に対する保護者アンケートの結果を分析し、学校改善につなげていく。 △地域や外部人材の活用について、ねらいを明らかにし計画的に行う。
次年度に向けた改善の方向性	・児童の学力向上に向けた研究活動の活性化。「深い学び」につなげる授業改善を行う。 ・安定した学級経営の実現に向け、生徒指導の三機能を踏まえた指導を継続する。 ・特別活動を中心として児童の豊かな人間関係づくりと日々の授業づくりを関連させる。 ・個に合った児童への支援の在り方を進めていくため、実態の把握と指導の方向性を明確にする。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)			前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 ・言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を小中一貫して研究する。 ・指導方法の工夫改善により学力向上と学習意欲の向上を図る。	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】 ・小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止	【授業改善と学力の向上】 ○ベア学習、グループ学習が定着し、生徒の学び合いの場面が増え、そのことが学力の向上につながっている。 ○少人数、T T 加配の配置された英語科で、個に応じた指導が推進され、学習意欲の向上が見られる。また、英語科を柱に峰山高校との連携が進んだ。 △教科部会を充実させ、学力課題の大きい生徒を授業に巻き込み、生徒がより主体的に授業に臨めるよう毎時間の課題設定を工夫する。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○SSW(スカーフ・シャカ・カ：社会福祉士)の配置を受け、福祉の専門家からの見立てができた。カウンセリングで直接生徒に関わり、不登校の未然防止につながったケースもある。 △不登校に対応する組織体制は確立したが、結果として2学期から、特に2年生で新規不登校があった。今年度以上にSSWを活用すること、関係機関とのさらなる連携が必要である。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 【授業改善と学力の向上】 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。 ・外部講師を招き校内授業研究会を活性化させる。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ・不登校解消に向け①管理職の教育相談部会への参加②心の教室相談員、SC、SSWの教育相談部会への参加③迅速な校内ケース会議の開催)を継続する。 ・考え、議論する道徳の授業の研究を進める。 ・問題事象やいじめの早期発見・早期対応を組織的に進める。
			具 体 的 方 策 ・①生徒が主体的に活動する場面が設定された授業②本時の目標が明確で「わかる」授業③多様な学習形態を取り入れた授業の研究を進める。 ・5・6年担任と数学科教員が協働して総括テストを作成し、目標と指導と評価の一体化を進める。 ・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。 ・少人数、T T 授業(英語)を効果的に実施する。	成果と課題(自己評価) ○小中一貫教育の成果として、中学校における授業改善が進み、教師の講義型授業からベア学習・グループ学習を取り入れた生徒主体の授業に変わってきた。 ○授業改善が学力向上に結び付き、各種学力調査でもおおむね京都府・全国平均を上回る結果を上げている。 △一部の教科・学年では、学力差が広がり、基礎学力の定着に課題がある生徒が少なくない。学校全体で学習への意欲を喚起する取組を継続している。 ○峰山学園全体で、家庭学習充実の取組を年3回実施し、保護者の協力も得られ、学習への動機づけができた。

生徒指導	・生徒の実態を早期に把握し、不登校の解消と未然防止を図る。 ・生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。 ・生徒の主眼的な取組を進め自己肯定感を育てる。	・不登校の解消と未然防止に向け、教育相談部会やケース会議で、SCやSSWを活用しながら、具体的な方針を立て実践する。 ・いじめや問題事象の未然防止のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。 ・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主眼的な活動を組織していく。	○生徒の状況が安定し、学校全体がたいへん落ち着いた環境の中で教育活動が進められている。1年生男子でささいな諍いから生徒間暴力が多発した。不登校生徒が高止まりしており、生徒の気持ちに寄り添った生徒指導や保護者・関係機関との連携がますます重要である。 △生徒同士の言葉遣いやSNSの使い方により、いじめにつながりかねないトラブルが少なからずある。
健康(体育)・安全	・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・保健教育を系統的に進める。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。	・交通安全指導を徹底する。(交通教室、PTAとの連携) ・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・避難訓練(地震・火災・不審者侵入)を実施し安全意識を高める。 ・積極的に部活動に取り組みさせるための指導を進める。	○車との接触事故が減り、生徒の安全意識の高まりが見られる。H30 4件⇒R1 2件(12月末現在) ○保健学習では、助産師、看護師、保健師などの外部人材を活用し、専門家の話により深い学びが得られた。 ○定期的に部活動長会を持つなどして、生徒が主体的に部活動に参加できるようにした。各種大会での好成績につながっている。
研修(資質能力向上の取組)	・新学習指導要領へ対応した研修を充実させる。 ・初任者研修を契機に教職員の資質能力の向上を図る。	・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを目指し、外部講師も招聘しながら研修を進める。 ・全教職員で初任者の育成を図る過程を通じて、自ら研修を深め、併せて教育活動の見直しを進める。	○年3回外部講師を招いて、研究授業を行うとともに講話を聴くことにより、教員の意欲が高まり授業研究が進んだ。来年度以降もぜひ継続したい。 ○計画通り初任者研修を進めることができた。初任者の授業技術の向上はもとより、研修講師を務める教員も改めて道徳教育や人権教育の要諦を再認識できた。
特別支援教育	・障害のある生徒への理解を深め、指導方法を研究する。 ・家庭、地域、関係機関との連携を深める。	・特別支援学級が3学級になったことを受け、より一層特別支援教育の研修を積むとともに、新たに聴覚障害への理解を深める。 ・個別の教育支援計画等を充実させ、生徒支援を進める。	○京都府北部聴覚支援センターや京都府スーパーサポートセンターから講師を招き、聴覚障害理解及び合理的配慮の仕方等の校内研修を行うことができた。 ○個別の教育支援計画(未来シート)の作成により、保護者と学校が一緒になって生徒の支援ができた。このことが不登校の未然防止にも効果的であった。
次年度に向けた改善の方向性	① 令和3年度からの中学校における新学習指導要領の完全実施に向けて、小中一貫教育の手法を用いながら、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりをさらに進めていく。 ② 不登校やいじめの未然防止に向けて、あらゆる教育活動を通じて、生徒同士のつながりを深める取組を進める。同時に、気になる生徒の様子を見逃さない教職員の人権感覚と危機意識を高める研修を継続的に行っていく。		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼され、開かれた学校の向上 5 教職員の資質能力の向上 6 大宮学園小中一貫教育の推進		〇教育活動全体を通して話し合い活動や討論活動を積極的に導入し、言語活動の充実に努めることができた。 〇人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育に重点を置いた校内研修を充実させることができた。 〇授業の生徒評価は、「わかりやすい」が28年度85%、29年度89%、30年度88%と継続して高い。 〇生徒の自己有用感を培う取り組みを通して、生徒同士が「協力し合えた」H28 94%、H29 96%、H30 96%と高く評価している。 △学力の定着・向上に向け、授業と連動させた家庭学習の取組や「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取組を推進していく。	1 質の高い学力の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ・生徒指導の三機能を生かした基礎・基本の定着 2 生徒指導の充実と不登校の未然防止と丁寧な対応 3 人権教育を基盤とした指導の展開 4 特別支援教育の充実 ・校内体制の充実と機能化 ・個に応じた指導の充実 5 信頼される学校づくり ・家庭及び地域との相互連携の推進 ・外部関係機関との連携強化 6 大宮学園運営協議会に向けた動きづくり
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
本市の小中一貫教育の重点等を基盤として 教育課程 学習指導	・小中の接続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善 ・客観的データを活用した課題分析と授業改善 ・「ことばの力」「思いやる心」「つなげる力」を育成する授業づくり ・丹後学の研究と推進 ・家庭学習の習慣化に向けた取組の推進	・大宮学園教員合同の授業研究と合同研修会を実施し、授業改善につなげる。 ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 ・全国学調及び府診断テスト等の結果を分析し課題改善に向けた授業づくりと補充学習を充実させる。 ・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 ・全教科を通して「ことばの力」カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 ・「ことばの力」カリキュラムを活用し、思考力、判断力、表現力を育成する。 ・地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。 ・家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。	〇視点を持って合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、分科会での協議が有効で、小中互いに学ぶことができた。 〇第1回授業研究会を京丹後市小中一貫授業研究会と兼ねて実施したことで、研究を深めることができた。 〇全国学調及び府学テ等、各種学テ結果を分析し、校内研修で交流を行った。授業改善や補充学習に生かすことで学力の伸長が見受けられた。 〇「言語活用カリキュラム」の活用を図ることと、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。 △特別に支援を要する生徒、基礎基本の未定着の生徒が各学年に在籍しており、支援の在り方について共通認識を持ち、個別の指導を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。

生徒指導	・小中の合同生指部会の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・定例の生徒指部会で、いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築	・学園人権・生指部会を通し、連携と情報共有に努める。 ・毎週金曜日に生徒指部会を開催し、日々の情報共有と指導の一致を徹底する。 ・学校環境適応尺度診断(ASSESS)、生徒アンケートを活用し、教育相談活動を丁寧に行う。 ・生徒指部会と教育相談部会を合同開催するとともに、特別支援教育部との連携も強化する。 ・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取組を生徒の動きづくりと関連させながら行う。 ・人権教育をすべての指導の基盤にし、生徒同士の信頼関係の構築に努める。	○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組の充実を進めた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会を分けることにより、部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化に努めた。 ○いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめ事象を教材化し、全校で防止教育を進めることができた。 △不登校の生徒の出現率は昨年と比べると低くなったが、後半新規不登校の生徒が増えたとともに、不登校状態の深刻化も見られ、大きな課題である。	○計画的に避難訓練を実施し、身を守る行動について考えさせることができた。 ○薬物乱用防止教室、性に関する学習を通して自分の生き方を考えさせることができた。 △さらに、部活動を通して自己肯定感や自己有用感を醸成させていく指導を行う。
健康(体育)・安全	・安全教育の充実 ・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施 ・健康教育の充実 ・部活動の推進	・避難訓練や交通マナーの向上に向けた取組を通して、安心安全な学校生活について指導し、生徒自らの安全意識を高める。(大宮こども園との合同避難訓練を実施する。) ・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため日々の部活動指導を大切にする。	・小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターを通じて、学園教育支援協議会や地域学校協働活動との連携を強化し、学園運営協議会(学園コミュニティ・スクール)に向けた動きづくりを学園として行う。 ・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に学年団や各担任、サポーター等との連携を強化する。 ・個別の指導計画や教育支援計画を随時見直し支援にあたる。 ・教科部会を行い共通理解を図り、個に応じた指導にあたる。 ・通常学級に籍を置く配慮の必要な生徒への支援の状況を把握し、共通認識をもって支援を行う。 ・保護者との共通理解を図る。	○絵本の読み聞かせ、総合的な学習の時間でのゲストティーチャー等、地域の方々と学校とをつないでいただき、大変深く学べる機会を作っていた。 △次年度から学園運営協議会(学園コミュニティ・スクール)の動き出しを行い、学園運営について地域との連携をさらに進めていく。 ○学年団や各担任、サポーターとの連携により必要な生徒への支援を行うことができた。 ○教員の共通認識を丁寧に持ち、保護者と連携することができた。 △さらに、特別支援コーディネーターを中心に組織的な特別支援教育を推進する。
開かれた学校づくり	・地域の教育資源の活用 ・各関係機関との連携と協働 ・学園運営協議会(コミュニティ・スクール)に向けた動きづくり	・組織的な取組の強化 ・個々の生徒の実態と教育的ニーズを把握した指導展開 ・特別支援教育についての理解と認識の深化 ・保護者及び関係機関との連携強化	○特別支援教育コーディネーターを中心に学年団や各担任、サポーター等との連携を強化する。 ・個別の指導計画や教育支援計画を随時見直し支援にあたる。 ・教科部会を行い共通理解を図り、個に応じた指導にあたる。 ・通常学級に籍を置く配慮の必要な生徒への支援の状況を把握し、共通認識をもって支援を行う。 ・保護者との共通理解を図る。	○絵本の読み聞かせ、総合的な学習の時間でのゲストティーチャー等、地域の方々と学校とをつないでいただき、大変深く学べる機会を作っていた。 △次年度から学園運営協議会(学園コミュニティ・スクール)の動き出しを行い、学園運営について地域との連携をさらに進めていく。 ○学年団や各担任、サポーターとの連携により必要な生徒への支援を行うことができた。 ○教員の共通認識を丁寧に持ち、保護者と連携することができた。 △さらに、特別支援コーディネーターを中心に組織的な特別支援教育を推進する。
次年度に向けた改善の方向性	1 大宮小中一貫教育の重点である「連携・体験活動の充実」、特に「効果的・効率的精選と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 2 学力向上に向け学力分析を指導改善に生かすとともに、校内研修や学園研修での授業研究を通して、指導の工夫・改善に取り組む。 3 大きな学校課題である「不登校」の未然防止、改善に向けて、生徒指導及び教育相談機能を強化し、全教職員であたる。 4 大宮学園教育支援協議会から大宮学園運営協議会への円滑な移行を図り、より地域とともにある学校・学園を目指す。			

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を身に付けさせる。 2 未来を展望し、将来を切り拓く力をすべての子どもに身に付けさせる。 3 思いやりをもち、仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育成する。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育成する。	評価項目	重点目標	具体的方策	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
	教育課程 学習指導 本市の小中一貫教育の基盤として	・「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくりをさらに研究し、実践する。 ・基礎基本の徹底及び活用する力を身に付けさせる指導の工夫改善を図る。 ・家庭学習を習慣化させる。	・少人数グループ研修と、年間3回の全体研修会とを組み合わせる中で、指導の工夫・改善を図り、具体的な実践により教育効果を確かめるサイクルで研究を進める。 ・学習の形態について、特に「対話的な学び」をピックアップし、学校課題である不登校の解消に向けた生徒同士をつなぐ視点を生徒指導の三機能とリンクさせて行ない、「主体的な学び」へとつなげる。 ・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の習慣化を図る。	「ほめて、認めて、他者(社会)とつながり指導」の展開。 生徒へは、「つながりよう仲間と。つながりよう心を！」を合言葉に設定し、常につながり意識して生活させる。 1 確かな学力の向上 (1)「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり (2)「生徒指導の三機能」を生かした授業づくり (3)家庭学習の習慣化 2 豊かな人間性・社会性の育成 「特別の教科 道徳」の研究と充実 3 健康の保持増進と体力の向上 食育の取組や文化部を含む部活動等を通して育成
生徒指導		・「自己指導能力」を育成する。 ・「居場所づくり」と「絆づくり」の理解と共に、これらの指導バランスを図る。 ・不登校を学校課題ととらえ、早期解消と未然防止についての取組を強力に進める。 ・いじめ等、人権侵害を未然に防止する。	・生徒指導の三機能をあらゆる教育活動の中で教員・生徒とともに意識し、両者の相互の取組によって育てていくことを毎回確認する。(居場所づくりと絆づくり) ・「ほめて、認めて、他者(社会)とつながり」を職員の合言葉とし、職員全員が実態把握、的確な評価と集団への価値化、つながる場の設定を繰り返し積み上げること。 ・個々の役割を明確にする中でチームとしての総合力で取組を推進する。(管理職とコーディネーターが主となり、一番効果的な職員が生徒・保護者への支援等を行なう。)	○小中連携加配が主任を務める学力向上部から授業改善や工夫等に関する定期的なたよりが継続して発行されたことにより年間を通じた研修を行うことができた。 ○小学校の学習指導における具体的工夫を中学校(特に1年)の指導へ組み込むことで、生徒が感じる学習面に対する不安や段差解消の取組を進めることができた。 △家庭学習については、次年度も一貫校 PTA の取組とも連携させ、学園全体で取組を充実させたい。 ○生徒指導の三機能を意識した授業を行うことにより、他者との関わりの中で思いを深めたり、自己を認めたりすることがスムーズにできるようになっている。 ○同・異学年の仲間や支えてもらっている家庭や地域との関わりを、具体的な言動としての「つながり」として認識させる中で、他者とのつながりの大切さを理解できる生徒が増え、安定した生活へとつながっている。 △不登校の未然防止と早期対応の取組を、学校内外の専門家とチームを組み、学園としての取組を進めたい。

健康（体育）・安全	・体力の向上を図る。 ・望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成を図る。	・新体力テストや全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果を踏まえ、運動部だけでなく、文化部活動における健康増進・体力向上の取組も定期的に実施させる。 ・毎月の食育の日や給食週間の取組をさらに充実させる。 ・避難訓練、非行防止教室等を活用し、自他の命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。	○部活動や体育の授業を中心に、基礎体力の向上はもとより、種目の特性に応じた技能を高めることもできた。 ○望ましい食生活について栄養士を講師に具体的な学習を取り組むことができ、生徒会活動としても充実した。 ○地震から津波発生を想定した避難訓練や非行防止教室、SNS講習会等を実施し安全に対する意識と状況に応じた具体的な行動の仕方を全校生徒で確認できた。
開かれた学校づくり	・PTAや教育応援会等、地域と共にある学校を目指す。 ・信頼関係をベースとした学校づくりを推進する。	・さまざまな組織や団体等と連携する機会を通じて本校の学校教育について説明を行ない、今年度の「学校経営方針」の理解を進めていく。 ・地域の宝である生徒のがんばりや教職員の具体的な取組を、学校だよりやホームページにおける発信と、積極的な学校公開を実施する中で地域との横の連携を深める。	○PTAや学校評議員様をはじめ、各種団体と連携を行う中で、授業や行事で生徒の活動を見ていただいたり、声をかけていただいたりと、生徒にとつて包み込まれているという安心をさらに感じさせることができた。 ○学校だよりの月2回の発行やホームページの積極的な更新等、積極的に発信を行った。
特別支援教育	・個々の生徒や保護者のニーズに合わせた支援を充実させる。 ・個々の生徒に応じた指導の推進と指導方法の工夫改善を図る。 ・校内教育支援委員会の運営を充実させる。	・「障害者差別解消法」の手指の理解とともに、生徒の実態をもとにした保護者との連携を日常的に丁寧に継続して行う。 ・「個別の指導計画」、「教育支援計画」における指導・支援計画を保護者のニーズに合わせて作成し、通常学級に在籍しているであろう生徒も含めて個に応じた指導の推進と指導方法の工夫改善を図る。 ・定期的な校内教育支援委員会の開催とあわせ、内容の充実を図っていく。	○「個別の指導計画」及び「教育支援計画」を作成し、個々の状況に応じた指導・支援を家庭との連携の中で実施することができた。 ○障害の特性などを正しく理解するとともに教職員間で共通した指導や支援等を継続して行うことにより、二次障害の防止だけではなく、学習活動への意欲を高めさせることができた。 △特別な支援の必要な生徒が増加する中、丁寧で正確な見立てと保護者との連携をもとに具体的な支援を取り組む必要がある。
次年度に向けた改善の方向性		・自らを成長させること、他人を認め大切にすることを、他者との関わり（つながり）の中から感じ、考えさせたい。 ・特に授業においては、単なる知識や技能の習得ではなく、他者とのかわりを通してどんな状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育てる中で、自らの可能性に気付かせ、更なる学びに向かう力や自他を大切に作る人間性を育てたい。 ・そんな集団を様々な場面で構築できれば、集団内での生徒同士の絆や一人一人にとつての居場所が学校内に出来上がり、学力の向上はもとより、不登校やいじめ事象を未然に防止することにもつながるのではないかと考えている。 ・上記の内容については、網野学園保幼小中一貫教育の経営方針の柱の一つとしても、具体的な取組へと落とし込んで実践していく。 ・新学習指導要領の移行前年となるため、学習指導と評価に係る研修と具体的な取組、さらには確実な移行措置を実施していく。	○中から感じ、考えさせたい。そのために、授業はもとより、特別活動（学級・学年や学校行事、生徒会活動、部活動等）などすべての教育活動を通じて、ペアやグループなど集団で行う活動を仕組むこと。

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
開校6年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。		昨年度は、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にして、落ち着いた学校生活に取り組み、学習、部活動、様々な行事・取組で力を発揮した。校風も落ち着き、しっかりしたものとなってきた。さらに、自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力をつけさせたい。		丹後中学校開校6年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする ～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉に進める～ ○生徒の可能性へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。 ○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動すること で、本物を目指す。
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)
本市の小中一貫教育の諸計画として 教育課程 学習指導 生徒指導	・「言語活動の充実」等によるコミュニケーション能力の育成を図る。 ・数学の指導の研究を重点教科として進める。 ・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。	・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、「ことばの力」を育成し、確かな学力の定着へ向けた実践を行う。 ・目標と指導と評価の一体化した取組を、「算数・数学」の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・ねらいを明確にして、ドリルや家庭学習課題に継続して取り組ませる。		○授業に生徒指導の機能を活かすためのチェックリストを全教職員が活用し、学期ごとに教員間での工夫内容の交流など研鑽に努めた。 ○年3回の小中学校授業公開を行い、生徒指導の三機能を生かした授業とは、どのような授業かを目指し、「国語」「社会」「数学」の授業研究を通して、丹後学園全体で研究ができた。
	・丹後学園のめざす子ども像の実現への取組を進める。 ・安心できる仲間関係を築かせる。 ・SNS等の使用について、実態把握による指導を充実させる。	・授業中のみならず業間指導を全教職員で丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果を基に組織的対応・指導に努める。 ・SNSや薬物等に係る「非行防止教室」や講演会を計画的に実施し、自他を大切に、正しく判断し行動する力を育てる。		○自己決定の場や自己存在感をいかにして与えるか、共感的人間関係をどのように育成するか、具体の指導について研修を進め、休み時間や空き時間など、あらゆる教育活動の場で生徒に寄り添い、自己指導能力の育成につなげることを重点に、年間取り組むことができた。 ○生徒指導部会・教育相談部会を時間内に設定し、週ごとの指導の方向性を明らかにして教職員全員で指導にあたることができた。いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行う。さらに、全教員による「相談タイム」を学期ごとに行い、いじめの未然防止、早期対応につなげた。

健康（体 育）・安全	・体を鍛えることで、忍耐力など心の強さも育てる。また、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。	・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動かかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後小中一貫校 PTA 並びに本校 PTA・丹後学園教育応援会等との連携を強め、あいさつ運動や登下校指導を実施する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、常に危機意識を持ち指導にあたる。また、ねらいをしっかりと持たせた避難訓練を実施する。	○大会や試合、発表や作品の作品展等、日々の頑張りを発表する場として、また、礼儀やマナーを学ばせる場として部活動の指導にあたることもできた。 △さらに、生徒の安全安心な学校生活のために、危機意識を持って指導にあたる。 △喫緊かつ重要な課題提起を狙って、SNS 教育講演会を丹後学園として実施することを計画したが、実施できず、継続課題である。 ○丹後こども園との合同避難訓練は今後も継続し、自己肯定感を育む学習につなげる。
開かれた 学校づく り	・保護者・地域への学校公開等を計画的に行い、開校6年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校だより等の地域への回覧・全戸配布や、学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。	・入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、「丹後学園教育応援会」との連携を活かして、いただいたご意見や感想を今後の学校経営に活かす。 ・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えると同時に丹後小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのために、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。	○学校や学園の行事や取組は広く案内をし、学校での生徒の頑張りを励ましていただくような環境づくりに努めることができた。 ○市の教育フォーラムにおいて、丹後学園の取組を広く発信することができた。また、「応援会」主催の子育て講演会の開催など、地域の教育力向上につながる連携が充実した。来年度も継続していきたい。 ○公民館事業など、地域で発表する場には積極的に生徒が参加し、地域の中で地域の子どもとしてできる場を今後も作っていく。 △学校支援ボランティアの方々に継続して行っていただけけるよう、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。
特別支援 教育	・生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。	・個別の指導計画や教育支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を、保育園中の一貫性・連続性を大切にしながら行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても校内委員会などの組織的な適切な支援を実施する。 ・校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。	○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、的確な個々の課題をすべての教員が共有し、応じた指導や支援を行うことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、関係機関と連携を図りながら、共通理解のもと支援を行うことができた。 △さらに、支援の充実のための環境づくりと指導の充実が必要である。
次年度に向けた 改善の方向性	・地域に開かれた学校づくりをさらに進め、地域からの支援などが反映できるような仕組みを考えていく。 ・丹後学園の保幼小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かし、学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努める。 ・新学習指導要領にもとづいた教育課程づくりや授業改善を進める。		

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立弥栄中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
困難な出来事であろうとも、問題解決に向けて習得した学びをもとに、考えをめぐらし適切な改善策を仲間と共に力を合わせる人間性を涵養する。 ・仲間と共に描いた夢や希望をあきらめることなく、実現しようとする生徒の育成	評価項目	重点目標	具 体 的 方 策	成果と課題 (自己評価)
	教育課程 学習指導 本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	・文面を読み取り、じっくり考え、理解した内容をもとに発信できる力をつける。	・主語と述語を正確にとらえ、表記されている内容や発言の意図を理解できたか検証する。 ＊学びの定着を図る小テスト、単元テスト等の実施 ＊仲間と課題の改善策を練り、最適解の探究 ＊テスト結果の分析、教え直し	○国文法の習熟により読解力が向上してきた。 ○仲間と教えあうことが定着し、英語の基本問題に意欲的に取り組む生徒が増えた。 ○放課後学習が奏功し、課題未提出者が減った。 ●熟考すべき問いを盛り込んだ試験の作成が要る。
	生徒指導	・学校全体でいじめ、不登校の未然防止、迅速且つ丁寧な対応を行う。	・定期的ないじめアンケートや担任等による個別面談を行い、生徒の状況把握に徹する。 ＊いじめ対策委員会の定例化、生徒の状況交流 ＊生徒指導の3機能を生かした教育実践の検証 ＊生徒指導部会、教育相談部会との連携	○日常的に生徒と面談する機会を設け、良好な関係づくりを図った。関連分掌との連携も行った。 ○各自が探求したことを発表することができた。自信も出てきた。 ●将来を見据え、生徒の可能性をさらに発揮させること

健康（体育）・安全	・基本的な生活習慣の確立のもと、心身ともに健康な生活を過ごす。	・毎朝のランニングで健康な体づくりをすること、学習意欲に弾みをつける。 ＊マナーの習得（思いやり、協力、時間厳守、感謝） ＊身に付けた体力を部活動に生かし、自信をつける ・安心安全な学校生活を過ごす。 ＊集団生活をとおして、危機回避能力の習得 ＊避難訓練の実施、危機意識の高揚	○時間厳守して、朝のランニングを継続させた。 ○偏食をなくし、健康な体と心を意識した生活ができた。 ○安全で安心できる学校生活ができた。 ●PC,TV,ゲーム等の時間を自分自身が制御できる力に身につくよう指導を継続させる。
研修	指導者としての資質向上をめざした校内研修を行い、日々の実践に生かす。	・授業づくりにかかわる研修 ＊課題解決型学習の推進 ・生徒の自尊感情の醸成につながる研修 ＊目標設定を行い、適切な指導と評価の実践	○課題設定し、探求し、深い学びにつながる指導により生徒は自らの考えを広く発信することができた。 ○生徒をいかに理解するのか、学習内容について理解させる道筋や適切な評価方法を研修し、授業に生かした。 ●生徒のまとめあげた考え（仮説）を検証させるまでには至っていない。
特色ある学校づくり	小学生と中学生の交流活動を行い、中学生としての自覚と責任をみにつける。	・中学校の行事、授業に招待する ＊合唱祭、体育祭、特別活動、部活体験、体験授業 ・児童会役員と生徒会役員と協議し、取組を行う。 ＊挨拶の取組	○小学生は、中学校の行事の参観のみならず、中学生とともに参加し、中学生になった自分自身をイメージする機会となった。 ●小中の事前打ち合わせ等、教師と生徒ともに十分な時間が持てなかった。
次年度に向けた改善の方向性	1 課題解決型学習をとおして、自らの考えや発信できる力を見つけさせる。 2 良好な人間関係を構築させるために異年齢の活動を活発にさせる。 3 生徒の実態を把握し、個に応じた指導方法について校内研修を進める。 4 小中連携、保護者、地域、関係機関とも連携を密にし、生徒の成長を支援する。		

令和元年度 学校評価自己評価報告書

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
評価項目 本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1 地域の特性を生かした教育課程の編成、教科横断的な教育活動の推進 2 授業実践力の向上 3 家庭学習時間の確保	○学校行事、生徒会活動、日常的教育活動において、生徒理解及び指導の充実と努め、生徒の自己有用感・自己肯定感が高まった。 ○校内授業研究会を実施し、授業改善の視点、具体的な実践の共有を図り、授業改善が進展した。学力補充の取組を充実するとともに、異年齢による教え合の学習を毎学期実施した。生徒の学びに向かう力の向上、学力の伸長を図ることができた。 ○特別な支援を要する生徒の授業中の実態を把握し生徒・保護者に丁寧に対応することで、授業及び学級経営等での配慮・支援に結びつけることができた。 ○問題事象等、早期発見・早期対応に努め、校務分掌を活用した複数対応により早期に解決を図った。 ○「情報機器の安全な取扱い」に関する講演会を生徒及びPTAを対象に実施し、生徒のトラブルも減少している。 △「家庭学習ががんばり週間」を活用し生徒のメデイアコンテロール力の向上に努めたが、更に家庭学習の充実に入れる必要がある。 △関係機関等と連携を図り不登校の改善に努めたが、新規不登校の減少及び不登校生徒の改善に課題が残った。	<久美浜学園> 指導の重点：学力向上 ○基礎・基本の徹底 ○言語活動の充実 (授業づくり) ○家庭学習時間の確保 1 課題や具体的方策の明確化と進捗管理 (1) 課題 ア学ぶ意欲、規範意識の醸成 イ学力の充実・向上 ウ不登校の未然防止と解決 (2) 指導の重点 ア「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進 イ生徒指導の機能を生かした教育活動の推進 ウ特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実 2 開かれた学校づくり (1) 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の充実 (2) 地域や保護者への情報発信と「久美浜学園学校地域連携推進協議会」の学園運営協議会への移行の取組
	評価項目 本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	1 地域の特性を生かした教育課程の編成、教科横断的な教育活動の推進 2 授業実践力の向上 3 家庭学習時間の確保	具 体 的 方 策 ◇丹後学の充実：1 年地域調べ(京丹後・久美浜)、2 年職場体験・立志式、3 年福祉体験(サロン活動、介護体験、提言) ◇教科、道徳科、特別活動と関連付けた教育の実施 ◇校内授業研「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業)、公開授業(道徳科、各教科)の実施、補充学習の充実、教え合い学習の実施 ◇各教科の週末課題、「家庭学習頑張り週間」等の取組による、メデイアコンテロール力の向上、家庭学習の質的向上	成果と課題 (自己評価) ○各学年のテーマを設定し丹後学を実施した。発表形態を学年発表とした。 ○教科、道徳科、特別活動等と関連づけた教育活動により、学ぶ意欲、規範意識の向上が図れた。 ○学力向上に係る校内研修(授業研究を含む)を5回実施し授業改善に努めるとともに、保護者対象のICTを活用した授業公開の機会を設定した。 ○補充学習の質的向上、全校教え合い学習等により学力の回復を図った。 △家庭学習習慣の定着を図るため、家庭学習の手引きの活用、自主学習ノートの取組、メデイアコンテロール力の向上の取組を進めたが、さらに家庭学習の充実に力を入れる。

生徒指導	1 人権教育、道徳教育、法やルールに関する教育の推進と規範意識の醸成 2 いじめの未然防止と解消 3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4 不登校（不登校傾向生徒）の解消と未然防止 5 関係諸機関との連携強化	◇人権学習、道徳科等の指導の充実 ◇生徒との対話の重視、学校行事及び生徒会活動における事前指導の充実 ◇「はあとほっとタイム」の実施回数増加 ◇「情報機器の安全な取扱い」の指導及び講演会の実施 ◇主要部会の定例化（生徒指導「いじめ対策」、教育相談）、「気づき」・「今週の気になる生徒」の発行 ◇関係諸機関と連携した非行防止教室の実施 ◇教育支援センター「麦わら」、まなび・生活アドバイザーの巡回派遣、特別支援サポートセンター巡回相談等の活用と専門性の向上	○人権感覚の向上、道徳性に係る成長につながるよう、学年で統一した指導を展開した。 ○学校行事、生徒会活動等において、生徒の主体性を伸ばすため、生徒との対話を大切に生徒理解及び指導の充実を図った。 ○生徒の実態把握、情報の共有により問題事象、いじめ事象の早期発見・早期対応に努め、複数対応により保護者の理解を得ながら解決を図った。 ○非行防止教室を計画どおり実施できた。 ○「はあとほっとタイム」を給食の時間を活用してほぼ毎週実施し、生徒のよき行いを評価し自己肯定感の向上を図った。 △関係機関等と連携を図り、家庭訪問、別室指導等不登校への取組を強化して、不登校生徒数が増加するなど、不登校の解消に課題が残った。
健康（体育）・安全	1 部活動の充実と達成感の向上 2 緊急時対応訓練の充実 3 食育指導、健康教育、安全教育の充実	◇部活動方針を踏まえた部活動指導の実施 ◇緊急時対応訓練の実施（火災、不審者、地震） ◇食育、交通安全教室、喫煙防止教育、薬物乱用防止教育、生命のがん教育、性に関する教育等の実施	○部活動方針を踏まえた計画的な部活動が実施できた。部活動に対する生徒の意欲も高い。 ○緊急時非難訓練を実施し、緊急時への対応の意識を高めた。 ○交通安全教室、健康教育、食育を計画的に実施し、外部講師、府市の事業の活用により内容が充実した。
特別支援教育	1 校内指導体制の機能化 2 障害のある生徒に対する個に応じた指導の充実	◇アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき指導・支援の実施 ◇発達障害のある生徒の実態把握、有効な手立ての蓄積 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化	○発達障害のある生徒の実態把握に努め、授業中の支援と通級指導による支援を関連づけ、学年部と連携した指導・支援の充実を努め、授業や学級経営等での配慮・支援に結びつけた。 ○生徒の変容により、保護者の理解が深まるとともに、信頼関係を築くことができた。
開かれた学校づくり	1 信頼される学校づくり 2 双方向の情報交流を活かした学校改善	◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇たより、HP等による情報発信 ◇学校地域連携推進協議会の学園運営協議会への移行の取組、地域学校協働活動の推進、地域連携による教育活動の実施	○迅速、誠実、丁寧な対応により、保護者、地域から一定の信頼を得られた。 ○学校だより・学園だよりの発行、HPの更新等により、タイムリーな情報発信に努めた。 ○学校地域連携推進協議会を年3回実施し、各組織の取組や学園の取組に対して意見交換するとともに、「久美浜を支える人づくり」について協議した。学園運営協議会への移行の準備を行った。
次年度に向けた改善の方向性	久美浜学園小中一貫教育により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を積み上げる。 ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善による学力の向上 ②好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 ③不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善		

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 (京丹後市立峰山こども園)

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
“笑顔でつながろう。みんなの力でとて!!” — はなそう・つたえよう・みんなのおもい — (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。	○峰山学園、関係機関と連携を持ち、職員の研修や保護者との懇談や面談を重ねることで園児一人一人が安定した生活や活動を進める上で言葉の大切さを伝えていくことができた。また、話すことや聞くことを意識し行動することができるようになった。 ○園児一人一人が主体的に取り組めるような言葉かけや環境を整えることで人や物への関わりを意識しながら行動できるようになってきた。 △保護者・地域に開かれた園として信頼関係に努める。 △乳幼児保育教育の研修を深め実践につなげる。	(1)幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2)自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3)幼児の実態や発達に合わせ支援し、共に育ち合う集団をつくる。 (4)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (5)峰山学園(園から小中一貫教育)の連携を進める。
評価項目 小中一貫 教育の推進 (保幼小 接続)	重点目標	成果と課題(自己評価)
○『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1)意欲を持って自ら学ぶ子ども(知) ・友だちとのかかわりながら遊びや生活を展開する。 (2)思いやりのある子ども(徳) ・あいさつをする。 ・保育者や友だちと話をする。 (3)進んで心と体を鍛える子ども(体) ・保育者や友だちといろいろな運動遊びに挑戦する。	具体的方策 (1) 峰山学園経営会議を通して子ども達の実態から課題を見つけ、共通の目標を持つ。(ことば力・聞く力・話す力からのコミュニケーション能力を育てる) (2) 中学校との連携 ・福祉体験での交流・参観交流 (3) 小学校との連携 ・発表会(生活・音楽)鑑賞・参観と連絡会 ・運動会見学・散歩・体験入学・保育参観と研修会 ・小1スタートカリキュラムの考察と検討実践 (4) 私立園との交流 ・5歳児交流会・峰山学園担任会 (5) 高校生との連携 ・花の種植えと交流	○峰山学園の経営会議において各学校・園の状況の報告を受け、自園でどのように乳幼児保育を進めていくのが良いのか課題を明確にすることが出来た。特にことばの力では、各年齢や個々の実態に合わせて話す・聞く・話し合い・実践へと進めていくことができた。 ○異校種連携や交流では、参観や担任会・合同研修などを通して園児や生徒の状況を縦の繋がりとして園児も職員も学ぶことができた。また、関係機関ともスムーズに連携を持つことが出来、学びと実践につながっていくことができた。 △私立園との交流は、経営上の違いがあるものの乳幼児保育者として職員同士の研修交流を5歳児だけでなく各年齢で計画的に進めていくことが必要と感ずる。

教育課程	○幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。 ○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。 ○自分の思いや考えを表現したり行動できる力を養う。 ○日常的に園内外の安全指導・安全対策に留意する。	(1)園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 (園内)・砂・泥・水遊び・プール遊び・遊具であそぶ ・園内の草木・野菜・花づくり・小動物の飼育 (園外)・散歩(農道を歩く・公園で遊ぶ)・遠足 ・よもぎ摘み・小動物捕り ・泥んこあそび(田植え・稲刈り)など (2)あいさつ運動・元気に挨拶を交わし一日を始める。 (3)登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 (4)活動や行事に向けての話し合いの時間や場を持つ。 ・自分を知り、友達の良さに気付ける生活や遊びを進める。 ・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。 (5)散歩・交通教室などで交通ルール・集団でのルールをもとに考えたり知らせたりする。また、保護者会と交通安全・危機管理について学び合う。	○園舎の周りは、田畑に囲まれ近くには京丹後警察や京都丹後鉄道が通っているなど、自然環境と園児が興味関心の持てる公共施設に恵まれ、生活に必要な感動体験を通して豊かなことばの力へとつなげることができた。 ○「一日の始まりは朝の挨拶から」を職員一人一人が丁寧に対応することで園児の状況を日々、しっかりと把握することができた。早期延長保育を受けている園児も多いため、職員間の連携もしつかり持つことで園児教育を進めることができた。 ○個々実態に合わせて、クラスや年齢・行事や活動に合わせ集団としての内容を園児や職員と相談しながら進めていくことでそれぞれが達成感と充実感を味わうことができた。 △大規模園であり各年齢の人数も多いが、幼児教育も前の乳児保育を改めて捉え方や個々への対応について学び個々の対応や支援のもと適切な関わりを行うことが必要である。
子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるよう支援する。	(1)子育て相談(随時) (2)園庭開放(毎週金曜日) (3)園開放(月2回) (4)預かり保育 (5)支援センターの利用 (6)一時預かり制度の利用	○いつでも相談を受けられることが出来るように園児の実態を把握し、担任から状況報告や連絡相談を密におこない対応することができた。 △引き続き、相談を受け連携を取っていく。
家庭・地域との連携	○自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ○人とかかわりの中での言葉の使い方・必要性や大切さに気づき楽しむ。	(1)登園時間を9時までとし、集団としての生活リズムや活動の楽しさを知らせる。 (2)園での様子をたよりやホームページなどで発信し、保護者や地域の方とともに教育保育を進めていく。 (3)保護者・地域・社会人講師を迎えて様々な体験をする。 ・絵本の読み聞かせ・野菜の苗植と定植・稲作り ・運動あそび・音楽鑑賞・交通教室・ALTとの交流	○生活リズムを整えることが園児の成長発達のために必要なことを保護者に伝え、毎日決まった時間に朝マラソンや体操を行い、体を目覚めさせてきたことでスムーズな集団生活が進んでいった。 ○ホームページで園の活動や様子を情報発信することができた。 △早期・延長保育を受ける園児が多いこと、職員の勤務体制により、個人面談や懇談会など保護者との連携を進めているが、個人的に声をかけて欲しい保護者が多く、引き続き、子育て相談ができる方法を考えていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	○職員間の報告・連絡・相談を徹底し、全職員の連携を密にする。 ○0歳児～5歳児の一人一人の捉え方と発達を育む。 ○園児の発達や状況を把握し、保護者や関係機関との連携を持ち、教育保育を進めていく。		

令和元年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 〔京丹後市立大宮こども園〕

こども園経営方針(中期経営目標)	本年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶこどもの育成 健康で安全に活動する子ども達の育成 身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子ども達の育成 人の話をしっかりと聞き、自分の思いや考えを表現できる子ども達の育成 素直で思いやりのある、積極的に関わり合う子ども達の育成	前年度の成果と課題 ○主体的な活動・体験活動の充実、心の教育の充実、生きる力の基礎基本の育成を図ることができた。 ○「大宮こども園」の教育活動への理解を広げ、子育て支援の充実や家庭の教育力の向上を目指して、教育活動・丁寧な発信の充実を図ることができた。 ○大宮学園小中一貫教育の推進により、保育所・こども園・小・中連携教育活動の充実を図ることができた。 △教育・保育に係る理論・実践研修を充実させる。 △家庭との効果的な情報連携の工夫を行う。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) ○生き生き遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協力する力を育成するための日常教育活動・異年齢活動・体験活動の充実を図る。 ○園小連携の継続を目的とし、アプローチプログラム改善、園小連携教育活動の充実を図る。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領による教育・保育に係る理論・実践研修を充実させ、指導力向上を図る。 ○家庭・地域との連携を密にし、教育活動、子育て支援の充実を図る。
評価項目	重点目標	成果と課題 (自己評価)
小中一貫の推進(保幼小連携)	○大宮学園教育目標の具現化に向け、大宮こども園教育活動を充実させる。 ○大宮学園保・園・小・中連携教育活動を充実させる。	○日常的に「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成するための園教育の充実を図る。 ○年間を通して計画的に園小連携教育活動を充実させ、小1プロブレムの解消を図る。 ○幼児教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのアプローチプログラム・小1スタートカリキュラムの改善、指導方法研究を充実させる。
教育課程	健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成する。 身近な環境や自然に自ら関わり、行動力、発見や考えを育成する。 自分の思いや考えを伝えたり、人の話を聞いたりする、豊かなコミュニケーション力を育成する。 園生活での身近な人と親しみ、関わりを深め、思いやる心、豊かな人間関係を結ぶ力を育成する。	○主体的な活動、体験活動を充実させることができた。 ○日常的・主体的に、生活習慣・規律を身に付けさせることができた。 ○子ども達が作り出す泥んこ遊び、自然物による制作、色水遊び、遊具・外遊び、縄跳び等を取り組み、楽しみながら体力や友達をつくる力を育むことができた。 ○計画的に園外活動に取り組む、自ら自然に働きかけ、発見や感動を体験させる活動の充実を図ることができた。 △さらに、様々な異年齢活動・体験活動の充実を図る。 ○心の教育を充実させることができた。 ○当番・生き物飼育・野菜栽培・異年齢活動等を充実させ、思いやる心や自尊感情を育むことに努めた。 ○園生活の中で触れる喜び、悲しみ、温かさ等、人の心豊かな感性の醸成に努めた。 ○園生活の全ての場面で、年齢相応に根気・持続力・抑制力等、学びに向かう基礎となる力の育成に努めた。 ○感情的な行き違いや自他の欲求の対立場面を丁寧に扱い、振り返り指導を充実させ、折り合いを付ける力の育成に努めた。 △さらに、豊かに関わりあう活動の充実を図る。

教育課程	○生きる力の徹底を図る。 ・衛生指導、食育指導、園内事故防止指導、交通安全指導、自分の命を守る指導、豊かなコミュニケーション力を育むため、読み聞かせや絵本の言葉の表現を楽しむや考えを聞く場面、自分の思いを伝える場面、話し合い活動等、全ての園生活を通して言葉を紹介した教育活動の充実を図る。 ○身近な人や地域との関わりを充実させる。 ・思いや心や豊かな人間関係を結ぶ力を育むために、異年齢活動の充実、地域連携教育活動の充実、園小連携教育活動の充実を図る。	○生きる力の徹底を図ることができた。 ○園内事故防止・食育・交通安全・自分の命を守る指導・教育活動の充実を図ることができた。 ○園生活の全ての場面・思いを伝える場面や創作劇の取り組みを通して、言葉を紹介した教育活動を充実させ、表現力の育成を図ることができた。 △さらに、絵本を活用、話し合い活動の充実を図る。 ○身近な人や地域との関わりを充実させることができた。 ○思いや心や豊かな人間関係を結ぶ力の育成に向け、園生活・行事等での多様な異年齢活動、地域のボランティアと地域連携活動や所園・園小連携教育活動の充実を図ることができた。
子育て支援	○発達年齢に応じた家庭教育指導、計画的に発信し、家庭教育支援を充実させる。 ○保護者の子育て不安や悩みを寄り添い、安心して子育てができるよう、子育て支援を充実させる。 ○社会環境や家庭環境の変化に対応するための預かり保育を充実させる。	○家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域に関わる家庭教育指導を、園・担任より「たより」「子育て相談」「懇談会」「保護者会」等を通して発信し、年齢対応の生きる力の育成を図るための家庭教育支援を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。 ○日常的な子育て相談の場、親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援を充実させる。 ○発達特性、個性成長課題等に関わり、個に応じた、丁寧な子育て支援センターや一時預かり制度の周知を図る。 ○子育て支援の工夫を図る。
家庭・地域との連携	○園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実させる。 ○地域の環境・人材を活用し、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。	○大宮子ども園の特色ある保護者会活動を充実させ、さらに園と家庭・保護者同士の連携を密にし、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めていくための組織運営・活動を充実させる。 ○大宮子ども園ならではの園周辺自然環境・施設を活用した園内教育活動の充実を図る。 ○園だより、クラスだより、HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、園からの丁寧な発信や連携の工夫を行い、効果的・効率的に家庭・地域との連携の充実を図る。
次年度に向けた改善の方向性	○全ての園生活を通して、大宮学園で進める基盤となる、「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図る。 ○園小の効果的接続を目指し、生き生きとした園生活、心豊かに過ごすこと、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。 ○さらに、各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、園からの丁寧な発信や連携の工夫を行い、効果的・効率的に家庭・地域との連携の充実を図る。	○大宮子ども園と家庭・保護者同士の融合させ、連携を密にし、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めるために、子どものための保護者会組織運営・活動の安定・充実を図るための支援を行うことができた。 ○大宮子ども園ならではの園周辺環境（田んぼ・農道・畑等）・施設（マスタースタジアム・神社等）を活用した園外教育活動・地域連携活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図ることができた。 ○園からの丁寧な発信により、「大宮子ども園」の教育活動への理解を広げ、家庭・地域との連携の充実を努めた。 △さらに、各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な連携の工夫を図る。 △さらに、園生活・行事等の改善内容の周知、共通理解を図るため、事前連携の工夫を行う。

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立網野こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)	
(1) 園児自らが環境に関わり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。	具 体 的 方 策	重 点 目 標	成果と課題 (自己評価)	どきどき わくわく きらっ！ ひとりひとりがかがやいで ～仲間とつながりながら 夢中になって遊ぶ子どもをめざして～	
(2) 自分の思いや考えを表現したり、行動したりする力を養う。					
(3) 園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。					
(4) 常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。					
(5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。					
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題 (自己評価)		
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	・「網野学園」のめざす子ども像をもとに、学園の基本方針を理解しながら取り組を進める。 ・園児と児童の交流の機会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を深める。 ・学園のアプローチプログラムに園の独自性を加えて実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりを明確化していく。	・リーフレットを活用したり、小中一貫教育に関する会議や研修等に積極的に参加したりして、全職員で共通理解する。 ・運動会やマラソン大会、学習発表会等の学校行事を見学させてもらったり、園行事にも参加依頼をしたりする等して、交流が深まるようにする。 ・アプローチプログラムを活用して日々の保育実践を検討し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とつなげて捉え、検証していく。	○ 全体研修会や学年部会には積極的に参加するよう職員に誘い掛け、勤務体制に支障がない程度に参加できた。 ○ △網野学園全体研修会後の懇親会に全職員が参加し、小中学校の先生方と交流できたことは、校種間でも好評価だった。小中一貫教育の意識が深まっていることを感じた。しかし、教育保育面でのつながりには、まだ周知や実践できていないところがあるので、今後は、不足のところを検証していきたい。 ○ 5歳児を中心に、交流する機会が多くもてた。特に小中学校の先生方に発表会を最後まで参観してもらえたことは、園の教育保育を伝える絶好の場となった。 ○ △5歳児の指導計画や担任会の中で、実践記録やDVD視聴等を利用し、「10の姿」を系統立てて検証していった。今後は園内の接続にも反映させたい。アプローチプログラムは、市全体で見直しの時期になっているので、園内の特性を活かしたのものも検討したい。		

教育課程	どきどき わくわく きらっ！ ひとりひとりがやがやいて 仲間となつて遊ぶ子どもを 夢中になって遊ばせよう ・楽しい園生活を過ごせるように する。 ・主体的、対話的な活動をくり広 げられるような環境づくりを する。 ・人とつながり合うことの喜びを 味わえるようにする。	・一人一人の園児と心をつなぎ、個々が安定でき る園生活を創造する。 ・自らが健康や生活に関心をもち、リズムある生 活が習慣になることを意識させる。 ・園児が主体的に協同的な遊びを展開するような 直接体験の場や思考をくぐらせながら遊ぶ機 会を大切にすること。 ・集団でなければできないこと、大勢ですると楽 しいことに気付かせ、周りの友達や人に関心を もたせる。 ・友達のよさや友達と一緒に過ごす心地よさを感じ させ、人とつながることの喜びを味わわせる。	○△要支援児が多い中、教育支援会議、年中児発達サポーター 事業、3歳児検診等をきっかけに、保護者との面談を数 多くもち、医療や療育機関等につなげることをできた。 園児の安心安定にもつなげられているが、家庭の事情もあ り課題が継続しているところもある。 ○△園生活に慣れ、スムーズに生活を進めたり伸び伸びと活 動したりするようになった園児が多いが、家庭生活の状 況が原因で、不安定さが見られることもある。 ○△4歳児を中心に、協同性や思考をくぐらせる遊びや活動 を重視してきたが、園としての教育保育の基盤をつく ていくことに難しさを感じる。 ○運動会や発表会という大きな行事を経験する中で、「友 達と一緒に楽しい」「同じことがやってみよう」「やっ てよかった」という意識につなげることができた。 ○協同的な活動や遊びをすることで、各年齢や異年齢のつ ながりが深まり、個々の力や集団としてのよさが見られ るようになった。 ○△発達の課題のある園児や言葉による伝え合いがしにく い園児にとっては、友達のよさをスムーズに受け止める ことが難しいようだったが、友達とつながることには喜 びを感じられるようになってきた。 ○全クラスの懇談会に参加し、保護者の雰囲気をつかんだ り、子ども園開園当初にあたっての協力依頼をしたりす るなどの機会をもった。 ○保護者からの相談を受けてアドバイスをしたり、要望を 聞き、できる範囲で柔軟に対応したりしていった。 ○園開放だけでなく、毎週金曜日を園庭開放日にしたこと で、子どもだけでなく保護者同士が関われる場となつて いる。 ○毎月の園内自主研修が定着し、正職員だけでなく、臨時 やパート職員の参加も見られるようになり、園全体と しての資質向上につなげられていると感ずる。また、職員 の方から提案したいと進めた研修もあり、その主体性 に意識の変容を感じた。 ○△週案や反省、実践資料等の視点や書き方については一定 の成果が見られるが、ねらいや見通しの持ち方に曖昧さ もあり、引き続き職員集団の研鑽が必要である。 ○園の特性と内面理解、職員同志の関係性等、様々な課題解決に向け て園長としての方向性を示してきたのではないかとと思う。次年度は、さらに 職員相互の主体性を重視した教育保育につなげる。また今年度の保護者アンケート結果や学校評議員のからの評価等 を全正職員に周知し、改善のポイントを定め、自己評価を通して意識付けたり研鑽を積んだりしていきたい。
子育て支援	・園だより、クラスだより、懇談 会等で保護者に園児の様子を 知らせ、家庭と連携し、「共育 て」をめざす。 ・園開放により、未就園の親子の 保育体験を行い、子育ての安心 安定を図る。	・クラス懇談会を開催し、子育てに関することを 考えたり振り返りたりする場とする。 ・保護者の話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決 に向けて進めていく。 ・月2回「園開放日」を設け、園児と交流したり、 楽しく遊べる雰囲気や環境を設定したりする。	○クラス懇談会に参加し、保護者の雰囲気をつかんだ り、子ども園開園当初にあたっての協力依頼をしたりす るなどの機会をもった。 ○保護者からの相談を受けてアドバイスをしたり、要望を 聞き、できる範囲で柔軟に対応したりしていった。 ○園開放だけでなく、毎週金曜日を園庭開放日にしたこと で、子どもだけでなく保護者同士が関われる場となつて いる。 ○毎月の園内自主研修が定着し、正職員だけでなく、臨時 やパート職員の参加も見られるようになり、園全体と しての資質向上につなげられていると感ずる。また、職員 の方から提案したいと進めた研修もあり、その主体性 に意識の変容を感じた。 ○△週案や反省、実践資料等の視点や書き方については一定 の成果が見られるが、ねらいや見通しの持ち方に曖昧さ もあり、引き続き職員集団の研鑽が必要である。 ○園の特性と内面理解、職員同志の関係性等、様々な課題解決に向け て園長としての方向性を示してきたのではないかとと思う。次年度は、さらに 職員相互の主体性を重視した教育保育につなげる。また今年度の保護者アンケート結果や学校評議員のからの評価等 を全正職員に周知し、改善のポイントを定め、自己評価を通して意識付けたり研鑽を積んだりしていきたい。
(A) 研修 (教員の資 質向上)	・幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領の理解に努め、保育教 諭等の資質向上をめざし、園内 研修の充実を図る。 ・「主体的で対話的な深い学び」 を実現する保育を推進する。	・エビソード研修やワークシヨップ等の園内研修 を通して「3つの資質能力」や「幼児期の終わ りまでに育てたい10の姿」等が実践に活かさ れているかを明確化、言語化、可視化する。 ・月案や週案の立案、反省を通して、日々の具 体的な実践例をあげて環境構成や保育教諭等の 援助の在り方等を探っていく。(PDCA サイ クルの重視)	○クラス懇談会に参加し、保護者の雰囲気をつかんだ り、子ども園開園当初にあたっての協力依頼をしたりす るなどの機会をもった。 ○保護者からの相談を受けてアドバイスをしたり、要望を 聞き、できる範囲で柔軟に対応したりしていった。 ○園開放だけでなく、毎週金曜日を園庭開放日にしたこと で、子どもだけでなく保護者同士が関われる場となつて いる。 ○毎月の園内自主研修が定着し、正職員だけでなく、臨時 やパート職員の参加も見られるようになり、園全体と しての資質向上につなげられていると感ずる。また、職員 の方から提案したいと進めた研修もあり、その主体性 に意識の変容を感じた。 ○△週案や反省、実践資料等の視点や書き方については一定 の成果が見られるが、ねらいや見通しの持ち方に曖昧さ もあり、引き続き職員集団の研鑽が必要である。 ○園の特性と内面理解、職員同志の関係性等、様々な課題解決に向け て園長としての方向性を示してきたのではないかとと思う。次年度は、さらに 職員相互の主体性を重視した教育保育につなげる。また今年度の保護者アンケート結果や学校評議員のからの評価等 を全正職員に周知し、改善のポイントを定め、自己評価を通して意識付けたり研鑽を積んだりしていきたい。
次年度に 向けた 改善の 方向性	・園だより、クラスだより、懇談 会等で保護者に園児の様子を 知らせ、家庭と連携し、「共育 て」をめざす。 ・園開放により、未就園の親子の 保育体験を行い、子育ての安心 安定を図る。	・クラス懇談会を開催し、子育てに関することを 考えたり振り返りたりする場とする。 ・保護者の話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決 に向けて進めていく。 ・月2回「園開放日」を設け、園児と交流したり、 楽しく遊べる雰囲気や環境を設定したりする。	○クラス懇談会に参加し、保護者の雰囲気をつかんだ り、子ども園開園当初にあたっての協力依頼をしたりす るなどの機会をもった。 ○保護者からの相談を受けてアドバイスをしたり、要望を 聞き、できる範囲で柔軟に対応したりしていった。 ○園開放だけでなく、毎週金曜日を園庭開放日にしたこと で、子どもだけでなく保護者同士が関われる場となつて いる。 ○毎月の園内自主研修が定着し、正職員だけでなく、臨時 やパート職員の参加も見られるようになり、園全体と しての資質向上につなげられていると感ずる。また、職員 の方から提案したいと進めた研修もあり、その主体性 に意識の変容を感じた。 ○△週案や反省、実践資料等の視点や書き方については一定 の成果が見られるが、ねらいや見通しの持ち方に曖昧さ もあり、引き続き職員集団の研鑽が必要である。 ○園の特性と内面理解、職員同志の関係性等、様々な課題解決に向け て園長としての方向性を示してきたのではないかとと思う。次年度は、さらに 職員相互の主体性を重視した教育保育につなげる。また今年度の保護者アンケート結果や学校評議員のからの評価等 を全正職員に周知し、改善のポイントを定め、自己評価を通して意識付けたり研鑽を積んだりしていきたい。

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔 京丹後市立丹後こども園 〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
一人一人が生きていきと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなななえがお！」をテーマに、人とかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。	前年度の成果と課題 ・5歳児を中心に年間を通して、様々な運動遊びに挑戦した。運動に苦手意識のある園児も、友達の頑張る姿に刺激をうけたり、保育者が励ましたり見守ったりする中で意欲をもち取り組めた。5歳児の姿に憧れて4歳児、3歳児がやってみようとする姿につながった。 ・情緒の安定を図り安心して話す、相手の思いを聞くことに重点を置き保育教諭は丁寧な関わりを心掛けた。しかし複雑な家庭環境もあり、安定を図ることは難しいこともあった。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を園内研修で学びあった。遊びの中で育っている姿や関わり方の工夫など保育者間で話し合うことができてよかった。しかし研修時間の持ち方や内容等はまだまだ十分ではない為、工夫が必要である。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) 合言葉「笑顔まんたん ゴーゴゴー！！ ～遊ぼう 笑おう 伝えよう～ ・様々な活動を通して人と人とのつながり、いたわりや優しさ、思いやりの心を育み、心豊かな人間性、社会性をもつた幼児を育成する。 ・聞く力や話す力が身に付くよう、計画的に取り組み、自分の思いを言葉で表現するなど言葉の力の向上を図る。 ・保護者や地域との連携、また丹後学園保幼小中連携を深め、様々な体験や活動を積極的に取り入れ、たくましく健やかな体と心をもつた幼児の育成に努める。
評価項目	重 点 目 標	成 果 と 課 題 (自 己 評 価)
小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	重 点 目 標 ・『丹後学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき、取り組みを進める。 ・保幼小中の連携を密にし、スムーズな接続を図る。	成果と課題 (自己評価) ○丹後学園接続部会で行ったスタートガイドカリキュラムの研修、保育参観や0期～1期における指導の系統性を小中学校の先生方と一緒に学び合ったことは、今後の幼小接続に活かされる。 ○なかよし交流会の取り組みの中で、小学1年担任の先生と、5歳児担任がそれぞれねらいをもち一緒に活動を進めることが出来た。体験入学までに、何度も交流する機会があり例年に比べ小学校への期待や楽しみが高まっていた。 △活動内容については1年担任、5歳児担任が話し合う時間をつくる必要がある。

教育課程	・多くの体験を通して心身ともにたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ幼児を育成する。 ・遊びを通していたわりや優しさ、思いやりの心を育む。 ・言葉の力の向上、人の話を聞く、自分の思いを伝えることが、できる力を養う。 ・自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。	・体を使った遊び（体操・リズム運動・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等）を積極的にとり入れる。 ・小動物の飼育、栽培物の世話と一緒に行う。 ・異年齢活動（チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等）を通して年下児へのいたわりの気持ちをもったり、年長児に対して憧れの気持ちをもったりできる環境設定を考える。 ・絵本や物語などに親しむことで、言葉の力を豊かにする。 ・保育者が園児の話にしづかりと耳を傾ける。	○年間を通して、年齢や発達に合わせた運動遊びをとり入れ行なった。意欲的に取り組む園児の姿を大切に、保育者は寄り添い自信となるよう援助をした。運動に苦手意識のある園児も友達の良い姿を励まし、言葉かけにより、やってみようとする姿になった。5歳児の姿をいろいろな場面や行事の中で見ること、3・4歳児は親しみや憧れの気持ちをもち、兄弟のような関係を育むこともできた。 ○5歳児の挨拶当番が玄関で「おはよう」と登園してきた園児や保護者を迎えるなかで、挨拶が浸透してきた。保護者にも好評であった。 ○△乳児クラスは保育参観の後、保護者同士が話をする場をつくり、子育てについて交流できた。幼児クラスでは機会をつくることができなかった。 ○支援センターへ園児が出向き、歌や踊りの交流や行事の様子を見てもらうなど交流を図った。 ○要支援児の保護者と何度も面談を行い、園児の発達や指導の方向性を保護者と共通理解して援助を行った。特に保健師と園との連携を密に行う中で情報交流もでき、保護者支援やいろいろな関係機関に繋げることができた。
子育て支援	・保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。 ・支援を要する園児に対しての支援策を園全体で考える。	・懇談会など、保護者同士が子育ての悩みなどを出しあえる場をつくる。 ・子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。 ・子育て講演会への参加を呼びかける。 ・預かり保育、一時預かり保育制度を活用し、子育てに疲れや悩みを抱えている保護者支援を行う。 ・支援を要する園児に対して保護者や保健師、他機関とも連携をとり園全体で支援していく。	○△外部研修は、保育事情により参加人数が限られたので、職員会議で研修報告を行うようにした。 ○△園内公開保育を行う回数は少なかつたが、実践交流を多く行なった。そのなかで主体的な遊び、環境構成について悩みを出し合った。まだまだ環境の工夫については、課題も多く、学びを深めていかなければならない。 ○各学年で保育について話し合うための学年会議の時間をつくり、園児の支援や保育の方向性を共通理解するようにしたこと、保育者間の連携ができてきた。 ○職員で考えを出し合い、遊びのコーナーをつくり園児が好きな遊びを選択できるようにした。
研修	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき保育実践をする中で、乳児から幼児へと育ちを見通した保育がすすめていけるよう全職員で学び合う。	・さまざまな研修に多くの職員が積極的に参加できるよう勤務体制の組み方を工夫する。 ・園内研修を積極的に組み入れ、園内公開保育やエピソード研究を行うなかで、0歳児からの年齢ごとの育ちがどのように「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながっていくのかを考え、全職員でよりよい子どもたちの育ちへとつなげる。 ・乳児の発達を踏まえ、乳児が主体的に生活していくための保育者の援助の仕方や、環境の整え方を学び合う。	○△外部研修は、保育事情により参加人数が限られたので、職員会議で研修報告を行うようにした。 ○△園内公開保育を行う回数は少なかつたが、実践交流を多く行なった。そのなかで主体的な遊び、環境構成について悩みを出し合った。まだまだ環境の工夫については、課題も多く、学びを深めていかなければならない。 ○各学年で保育について話し合うための学年会議の時間をつくり、園児の支援や保育の方向性を共通理解するようにしたこと、保育者間の連携ができてきた。 ○職員で考えを出し合い、遊びのコーナーをつくり園児が好きな遊びを選択できるようにした。
次年度に向けた改善の方向性	・園児一人一人が安心安定できる環境で過ごす。 ・これまで続けてきた挨拶運動、異年齢活動、異年齢遊び、地域の人や伝承文化を大切に、自然体験や感動体験を味わう中で地元愛を育てていきたい。	・環境を整え、遊びの中で様々な環境に関わり、「やってみよう」と心動かし主体的に活動する子どもを育てたい。 ・これまで続けてきた挨拶運動、異年齢活動、異年齢遊び、地域の人や伝承文化を大切に、自然体験や感動体験を味わう中で地元愛を育てていきたい。	

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立弥栄こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
「とんだち だいすき つながるえがお」 ～やってみよう！明日もやりたい！夢中にな って遊ぶこどもをめざして～ ○さまざまなことに心を動かし、心豊かな子 どもを育てる。 ○生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康 な心と体を育てる。 ○身近な人や地域とのかかわりを持つ力を 育てる。	○『弥栄学園』の連携 故郷を愛し、主体的に学び、心 豊かで、たくましく生き抜く子 どもの児童生徒の育成 ・自分からやってみようという 意欲をもって取り組む子ども も(知) ・思いやりのある子ども(徳) ・進んで体を鍛える子ども(体)	○異年齢活動や異年齢交流を行う中で、豊かな人間関係を 結ぶ力を育むことができた。 ○主体的に活動し、様々な体験活動を楽しみながら、体力 づくりや生き生きと基礎を培うことができた。 ○弥栄学園小中一貫教育の推進により、園小の連携を充実 することができた。 △ホームページ、各種たより、参観など家庭や地域との連 携の工夫を図っていく。	・子どもたちが様々な人や自然とのかかわり、また、 体を十分に動かして遊ぶ中で、心を揺り動かさ れるような体験をし、豊かな感性を養う。 ・自らの健康や生活に関心を持ち、生活習慣の基 礎を培う。 ・人との関係を築く力をつけるために、あいさつ や自分のことは自分でする力を育てる。 ・弥栄学園(小中一貫教育)の連携を図り、円滑 な接続ができるよう交流や研修を進める。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成果と課題(自己評価)
小中一貫教 育の推進 (保 幼 小 接続)	○『弥栄学園』の連携 故郷を愛し、主体的に学び、心 豊かで、たくましく生き抜く子 どもの児童生徒の育成 ・自分からやってみようという 意欲をもって取り組む子ども も(知) ・思いやりのある子ども(徳) ・進んで体を鍛える子ども(体)	・弥栄学園経営会議に出席し、子どもたちの実態から課題 点を見つけ共通の目標をもつ。 ・中学校との連携 (中学校福祉体験・作品交流・参観) ・小学校との連携 (参観・体験入学・運動会やマラソン大会見学・一 年生との交流) ・高校生との連携 (保育体験・花の種まきと交流) ・園・小・中の教職員合同研修会	○経営会議で共通理解を図り、主体的な活動を進 めていくことができた。また、その都度情報交 流したことで就学に向けての引継ぎがスムー ズにできた。 ○異校種交流を行う中で、生活や学びの見通しを もち、憧れの気持ちをもち優しさに触れる ことができた。 ○園・小・中の教職員合同研修で弥栄こども園で の公開保育をしたことで具体的な指導を見て いただくことができ、学園のつながりを感じる ことができた。また、こども園からも授業研に 参加させてもらうことで、より共通理解するこ とができた。 △1年生との交流活動は、就学に向けての安心感 につながったが、交流活動の事前の会議が不十 分だった。
教育課程	○園児自らが周囲の環境に関わ り、活動を展開する充実感を味 わいながら発達に必要な経験 を積み重ねていく。 ○園児を取り巻く生活習慣や健 康について実態を把握し、基本 的生活習慣や態度を育てる。	・園内外の自然の中で五感を通して遊ぶ。 (園内) 砂、泥遊び、プール遊び、園内の草花、クッ キング活動、虫捕り、小動物の飼育 (園外) 丹後王国食のみみやこ・弥栄運動公園・水辺公 園・稚鮎の放流など ・自然や自然物を取り込んで遊ぶ。 (草花・砂・水・泥・木の葉・木の果・雨・雪など)	○年間を通じて園外保育や戸外活動を中心に自 然に関わり発見や感動体験を重ね、豊かな心や 感性の育成につながった。 ○畑作りという土台づくりから始めたことで、よ り食への関心や感謝の気持ちをもち、よ かった。

	○自分の思いや考えを様々な方法で表現したり、行動できる力を養う。	・自らの健康や生活に関心をもち、リズムある生活が習慣になることを意識できるようにする。 (生活点検表・登園時間) ・体を動かし指先を使い、体と心のバランスがとれた体力づくりをする。 ・絵本や読み聞かせを通して言葉の表現を楽しんだり、友だちの思いや自分の思いを伝える機会を多くもつ。 ・異年齢での交流を深める。 ・地域の方々や高齢者との交流を通して親しみの気持ちをもつ。	△生活点検表や個人懇談等で、子どもや保護者に意識をもってもらおうようにしたが、まだ不十分であるので今後も引き続き取り組んでいく。 ○活動の前後の振り返りや話し合うことによつて、友達のことを知ったり、自分の考えを伝えようとする子どもが増えた。 ○年間を通して異年齢の活動することによつて、相手の立場にたった言葉のかけがえ等、思いやりの心を育むことができた。	△生活点検表や個人懇談等で、子どもや保護者に意識をもってもらおうようにしたが、まだ不十分であるので今後も引き続き取り組んでいく。 ○活動の前後の振り返りや話し合うことによつて、友達のことを知ったり、自分の考えを伝えようとする子どもが増えた。 ○年間を通して異年齢の活動することによつて、相手の立場にたった言葉のかけがえ等、思いやりの心を育むことができた。
子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い、楽しく子育てができるように支援する。	・子育て相談 ・園開放(月2回) ・預かり保育 ・支援センターの利用 ・一時預かり制度の利用 ・ホームページ、各種により、参観などで子どもの成長を伝える。	○毎日担任が丁寧に子ども様子を伝えたり、月末には写真を貼り出し子どもの成長を共に喜ぶことができた。 △担任とのコミュニケーションは十分にとれていたが、保護者同士が話す機会が少なかった。クラス懇談会なども考えていきたい。	○毎日担任が丁寧に子ども様子を伝えたり、月末には写真を貼り出し子どもの成長を共に喜ぶことができた。 △担任とのコミュニケーションは十分にとれていたが、保護者同士が話す機会が少なかった。クラス懇談会なども考えていきたい。
家庭・地域との連携	○人とかかわりの中で生きる力を育む。 ○あいさつや自分のことは自分でする力を育てる。	・登園時間を9時までとし、集団で行動することの大切さや楽しさを知る。 ・社会人講師を迎えて様々な体験をする。 (読み聞かせ・お茶会など) ・弥栄分校との交流(保育体験や花の種まき など) ・高齢者との交流 (サロンとの交流・祖父母参観)	△担任が9時まで登園して十分体を動かすことと大切さを保護者に伝えてはいるが、意識の低い保護者がいる。引き続き取り組んでいく。 ○地域の方と交流することで様々な体験をすることができた。 ○△園内での挨拶の習慣は身につけているが、自分から挨拶をする、思いを伝えるということに引き続き取り組んでいく。	△担任が9時まで登園して十分体を動かすことと大切さを保護者に伝えてはいるが、意識の低い保護者がいる。引き続き取り組んでいく。 ○地域の方と交流することで様々な体験をすることができた。 ○△園内での挨拶の習慣は身につけているが、自分から挨拶をする、思いを伝えるということに引き続き取り組んでいく。
次年度に向けた改善の方向性	○弥栄学園の目指すことも像の育成に努め、つながりのある教育活動を充実させていく。 ○弥栄ことも園の教育について、便りやホームページ、行事などの機会に保護者や地域に情報発信していく。 ○認定ことも園教育・保育要領に基づき、一人一人の育ちに合わせた援助・支援の充実、環境構成をしていく。			

令和元年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔京丹後市立かぶと山こども園〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》 「ぼくもわたしも みんな大好き！」 ～包みこまれている安心感の中で、のびのびと生きる子どもをめざして～ 1 園児自らが興味関心をもつて環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。	前年度の成果と課題 ○こども園近辺の自然の中で毎日遊んだり、散歩したりし、全園児の体力増進に努めた。冬季の感染症も大流行には至らず、元気に過ごせた。 ○研究テーマを設け、遊びの環境や保育者の関わりを工夫してきた。一人一人の自発性を大事にしなが、一人一人に寄り添った保育を心がけた。また、クラスや学年の会議を通して環境や園児への関わりを工夫し、共通理解することには保育の質の向上にもつながった。 ○「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジャーに関わることで、地域の方とも関わる機会がもてた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方がつながるきっかけ作りができた。さらに保護者会と一緒に、「子育て」「親育ち」を目指したい。 △「挨拶をする」「話を聞く」「健康的な生活習慣を身につける」「親子で絵本に関心をもつ」園児が増えるよう様々な方策や工夫をしていきたい。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) ○園児が安心して活動に取り組み、自己発揮できる環境やかかわりを工夫し、自己肯定感や自己有用感を育む。 ○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境構成を工夫する。 ○自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む。 ○家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。 ○特別な配慮を必要とする園児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。 ○久美浜学園として『目指す子ども像』『教育目標』に向かい、保育の質の向上と連携に努める。 ○子育て支援と家庭教育力向上を目指し努力する。
評価項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
小中一貫教育の推進 (保幼小接続) ○『久美浜学園』の『教育目標』に「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもを育成」『目指す子ども像』に向けて教育内容の相互理解を深め、一貫性のある指導を行う。 ○保育所園小学校と連携し、学園テーマく主体的・対話的で深い学びの実現を意識した「言語活動の充実」を追求し、自ら考えを深める子どもを育成する。	具体的方策 (1) 久美浜学園を通して子どもたちの実態を交流し、共通の『目指す子ども像』や『教育目標』に向けて一貫性のある指導をしていく。 (2) 小学生や中学生との交流を行う。 (3) 小学校との連携 ・運動会見学・体験入学・授業体験・プール体験・学習発表会見学・マラソン大会応援・園外保育等 (4) 保幼小の連携 ・合同研修会・教師、保育教諭、保育士の交流・アプローチプログラムとスタートカリキュラムの評価と改善・入学までにつけたたい力と入学後に継続したい取組の明確化・学力向上(保幼から低学年に向けての言葉の力の育成)の授業と事業等	成果と課題(自己評価) ○「久美浜学園」夏季研修会では、昨年度よりさらに乳幼児保育の中で非認知的能力を大事にしている保育について交流できた。 ○小学校プールでの「チャレンジプール」「1年生との交流」「2年生との交流」「学習発表会」等、体験入学までに小学校を体験することは、教師や小学生と交流し、顔なじみになり、就学に向けて安心感と期待感に繋がっている。 ○中学生と吹奏楽演奏会や職場体験で交流した中で、「考える」「協力する」「言葉で伝える」「園児に積極的に関わる」力を中学生が持っていることを知り、学園の取組の成果を感じた。 ○普段から小学校への園外保育を行い、園児も職員も小学校を身近に感じている。 ○保育所・園と合同で研修を行い、質の向上に努めた。

教育課程	○主体的・協同的に活動する力を育てる。 ○自己肯定感を育む。 ○自分の思いや考えを表現し、人と関わる力を養う。 ○自らの健康やリズムある生活に関心を持ち、基本的な生活習慣や態度を身につける。 ○人権尊重・規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。	(1) 様々な体験や人との出会いの機会を設定する。 ・自然の中で、五感を豊かにする。 ・様々な行事参加や体験活動をする。 ・園児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。 ・異年齢交流をする。 (2) 感動体験をする機会や言葉で思いを伝え合う機会を設定する。 (3) 挨拶を奨励する。 (4) 絵本や物語に親しむ機会を設定する。 (5) 自立心を育てるような機会の設定をする。	○全園児が各年齢なりにこども園近辺の自然の中で遊べたり、散歩したりする等「健康な心と体」作りを元気に過ごす保育に徹した。感染症も大流行せず、園児、聞く力が弱い園児が多かったが、体幹を鍛えることで落ち着き、集中する力も表れてきた。 ○「ぼくもわたしたちもみんな大好き」～包みこまれている安心感の中で、のびのびと生きる子どもをめざして、研究テーマに環境や保育者の関わりを工夫してきた。乳幼児一人一人の理解と、特性や個性を十分大事にししながら、一人一人を受け止め寄り添い、認める関わり、保育を心がけた。保健師や学校教育課臨床心理士との連携により、乳幼児について共通理解することは保育の質の向上にも繋がった。 ○職員が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。保護者と話す機会を設け、信頼関係の構築に努めた。 ○学園としての取組である「家庭学習頑張り表」を通して親子の生活習慣に対する意識が昨年度より向上した。 ○子どもにも一生懸命に向かう保護者、参観中や集会で静粛でマナーも良い保護者が増えたと思う。役員も立候補が多く、保護者の主体性を嬉しく感じる。 △提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援の工夫が課題である。 ○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。
子育て支援	○保護者の気持ちに寄り添い、安心して子育てができるよう支援すると共に保護者が子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるようにする。 ○家庭の教育力向上を図る。	(1) こども園でおしやべり会・子育て相談(随時・毎月) (2) 園開放・園庭開放 (3) 預かり保育、一時預かり保育の活用 (4) 支援センターの利用 (5) 子育て講演会 (6) 懇談会・保育参観・給食参観 (7) 誕生児と保護者への紙芝居や絵本の貸し出し 等	○職員が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。保護者と話す機会を設け、信頼関係の構築に努めた。 ○学園としての取組である「家庭学習頑張り表」を通して親子の生活習慣に対する意識が昨年度より向上した。 ○子どもにも一生懸命に向かう保護者、参観中や集会で静粛でマナーも良い保護者が増えたと思う。役員も立候補が多く、保護者の主体性を嬉しく感じる。 △提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援の工夫が課題である。 ○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。
家庭・地域との連携	○家庭地域との連携と子育て支援を行う。 ○保護者同士や保護者と地域がつながり、園と協力して「久美浜を支える人」育成の土台づくりを行う。	(1) 田植え体験・稲刈り体験ボランティアの活動 (2) 交通安全ボランティアの活動 (3) 絵本の読み聞かせボランティアの活動 (4) お茶会ボランティアの活動 (5) 保護者会の協力 (6) 久美浜学園家庭教育委員会との連携 等	○保護者会本部役員を中心に「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちのチャレンジに関わったり、地域の方とも関わったりすることが定着してきた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がる機会にもなった。また、自治会と計画し、サロンの園行事参加を通して世代交流ができた。
次年度に向けた改善の方向性	・質の高い乳幼児教育と職員のチーム力を向上させていけるよう工夫していく。 ・「健康な心と体作り」「心も体も安心・安全な環境作り」「学習意欲や主体的活動」への取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。 ・提出物が期限内に出せない家庭、忘れ物が多い家庭、外国出身の保護者への支援を工夫し、親子の自己肯定感を育てる。	・「健康な心と体作り」「心も体も安心・安全な環境作り」「学習意欲や主体的活動」への取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。	・「健康な心と体作り」「心も体も安心・安全な環境作り」「学習意欲や主体的活動」への取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。